

2017年度

九州歯科大学 シラバス

大学院

歯学研究科 歯学専攻

目次

大学院

歯学研究科 歯学専攻

初年次研究研修プログラム	歯学研究科長	25
	中原 孝洋	
	瀬田 祐司	
	自見 英治郎	
	有吉 渉	
	竹内 弘	
	安細 敏弘	
	森本 泰宏	
	中島 秀彰	
	日高 勝美	
生体材料学演習 (ベーシックコース)	清水 博史	27
	永松 有紀	
	池田 弘	
生体材料学演習 (アドバンスコース)	清水 博史	29
	永松 有紀	
	池田 弘	
生体材料学概論	清水 博史	31
	永松 有紀	
	池田 弘	
生体材料学特論	清水 博史	33
	永松 有紀	
	池田 弘	
生体材料学特論	清水 博史	35
	永松 有紀	
	池田 弘	
解剖学 (ベーシックコース)	瀬田 祐司	37
	中富 満城	
	豊野 孝	
	片岡 真司	
解剖学 (アドバンスコース)	瀬田 祐司	39
	中富 満城	
	豊野 孝	
	片岡 真司	
解剖学演習 (ベーシックコース)	瀬田 祐司	41
	中富 満城	
	豊野 孝	
	片岡 真司	
解剖学演習 (アドバンスコース)	瀬田 祐司	43
	中富 満城	
	豊野 孝	
	片岡 真司	
解剖学演習	瀬田 祐司	45
	中富 満城	
	豊野 孝	
	片岡 真司	
解剖学特論	瀬田 祐司	47
	中富 満城	
	豊野 孝	
	片岡 真司	
頭頸部解剖実習	瀬田 祐司	49
	中富 満城	
	豊野 孝	
	片岡 真司	

生理学演習 (ベーシックコース)	小野 堅太郎	51
	人見 涼露	
生理学演習 (アドバンスコース)	小野 堅太郎	53
	人見 涼露	
生理学演習	小野 堅太郎	55
	人見 涼露	
生理学講究	小野 堅太郎	57
	人見 涼露	
分子生物学 (初級編)	自見 英治郎	59
	古株 彰一郎	
	松原 琢磨	
分子生物学 (中級編)	自見 英治郎	62
	古株 彰一郎	
	松原 琢磨	
分子生物学 (上級編)	自見 英治郎	65
	古株 彰一郎	
	松原 琢磨	
骨分子生物学クラブ(抄読会)	自見 英治郎	68
	古株 彰一郎	
	松原 琢磨	
口腔病態病理学	松尾 拓	70
	矢田 直美	
	張 皿	
口腔病態病理学演習 (ベーシックコース)	松尾 拓	72
	張 皿	
口腔病態病理学演習 (アドバンスコース)	松尾 拓	74
口腔病態病理学講究	松尾 拓	76
臨床病理診断学	松尾 拓	78
	矢田 直美	
臨床病理診断学演習	矢田 直美	80
感染症学	西原 達次	82
	有吉 渉	
	沖永 敏則	
感染症学	西原 達次	85
	有吉 渉	
	沖永 敏則	
感染症学	西原 達次	87
	有吉 渉	
	沖永 敏則	
薬理学	竹内 弘	89
	大住 伴子	
	東 泉	
薬理学	竹内 弘	91
	大住 伴子	
	東 泉	
薬理学	竹内 弘	93
	大住 伴子	
	東 泉	
薬理学	竹内 弘	95
	大住 伴子	
	東 泉	
薬理学講究	竹内 弘	97
	大住 伴子	
	東 泉	
分子薬理学演習	竹内 弘	99
	大住 伴子	
	東 泉	
細胞分子薬理学演習	竹内 弘	101
	大住 伴子	
	東 泉	

薬理学演習	竹内 弘	103
	大住 伴子	
	東 泉	
臨床疫学	角舘 直樹	105
臨床疫学	角舘 直樹	107
臨床疫学	角舘 直樹	110
臨床疫学演習	角舘 直樹	112
臨床疫学講究	角舘 直樹	114
口腔健康学	日高 勝美	116
	秋房 住郎	
	園木 一男	
	吉野 賢一	
	辻澤 利行	
	引地 尚子	
	中道 敦子	
口腔健康学	日高 勝美	118
	秋房 住郎	
	園木 一男	
	吉野 賢一	
	辻澤 利行	
	引地 尚子	
	中道 敦子	
口腔健康学	日高 勝美	120
	秋房 住郎	
	園木 一男	
	吉野 賢一	
	辻澤 利行	
	引地 尚子	
	中道 敦子	
保健医療特論	福泉 隆喜	122
保健医療特論	福泉 隆喜	124
保健医療特論	福泉 隆喜	127
保健医療特論	福泉 隆喜	129
保健医療特論演習	福泉 隆喜	131
保健医療特論演習	福泉 隆喜	133
保健医療特論講究	福泉 隆喜	135
プライマリ・ケア (ベーシックコース)	栗野 秀慈	137
プライマリ・ケア (アドバンスコース)	栗野 秀慈	139
プライマリ・ケア (症例検討)	栗野 秀慈	142
歯科総合臨床教育研究学 1	栗野 秀慈	144
歯科総合臨床教育研究学 2	栗野 秀慈	146
総合診療学 1 (ベーシックコース)	木尾 哲朗	148
	永松 浩	
	鬼塚 千絵	
総合診療学 2 (アドバンスコース)	木尾 哲朗	151
	永松 浩	
	鬼塚 千絵	
歯科医学教育研究学 1	木尾 哲朗	154
	永松 浩	
	鬼塚 千絵	
歯科医学教育研究学 2	木尾 哲朗	156
	永松 浩	
	鬼塚 千絵	
歯科医学教育研究学 3	木尾 哲朗	158
	永松 浩	
	鬼塚 千絵	
総合診療学教育研究 1	木尾 哲朗	160
	永松 浩	
	鬼塚 千絵	
総合診療学教育研究 2	木尾 哲朗	162

総合診療学教育研究3	永松 浩 鬼塚 千絵 木尾 哲朗	164
口腔保存治療学 (臨床ベーシックコース)	永松 浩 鬼塚 千絵 北村 知昭	166
口腔保存治療学 (臨床アドバンスコースS)	諸富 孝彦 鷺尾 絢子 吉居 慎二 宮下 桂子 北村 知昭	169
口腔保存治療学 (臨床アドバンスコースH)	諸富 孝彦 鷺尾 絢子 吉居 慎二 宮下 桂子 北村 知昭	172
口腔保存治療学 (研究セミナー)	諸富 孝彦 鷺尾 絢子 吉居 慎二 宮下 桂子 北村 知昭	175
口腔保存治療学 (研究演習)	諸富 孝彦 鷺尾 絢子 吉居 慎二 宮下 桂子 北村 知昭	178
歯周病学	中島 啓介	181
歯周病学	白井 通彦 中村 太志 守下 昌輝 花谷 智哉 中島 啓介	184
歯周病学 (症例検討)	白井 通彦 中村 太志 守下 昌輝 花谷 智哉 中島 啓介	186
歯周病学 (歯周外科アドバンス)	白井 通彦 中村 太志 守下 昌輝 花谷 智哉 中島 啓介	188
補綴治療学 (ベーシックコース)	有田 正博	190
補綴治療学 (アドバンスコース1)	中村 恵子 鱒見 進一	193
補綴治療学 (アドバンスコース2)	榎原 絵理 鱒見 進一	195
顎口腔欠損再構築学1 (臨床研究デザイン)	榎原 絵理 鱒見 進一	197
顎口腔欠損再構築学2 (計測機器)	有田 正博	199
顎口腔欠損再構築学3 (検討会)	鱒見 進一	201

	有田 正博 楨原 絵理 河野 稔広 宮嶋 隆一郎	
口腔インプラント補綴学	細川 隆司	203
	正木 千尋 小城 辰郎 近藤 祐介 柄 慎太郎	
口腔インプラント補綴学	細川 隆司	205
	正木 千尋 小城 辰郎 近藤 祐介 柄 慎太郎	
口腔再建リハビリテーション学 1	細川 隆司	207
	正木 千尋 小城 辰郎 近藤 祐介 柄 慎太郎	
口腔再建リハビリテーション学 2	細川 隆司	209
	正木 千尋 小城 辰郎 近藤 祐介 柄 慎太郎	
口腔再建リハビリテーション学 3	細川 隆司	211
	正木 千尋 小城 辰郎 近藤 祐介 柄 慎太郎	
最新口腔再建リハビリテーション学	細川 隆司	213
	正木 千尋 小城 辰郎 近藤 祐介 柄 慎太郎	
地域口腔保健医療学 ベーシックコース	安細 敏弘	215
	岩崎 正則 邵 仁浩 角田 聡子	
地域口腔保健医療学 アドバンスコース	安細 敏弘	217
	岩崎 正則 邵 仁浩 角田 聡子	
地域口腔保健医療学演習	岩崎 正則	220
	邵 仁浩	
地域口腔保健医療学演習	安細 敏弘	223
	岩崎 正則	
地域口腔保健医療学特論	安細 敏弘	225
	岩崎 正則 邵 仁浩 角田 聡子	
歯科と全身疾患	中道 郁夫	227
高血圧患者の診かた	福原 正代	229
内科学入門	福原 正代	231
小児歯科学 (ベーシックコース)	牧 憲司	233
	西田 郁子 藤田 優子 森川 和政 佐伯 桂	
小児歯科学 (アドバンスコース)	牧 憲司	237
	西田 郁子	

口腔機能発達学	牧 憲司	240
	西田 郁子	
	藤田 優子	
	森川 和政	
	佐伯 桂	
口腔機能発達学 (検討会)	牧 憲司	242
	西田 郁子	
	藤田 優子	
	森川 和政	
	佐伯 桂	
歯科矯正学 1 (ベーシック)	川元 龍夫	244
	郡司掛 香織	
	黒石 加代子	
	森田 淳平	
	志賀 百年	
歯科矯正学 2 (基礎実習)	川元 龍夫	248
	郡司掛 香織	
	黒石 加代子	
	森田 淳平	
	志賀 百年	
歯科矯正学 3 (タイポドント)	川元 龍夫	250
	郡司掛 香織	
	黒石 加代子	
	森田 淳平	
	志賀 百年	
歯科矯正学 4 (臨床研修)	川元 龍夫	252
	瀧口 玲子	
	郡司掛 香織	
	黒石 加代子	
	森田 淳平	
顎口腔機能矯正学 1	川元 龍夫	254
	郡司掛 香織	
	黒石 加代子	
	森田 淳平	
	志賀 百年	
顎口腔機能矯正学 2	川元 龍夫	256
	郡司掛 香織	
	黒石 加代子	
	森田 淳平	
	志賀 百年	
顎口腔機能矯正学 3	川元 龍夫	258
	郡司掛 香織	
	黒石 加代子	
	森田 淳平	
	志賀 百年	
歯科放射線学	森本 泰宏	260
	田中 達朗	
	鬼頭 慎司	
	小田 昌史	
	松本 忍	
歯科放射線学検討会	森本 泰宏	263
	田中 達朗	
	鬼頭 慎司	
	小田 昌史	
	松本 忍	
歯科放射線学概論	森本 泰宏	265
	田中 達朗	
	鬼頭 慎司	
	小田 昌史	
	松本 忍	

歯科放射線学演習	森本 泰宏	269
	田中 達朗	
	鬼頭 慎司	
	小田 昌史	
	松本 忍	
歯科放射線学演習	森本 泰宏	271
	田中 達朗	
	鬼頭 慎司	
	小田 昌史	
	松本 忍	
歯科放射線学輪読会	森本 泰宏	273
	田中 達朗	
	鬼頭 慎司	
	小田 昌史	
	松本 忍	
顎顔面外科学ベーシック治療学コース	富永 和宏	275
	笹栗 正明	
	上原 雅隆	
	土生 学	
	吉賀 大午	
	岩永 賢二郎	
	三次 翔	
	高橋 理	
	河野 通直	
	藤井 誠子	
顎顔面外科学ベーシック診断学コース	富永 和宏	278
	笹栗 正明	
	上原 雅隆	
	土生 学	
	吉賀 大午	
	岩永 賢二郎	
	三次 翔	
	高橋 理	
	河野 通直	
	藤井 誠子	
顎顔面外科学1（病理・病態解明）	富永 和宏	281
	笹栗 正明	
	上原 雅隆	
	土生 学	
	吉賀 大午	
	岩永 賢二郎	
	三次 翔	
	高橋 理	
	河野 通直	
	藤井 誠子	
顎顔面外科学2（薬物・遺伝子導入）	富永 和宏	283
	笹栗 正明	
	上原 雅隆	
	土生 学	
	吉賀 大午	
	岩永 賢二郎	
	三次 翔	
	高橋 理	
	河野 通直	
	藤井 誠子	
顎顔面外科学3（検討会）	富永 和宏	285
	笹栗 正明	
	上原 雅隆	
	土生 学	
	吉賀 大午	

	岩永 賢二郎	
	三次 翔	
	高橋 理	
	河野 通直	
	藤井 誠子	
口腔内科学ベーシックコース	吉岡 泉	287
	宮本 郁也	
	國領 真也	
口腔内科学アドバンスコース	吉岡 泉	289
	宮本 郁也	
	國領 真也	
	鶴島 弘基	
	坂口 修	
	大澤 賢次	
	田中 純平	
口腔内科学アドバンスコース	吉岡 泉	292
	鶴島 弘基	
	大澤 賢次	
口腔内科学アドバンスコース	坂口 修	294
	大澤 賢次	
	田中 純平	
口腔内科学 (顎変形症)	吉岡 泉	296
	鶴島 弘基	
	坂口 修	
口腔内科学	宮本 郁也	298
	國領 真也	
	田中 純平	
口腔内科学	吉岡 泉	300
	宮本 郁也	
	國領 真也	
	鶴島 弘基	
	坂口 修	
	大澤 賢次	
	田中 純平	
歯科麻酔学 (障害者歯科コース)	渡邊 誠之	302
	椎葉 俊司	
	原野 望	
	左合 徹平	
歯科麻酔学 (疼痛管理)	渡邊 誠之	304
	椎葉 俊司	
	原野 望	
	左合 徹平	
歯科麻酔学 (疼痛管理)	渡邊 誠之	306
	椎葉 俊司	
	原野 望	
	左合 徹平	
歯科麻酔学特論	渡邊 誠之	308
	椎葉 俊司	
	原野 望	
	左合 徹平	
歯科麻酔学 (循環生理と循環器疾患)	渡邊 誠之	310
歯科麻酔学 (循環生理と循環器疾患)	渡邊 誠之	312
歯科麻酔学 (呼吸生理と呼吸器疾患)	渡邊 誠之	314
歯科麻酔学 (呼吸生理と呼吸器疾患)	渡邊 誠之	316
歯科麻酔学 (ベーシックコース)	渡邊 誠之	318
歯科麻酔学 (アドバンスコース)	渡邊 誠之	320
臨床歯科麻酔学	渡邊 誠之	322
	椎葉 俊司	
	原野 望	
	左合 徹平	

摂食機能リハビリテーション学1(ベーシック)	柿木 保明 藤井 航 多田 葉子 木村 貴之 久保田 潤平	324
摂食機能リハビリテーション学2(アドバンス)	柿木 保明 藤井 航 多田 葉子 木村 貴之	327
高齢者歯科学セミナー1(摂食機能リハビリ)	柿木 保明 藤井 航 多田 葉子 木村 貴之	330
高齢者歯科学セミナー2(統合医学)	柿木 保明 藤井 航 多田 葉子 木村 貴之 久保田 潤平	332
高齢・障害者歯科学特論	柿木 保明 藤井 航 多田 葉子 木村 貴之 久保田 潤平	334
周術期管理と外科基本手技	中島 秀彰	336
大学院特別講義	歯学研究科長 福泉 隆喜 木尾 哲朗 北村 知昭 細川 隆司 瀬田 祐司 小野 堅太郎 自見 英治郎 竹内 弘 安細 敏弘 牧 憲司 川元 龍夫 森本 泰宏	338
生命分子形態学	瀬田 祐司 中富 満城 豊野 孝 片岡 真司	341
分子生物学演習	自見 英治郎 古株 彰一郎 松原 琢磨	343
分子生物学演習	自見 英治郎 古株 彰一郎 松原 琢磨	345
神経生理実験法	小野 堅太郎 人見 涼露	347
画像撮影技術と解析法	森本 泰宏 田中 達朗 鬼頭 慎司 小田 昌史 松本 忍	349
歯科治療リスクマネジメント	大渡 凡人	351
分析化学特論	〔非常勤講師〕竹中 繁織	353
バイオ計測学特論	〔非常勤講師〕佐藤 しのぶ	356
知的システム構成特論	〔非常勤講師〕金 亨燮	358
環境適応機能	〔非常勤講師〕前田 憲成	360
生体機能材料	〔非常勤講師〕宮崎 敏樹	362

生体力学	〔非常勤講師〕山田 宏	364
化学感覚受容概論	瀬田 祐司	366
口腔保存治療学・研究概論	北村 知昭	370
歯周病学概論	中島 啓介	373
歯科放射線学概論	森本 泰宏	375
顎顔面外科学概論	冨永 和宏	378
臨床研究デザイン (健康増進を目的とした臨床研究の手法と研究計画の立案方法)	角館 直樹	381
	日高 勝美	
	唐木 純一	
臨床研究デザイン (健康増進を目的とした臨床研究の手法と研究計画の立案方法)	角館 直樹	384
	日高 勝美	
	唐木 純一	
高齢期歯科疾患概論	日高 勝美	387
	唐木 純一	
高齢期歯科疾患概論	日高 勝美	389
	唐木 純一	
高分子物性論	〔非常勤講師〕櫻井 和朗	391
生体材料論	〔非常勤講師〕中澤 浩二	393
物理化学概論	〔非常勤講師〕竹中 繁織	395
	〔非常勤講師〕横野 照尚	
生体力学	〔非常勤講師〕山田 宏	397
産業医学研究基盤コース	〔非常勤講師〕田中 良哉	399
医学研究概論	〔非常勤講師〕井上 真澄	401
	〔非常勤講師〕森本 景之	
	〔非常勤講師〕佐藤 寛晃	
	〔非常勤講師〕上野 光	
	〔非常勤講師〕岩井 佳子	
	〔非常勤講師〕上田 陽一	
	〔非常勤講師〕吉田 安宏	
	〔非常勤講師〕足立 弘明	
	〔非常勤講師〕田中 良哉	
	〔非常勤講師〕久岡 正典	
	〔非常勤講師〕田中 文啓	
	〔非常勤講師〕酒井 昭典	
	〔非常勤講師〕原田 大	
	〔非常勤講師〕中村 元信	
	〔非常勤講師〕藤本 直浩	
	〔非常勤講師〕尾辻 豊	
	〔非常勤講師〕興梠 征典	
	〔非常勤講師〕西澤 茂	
	〔非常勤講師〕近藤 寛之	
	〔非常勤講師〕鈴木 秀明	
	〔非常勤講師〕川崎 貴士	
	〔非常勤講師〕蜂須賀 徹	
	〔非常勤講師〕楠原 浩一	
	〔非常勤講師〕東 華岳	
	〔非常勤講師〕齋藤 光正	
	〔非常勤講師〕平田 敬治	
	〔非常勤講師〕佐伯 覚	
	〔非常勤講師〕矢寺 和博	
	〔非常勤講師〕真弓 俊彦	
人間工学特論	〔非常勤講師〕藤木 通弘	404
	〔非常勤講師〕泉 博之	

2017年度

初年次研究研修プログラム (Fresher ' s Research Training Program)

開講年次	1年	期区分	前期	科目	副科目(必修)	単位数	1
授業方法	講義	時間数	16時間	曜日		時限	
開講学科	歯学研究科 歯学専攻						
科目責任者	歯学研究科長						
担当教員	日高 勝美、安細 敏弘、森本 泰宏、歯学研究科長、瀬田 祐司、自見 英治郎、有吉 渉、竹内 弘、中原 孝洋、中島 秀彰 〔非常勤講師〕中村 邦彦、						

授業の概要

大学院での研究を開始する上で、知っておかなければならない基本的知識の実際と理論について理解する。

学生の到達目標

- 1 科学研究に関する法令や各種指針を理解し対応できる。
- 2 図書館の利用方法、EBMに基づいた研究計画の立案及びPubMedを用いたデータ検索法を習得し実践できる。
- 3 動物実験施設にあるエックス線撮影装置を利用する上で必要な放射線被曝に関する最低限の知識を身につけ実践できる。実験動物の代表的な感染症、とくに「人獣共通感染症」について詳細に説明できる。
- 4 使用している試薬が医薬用外劇物及び毒物であるか判断できる。医薬用外劇物及び毒物の管理方法を説明できる。実験室における安全対策を説明できる。
- 5 医療人として必要な医の倫理を説明できる。
- 6 標準感染予防策を踏まえて、診療中に必要とされる院内感染対策の基本手技を理解し、実施できる。
- 7 大学における研究成果を産業界で活用するために、知的財産権の取得、産業界との連携について最低限の知識を身につける。
- 8 生命倫理・医療倫理の基本問題(課題)を理解し、医療人として実践的に取り組むことができる。

テキスト

EBMの道具箱 Pub-Med活用マニュアル
出) 著)

参考書

出) 著)

成績評価方法・基準

評価項目	割合
出席	100%

その他

2017年度

初年次研究研修プログラム (Fresher ' s Research Training Program)

開講年次	1年	期区分	前期	科目	副科目(必修)	単位数	1
授業方法	講義	時間数	16時間	曜日		時限	
開講学科	歯学研究科 歯学専攻						
科目責任者	歯学研究科長						
担当教員	日高 勝美、安細 敏弘、森本 泰宏、歯学研究科長、瀬田 祐司、自見 英治郎、有吉 渉、竹内 弘、中原 孝洋、中島 秀彰 〔非常勤講師〕中村 邦彦、						

授業計画

回	学習内容	授業方法	担当教員	事前・事後学習 学習課題
1	科学研究における倫理 1 疫学研究や臨床研究に関する法令や各種指針の概要について学習する。	講義	日高	講義の復習
2	文献検索・図書館の利用 図書館の利用方法、EBMに基づいた研究計画の立案及びPubMedを用いたデータ検索法を習得することで研究の実践に役立てる。	講義	安細 森本	予習、復習として参考書を読む
3	動物実験の進め方・遺伝子組み換え 動物実験の遂行にあたって必要な動物由来の感染症について学ぶ。	講義	大学院科 長 動物実験 施設長 自見 森本 有吉	講義内容の復習
4	毒物劇物の取り扱い・実験室の管理 実験で使用する毒物及び劇物の取り扱いに関する注意点や実験室における安全対策について学ぶ。	講義	竹内	事後に各実験室に戻り、試薬の保管・使用状況を確認する。
5	科学研究における倫理 2	講義	中原	関連分野に関する予習?復習
6	診療活動における感染制御と実際 標準感染予防策を踏まえながら、診療中に必要とされる院内感染対策や医療事故対策を学ぶ。	講義	中島秀彰	講義内容の復習
7	産学連携 大学における研究成果を産業界で活用するために、知的財産権の取得、産業界への技術移転、共同研究等の産学連携等について学ぶ。	講義	九州工業 大学 産学連携 センター 長	講義内容の復習
8	生命倫理 原点 原点と現代の医療技術 生命倫理と医療倫理の諸問題	講義	瀬田	講義の復習

2017年度

生体材料学演習 (ベーシックコース) (Seminar in Biomaterials (Basic Course))

開講年次	1～3年	期区分	通年	科目	主科目(研究)	単位数	2
授業方法	講義・演習	時間数	30時間	曜日		時限	
開講学科	歯学研究科 歯学専攻						
科目責任者	清水 博史						
担当教員	清水 博史、永松 有紀、池田 弘						

授業の概要

「歯科用有機材料」、「歯科用金属材料」、「歯科用無機材料」について研究を行うための基礎的知識、操作法ならびに材料試験法について学ぶ。床用レジン、コンポジットレジン、金合金、チタン合金、ポーセレン、オールセラミックスについて、大学院生の研究テーマに即した知識および技能を教授する。

学生の到達目標

1. 歯科用レジンをはじめとする有機材料についての知識および操作法を習得し、実践できる。
2. 金合金をはじめとする金属材料についての知識および合金に適した鑄造法を習得し、実践できる。
3. 審美性を兼ね備えたポーセレン・オールセラミックスについての知識・技能を習得し、実践できる。
4. 材料試験方法についての知識およびそれらの操作法を習得し、実践できる。
5. 曲げ試験用の試料作製法、試験方法を習得し、実践できる。
6. 圧縮試験用の試料作製法、試験方法を習得し、実践できる。
7. 接着試験用の試料作製法、試験方法を習得し、実践できる。
8. 各種合金に適した鑄造機の使用法、鑄造法を習得し、実践できる。
9. 電子顕微鏡による成分分析に必要な知識、操作法を習得し、実践できる。

テキスト

出) 著)

参考書

関連分野の文献および参考書は各自必要なものを利用する。

出) 著)

成績評価方法・基準

評価項目	割合
発表内容	80%
プレゼンテーション態度	20%

その他

清水：オフィスアワー 月、水～金 12:00～13:00
永松：オフィスアワー 月・水・木・金 12:00～13:00、16:30～18:00
池田：オフィスアワー 月～金 12:00～13:00、16:30～18:00

2017年度

生体材料学演習 (ベーシックコース) (Seminar in Biomaterials (Basic Course))

開講年次	1～3年	期区分	通年	科目	主科目(研究)	単位数	2
授業方法	講義・演習	時間数	30時間	曜日		時限	
開講学科	歯学研究科 歯学専攻						
科目責任者	清水 博史						
担当教員	清水 博史、永松 有紀、池田 弘						

授業計画

回	学習内容	授業方法	担当教員	事前・事後学習 学習課題
1	オリエンテーション 関係論文の探索法および使用する実験器具・装置の種類を学ぶ。	講義	清水 永松 池田	講義の復習(無機材料、有機材料、金属材料)
2	印象材 各種歯科用印象材についての情報を得るとともにそれらの有効な操作法を学ぶ。	講義	清水 永松 池田	講義の復習(非弾性印象材・弾性印象材の分類)
3	床用レジン 各種義歯床用レジンについての情報を得るとともにそれらの有効な操作法を学ぶ。	講義	清水 永松 池田	講義の復習(加熱重合型、常温重合型レジン)
4	コンポジットレジン 各種コンポジットレジンについての情報を得るとともに化学重合あるいは可視光線重合法を学ぶ。	講義	清水 永松 池田	講義の復習(レジンモノマーとフィラーの分類)
5	歯科用貴金属合金 各種歯科用貴金属合金についての情報を得るとともに鋳造法および熱処理法を学ぶ。	講義	清水 永松 池田	講義の復習(金合金、銀合金、金銀パラジウム合金)
6	歯科用非貴金属合金 各種歯科用貴金属合金についての情報を得るとともに鋳造法および熱処理法を学ぶ。	講義	清水 永松 池田	講義の復習(Co-Cr合金、Ni-Cr合金、ステンレス鋼)
7	歯科用ポーセレン 各種歯科用ポーセレンについての情報を得るとともに築盛法および焼成法を学ぶ。	講義	清水 永松 池田	講義の復習(アルミナスポーセレンと金属焼付ポーセレン)
8	歯科用オールセラミックス 各種歯科用オールセラミックスの情報を得るとともに製作法を学ぶ。	講義	清水 永松 池田	講義の復習(CAD/CAMの変遷)
9	印象材の弾性ひずみ・永久ひずみ ひずみ試験用試験片の作製法および各試験法を学ぶ。	演習	清水 永松 池田	演習の復習(JIST6512に準拠)
10	歯科用レジンの曲げ強さ 曲げ試験用試験片の作製法および試験法を学ぶ。	演習	清水 永松 池田	演習の復習(JIST6508に準拠)
11	コンポジットレジンの接着強さ 試験片の作製法および試験法を学ぶ。	演習	清水 永松 池田	演習の復習(引張試験ならびにせん断試験)
12	ワックスパターンの作製1 金合金鋳造用ワックスパターンの作製法および遠心鋳造法を学ぶ。	演習	清水 永松 池田	演習の復習(鋳造体の適合性の検討)
13	ワックスパターンの作製2 チタン合金鋳造用ワックスパターンの作製法およびアルゴンアーク鋳造法を学ぶ。	演習	清水 永松 池田	演習の復習(鋳造体の寸法精度の検討)
14	ポーセレン・オールセラミックス 圧縮試験用試験片の作製法および試験法を学ぶ。	演習	清水 永松 池田	演習の復習(オールセラミック材料の圧縮強さの検討)
15	報告会 講義・演習内容の総括を行うとともにプレゼンテーションの手法を学ぶ。	演習	清水 永松 池田	プレゼンテーションの準備

2017年度

生体材料学演習 (アドバンスコース) (Seminar in Biomaterials (Advanced Course))

開講年次	2～3年	期区分	通年	科目	主科目(研究)	単位数	2
授業方法	演習	時間数	30時間	曜日		時限	
開講学科	歯学研究科 歯学専攻						
科目責任者	清水 博史						
担当教員	清水 博史、永松 有紀、池田 弘						

授業の概要

作業用模型の寸法精度・表面性状は、最終的に義歯床・鋳造物の適合性や表面に大きく影響する。模型は、印象採得時・模型作製時の使用材料の材質・材料の配合比・練和時間・温度・印象の消毒方法・印象材と模型材の組み合わせ等の諸条件により諸物性に影響を受ける。模型への種々の影響が起こり易いハイドロコロイド印象材について、印象採得時ならびに模型材注入までの保管方法等による模型の諸物性への影響について学ぶ。臨床で起こりうる諸条件を想定し、各条件下で作製した模型の寸法精度・表面性状・形態変化等を各測定装置により測定し、それらの結果について統計学的に検討する。

学生の到達目標

- 1.各種印象材・模型材の相違点、類似点を再確認するとともに、最新の材料についての知識を収集し、レベルアップすることができる。
- 2.臨床を想定し、印象採得および模型製作時に起こりうる諸条件を検討し、具体的な実験条件を詳細に設定するとともに、分析に必要な測定機器の原理・使用方法を理解できる。
- 3.本実験に先立ち予備実験を行い、試験片および測定条件の再検討・機器の使用法の習得し、実践できる。
- 4.本実験により得られたデータについてオフィスソフトを用いて表計算を行い、グラフ化するとともに、実験結果をより効果的にプレゼンテーションする方法を身につけ実践できる。

テキスト

出) (著)

参考書

関連分野の文献および参考書は各自必要なものを利用する。
出) (著)

成績評価方法・基準

評価項目	割合
発表内容	80%
プレゼンテーション態度	20%

その他

清水：オフィスアワー 月、水～金12:00～13:00
永松：オフィスアワー 月・水・木・金12:00～13:00、16:30～18:00
池田：オフィスアワー 月～金 12:00～13:00、16:30～18:00

2017年度

生体材料学演習 (アドバンスコース) (Seminar in Biomaterials (Advanced Course))

開講年次	2～3年	期区分	通年	科目	主科目 (研究)	単位数	2
授業方法	演習	時間数	30時間	曜日		時限	
開講学科	歯学研究科 歯学専攻						
科目責任者	清水 博史						
担当教員	清水 博史、永松 有紀、池田 弘						

授業計画

回	学習内容	授業方法	担当教員	事前・事後学習 学習課題
1	試験片作製 1 各種条件下での印象採得後、模型作製 (超硬質石膏) を行う。	演習	永松	講義の復習 (印象材の特性、模型材の特性)
2	試験片作製 2 各種条件下での印象の消毒後、模型作製 (超硬質石膏) を行う。	演習	永松	講義の復習 (印象の適切な消毒方法)
3	試験片作製 3 各種条件下での印象の保存後、模型作製 (超硬質石膏) を行う。	演習	永松	講義の復習 (印象の寸法安定性)
4	試験片作製 4 印象採得後、各種条件下での模型作製を行う。	演習	永松	講義の復習 (印象材と模型材の組合せ)
5,6	模型の寸法精度の測定 模型各部位の寸法の読み取り、原型との比較を行う。	演習	永松	講義の復習 (模型の寸法精度への影響因子の検討)
7~9	模型の表面粗さの測定 表面粗さの計測を行い、Ra値を原型と比較する。	演習	永松	講義の復習 (模型の表面性状への影響因子の検討)
10	模型の形態の測定 形態の曲線化後、原型との比較する。	演習	永松	講義の復習 (模型の形態への影響因子の検討)
11,12	試験結果のエクセルを用いたグラフ化 全データをグラフ化し、各条件間の比較を行う。	演習	永松	講義の予習・復習 (印象の取り扱い方法による模型への影響)
13,14	プレゼンテーションデータとしてのデータの整理 データについて統計処理および発表用スライドの作成を行う。	演習	永松 池田	講義の予習・復習 (プレゼンテーションの準備・修正)
15	研究結果の報告会 プレゼンテーションを行い、実験結果の報告を行う。また、その手法を学ぶ。	演習	永松 清水	講義の予習・復習 (プレゼンテーションの準備・修正)

2017年度

生体材料学概論 (Dental Biomaterials)

開講年次	1～4年	期区分	通年	科目	主科目(研究) / 副科目	単位数	2
授業方法	演習	時間数	30時間	曜日		時限	
開講学科	歯学研究科 歯学専攻						
科目責任者	清水 博史						
担当教員	清水 博史、永松 有紀、池田 弘						

授業の概要

1. Clinical Aspects of Dental Materialsの輪読を行う。
2. 生体材料学関連英語論文の読解と解説を行う。

学生の到達目標

1. 英文の読解力を養うとともに、日本語と英語の表現法の違いを理解できる。
2. 生体材料の研究方法・実験方法を学び実践できる。
3. 臨床的見地から歯科材料の最新の動向を学び実践できる。

テキスト

Clinical Aspects of Dental Materials

出) 著) M. Gladwin, M. Bagby

Dental Materialを中心とした各種英文誌も使用する。

出) 著)

参考書

出) 著)

成績評価方法・基準

評価項目	割合
プレゼンテーションの内容	60%
ゼミ中の積極性	20%
演習による習熟度	20%

その他

清水：オフィスアワー 月、水～金 12:00～13:00

永松：オフィスアワー 月・水・木・金 12:00～13:00、16:30～18:00

池田：オフィスアワー 月～金 12:00～13:00、16:30～18:00

2017年度

生体材料学概論 (Dental Biomaterials)

開講年次	1～4年	期区分	通年	科目	主科目(研究) / 副科目	単位数	2
授業方法	演習	時間数	30時間	曜日		時限	
開講学科	歯学研究科 歯学専攻						
科目責任者	清水 博史						
担当教員	清水 博史、永松 有紀、池田 弘						

授業計画

回	学習内容	授業方法	担当教員	事前・事後学習 学習課題
1～15	研究関係英文文献・論文からの情報収集 歯科材料の臨床的動向の把握ならびに英語的思考力の養成を行う。	輪読、演習	清水 永松 池田	演習の予習・ 復習(輪読で 担当する材料 分野周辺の調 査)

2017年度

生体材料学特論 (Advanced Biomaterials)

開講年次	1～4年	期区分	通年	科目	主科目(研究)	単位数	2
授業方法	演習	時間数	30	曜日		時限	
開講学科	歯学研究科 歯学専攻						
科目責任者	清水 博史						
担当教員	清水 博史、永松 有紀、池田 弘						

授業の概要

下記の研究課題のうちひとつを選択し、その課題に関連する文献を渉猟し、抄読する。研究背景とその領域の現状の把握を行い、学んだことをまとめ、発表する。このことを通じて分野の教員からアドバイスを貰い、ひいては自身の研究計画立案と論文作成の参考とする。

- 1 金属表面に対するアルミナプラスト処理の作用機序
- 2 接着強さとヤング率との関係
- 3 高密度フィラー含有コンポジットレジンの接着メカニズム
- 4 抗菌性歯科用石膏の創製
- 5 ヒトエナメル質に近似した性質をもつ新しい歯科材料の開発

学生の到達目標

- 1 英文献が読める。
- 2 その領域の歴史と現状を説明できる。
- 3 文献の批判的評価ができる。
- 4 論文の緒言を書くことができる。
- 5 論文を参考に自身の研究計画を立案できる。

テキスト

各自で選択する。

出) (著)

参考書

出) (著)

成績評価方法・基準

評価項目	割合
発表内容	80%
発表態度	20%

その他

2017年度

生体材料学特論 (Advanced Biomaterials)

開講年次	1～4年	期区分	通年	科目	主科目(研究)	単位数	2
授業方法	演習	時間数	30	曜日		時限	
開講学科	歯学研究科 歯学専攻						
科目責任者	清水 博史						
担当教員	清水 博史、永松 有紀、池田 弘						

授業計画

回	学習内容	授業方法	担当教員	事前・事後学習 学習課題
1～15	自分の課題に関連する文献を渉猟し、抄読し、定められたフォーマットにまとめ、発表する。質問に対し、応答する。指摘事項に対し、修正し、資料を完成する。	抄読、演習	清水 永松 池田	演習の予習・ 復習(資料の 準備と指摘事 項の修正)

2017年度

生体材料学特論 (Advanced Biomaterials)

開講年次	1～4年	期区分	通年	科目	主科目(研究)	単位数	2
授業方法	演習	時間数	30	曜日		時限	
開講学科	歯学研究科 歯学専攻						
科目責任者	清水 博史						
担当教員	清水 博史、永松 有紀、池田 弘						

授業の概要

下記内容に関する最新の情報と生体材料学分野教員の研究成果と今後の展望について学ぶ。

- 1 歯科接着に関すること
- 2 歯科材料の殺菌・抗菌性に関すること
- 3 セラミックスやコンポジット材料に関すること
- 4 デジタル歯学に関すること

学生の到達目標

到達目標

- 1 当該分野の最新の知識を説明することができる。
- 2 当該分野の新しい研究計画の立案ができる。
- 3 当該分野の基礎的知識と臨床との関連を説明できる。

テキスト

担当教員が準備する。

出) (著)

参考書

出) (著)

成績評価方法・基準

評価項目	割合
習熟度	60%
積極性	40%

その他

2017年度

生体材料学特論 (Advanced Biomaterials)

開講年次	1～4年	期区分	通年	科目	主科目(研究)	単位数	2
授業方法	演習	時間数	30	曜日		時限	
開講学科	歯学研究科 歯学専攻						
科目責任者	清水 博史						
担当教員	清水 博史、永松 有紀、池田 弘						

授業計画

回	学習内容	授業方法	担当教員	事前・事後学習 学習課題
1～15	教員の講義からの情報収集 プレゼン手法の学習	講義と演習	清水 永松 池田	講義と演習の 復習

2017年度

解剖学 (ベーシックコース) (Anatomy (Basic course))

開講年次	1～2年	期区分	通年	科目	主科目(研究)	単位数	4
授業方法	講義・演習	時間数	60	曜日		時限	
開講学科	歯学研究科 歯学専攻						
科目責任者	瀬田 祐司						
担当教員	瀬田 祐司、豊野 孝、中富 満城、片岡 真司						

授業の概要

解剖学・分子生物学研究全般および「性ステロイドの感覚器における機能解析」、「味覚受容のメカニズム」、「味覚器の分化制御機構」について研究を行うための基礎的知識を習得する。

学生の到達目標

1. 感覚器の構造と機能を詳細に説明できる。
2. 活動電位の発生機構を詳細に説明できる。
3. シナプス伝達機構を詳細に説明できる。
4. 感覚受容機構を詳細に説明できる。
5. 性ステロイドの神経系における働きを詳細に説明できる。
6. 味覚受容体を詳細に説明できる。
7. 神経細胞の分化を詳細に説明できる。

テキスト

出) 著)

参考書

組織学、分子生物学で最近報告した文献は必読。および関連した文献、参考書を読む。

出) 著)

成績評価方法・基準

評価項目	割合
口頭試問	60%
研究報告	40%

演習中の試問に対する回答(60%)や、月1回の研究報告会(月毎の研究内容を資料にまとめ報告)の内容(40%)に基づいて点数をつける。

その他

学生相談：随時

2017年度

解剖学 (ベーシックコース) (Anatomy (Basic course))

開講年次	1～2年	期区分	通年	科目	主科目(研究)	単位数	4
授業方法	講義・演習	時間数	60	曜日		時限	
開講学科	歯学研究科 歯学専攻						
科目責任者	瀬田 祐司						
担当教員	瀬田 祐司、豊野 孝、中富 満城、片岡 真司						

授業計画

回	学習内容	授業方法	担当教員	事前・事後学習 学習課題
1,2	オリエンテーション 本講義の概要を説明し、人体における感覚器の種類と基本的な構造を学ぶ。	講義	瀬田、豊野、中富、片岡	文献及び参考文献の学習
3,4	感覚器の構造 機能を踏まえながら、視覚器を構成する細胞について学習する。	講義・演習	瀬田、豊野、中富、片岡	文献及び参考文献の学習
5,6	感覚器の構造 機能を踏まえながら、聴・平衡感覚器を構成する細胞について学習する。	講義・演習	瀬田、豊野、中富、片岡	文献及び参考文献の学習
7,8	感覚器の構造 機能を踏まえながら、味覚器を構成する細胞について学習する。	講義・演習	瀬田、豊野、中富、片岡	文献及び参考文献の学習
9,10	感覚器の構造 機能を踏まえながら、嗅覚器を構成する細胞について学習する。	講義・演習	瀬田、豊野、中富、片岡	文献及び参考文献の学習
11,12	活動電位の発生機構 神経細胞や感覚受容細胞における興奮のメカニズムについて学習する。	講義・演習	瀬田、豊野、中富、片岡	文献及び参考文献の学習
13,14	シナプス伝達機構 神経伝達物質の種類とシナプスの構造について学習する。	講義・演習	瀬田、豊野、中富、片岡	文献及び参考文献の学習
15,16	感覚受容機構 視覚器における光の明暗と色の識別のメカニズムについて学習する。	講義・演習	瀬田、豊野、中富、片岡	文献及び参考文献の学習
17,18	感覚受容機構 嗅覚器における匂いの識別のメカニズムについて学習する。	講義・演習	瀬田、豊野、中富、片岡	文献及び参考文献の学習
19,20	神経系における性ステロイドの機能 中枢神経系における神経伝達物質としての性ステロイドについて学習する。	講義・演習	瀬田、豊野、中富、片岡	文献及び参考文献の学習
21,22	味覚受容機構 味覚器の構造を復習し、味細胞における細胞内情報伝達機構を学習する。	講義・演習	瀬田、豊野、中富、片岡	文献及び参考文献の学習
23,24	味覚受容体 味覚受容体の種類と味の識別のメカニズムについて学習する。	講義・演習	瀬田、豊野、中富、片岡	文献及び参考文献の学習
25,26	神経細胞の発生・分化 中枢神経系における神経細胞の発生分化の制御機構について学習する。	講義・演習	瀬田、豊野、中富、片岡	文献及び参考文献の学習
27,28	感覚器の発生・分化 味覚器・嗅覚器の発生分化について学習する。	講義・演習	瀬田、豊野、中富、片岡	文献及び参考文献の学習
29,30	味覚と性ステロイド 味覚器における性ステロイド合成に関連する酵素の発現様式から、味覚器における性ステロイドの機能について学習する。	講義・演習	瀬田、豊野、中富、片岡	文献及び参考文献の学習

2017年度

解剖学 (アドバンスコース) (Anatomy (Advanced course))

開講年次	2～3年	期区分	通年	科目	主科目(研究)	単位数	4
授業方法	講義・演習	時間数	60	曜日		時限	
開講学科	歯学研究科 歯学専攻						
科目責任者	瀬田 祐司						
担当教員	瀬田 祐司、豊野 孝、中富 満城、片岡 真司						

授業の概要

味蕾や歯胚について研究を行うための基礎的知識および手法について学ぶ。凍結切片およびパラフィン切片による免疫組織化学法、樹脂切片による免疫電顕的組織化学的手法、遺伝子組織化学法、RT-PCR法、動物行動解析法などについて、大学院生のテーマに即した知識ならびに技能を演習する。

学生の到達目標

1. 味覚と動物の行動を解析するための知識および技能を習得し、実践できる。
2. 組織切片の作製ができる。
3. 免疫染色ができる。
4. RT-PCR法ができる
5. TAクローニングができる。
6. RNAプローブの作製ができる。
7. In situ Hybridizationができる。
8. 細胞培養の基本的な手技を習得し、実践できる。

テキスト

出) (著)

参考書

組織学、分子生物学で最近報告した文献は必読。および関連した文献、参考書を読む。

出) (著)

成績評価方法・基準

評価項目	割合
口頭試問	60%
研究報告	40%

演習中の試問に対する回答(60%)や、月1回の研究報告会(月毎の研究内容を資料にまとめ報告)の内容(40%)に基づいて点数をつける。

その他

学生相談：随時

2017年度

解剖学 (アドバンスコース) (Anatomy (Advanced course))

開講年次	2～3年	期区分	通年	科目	主科目(研究)	単位数	4
授業方法	講義・演習	時間数	60	曜日		時限	
開講学科	歯学研究科 歯学専攻						
科目責任者	瀬田 祐司						
担当教員	瀬田 祐司、豊野 孝、中富 満城、片岡 真司						

授業計画

回	学習内容	授業方法	担当教員	事前・事後学習 学習課題
1,2	オリエンテーション 本演習で行う手技の概要を学習する。	講義	瀬田、豊野、中富、片岡	文献及び参考文献の学習
3,4	組織切片の作製法1 各種固定液の調整法、マウスの還流固定を演習する。	演習	瀬田、豊野、中富、片岡	文献及び参考文献の学習
5,6	組織切片の作製法2 固定した組織の包埋を演習する。	演習	瀬田、豊野、中富、片岡	文献及び参考文献の学習
7,8	組織切片の作製法3 パラフィン包埋したブロックからの切片作製法を演習する。	演習	瀬田、豊野、中富、片岡	文献及び参考文献の学習
9,10	組織切片の作製法4 凍結ブロックからの切片作製法を演習する。	演習	瀬田、豊野、中富、片岡	文献及び参考文献の学習
11,12	免疫染色演習(組織における蛋白局在の検索) 抗体を用いて切片上での蛋白質の局在の検索を演習する。	演習	瀬田、豊野、中富、片岡	文献及び参考文献の学習
13,14	免疫染色演習2(組織における蛋白局在の検索) 抗体を用いて切片上での蛋白質の局在の検索を演習する。	演習	瀬田、豊野、中富、片岡	文献及び参考文献の学習
15,16	蛍光顕微鏡観察演習 蛍光顕微鏡を使って免疫染色の結果を観察、写真撮影を演習する。	演習	瀬田、豊野、中富、片岡	文献及び参考文献の学習
17,18	RT-PCR法演習 組織からのRNAの抽出、cDNAの合成を演習する。	演習	瀬田、豊野、中富、片岡	文献及び参考文献の学習
19,20	RT-PCR法2 プライマーの設計、PCRを演習する。	演習	瀬田、豊野、中富、片岡	文献及び参考文献の学習
21,22	遺伝子のクローニング(TAクローニング)・プローブ作製演習 PCR産物をTAベクターへのLigation、プローブの作製法を演習する。	演習	瀬田、豊野、中富、片岡	文献及び参考文献の学習
23,24	In situ Hybridization法演習1 In situ Hybridization用の組織切片の作製法を演習する。	演習	瀬田、豊野、中富、片岡	文献及び参考文献の学習
25,26	In situ Hybridization法演習2 プローブを用いて、組織切片上での遺伝子発現を検索する方法を演習する。	演習	瀬田、豊野、中富、片岡	文献及び参考文献の学習
27,28	細胞培養法 培地の調整法、培養細胞の取り扱いを演習する。	演習	瀬田、豊野、中富、片岡	文献及び参考文献の学習
29,30	細胞培養法2 培地の調整法、培養細胞の取り扱いを演習する。	演習	瀬田、豊野、中富、片岡	文献及び参考文献の学習

2017年度

解剖学演習 (ベーシックコース) (Anatomy Practice (Basic course))

開講年次	1～2年	期区分	通年	科目	主科目(研究)	単位数	2
授業方法	講義・演習	時間数	30	曜日		時限	
開講学科	歯学研究科 歯学専攻						
科目責任者	瀬田 祐司						
担当教員	瀬田 祐司、豊野 孝、中富 満城、片岡 真司						

授業の概要

「味覚受容機構」、「味覚受容体(T1R1)遺伝子のプロモーター解析」、「ATP受容体の味蕾での発現」、「歯の発生」、「味蕾発生の分子生物学」等について研究を行うための基礎的知識および手法について学ぶ。凍結切片およびパラフィン切片による免疫組織化学法、樹脂切片による免疫電顕的組織化学的手法、遺伝子組織化学法、RT-PCR法、動物行動解析法などについて、大学院生のテーマに即した知識ならびに技能を教授する。

学生の到達目標

1. 味覚と動物の行動を解析するための知識および技能を習得できる。
2. 細胞培養法を習得できる。
3. 組織切片の作製法を習得できる。
4. 免疫組織学的手法を習得できる。
5. RT-PCR法を習得できる。

テキスト

出) 著)

参考書

組織学、分子生物学で最近報告した文献は必読。および関連した文献、参考書を読む。

出) 著)

成績評価方法・基準

評価項目	割合
演習中の諮問に対する回答	60%
月1回の研究報告会(月毎の研究内容を資料にまとめ報告)の内容	40%

その他

学生相談：随時

2017年度

解剖学演習 (ベーシックコース) (Anatomy Practice (Basic course))

開講年次	1～2年	期区分	通年	科目	主科目(研究)	単位数	2
授業方法	講義・演習	時間数	30	曜日		時限	
開講学科	歯学研究科 歯学専攻						
科目責任者	瀬田 祐司						
担当教員	瀬田 祐司、豊野 孝、中富 満城、片岡 真司						

授業計画

回	学習内容	授業方法	担当教員	事前・事後学習 学習課題
1	オリエンテーション 本演習で行う手技の概要を学習する。	講義	瀬田、豊野、中富、片岡	文献及び参考文献の学習
2,3	細胞培養法の基礎 1 培養細胞の取扱、培地の作製法について演習する。	演習	瀬田、豊野、中富、片岡	文献及び参考文献の学習
4,5	細胞培養法の基礎 2 細胞の継代、細胞の保存法について演習する。	演習	瀬田、豊野、中富、片岡	文献及び参考文献の学習
6,7	組織切片の作製法 1 各種固定液の調整法、マウスの灌流固定を演習する。	演習	瀬田、豊野、中富、片岡	文献及び参考文献の学習
8,9	組織切片の作製法 2 固定した組織を包埋、切片作製法を演習する。	演習	瀬田、豊野、中富、片岡	文献及び参考文献の学習
10,11	免疫組織学 1 抗体を用いて切片上での蛋白質の局在の検索を演習する。	演習	瀬田、豊野、中富、片岡	文献及び参考文献の学習
12,13	RT-PCR法 1 組織からのRNAの抽出、cDNAの合成を演習する。	演習	瀬田、豊野、中富、片岡	文献及び参考文献の学習
14,15	RT-PCR法 2 プライマーの設計、PCRを演習する。	演習	瀬田、豊野、中富、片岡	文献及び参考文献の学習

2017年度

解剖学演習 (アドバンスコース) (Anatomy Practice (Advanced course))

開講年次	2～3年	期区分	通年	科目	主科目(研究)	単位数	2
授業方法	講義・演習	時間数	30	曜日		時限	
開講学科	歯学研究科 歯学専攻						
科目責任者	瀬田 祐司						
担当教員	瀬田 祐司、豊野 孝、中富 満城、片岡 真司						

授業の概要

「味覚受容機構」、「味覚受容体(T1R1)遺伝子のプロモーター解析」、「ATP受容体の味蕾での発現」、「歯の発生」、「味蕾発生の分子生物学」等についての研究を推進する。凍結切片およびパラフィン切片による免疫組織化学法、樹脂切片による免疫電顕的組織化学的手法、遺伝子組織化学法、RT-PCR法、動物行動解析法などについて、信頼性の高いデータが取得できるように指導を行う。

学生の到達目標

1. 味覚と動物の行動を解析するための知識および技能をレベルアップさせ、実践できる。
2. TAクローニングよりデータを取得できる。
3. 細胞培養法によりデータを取得できる。
4. サブクローニング法によりデータを取得できる。
5. 細胞への遺伝子導入法によりデータを取得できる。
6. レポーターアッセイ法によりデータを取得できる。

テキスト

出) 著)

参考書

組織学、分子生物学で最近報告した文献は必読。および関連した文献、参考書を読む。

出) 著)

成績評価方法・基準

評価項目	割合
演習中の試問に対する回答	60%
月1回の研究報告会(月毎の研究内容を資料にまとめ報告)の内容	40%

その他

学生相談：随時

2017年度

解剖学演習 (アドバンスコース) (Anatomy Practice (Advanced course))

開講年次	2～3年	期区分	通年	科目	主科目(研究)	単位数	2
授業方法	講義・演習	時間数	30	曜日		時限	
開講学科	歯学研究科 歯学専攻						
科目責任者	瀬田 祐司						
担当教員	瀬田 祐司、豊野 孝、中富 満城、片岡 真司						

授業計画

回	学習内容	授業方法	担当教員	事前・事後学習 学習課題
1	オリエンテーション 本演習で学ぶ手技について原理・応用を学習する。	講義	瀬田、豊野、中富、片岡	文献及び参考文献の学習
2,3	PCRクローニング法1 PCR産物をTAベクターへのLigationを演習する。	演習	瀬田、豊野、中富、片岡	文献及び参考文献の学習
4,5	PCRクローニング法2 PCR産物を組み込んだベクターを大腸菌へのトランスフォーメーションを演習する。	演習	瀬田、豊野、中富、片岡	文献及び参考文献の学習
6,7	PCRクローニング法3 コロニーのピックアップ、ベクターへのPCR産物のLigationの確認を演習する。	演習	瀬田、豊野、中富、片岡	文献及び参考文献の学習
8,9	培養細胞への遺伝子導入1 遺伝子導入法の種類と原理を学習し、培養細胞への発現ベクター導入を演習する。	演習	瀬田、豊野、中富、片岡	文献及び参考文献の学習
10,11	培養細胞への遺伝子導入2 培養細胞における導入遺伝子の発現の確認法を演習する。	演習	瀬田、豊野、中富、片岡	文献及び参考文献の学習
12,13	ルシフェラーゼアッセイ ルシフェラーゼ法の原理を学習し、プロモーター解析を演習する。	演習	瀬田、豊野、中富、片岡	文献及び参考文献の学習
14,15	ルシフェラーゼアッセイ2 ルシフェラーゼ法の原理を学習し、プロモーター解析を演習する。	演習	瀬田、豊野、中富、片岡	文献及び参考文献の学習

2017年度

解剖学演習 (Anatomy Practice)

開講年次	2～3年	期区分	通年	科目	主科目(研究)	単位数	2
授業方法	演習	時間数	30	曜日		時限	
開講学科	歯学研究科 歯学専攻						
科目責任者	瀬田 祐司						
担当教員	瀬田 祐司、豊野 孝、中富 満城、片岡 真司						

授業の概要

「味覚受容機構」、「性ステロイドと味覚・口腔乾燥症の研究」、「味覚受容体(T1R1)遺伝子のプロモーター解析」、「ATP受容体の味蕾での発現」、「歯の発生」、「味蕾発生の分子生物学」等について得られたデータをもとにして、研究論文をまとめる過程を学習する。

学生の到達目標

1. 性ステロイド(エストロゲン)と味覚との関係の解析を行い、研究論文にまとめる過程を学習し、実践できる。
2. T1R1遺伝子のプロモーター解析を行い、研究論文にまとめる過程を学習し、実践できる。
3. 味蕾発生に関して分子生物学的な解析を行い、研究論文にまとめる過程を学習し、実践できる。

テキスト

出) 著)

参考書

組織学、分子生物学で最近報告した文献は必読。および関連した文献、参考書を読む。

出) 著)

成績評価方法・基準

評価項目	割合
演習中の試問に対する回答	60%
月1回の研究報告会(月毎の研究内容を資料にまとめ報告)の内容	40%

その他

学生相談：随時

2017年度

解剖学演習 (Anatomy Practice)

開講年次	2～3年	期区分	通年	科目	主科目(研究)	単位数	2
授業方法	演習	時間数	30	曜日		時限	
開講学科	歯学研究科 歯学専攻						
科目責任者	瀬田 祐司						
担当教員	瀬田 祐司、豊野 孝、中富 満城、片岡 真司						

授業計画

回	学習内容	授業方法	担当教員	事前・事後学習 学習課題
1	オリエンテーション 本演習で学ぶ手技についての原理・応用を学習する。	講義	瀬田、豊野、中富、片岡	文献及び参考文献の学習
2,3	T1R1遺伝子発現細胞の培養 培養T1R1遺伝子発現細胞における遺伝子発現の確認を演習する。	演習	瀬田、豊野、中富、片岡	文献及び参考文献の学習
4,5	T1R1遺伝子発現細胞の培養2 培養T1R1遺伝子発現細胞における遺伝子発現の確認を演習する。	演習	瀬田、豊野、中富、片岡	文献及び参考文献の学習
6,7	T1R1遺伝子プロモーターのレポータープラスミドの作製 ルシフェラーゼアッセイのためのレポータープラスミドの作製を演習する。	演習	瀬田、豊野、中富、片岡	文献及び参考文献の学習
8,9	レポータープラスミドの細胞への遺伝子導入 レポータープラスミドをT1R1遺伝子発現細胞への導入を演習する。	演習	瀬田、豊野、中富、片岡	文献及び参考文献の学習
10,11	ルシフェラーゼアッセイによるT1R1遺伝子プロモーターの解析 ルシフェラーゼアッセイによるT1R1遺伝子のプロモーター領域の解析を演習する。	演習	瀬田、豊野、中富、片岡	文献及び参考文献の学習
12,13	免疫組織学的手法によるT1R1の局在の解析のまとめ 抗体を用いて培養細胞・組織におけるT1R1の発現検索を演習する。	演習	瀬田、豊野、中富、片岡	文献及び参考文献の学習
14,15	研究報告会 本演習で得られたデータを考察し、論文にまとめる作業を学習する。	演習	瀬田、豊野、中富、片岡	文献及び参考文献の学習

2017年度

解剖学特論 (Anatomy Advanced course)

開講年次	1～4年	期区分	通年	科目	主科目(研究) / 副科目	単位数	2
授業方法	演習	時間数	30	曜日	火曜日	時限	
開講学科	歯学研究科 歯学専攻						
科目責任者	瀬田 祐司						
担当教員	瀬田 祐司、豊野 孝、中富 満城、片岡 真司						

授業の概要

味覚や歯の発生に関連した研究の論文を読むことによって味覚研究の最新の動向を理解する。

学生の到達目標

1. 味覚・歯に関する研究内容を理解できる。
2. 研究方法およびその原理を理解できる。
3. 研究の進め方を理解し、実践できる。
4. 英語の読解力を深める。

テキスト

テキストおよび参考文献等は各自必要なものを選択する。

出) (著)

参考書

出) (著)

成績評価方法・基準

評価項目	割合
セミナーにおける発表内容および質疑応答内容	100%

その他

学生相談：随時

2017年度

解剖学特論 (Anatomy Advanced course)

開講年次	1～4年	期区分	通年	科目	主科目(研究) / 副科目	単位数	2
授業方法	演習	時間数	30	曜日	火曜日	時限	
開講学科	歯学研究科 歯学専攻						
科目責任者	瀬田 祐司						
担当教員	瀬田 祐司、豊野 孝、中富 満城、片岡 真司						

授業計画

回	学習内容	授業方法	担当教員	事前・事後学習 学習課題
1～15	味覚・歯に関連した最新研究の論文の内容の理解。	文献紹介および討論	瀬田、豊野、中富、片岡	文献および参考文献の学習

2017年度

頭頸部解剖実習 (Head and Neck Dissection Course)

開講年次	1～4年	期区分	通年	科目	主科目(研究)/副科目	単位数	1
授業方法	実習	時間数	30	曜日		時限	
開講学科	歯学研究科 歯学専攻						
科目責任者	片岡 真司						
担当教員	片岡 真司、瀬田 祐司、豊野 孝、中富 満城						

授業の概要

頭頸部領域の構造を表層から最深部に向かって順に解剖する。骨標本による実習や脳実習もおこなう。

学生の到達目標

頭頸部領域の主要な構造が理解できる。

テキスト

出) 著)

参考書

出) 著)

成績評価方法・基準

評価項目	割合
実習における態度および質疑応答	100%

その他

2017年度

頭頸部解剖実習 (Head and Neck Dissection Course)

開講年次	1～4年	期区分	通年	科目	主科目(研究)/副科目	単位数	1
授業方法	実習	時間数	30	曜日		時限	
開講学科	歯学研究科 歯学専攻						
科目責任者	片岡 真司						
担当教員	片岡 真司、瀬田 祐司、豊野 孝、中富 満城						

授業計画

回	学習内容	授業方法	担当教員	事前・事後学習 学習課題
1-2	オリエンテーション	実習	片岡 瀬田 豊野 中富	解剖実習参考書
3-4	頭蓋骨実習	実習	片岡 瀬田 豊野 中富	解剖実習参考書
2-15	頭頸部解剖実習	実習	片岡 瀬田 豊野 中富	解剖実習参考書

2017年度

生理学演習 (ベーシックコース) (Physiology Practice)

開講年次	1～3年	期区分	通年	科目	主科目(研究)	単位数	2
授業方法	講義・演習	時間数	30	曜日		時限	
開講学科	歯学研究科 歯学専攻						
科目責任者	小野 堅太郎						
担当教員	小野 堅太郎、人見 涼露						

授業の概要

「渴きのメカニズム」、「口腔乾燥症の研究」、「唾液分泌のメカニズム」あるいは「痛みの制御機構」について研究を行うための基礎的知識および技能について学ぶ。動物行動解析学、スライス標本作製法、細胞単離法、分子生物学的手法、免疫組織学的手法、細胞内動態解析法、電気生理学的解析法について大学院生のテーマに即した知識および技能を教授する。

学生の到達目標

1. 喉の渇きと動物の行動を解析するための知識および技能を修得し、実践できる。
2. 痛覚と動物の行動を解析するための知識および技能を修得し、実践できる。
3. 脳スライス標本作製できる。
4. パッチクランプ法を用いて神経活動を測定できる。
5. 免疫組織化学法ができる。

テキスト

出) (著)

参考書

生理学で最近報告した文献は必読。および関連した文献、参考書を読む。
出) (著)

成績評価方法・基準

評価項目	割合
出席	30%
演習中の諮問に対する回答や、月1回の研究報告会での報告(月毎の研究内容を資料にまとめ報告)の内容	70%

その他

学生相談：随時

2017年度

生理学演習 (ベーシックコース) (Physiology Practice)

開講年次	1～3年	期区分	通年	科目	主科目(研究)	単位数	2
授業方法	講義・演習	時間数	30	曜日		時限	
開講学科	歯学研究科 歯学専攻						
科目責任者	小野 堅太郎						
担当教員	小野 堅太郎、人見 涼露						

授業計画

回	学習内容	授業方法	担当教員	事前・事後学習 学習課題
1	オリエンテーション	講義	小野	文献、参考書の予習
2～4	動物行動解析学 ラットの取り扱い手技について学ぶ。飲水行動や痛覚に関する行動について、行動解析法を学ぶ。	演習	小野 人見	文献、参考書の予習と演習の復習
5～7	三叉神経節ニューロン単離法と神経活動記録法 口腔顔面痛に関する三叉神経節ニューロンの単離培養法を学ぶ。パッチクランプ法やカルシウムイメージング法による神経活動記録法について学ぶ。	演習	小野 人見	文献、参考書の予習と演習の復習
8～10	口腔内炎症モデル作製法 ラットを用いて、種々の口腔疾患モデルの作製法について学ぶ。	演習	小野 人見	文献、参考書の予習と演習の復習
11～15	疼痛に関与した情報伝達系解析法 各種口腔疾患モデルからの組織サンプルの抽出を行い、免疫染色法、ELISA法などについて学ぶ。	演習	小野 人見	文献、参考書の予習と演習の復習

2017年度

生理学演習 (アドバンスコース) (Physiology Practice)

開講年次	2～3年	期区分	通年	科目	主科目(研究)	単位数	2
授業方法	演習	時間数	30	曜日		時限	
開講学科	歯学研究科 歯学専攻						
科目責任者	小野 堅太郎						
担当教員	小野 堅太郎、人見 涼露						

授業の概要

「渴きのメカニズム」、「口腔乾燥症の研究」、「唾液分泌のメカニズム」あるいは「痛みの制御機構」についての研究を推進する。動物行動解析学、分子生物学的手法、免疫組織学的手法、細胞内動態解析法、電気生理学的解析法について、信頼性の高いデータが得られるように指導する。

学生の到達目標

1. 喉の渇きと動物の行動を解析するための最新の知識および技能のレベルアップを図り、実践できる。
2. 痛覚と動物の行動を解析するための最新の知識および技能のレベルアップを図り、実践できる。
3. 唾液分泌機能について最新の知識および技能のレベルアップを図り、実践できる。
4. バッチクランプ法を用いて神経活動のデータを採得することができる。
5. 免疫組織化学法によりデータを採得することができる。
6. 各実験のデータの信頼性を高めることができる。

テキスト

出) (著)

参考書

生理学で最近報告した文献は必読。および関連した文献、参考書を読む。
出) (著)

成績評価方法・基準

評価項目	割合
演習中の諮問に対する回答や、月1回の研究報告会での報告(月毎の研究内容を資料にまとめ報告)の内容	100%

その他

学生相談：随時

2017年度

生理学演習 (アドバンスコース) (Physiology Practice)

開講年次	2～3年	期区分	通年	科目	主科目(研究)	単位数	2
授業方法	演習	時間数	30	曜日		時限	
開講学科	歯学研究科 歯学専攻						
科目責任者	小野 堅太郎						
担当教員	小野 堅太郎、人見 涼露						

授業計画

回	学習内容	授業方法	担当教員	事前・事後学習 学習課題
1～3	飲水行動実験 喉の渴きを起こす刺激剤の投与方法を学ぶ。誘起される飲水行動を観察する。	演習	小野 人見	文献、参考書の予習と演習の復習
4～7	唾液分泌 唾液分泌を起こす刺激剤の投与による効果を観察する。	演習	小野 人見	文献、参考書の予習と演習の復習
8～10	口内炎と疼痛 口内炎と疼痛の関係について、口内炎モデルラットを用いて、発症機序を学ぶ。	演習	小野 人見	文献、参考書の予習と演習の復習
11～13	疼痛で誘発される行動の解析 疼痛刺激で誘発される動物行動を観察する。	演習	小野 人見	文献、参考書の予習と演習の復習
14,15	疼痛に関与した情報伝達系解析 疼痛の発症機序について学ぶ。	演習	小野 人見	文献、参考書の予習と演習の復習

2017年度

生理学演習 (Physiology Practice)

開講年次	2～3年	期区分	通年	科目	主科目(研究)	単位数	2
授業方法	演習	時間数	30	曜日	火曜日	時限	
開講学科	歯学研究科 歯学専攻						
科目責任者	小野 堅太郎						
担当教員	小野 堅太郎、人見 涼露						

授業の概要

「渴きのメカニズム」、「口腔乾燥症の研究」、「唾液分泌のメカニズム」あるいは「痛みの制御機構」について得られた結果をもとに、研究論文にまとめるプロセスを学習する。必要な場合は追加実験等を行う。

学生の到達目標

1. 喉の渇きと動物の行動を解析し、研究論文にまとめるプロセスを修得し、実践できる。
2. 痛覚と動物の行動を解析し、研究論文にまとめるプロセスを修得し、実践できる。
3. 唾液分泌機能について、研究論文にまとめるプロセスを修得し、実践できる。
4. 独自に研究できる能力を高める。

テキスト

出) (著)

参考書

生理学で最近報告した文献は必読。および関連した文献、参考書を読む。
出) (著)

成績評価方法・基準

評価項目	割合
出席	30%
演習中の諮問に対する回答や、月1回の研究報告会での報告(月毎の研究内容を資料にまとめ報告)の内容	70%

その他

火曜日：9：00～10：00

学生相談：随時

2017年度

生理学演習 (Physiology Practice)

開講年次	2～3年	期区分	通年	科目	主科目(研究)	単位数	2
授業方法	演習	時間数	30	曜日	火曜日	時限	
開講学科	歯学研究科 歯学専攻						
科目責任者	小野 堅太郎						
担当教員	小野 堅太郎、人見 涼露						

授業計画

回	学習内容	授業方法	担当教員	事前・事後学習 学習課題
1,2	動物行動解析まとめ 喉の渴き刺激に対して、動物がとった行動を解析し、そのメカニズムについて学ぶ。	演習	小野 人見	文献、参考書の予習と演習の復習
3,4	唾液分泌を起こす薬物に対する作用のまとめ 唾液分泌を誘発する薬物に対する反応を解析し、その作用機序を学ぶ。	演習	小野 人見	文献、参考書の予習と演習の復習
5～8	疼痛に関与した情報伝達系解析のまとめ 疼痛刺激に対して動物が起こした行動および関与する情報伝導路を組織学的に解析し、疼痛の発症機序を学ぶ。	演習	小野 人見	文献、参考書の予習と演習の復習
9～15	研究報告会	演習	小野 人見	文献、参考書の予習と演習の復習

2017年度

生理学講究 (Physiology Division Colloquium)

開講年次	1～4年	期区分	通年	科目	主科目(研究) / 副科目	単位数	2
授業方法	演習	時間数	30	曜日	月曜日	時限	
開講学科	歯学研究科 歯学専攻						
科目責任者	人見 涼露						
担当教員	小野 堅太郎、人見 涼露						

授業の概要

口腔生理学関連の最新の研究の動向を理解するために、文献を抄読する。

学生の到達目標

1. 英語文献を読み込む能力を高める。
2. 研究の内容を理解できる。
3. 研究を批評する力を高める。
4. 研究の背景や動向を理解できる。

テキスト

出) (著)

参考書

関連分野の文献および参考書は各自必要なものを選別する。

出) (著)

成績評価方法・基準

評価項目	割合
出席	30%
発表の内容および出席状況	70%

その他

月曜日：18:30-19:30

学生相談：随時

2017年度

生理学講究 (Physiology Division Colloquium)

開講年次	1~4年	期区分	通年	科目	主科目(研究)/副科目	単位数	2
授業方法	演習	時間数	30	曜日	月曜日	時限	
開講学科	歯学研究科 歯学専攻						
科目責任者	人見 涼露						
担当教員	小野 堅太郎、人見 涼露						

授業計画

回	学習内容	授業方法	担当教員	事前・事後学習 学習課題
1~15	研究の背景と最新の文献の内容、および関連分野の研究の今後の展望を理解する。	文献紹介および討論	小野 人見	文献抄読および関連分野の調査

2017年度

分子生物学 (初級編) (Molecular and Cell Biology Training Program (Basic Class))

開講年次	1～2年	期区分	通年	科目	主科目 (研究)	単位数	4
授業方法	講義・演習	時間数	60	曜日		時限	
開講学科	歯学研究科 歯学専攻						
科目責任者	自見 英治郎						
担当教員	自見 英治郎、古株 彰一郎、松原 琢磨						

授業の概要

分子生物学(講義・演習)では、生命科学を理解する上で重要な分子生物学的手法の原理を理解した上で実践し、結果を導き出す能力を養う。

学生の到達目標

- ・細胞培養ができる。
- ・マウスを取り扱うことができ、臓器や細胞を調製することができる。
- ・セントラルドグマを説明できる。
- ・RNA、タンパク質の取り扱いができる。
- ・RT-PCRの原理を説明でき、実践できる。
- ・Western Blottingの原理を説明でき、実践できる。

テキスト

出) (著)

参考書

分子情報生化学分野に常備している実験プロトコル集を利用すれば良い。各自の必要性に応じて参考書を購入すれば良い(どのような参考書が良いかわからない時は相談に応じる)。

出) (著)

成績評価方法・基準

評価項目	割合
月1回のデータ検討会での報告の内容	100%

その他

学生相談：随時

2017年度

分子生物学 (初級編) (Molecular and Cell Biology Training Program (Basic Class))

開講年次	1~2年	期区分	通年	科目	主科目(研究)	単位数	4
授業方法	講義・演習	時間数	60	曜日		時限	
開講学科	歯学研究科 歯学専攻						
科目責任者	自見 英治郎						
担当教員	自見 英治郎、古株 彰一郎、松原 琢磨						

授業計画

回	学習内容	授業方法	担当教員	事前・事後学習 学習課題
1,2	オリエンテーション 本講義の概要を説明し、分子生物学の基本事項について学ぶ	講義	自見	文献および参考文献の学習
3,4	細胞培養の基礎について学ぶ#1 細胞の取り扱い方 培地の作り方	講義・演習	自見	細胞培養の復習
5,6	細胞培養の基礎について学ぶ#2 細胞の継代 細胞の保存	講義・演習	自見	細胞培養の復習
7,8	マウスの取り扱い方について学ぶ マウスの取り扱い方の基礎 薬物の投与方法 採血法	講義・演習	自見	マウスの取扱の復習
9,10	マウスからの臓器?細胞の調製法について学ぶ#1 マウスの麻醉法 胸腺細胞、骨髄細胞の調製法	講義・演習	自見	マウスから臓器?細胞の調製法の復習
11,12	マウスからの臓器?細胞の調製法について学ぶ#2 初代骨芽細胞の調製法 破骨細胞の培養法	講義・演習	自見	マウスから細胞の調製法の復習
13,14	RT-PCR法について学ぶ#1 PCR法の原理 細胞(臓器)からのRNAの調製 RNA定量	講義・演習	松原	RT-PCR法の原理の予習
15,16	RT-PCR法について学ぶ#2 cDNAの合成 Primer の設計(コンピューターソフトを利用)	演習	松原	プライマー設計の基本事項の予習
17,18	RT-PCR法について学ぶ#3 PCR アガロースゲル電気泳動	演習	松原	RT-PCR法の原理の復習
19,20	Real-time PCR について学ぶ#1 Real-time PCRの原理 Real-time PCRの実践	講義・演習	古株	Real-time PCR法の原理の予習
21,22	Real-time PCR について学ぶ#2 データ解析法	講義・演習	古株	データ解析の復習
23,24	Western Blotting について学ぶ#1 細胞(臓器)からのタンパク質の調製 タンパク質定量	講義・演習	古株	タンパク質の取扱の予習
25,26	Western Blotting について学ぶ#2 SDS-PAGEの原理と実践 PVDF膜への転写	講義・演習	古株	Western Blottingの原理の予習
27,28	Western Blottingについて学ぶ#3 Blocking 1次抗体との反応 2次抗体との反応	演習	古株	Western Blottingの原理の予習
29,30	Western Blotting について学ぶ#4 Stripping Reblotting	演習	古株	得られた結果のDiscussion

2017年度

分子生物学 (初級編) (Molecular and Cell Biology Training Program (Basic Class))

開講年次	1~2年	期区分	通年	科目	主科目(研究)	単位数	4
授業方法	講義・演習	時間数	60	曜日		時限	
開講学科	歯学研究科 歯学専攻						
科目責任者	自見 英治郎						
担当教員	自見 英治郎、古株 彰一郎、松原 琢磨						

2017年度

分子生物学 (中級編) (Molecular and Cell Biology Training Program (Middle Class))

開講年次	2～3年	期区分	通年	科目	主科目 (研究)	単位数	4
授業方法	講義・演習	時間数	60	曜日		時限	
開講学科	歯学研究科 歯学専攻						
科目責任者	自見 英治郎						
担当教員	自見 英治郎、古株 彰一郎、松原 琢磨						

授業の概要

分子生物学(講義・演習)では、生命科学を理解する上で重要な分子生物学的手法の原理を理解した上で実践し、結果を導き出す能力を養う。さらにベーシックコースで学んだ技術を発展させた手技を習得し、信頼性の高いデータを引き出す能力を養う。

学生の到達目標

- ・ 遺伝子組換えの原理を理解できる。
- ・ 既知の遺伝子をクローニングできる。
- ・ 遺伝子導入の種類と原理を説明でき、実践できる。
- ・ 免疫沈降法の原理を説明でき、実践できる。
- ・ タグの種類を説明でき、検出できる。
- ・ ルシフェラーゼアッセイの原理が説明でき、実践できる。

テキスト

出) 著)

参考書

分子情報生化学分野に常備している実験プロトコル集を利用すれば良い。各自の必要性に応じて参考書を購入すれば良い(どのような参考書が良いかわからない時は相談に応じる)。

出) 著)

成績評価方法・基準

評価項目	割合
月1回のデータ検討会での報告の内容	100%

その他

学生相談：随時

2017年度

分子生物学 (中級編) (Molecular and Cell Biology Training Program (Middle Class))

開講年次	2~3年	期区分	通年	科目	主科目(研究)	単位数	4
授業方法	講義・演習	時間数	60	曜日		時限	
開講学科	歯学研究科 歯学専攻						
科目責任者	自見 英治郎						
担当教員	自見 英治郎、古株 彰一郎、松原 琢磨						

授業計画

回	学習内容	授業方法	担当教員	事前・事後学習 学習課題
1,2	PCRクローニングについて学ぶ#1 PCRを用いた遺伝子のクローニング 制限酵素によるPCR産物とベクターの消化(Sticky end)	講義・演習	自見	遺伝子クローニングの原理の予習
3,4	PCRクローニングについて学ぶ#2 ベクターの脱リン酸化 ライゲーション	講義・演習	自見	ライゲーションの原理の予習
5,6	PCRクローニングについて学ぶ#3 コンピテント細胞の作り方 大腸菌へのトランスフォーメーション	講義・演習	自見	トランスフォーメーションの予習
7,8	PCRクローニングについて学ぶ#4 コロニーのpick up 培養	講義・演習	自見	これまでのステップの復習
9,10	PCRクローニングについて学ぶ#5 少量調製 アガロースゲル電気泳動	講義・演習	自見	少量調製の原理の予習
11,12	PCRクローニングについて学ぶ#6 Midi-Prep. プラスミドの精製	講義・演習	自見	Midi-prepの予習
13,14	遺伝子機能解析法について学ぶ#1 遺伝子導入法の種類と原理 リポフェクション法による遺伝子導入	講義・演習	自見	遺伝子導入法の種類と原理の予習
15,16	遺伝子機能解析法について学ぶ#2 PCR法をベースとした遺伝子の変異導入 スクリーニング	講義・演習	松原	遺伝子導入法の種類と原理の予習
17,18	遺伝子機能解析法について学ぶ#3 ルシフェラーゼ法の原理 ルミノメーターを用いたルシフェラーゼ活性の測定	講義・演習	松原	ルシフェラーゼ法の原理の予習
19,20	遺伝子機能解析法について学ぶ#4 ドミナントネガティブ型、恒常的活性型変異体の作製	演習	松原	ドミナントネガティブ型、恒常的活性型の原理の予習
21,22	免疫沈降法について学ぶ#1 細胞からのタンパク質の調製 タンパク質の定量 抗体?担体の複合体による免疫沈降	講義・演習	古株	タンパク質の取扱の予習
23,24	免疫沈降法について学ぶ#2 SDS-PAGE PVDF膜への転写 Blocking	演習	古株	免疫沈降法の原理の予習
25,26	免疫沈降法について学ぶ#3 1次抗体との反応 2次抗体との反応	演習	古株	免疫沈降法の原理の復習
27,28	タグの付加について学ぶ#1 タグの種類と原理 FLAGタグ、HAタグ、mycタグ、GFP発現ベクターへのクローニング	講義・演習	古株	タグの種類と原理の予習

2017年度

分子生物学 (中級編) (Molecular and Cell Biology Training Program (Middle Class))

開講年次	2～3年	期区分	通年	科目	主科目 (研究)	単位数	4
授業方法	講義・演習	時間数	60	曜日		時限	
開講学科	歯学研究科 歯学専攻						
科目責任者	自見 英治郎						
担当教員	自見 英治郎、古株 彰一郎、松原 琢磨						

回	学習内容	授業方法	担当教員	事前・事後学習 学習課題
29,30	タグの付加について学ぶ#2 FLAGタグ、HAタグ、mycタグ、GFPの検出	演習	古株	タグの種類と 原理の復習

2017年度

分子生物学 (上級編) (Molecular and Cell Biology Training Program (Advanced Class))

開講年次	2～3年	期区分	通年	科目	主科目(研究)	単位数	4
授業方法	講義・演習	時間数	60	曜日		時限	
開講学科	歯学研究科 歯学専攻						
科目責任者	自見 英治郎						
担当教員	自見 英治郎、古株 彰一郎、松原 琢磨						

授業の概要

分子生物学(講義・実習)では、生命科学を理解する上で重要な分子生物学的手法の原理を理解した上で実践し、結果を導き出す能力を養う。さらに我々の研究室の研究テーマである「骨代謝研究」を実践する上で必要な技術を習得し、学会発表および研究論文にまとめるプロセスを習得する。

学生の到達目標

- ・ウィルスベクターの原理を理解し、レトロウィルスベクターによる遺伝子導入ができる。
- ・クロマチン免疫沈降法の原理を説明でき、実践できる。
- ・遺伝子改変マウスの種類と作製法を説明できる。
- ・フローサイトメーターの原理を説明でき、実践できる。

テキスト

分子情報生化学分野に常備している実験プロトコール集を利用すれば良い。各自の必要性に応じて参考書を購入すれば良い(どのような参考書が良いかわからない時は相談に応じる)。

参考書

出) 著)

成績評価方法・基準

評価項目	割合
データ検討会での報告	100%

その他

2017年度

分子生物学 (上級編) (Molecular and Cell Biology Training Program (Advanced Class))

開講年次	2～3年	期区分	通年	科目	主科目(研究)	単位数	4
授業方法	講義・演習	時間数	60	曜日		時限	
開講学科	歯学研究科 歯学専攻						
科目責任者	自見 英治郎						
担当教員	自見 英治郎、古株 彰一郎、松原 琢磨						

授業計画

回	学習内容	授業方法	担当教員	事前・事後学習 学習課題
1,2	ウィルスベクターを用いた遺伝子導入について学ぶ#1 レトロウィルスベクターの原理 レトロウィルスベクターの作成1 ・制限酵素によるPCR産物とベクターの消化 ・ベクターの脱リン酸化 ・Ligation	講義?演習	松原	レトロウィルスベクターの原理の予習
3,4	ウィルスベクターを用いた遺伝子導入について学ぶ#2 レトロウィルスベクターの作成2 ・コンピテント細胞の作り方 ・大腸菌へのトランスフォーメーション	講義?演習	松原	レトロウィルスベクターの作成法の予習
5,6	ウィルスベクターを用いた遺伝子導入について学ぶ#3 レトロウィルスベクターの作成3 ・コロニーのピックアップ ・少量調製	講義	松原	レトロウィルスベクターの作成法の予習 ・復習
7,8	ウィルスベクターを用いた遺伝子導入について学ぶ#4 レトロウィルスベクターの作成4 ・大量調製 ・パッケージング細胞の培養	演習	松原	レトロウィルスベクターの作成法の予習 ・復習
9,10	ウィルスベクターを用いた遺伝子導入について学ぶ#5 レトロウィルスベクターの作成5 ・ウィルス液の回収 ・MOIの測定	演習	松原	レトロウィルスベクターによる遺伝子導入法の予習
11,12	ウィルスベクターを用いた遺伝子導入について学ぶ#5 レトロウィルスベクターの作成6 ・使用細胞へのGFPベクターの感染 ・GFPの発現確認	講義	松原	レトロウィルスベクターによる遺伝子導入法の予習
13,14	クロマチン免疫沈降法について学ぶ#1 クロマチン免疫沈降法の原理について学ぶ	講義	古株	クロマチン免疫沈降法の原理の予習
15,16	クロマチン免疫沈降法について学ぶ#2 細胞の調製とクロスリンキング 免疫沈降	演習	古株	クロマチン免疫沈降法の予習
17,18	クロマチン免疫沈降法について学ぶ#3 PCR	演習	古株	クロマチン免疫沈降法の復習
19,20	遺伝子改変マウスについて学ぶ#1 トランスジェニックマウスおよびノックアウトマウスの原理と作製法	講義	自見	遺伝子改変マウスの種類と作製法の原理の予習
21,22	遺伝子改変マウスについて学ぶ#2 ノックインマウスおよびコンディショナルノックアウトマウスの原理と作製法	講義	自見	ノックインマウスとコンディショナルノックアウトマウス作製法の原理の予習
23,24	遺伝子改変マウスの解析法について学ぶ#1 遺伝子改変マウスの遺伝子型の判定法(PCR法) 病理組織学的解析	講義?演習	自見	マウスジェノタイプング法の予習

2017年度

分子生物学 (上級編) (Molecular and Cell Biology Training Program (Advanced Class))

開講年次	2～3年	期区分	通年	科目	主科目(研究)	単位数	4
授業方法	講義・演習	時間数	60	曜日		時限	
開講学科	歯学研究科 歯学専攻						
科目責任者	自見 英治郎						
担当教員	自見 英治郎、古株 彰一郎、松原 琢磨						

回	学習内容	授業方法	担当教員	事前・事後学習 学習課題
25,26	遺伝子改変マウスの解析法について学ぶ#2 骨髄細胞を用いた破骨細胞分化誘導 初代骨芽細胞を用いた骨芽細胞分化誘導	演習	自見	初代破骨細胞 および骨芽細胞の調製法と 分化誘導法の 予習
27,28	遺伝子改変マウスの解析法について学ぶ#3 フローサイトメーターを用いたリンパ球表面抗原の解析	演習	自見	フローサイト メーターの原 理の予習
29,30	遺伝子改変マウスの解析法について学ぶ#4 高脂肪食投与によるエネルギー代謝	演習	自見	肥満のメカニ ズムの予習

2017年度

骨分子生物学クラブ（抄読会） (Bone Journal Club)

開講年次	1～3年	期区分	通年	科目	主科目（研究）／副科目	単位数	2
授業方法	演習	時間数	30	曜日	月曜日	時限	
開講学科	歯学研究科 歯学専攻						
科目責任者	自見 英治郎						
担当教員	自見 英治郎、古株 彰一郎、松原 琢磨						

授業の概要

骨代謝研究および分子生物学領域で重要な最新の研究の動向を理解するために、文献を読む。

学生の到達目標

- ・英語文献を読んで内容を理解できる。
- ・論文中で行われている実験手技を理解できる。
- ・研究を客観的に批評することができる。
- ・研究の背景を理解できる。
- ・論文の内容を他の人に判りやすく説明することができる。

テキスト

出) (著)

参考書

紹介する論文、関連文献および参考書は各自必要なものを選別する。
出) (著)

成績評価方法・基準

評価項目	割合
論文の選択基準	50%
プレゼンテーション能力	50%

その他

月曜日：8；40～

学生相談：随時

2017年度

骨分子生物学クラブ（抄読会） (Bone Journal Club)

開講年次	1～3年	期区分	通年	科目	主科目（研究）/副科目	単位数	2
授業方法	演習	時間数	30	曜日	月曜日	時限	
開講学科	歯学研究科 歯学専攻						
科目責任者	自見 英治郎						
担当教員	自見 英治郎、古株 彰一郎、松原 琢磨						

授業計画

回	学習内容	授業方法	担当教員	事前・事後学習 学習課題
1～15	骨代謝研究および分子生物学領域で重要な最新の研究の内容および動向を理解し、説明する。	論文紹介および討論	自見 古株 松原	論文の詳読および実験手技、背景の理解の予習・復習

2017年度

口腔病態病理学 (Oral Pathology)

開講年次	1～2年	期区分	通年	科目	主科目(研究)	単位数	4
授業方法	講義	時間数	60	曜日		時限	
開講学科	歯学研究科 歯学専攻						
科目責任者	張 皿						
担当教員	張 皿、矢田 直美、松尾 拓						

授業の概要

口腔顎顔面領域の病変に関する最新の専門的知見について解説し、その発生のメカニズムの解明や新しい診断・治療法開発につながる基礎的研究に着手するきっかけ、礎とする。

学生の到達目標

1. 齲蝕、象牙質・歯髓複合体の病変について最新の専門的知見を得、知識を高める。
2. 根尖性歯周組織の病変に関する最新の専門的知見を得、知識を高める。
3. 辺縁部歯周組織の病変に関する最新の専門的知見を得、知識を高める。
4. 顎・顎関節疾患に関する最新の専門的知見を得、知識を高める。
5. 口腔粘膜疾患に関する最新の専門的知見を得、知識を高める。
6. 口腔癌・前癌病変に関する最新の専門的知見を得、知識を高める。
7. 歯原性腫瘍、嚢胞性疾患に関する最新の専門的知見を得、知識を高める。
8. 非歯原性腫瘍に関する最新の専門的知見を得、知識を高める。
9. 唾液腺の非腫瘍性疾患に関する最新の専門的知見を得、知識を高める。
10. 唾液腺腫瘍に関する最新の専門的知見を得、知識を高める。

テキスト

配布プリント
出)

著)

参考書

各講義で紹介された文献、参考資料など。
出) 著)

成績評価方法・基準

評価項目	割合
レポート	100%

各講義終了後に課されるレポートの内容に基づいて点数をつける(20回×5点)。

その他

学生相談：随時

2017年度

口腔病態病理学 (Oral Pathology)

開講年次	1~2年	期区分	通年	科目	主科目(研究)	単位数	4
授業方法	講義	時間数	60	曜日		時限	
開講学科	歯学研究科 歯学専攻						
科目責任者	張 皿						
担当教員	張 皿、矢田 直美、松尾 拓						

授業計画

回	学習内容	授業方法	担当教員	事前・事後学習 学習課題
1~3	齶蝕、象牙質・歯髄複合体の病変について取り上げられた最近のトピックスから最新の専門的知見を得る。	講義	張	レポート
4~6	根尖性歯周組織の病変について取り上げられた最近のトピックスから最新の専門的知見を得る。	講義	張	レポート
7~9	辺縁部歯周組織の病変について取り上げられた最近のトピックスから最新の専門的知見を得る。	講義	張	レポート
10~12	顎・顎関節疾患について取り上げられた最近のトピックスから最新の専門的知見を得る。	講義	張	レポート
13~15	口腔粘膜疾患について取り上げられた最近のトピックスから最新の専門的知見を得る。	講義	張	レポート
16~18	口腔癌・前癌病変について取り上げられた最近のトピックスから最新の専門的知見を得る。	講義	矢田	レポート
19~21	歯源性腫瘍、嚢胞性疾患について取り上げられた最近のトピックスから最新の専門的知見を得る。	講義	矢田	レポート
22~24	非歯源性腫瘍について取り上げられた最近のトピックスから最新の専門的知見を得る。	講義	矢田	レポート
25~27	唾液腺の非腫瘍性疾患について取り上げられた最近のトピックスから最新の専門的知見を得る。	講義	矢田	レポート
28~30	唾液腺腫瘍について取り上げられた最近のトピックスから最新の専門的知見を得る。	講義	矢田	レポート

2017年度

口腔病態病理学演習 (ベーシックコース) (Practice of Oral Pathology (basic course))

開講年次	1～2年	期区分	通年	科目	主科目(研究)	単位数	2
授業方法	演習	時間数	30	曜日		時限	
開講学科	歯学研究科 歯学専攻						
科目責任者	張 皿						
担当教員	張 皿、松尾 拓						

授業の概要

口腔病態病理学分野で推進している研究や関連する研究を行うための基礎的知識および技能について学ぶ。病理組織標本作成法、組織化学的手法、免疫組織学的手法、超微形態学的手法について知識および技能を教授する。また大学院生のテーマに応じて、必要な生化学的、分子生物学的、微生物学的手法、免疫学的手法などについても知識および技能を教授する。

学生の到達目標

1. 病理組織標本作成法の技能を修得し実践できる。
2. 特殊染色標本作製できる。
3. 免疫染色標本作製できる。
4. 電顕資料を作成できる。
5. (研究テーマに応じて)細胞培養ができる。
6. (研究テーマに応じて)DNA, RNA抽出ができる。
7. (研究テーマに応じて)蛋白抽出ができる。
8. (研究テーマに応じて)RT-PCR、アガロースゲル電気泳動ができる。
9. (研究テーマに応じて)蛋白電気泳動法、ウエスタンブロッティング法ができる。
10. (研究テーマに応じて)クローニング、遺伝子組み換えの知識および技法を修得し、対応できる。

テキスト

配布プリント
出) (著)

参考書

口腔病態病理学分野ですすめている研究に関する文献や参考書。
出) (著)

成績評価方法・基準

評価項目	割合
レポート	100%

各演習後に課すレポートの内容に基づいて点数をつける(10回×10点)。

その他

学生相談：随時

2017年度

口腔病態病理学演習 (ベーシックコース) (Practice of Oral Pathology (basic course))

開講年次	1~2年	期区分	通年	科目	主科目(研究)	単位数	2
授業方法	演習	時間数	30	曜日		時限	
開講学科	歯学研究科 歯学専攻						
科目責任者	張 皿						
担当教員	張 皿、松尾 拓						

授業計画

回	学習内容	授業方法	担当教員	事前・事後学習 学習課題
1,2	病理組織標本作成法について概要・手順を学び演習を行う。	演習	張	レポート
3,4	特殊染色標本作成法について概要・手順を学び演習を行う。	演習	張	レポート
5,6	免疫染色標本作成法について概要・手順を学び演習を行う。	演習	張	レポート
7,8	電顕資料作成法について概要・手順を学び演習を行う。	演習	張	レポート
9,10	細胞培養法について概要・手順を学び演習を行う。	演習	張	レポート
11	DNA, RNA抽出法について概要・手順を学び演習を行う。	演習	張	レポート
12	蛋白抽出法について概要・手順を学び演習を行う。	演習	張	レポート
13	RT-PCR法、アガロースゲル電気泳動法について概要・手順を学び演習を行う。	演習	張	レポート
14	蛋白電気泳動法、ウエスタンブロッティング法について概要・手順を学び演習を行う。	演習	張	レポート
15	クローニング、遺伝子組み換え法について概要・手順を学び演習を行う。	演習	張	レポート

2017年度

口腔病態病理学演習 (アドバンスコース) (Practice of Oral Pathology (advanced course))

開講年次	2～3年	期区分	通年	科目	主科目(研究)	単位数	2
授業方法	演習	時間数	30	曜日		時限	
開講学科	歯学研究科 歯学専攻						
科目責任者	松尾 拓						
担当教員	松尾 拓						

授業の概要

口腔病態病理学分野で取組んでいる研究、特に個々の大学院生に与えられたテーマに対する研究を推進する。病理組織標本作成法、組織化学的手法、免疫組織学的手法、超微形態学的手法、生化学的、分子生物学的、微生物学的手法、免疫学的手法について、信頼性の高いデータが得られるように指導する。

学生の到達目標

1. 病理組織標本作成法の技能のレベルアップを図り、病理組織標本の作成ができる。
2. 特殊染色標本によりデータを採得し、研究論文にまとめることができる。
3. 免疫染色標本によりデータを採得し、研究論文にまとめることができる。
4. 電顕資料によりデータを採得し、研究論文にまとめることができる。
5. 細胞培養によりデータを採得し、研究論文にまとめることができる。
6. DNA, RNA抽出によりデータを採得し、研究論文にまとめることができる。
7. 蛋白抽出によりデータを採得し、研究論文にまとめることができる。
8. 各実験データの信頼性を高めることができる。
9. 独自に研究計画を立て、推進する能力を養い実践できる。

テキスト

配布プリント
出)

著)

参考書

口腔病態病理学分野ですすめている研究に関する文献や参考書。
出) 著)

成績評価方法・基準

評価項目	割合
レポート	100%

演習後に課したレポートの内容に基づいて点数をつける(10回×10点)。

その他

学生相談：随時

2017年度

口腔病態病理学演習 (アドバンスコース) (Practice of Oral Pathology (advanced course))

開講年次	2～3年	期区分	通年	科目	主科目(研究)	単位数	2
授業方法	演習	時間数	30	曜日		時限	
開講学科	歯学研究科 歯学専攻						
科目責任者	松尾 拓						
担当教員	松尾 拓						

授業計画

回	学習内容	授業方法	担当教員	事前・事後学習 学習課題
1,2	光顕標本より得られたデータの解析、検討、まとめを行う。	演習	松尾	レポート
3,4	電顕資料より得られたデータの解析、検討、まとめを行う。	演習	松尾	レポート
5,6	細胞培養より得られたデータの解析、検討、まとめを行う。	演習	松尾	レポート
7,8	生化学的、分子生物学的手法により得られたデータの解析、検討、まとめを行う。	演習	松尾	レポート
9～11	各自で進めている研究の発表会を行う。	演習	松尾	レポート
12～15	論文作成法について学び、各自の研究に関する論文の骨子を組み立てる。	演習	松尾	レポート

2017年度

口腔病態病理学講究 (Colloquium of Oral Pathology)

開講年次	1～4年	期区分	通年	科目	主科目(研究) / 副科目	単位数	2
授業方法	演習	時間数	30	曜日		時限	
開講学科	歯学研究科 歯学専攻						
科目責任者	松尾 拡						
担当教員	松尾 拡						

授業の概要

病理学、口腔病理学関連の最新の研究の動向を理解するために文献を精読する。
また各自の研究内容の報告会、ディスカッションを行う。

学生の到達目標

1. 英語論文を正確に理解できる能力を高める。
2. 研究の内容を理解できる。
3. 研究を論評する力を高める。
4. 研究の背景や動向を理解できる。
5. 研究発表、プレゼンテーションの能力を高める。

テキスト

配布プリント
出)

著)

参考書

関連分野の文献および参考書は各自必要なものを選別する。
出) 著)

成績評価方法・基準

評価項目	割合
レポート	100%

演習後に課したレポートの内容に基づいて点数をつける(10回×10点)。

その他

学生相談：随時

2017年度

口腔病態病理学講究 (Colloquium of Oral Pathology)

開講年次	1～4年	期区分	通年	科目	主科目(研究) / 副科目	単位数	2
授業方法	演習	時間数	30	曜日		時限	
開講学科	歯学研究科 歯学専攻						
科目責任者	松尾 拡						
担当教員	松尾 拡						

授業計画

回	学習内容	授業方法	担当教員	事前・事後学習 学習課題
1	オリエンテーション、口腔病態病理学分野における研究の概要説明および討論。	演習	松尾	レポート
2,3	前癌病変および上皮内癌に関する最近の研究動向を学び、討論する。	演習	松尾	レポート
4	受講生の研究内容について発表し、また関連文献を紹介し、討論する(1)。	演習	松尾	レポート
5,6	腫瘍マーカーに関する最近の研究動向を学び、討論する。	演習	松尾	レポート
7	受講生の研究内容について発表し、また関連文献を紹介し、討論する(2)。	演習	松尾	レポート
8,9	創傷治癒に関する最近の研究動向を学び、討論する。	演習	松尾	レポート
10	受講生の研究内容について発表し、また関連文献を紹介し、討論する(3)。	演習	松尾	レポート
11,12	創傷治癒に関する最近の研究動向を学び、討論する。	演習	松尾	レポート
13	受講生の研究内容について発表し、また関連文献を紹介し、討論する(4)。	演習	松尾	レポート
14,15	各自の研究内容について討論したことを総括し、今後どのように研究を展開していけばよいか、などについて討論する。	演習	松尾	レポート

2017年度

臨床病理診断学 (Clinical Diagnostic Pathology)

開講年次	1～3年	期区分	通年	科目	主科目(研究)	単位数	4
授業方法	講義	時間数	60	曜日		時限	
開講学科	歯学研究科 歯学専攻						
科目責任者	松尾 拓						
担当教員	松尾 拓、矢田 直美						

授業の概要

基礎研究以外に口腔病態病理学分野における重要なルーチンワークとして病理診断がある。本講義では、臨床病理診断業務の実際や、死体解剖資格および口腔病理専門医資格を取得できるような基礎的知識を教授する。また病理診断に焦点を絞った口腔顎顔面領域における病変の最新知見の解説も行う。

学生の到達目標

1. 病理解剖(剖検)について理解し実践できる。
2. 生検について理解し実践できる。
3. 手術材料の取り扱いについて理解し実践できる。
4. 細胞診について理解し実践できる。
5. 術中迅速診断について理解し実践できる。
6. 組織標本作成法について理解し実践できる。
7. 病理診断に利用する特殊染色や免疫染色について理解し実践できる。
8. 口腔顎顔面領域の病理診断に関する最新の専門的知見を得、知識を高める。
9. 悪性腫瘍と良性腫瘍、非腫瘍性疾患の鑑別点について理解し実践できる。

テキスト

配布プリント
出)

著)

参考書

Pathologic basis of disease, Robbins & Cotran, 8th edition
出)Elsevier 著)

病理学 第6版
出)医学書院 著)

標準病理学 第5版
出)医学書院 著)

イラスト病理学
出)文光堂 著)

口腔病理アトラス 第2版
出)文光堂 著)

WHO Classification of Tumours, Pathology and Genetics of Tumours of the Head and Neck
出)IARC 出版 著)

各講義で紹介された文献、参考資料
出) 著)

成績評価方法・基準

評価項目	割合
レポート	100%

各講義終了後に課されるレポートの内容に基づいて点数をつける(20回×5点)
)

その他

学生相談: 随時

2017年度

臨床病理診断学 (Clinical Diagnostic Pathology)

開講年次	1～3年	期区分	通年	科目	主科目(研究)	単位数	4
授業方法	講義	時間数	60	曜日		時限	
開講学科	歯学研究科 歯学専攻						
科目責任者	松尾 拓						
担当教員	松尾 拓、矢田 直美						

授業計画

回	学習内容	授業方法	担当教員	事前・事後学習 学習課題
1,2	人体病理学概論：人体病理学の学問的枠組みについて学ぶ。	講義	松尾	レポート
3～5	病理解剖（剖検）の概要について学ぶ。	講義	松尾	レポート
6～8	生検の概要について学ぶ。	講義	松尾	レポート
9～11	手術材料の取り扱いについて概要を学ぶ。	講義	松尾	レポート
12～14	細胞診について概要を学ぶ。	講義	矢田	レポート
15～17	術中迅速診断について概要を学ぶ。	講義	矢田	レポート
18～20	組織標本作成法について概要を学ぶ。	講義	矢田	レポート
21～23	病理診断に利用する特殊染色、免疫染色について概要を学ぶ。	講義	矢田	レポート
24～26	口腔顎顔面領域の病理診断について概要およびその特殊性を学び、かつ最新の専門的知見を得る。	講義	松尾 矢田	レポート
27～30	悪性腫瘍と良性腫瘍、非腫瘍性疾患の鑑別について学ぶ。	講義	松尾 矢田	レポート

2017年度

臨床病理診断学演習 (Practice of Clinical Diagnostic Pathology)

開講年次	1～3年	期区分	通年	科目	主科目(研究)	単位数	2
授業方法	演習	時間数	30	曜日		時限	
開講学科	歯学研究科 歯学専攻						
科目責任者	矢田 直美						
担当教員	矢田 直美						

授業の概要

臨床病理診断業務に関わる手技を修得する。また、病理診断、報告書の作成、症例検討会を行い、病理診断能力を養う。

学生の到達目標

1. 生検材料の取り扱い方を修得できる。
2. 手術材料の取り扱い方を修得できる。
3. 細胞診材料の取り扱い方を修得できる。
4. 術中迅速診断材料の取り扱い方を修得できる。
5. 病理解剖(剖検)を経験し、知識を高める。
6. 主要な口腔顎顔面領域疾患の病理診断ができる。
7. 主要な全身疾患の病理診断ができる。
8. 病理診断報告書が作成できる。
9. 症例を論文(症例報告)にまとめることができる。

テキスト

配布プリント
出)

著)

参考書

Pathologic basis of disease, Robbins & Cotran, 8th edition
出)Elsevier 著)

標準病理学 第5版
出)医学書院 著)坂本穆彦

イラスト病理学
出)文光堂 著)

口腔病理アトラス 第2版
出)文光堂 著)

WHO Classification of Tumours, Pathology and Genetics of Tumours of the Head and Neck
出)IARC 出版 著)

各講義で紹介された文献、参考資料
出) 著)

成績評価方法・基準

評価項目	割合
レポート	100%

演習後に課したレポートの内容に基づいて点数をつける(10回×10点)。

その他

学生相談：随時

2017年度

臨床病理診断学演習 (Practice of Clinical Diagnostic Pathology)

開講年次	1～3年	期区分	通年	科目	主科目(研究)	単位数	2
授業方法	演習	時間数	30	曜日		時限	
開講学科	歯学研究科 歯学専攻						
科目責任者	矢田 直美						
担当教員	矢田 直美						

授業計画

回	学習内容	授業方法	担当教員	事前・事後学習 学習課題
1	オリエンテーション(演習の概要および注意点などについて説明する)	演習	矢田	レポート
2,3	生検、手術材料の取り扱いの手順を学び、演習を行う。	演習	矢田	レポート
4,5	細胞診材料の取り扱いの手順を学び、演習を行う。	演習	矢田	レポート
6	術中迅速診断材料の取り扱いの手順を学び、演習を行う。	演習	矢田	レポート
7	病理解剖(剖検)の手順を学び、演習を行う。	演習	矢田	レポート
8,9	主要な口腔顎顔面領域疾患の病理診断の概要を学び、演習を行う。	演習	矢田	レポート
10,11	主要な全身疾患の病理診断の概要を学び、演習を行う。	演習	矢田	レポート
12,13	病理診断報告書の作成法を学び、演習を行う。	演習	矢田	レポート
14,15	症例報告および論文作成法を学び、演習を行う。	演習	矢田	レポート

2017年度

感染症学 (Infectious Diseases)

開講年次	1～2年	期区分	通年	科目	主科目(研究)	単位数	2
授業方法	講義・演習	時間数	30	曜日		時限	
開講学科	歯学研究科 歯学専攻						
科目責任者	西原 達次						
担当教員	西原 達次、有吉 渉、沖永 敏則						

授業の概要

感染症における病原因子の解析、感染に伴う炎症発症時に生ずる「アポトーシス」や「細胞周期」などの生命科学を学ぶ。さらに「歯周病原性細菌の病原性発現メカニズム」と「病的骨代謝」など個別のテーマについてグループ学習を行う。

学生の到達目標

感染に関わる因子を詳細に説明できる。
病原体側の因子を詳細に説明できる。
口腔内の病原菌排除機序を詳細に説明できる。
感染防御免疫を詳細に説明できる。
サイトカインを詳細に説明できる。
炎症性メディエーターを詳細に説明できる。
細胞内情報伝達系を詳細に説明できる。
転写調節機構を詳細に説明できる。
アポトーシスを詳細に説明できる。
細胞周期を詳細に説明できる。

テキスト

感染分子生物学分野で最近報告した文献は必読。および関連した文献、参考書を読む。

出) 著)

参考書

出) 著)

成績評価方法・基準

評価項目	割合
レポート	90%
出席	10%

・講義後に提出するレポート(3回)の評価を数値化して、グループ毎に評価する。そこでの配点は、各1回0～30点とし、計90点満点とする。

・出席状況に基づいて点数をつける。全出席は10点、それ以外は0点とする。

その他

学生相談：随時

2017年度

感染症学 (Infectious Diseases)

開講年次	1~2年	期区分	通年	科目	主科目(研究)	単位数	2
授業方法	講義・演習	時間数	30	曜日		時限	
開講学科	歯学研究科 歯学専攻						
科目責任者	西原 達次						
担当教員	西原 達次、有吉 渉、沖永 敏則						

授業計画

回	学習内容	授業方法	担当教員	事前・事後学習 学習課題
1	感染症概論 感染症学を学ぶにあたって必要な分子生物学および細菌学の概要を学ぶ。	グループ学習	西原 有吉 沖永	「口腔微生物学・免疫学」の相当部分を事前に学習しておくこと
2	病原体側の因子 病原体のもつ定着因子や内毒素について遺伝子工学的および分子生物学的視点から学ぶ。	グループ学習	西原 有吉 沖永	「口腔微生物学・免疫学」の相当部分を事前に学習しておくこと
3	病原体側の因子 細菌毒素の種類、作用などを学び、論文等で紹介されている研究のトレンドを学ぶ。	グループ学習	西原 有吉 沖永	「口腔微生物学・免疫学」の相当部分を事前に学習しておくこと
4	口腔における外来微生物排除機序 唾液および液性の抗菌物質を踏まえ、粘膜における感染防御機構について学ぶ。	グループ学習	西原 有吉 沖永	「口腔微生物学・免疫学」の相当部分を事前に学習しておくこと
5	口腔における外来微生物排除機序 細胞による感染防御および、宿主病原体相互作用について総合的に学ぶ。	グループ学習	西原 有吉 沖永	「口腔微生物学・免疫学」の相当部分を事前に学習しておくこと
6	生体の防御機序 生体防御機構のキーファクターであるサイトカインの種類や作用について学ぶ。	グループ学習	西原 有吉 沖永	「口腔微生物学・免疫学」の相当部分を事前に学習しておくこと
7	生体の防御機序 自然免疫と獲得免疫のつながりについて、より専門的なメカニズムを学ぶ。	グループ学習	西原 有吉 沖永	「口腔微生物学・免疫学」の相当部分を事前に学習しておくこと
8	感染防御における分子生物学 炎症応答にて誘導されるタンパク複合体インフラマソームについて最新の研究を踏まえて学ぶ。	グループ学習	西原 有吉 沖永	「口腔微生物学・免疫学」の相当部分を事前に学習しておくこと
9	感染防御における分子生物学 病原体の病原因子に誘導される細胞内情報伝達系について、最新の研究を踏まえて学ぶ。	グループ学習	西原 有吉 沖永	「口腔微生物学・免疫学」の相当部分を事前に学習しておくこと
10	感染防御における分子生物学 感染防御に誘導される様々なシグナルの転写因子について遺伝工学的視点から学ぶ。	グループ学習	西原 有吉 沖永	「口腔微生物学・免疫学」の相当部分を事前に学習しておくこと
11	感染の病理組織学 炎症病巣の組織像と共に、宿主の炎症応答について細胞レベルで学ぶ。	グループ学習	西原 有吉 沖永	「口腔微生物学・免疫学」の相当部分を事前に学習しておくこと
12	アポトーシスとその制御 病原体の宿主侵入に誘導される細胞死、とくにアポトーシスについて最新の研究を踏まえながら、分子生物学的視点から学ぶ。	グループ学習	西原 有吉 沖永	「口腔微生物学・免疫学」の相当部分を事前に学習しておくこと

2017年度

感染症学 (Infectious Diseases)

開講年次	1~2年	期区分	通年	科目	主科目(研究)	単位数	2
授業方法	講義・演習	時間数	30	曜日		時限	
開講学科	歯学研究科 歯学専攻						
科目責任者	西原 達次						
担当教員	西原 達次、有吉 渉、沖永 敏則						

回	学習内容	授業方法	担当教員	事前・事後学習 学習課題
13	細胞周期とその制御 病原因子による宿主細胞の細胞周期への影響について、動態およびシグナル伝達経路を詳細に学ぶ。	グループ学習	西原 有吉 沖永	「口腔微生物学・免疫学」の相当部分を事前に学習しておくこと
14	各論 歯周病原性細菌の病原機序 歯周病原性細菌の病原因子が誘導する宿主細胞への影響について、最新の研究を踏まえて学ぶ。	講義	西原	「口腔微生物学・免疫学」の相当部分を事前に学習しておくこと
15	各論 病的骨代謝 恒常的な骨代謝のみならず病的な骨代謝について、原因やメカニズムを分子生物学的に学ぶ。	講義	西原	「口腔微生物学・免疫学」の相当部分を事前に学習しておくこと

2017年度

感染症学 (Infectious Diseases)

開講年次	1～4年	期区分	通年	科目	主科目(研究) / 副科目	単位数	2
授業方法	演習	時間数	30	曜日		時限	
開講学科	歯学研究科 歯学専攻						
科目責任者	沖永 敏則						
担当教員	沖永 敏則、有吉 渉、西原 達次						

授業の概要

感染と免疫領域における最新の学術雑誌に掲載されている重要な英語論文を精読する。担当学生は参加者全員に対して解説する。論文の目的、実験手技、結果の導き方、考察などについて解説した後に、質疑応答を通して、最新の知識を共有することを目指し、最新の知識を修得する。

学生の到達目標

- 英語文献を読み込む能力を養うことができる。
- 研究を批判する力を養うことができる。
- 自分の研究への応用が可能かどうかを考える力を養うことができる。

テキスト

Nature、Cell、Scienceなど、ライフサイエンス研究に直結する英語論文
出) (著)

発表者は、発表までに資料を作成し、教材として参加者全員に配布する
出) (著)

参考書

出) (著)

成績評価方法・基準

評価項目	割合
出席	20%
発表	80%

- ・出席率に応じて0～20点とする。
- ・発表をそれぞれの教員が評価し、その平均点を算出する。英語論文読解度(0～20点)、論文データ理解度(0～20点)、プレゼンテーション能力(0～20点)、質疑応答能力(0～20点)の計80点の配点とする。

その他

学生相談：随時

2017年度

感染症学 (Infectious Diseases)

開講年次	1～4年	期区分	通年	科目	主科目(研究) / 副科目	単位数	2
授業方法	演習	時間数	30	曜日		時限	
開講学科	歯学研究科 歯学専攻						
科目責任者	沖永 敏則						
担当教員	沖永 敏則、有吉 渉、西原 達次						

授業計画

回	学習内容	授業方法	担当教員	事前・事後学習 学習課題
1～15	毎回発表される抄読論文の研究の背景と結果、考察を理解する。担当論文に関しては、抄録内容の精読に加え、自分と関連した研究分野を理解する。さらに、グループ内での発表と意見交換を通じて、得られた知識を自己確認できる能力を培う。	文献紹介および討論	西原 有吉 沖永	グループメンバーに理解してもらえるまでの文献の精読。討論を通じて、論文から得られた知識を確固としたものにするために、事後学習のテーマを与える。

2017年度

感染症学 (Infectious Diseases)

開講年次	1～4年	期区分	通年	科目	主科目（研究）/副科目	単位数	2
授業方法	演習	時間数	30	曜日		時限	
開講学科	歯学研究科 歯学専攻						
科目責任者	有吉 渉						
担当教員	有吉 渉、沖永 敏則、西原 達次						

授業の概要

感染分子生物学分野で実験を行なっている大学院生の研究成果の討論会を通して、研究の論理展開を理解するとともに、大学院生間の研究に関する情報交換の場として活用する。そこでは担当教官がチューターとなり、PBL形式で授業を展開し、各自の研究テーマに即した教育をグループ分けして行う。

学生の到達目標

- 論理的に説明できる能力を養うことができる。
- 実験手技について原理と結果の解釈を理解でき、説明できる能力を養うことができる。
- 他人の報告を聞き、自分の研究への応用が可能かどうかを考える力を養うことができる。

テキスト

実験ノート、および研究に関連する参考文献を資料として用いる。
出) (著)

参考書

出) (著)

成績評価方法・基準

評価項目	割合
出席	10%
データ内容、参加態度、プレゼンテーション能力	60%
研究発表	30%

- ・出席率に応じて0～10点とする。
- ・データ内容、参加態度、プレゼンテーション能力をそれぞれ評価する。各4点×15回
- ・さらに、1年に2回、研究発表会を行い、プレゼンテーションを評価する。各15点×2回（発表内容5点、プレゼン能力5点、質疑応答5点の計15点）

その他

学生相談：随時

2017年度

感染症学 (Infectious Diseases)

開講年次	1~4年	期区分	通年	科目	主科目(研究)/副科目	単位数	2
授業方法	演習	時間数	30	曜日		時限	
開講学科	歯学研究科 歯学専攻						
科目責任者	有吉 渉						
担当教員	有吉 渉、沖永 敏則、西原 達次						

授業計画

回	学習内容	授業方法	担当教員	事前・事後学習 学習課題
1~15	大学院生は全員、一週間の実験データを発表し、プレゼンテーション能力を養う。また、発表者は担当教官や他の大学院生からの質問に的確に回答していくなかで科学的な質疑応答能力を養う。	研究報告および討論	西原 有吉 沖永	文献抄読および関連分野の調査

2017年度

薬理学 (Pharmacology)

開講年次	1～4年	期区分	通年	科目	主科目(研究)/副科目	単位数	2
授業方法	講義・演習	時間数	30	曜日		時限	
開講学科	歯学研究科 歯学専攻						
科目責任者	大住 伴子						
担当教員	竹内 弘、大住 伴子、東 泉						

授業の概要

全身疾患を有する患者が使用する各種薬物について詳細に学ぶ。
特に高齢者が使用することの多い血液系作用薬(抗凝固薬, 抗血栓薬), 中枢神経系作用薬(パーキンソン病治療薬など)を中心に学ぶ。

学生の到達目標

1. 全身疾患を有する患者に対して最適な薬物投与ができる。
2. 全身疾患を有する患者に対して安全な歯科治療ができる。
3. 全身疾患を有する患者の使用する各種薬物について詳細に説明できる。

テキスト

出) (著)

参考書

グッドマン・ギルマン 薬理学 第12版
出) 廣川書店 (著) 高折、橋本ら監訳

各種文献
出) (著)

成績評価方法・基準

評価項目	割合
演習の発表内容	40%
講義・演習中の質疑応答の内容	10%
出席	50%

出席状況(50点、1回欠席につき5点減点)

その他

学生相談: 随時

2017年度

薬理学 (Pharmacology)

開講年次	1～4年	期区分	通年	科目	主科目(研究)/副科目	単位数	2
授業方法	講義・演習	時間数	30	曜日		時限	
開講学科	歯学研究科 歯学専攻						
科目責任者	大住 伴子						
担当教員	竹内 弘、大住 伴子、東 泉						

授業計画

回	学習内容	授業方法	担当教員	事前・事後学習 学習課題
1	オリエンテーション 血液系作用薬・中枢神経系作用薬の概論を学ぶ。	講義	大住、東、 竹内	-
2	血液系作用薬1 血液凝固系、線溶系について学ぶ。 抗凝固薬(ヘパリン)の作用機序、副作用、有害作用について学ぶ。	講義・演習	大住、東、 竹内	事前学習：配付 資料の精読
3	血液系作用薬2 抗凝固薬(ワルファリン)の作用機序、副作用、有害作用について学ぶ。	講義・演習	大住、東、 竹内	事前学習：配付 資料の精読
4	血液系作用薬3 新規経口抗凝固薬(NOAC)の作用機序、副作用、有害作用について学ぶ。	講義・演習	大住、東、 竹内	事前学習：配付 資料の精読
5	血液系作用薬4 抗血栓薬(アスピリン)の作用機序、副作用、有害作用について学ぶ。	講義・演習	大住、東、 竹内	事前学習：配付 資料の精読
6	血液系作用薬5 新規抗血栓薬の作用機序、副作用、有害作用について学ぶ。	講義・演習	大住、東、 竹内	事前学習：配付 資料の精読
7	血液系作用薬6 抗凝固薬・抗血栓薬使用時の歯科治療の問題点について学ぶ その。	講義・演習	大住、東、 竹内	事前学習：配付 資料の精読
8	血液系作用薬7 抗凝固薬・抗血栓薬使用時の歯科治療の問題点について学ぶ その。	講義・演習	大住、東、 竹内	事前学習：配付 資料の精読
9	中枢神経系作用薬1 神経・精神疾患について学ぶ。	講義・演習	大住、東、 竹内	事前学習：配付 資料の精読
10	中枢神経系作用薬2 パーキンソン病について臨床応用される治療薬を中心に学ぶ。	講義・演習	大住、東、 竹内	事前学習：配付 資料の精読
11	中枢神経系作用薬3 うつ病について臨床応用される治療薬について学ぶ。	講義・演習	大住、東、 竹内	事前学習：配付 資料の精読
12	中枢神経系作用薬4 認知症について臨床応用される治療薬について学ぶ。	講義・演習	大住、東、 竹内	事前学習：配付 資料の精読
13	中枢神経系作用薬5 てんかんについて臨床応用される治療薬を中心に学ぶ。	講義・演習	大住、東、 竹内	事前学習：配付 資料の精読
14	中枢神経系作用薬6 高齢者に適した薬剤について学ぶ。	講義・演習	大住、東、 竹内	事前学習：配付 資料の精読
15	まとめ 血液系作用薬・中枢神経系作用薬と歯科治療の関連性について学ぶ。	講義	大住、東、 竹内	-

2017年度

薬理学 (Pharmacology)

開講年次	1～4年	期区分	通年	科目	主科目(研究)/副科目	単位数	2
授業方法	講義・演習	時間数	30	曜日		時限	
開講学科	歯学研究科 歯学専攻						
科目責任者	大住 伴子						
担当教員	竹内 弘、大住 伴子、東 泉						

授業の概要

全身疾患を有する患者が使用する各種薬物について詳細に学ぶ。
特に高齢者が使用することの多い循環器系作用薬（高血圧症治療薬，狭心症治療薬など），中枢神経系作用薬（抗うつ薬など）について学ぶ。

学生の到達目標

1. 全身疾患を有する患者に対して最適な薬物投与ができる。
2. 全身疾患を有する患者に対して安全な歯科治療ができる。
3. 全身疾患を有する患者の使用する各種薬物について詳細に説明できる。

テキスト

出) (著)

参考書

グッドマン・ギルマン 薬理学 第12版
出)廣川書店 (著)高折、橋本ら監訳
各種文献
出) (著)

成績評価方法・基準

評価項目	割合
演習の発表内容	40%
講義・演習中の質疑応答の内容	10%
出席	50%

出席状況（50点、1回欠席につき5点減点）

その他

学生相談：随時

2017年度

薬理学 (Pharmacology)

開講年次	1～4年	期区分	通年	科目	主科目(研究)/副科目	単位数	2
授業方法	講義・演習	時間数	30	曜日		時限	
開講学科	歯学研究科 歯学専攻						
科目責任者	大住 伴子						
担当教員	竹内 弘、大住 伴子、東 泉						

授業計画

回	学習内容	授業方法	担当教員	事前・事後学習 学習課題
1	オリエンテーション 循環器系作用薬・中枢神経系作用薬の概論を学ぶ。	講義	大住、東、 竹内	-
2	循環器系作用薬1 高血圧症治療薬について学ぶ その。	講義・演習	大住、東、 竹内	事前学習：配付 資料の精読
3	循環器系作用薬2 高血圧症治療薬について学ぶ その。	講義・演習	大住、東、 竹内	事前学習：配付 資料の精読
4	循環器系作用薬3 心不全治療薬について学ぶ。	講義・演習	大住、東、 竹内	事前学習：配付 資料の精読
5	循環器系作用薬4 狭心症治療薬について学ぶ。	講義・演習	大住、東、 竹内	事前学習：配付 資料の精読
6	循環器系作用薬5 不整脈治療薬について学ぶ。	講義・演習	大住、東、 竹内	事前学習：配付 資料の精読
7	循環器系作用薬6 循環器系作用薬使用患者の歯科治療について学ぶ その。	講義・演習	大住、東、 竹内	事前学習：配付 資料の精読
8	循環器系作用薬7 循環器系作用薬使用患者の歯科治療について学ぶ その。	講義・演習	大住、東、 竹内	事前学習：配付 資料の精読
9	中枢神経系作用薬1 神経・精神疾患について学ぶ。	講義・演習	大住、東、 竹内	事前学習：配付 資料の精読
10	中枢神経系作用薬2 うつ病について臨床応用される治療薬について学ぶ。	講義・演習	大住、東、 竹内	事前学習：配付 資料の精読
11	中枢神経系作用薬3 そう病について臨床応用される治療薬を中心に学ぶ。	講義・演習	大住、東、 竹内	事前学習：配付 資料の精読
12	中枢神経系作用薬4 認知症について臨床応用される治療薬について学ぶ。	講義・演習	大住、東、 竹内	事前学習：配付 資料の精読
13	中枢神経系作用薬5 統合失調症について臨床応用される頻度の高い治療薬について学ぶ。	講義・演習	大住、東、 竹内	事前学習：配付 資料の精読
14	中枢神経系作用薬6 アルコール依存、薬物依存症について学ぶ。	講義・演習	大住、東、 竹内	事前学習：配付 資料の精読
15	まとめ 循環器系作用薬・中枢神経系作用薬と歯科治療の関連性について学ぶ。	講義	大住、東、 竹内	-

2017年度

薬理学 (Pharmacology)

開講年次	1～4年	期区分	通年	科目	主科目(研究)/副科目	単位数	2
授業方法	演習	時間数	30	曜日		時限	
開講学科	歯学研究科 歯学専攻						
科目責任者	大住 伴子						
担当教員	竹内 弘、大住 伴子、東 泉						

授業の概要

歯科治療に関連の深い医薬品についての文献を読み、最新の知識を得る。また、歯科治療にともなう医薬品の副作用について学ぶ。

学生の到達目標

1. 患者に安全で有効な薬物投与ができる。
2. 最新の医薬品情報を得ることができる。
3. 論文を読むことができる。

テキスト

出) (著)

参考書

各種文献
出) (著)

成績評価方法・基準

評価項目	割合
演習の発表内容	40%
講義・演習中の質疑応答の内容	10%
出席	50%

出席状況(50点、1回欠席につき5点減点)

その他

学生相談：随時

2017年度

薬理学 (Pharmacology)

開講年次	1～4年	期区分	通年	科目	主科目(研究)/副科目	単位数	2
授業方法	演習	時間数	30	曜日		時限	
開講学科	歯学研究科 歯学専攻						
科目責任者	大住 伴子						
担当教員	竹内 弘、大住 伴子、東 泉						

授業計画

回	学習内容	授業方法	担当教員	事前・事後学習 学習課題
1	オリエンテーション 今後の講義・演習について討論する。	演習	大住、東、 竹内	-
2	抗菌薬1 PK-PD理論を学ぶ その 。	演習	大住、東、 竹内	事前学習：配付 資料の精読
3	抗菌薬2 PK-PD理論を学ぶ その 。	演習	大住、東、 竹内	事前学習：配付 資料の精読
4	抗菌薬3 耐性菌について学ぶ。	演習	大住、東、 竹内	事前学習：配付 資料の精読
5	抗菌薬4 カルバペネム系抗生物質について学ぶ。	演習	大住、東、 竹内	事前学習：配付 資料の精読
6	抗ウイルス薬 新規抗インフルエンザウイルス薬について学ぶ。	演習	大住、東、 竹内	事前学習：配付 資料の精読
7	抗血小板凝集薬1 血液凝固、血液溶解について学ぶ。	演習	大住、東、 竹内	事前学習：配付 資料の精読
8	抗血小板凝集薬2 新規抗血小板凝集薬について学ぶ。	演習	大住、東、 竹内	事前学習：配付 資料の精読
9	抗血小板凝集薬3 新規抗血小板凝集薬と歯科治療について学ぶ。	演習	大住、東、 竹内	事前学習：配付 資料の精読
10	血液凝固抑制薬に関するガイドラインについて学ぶ。	演習	大住、東、 竹内	事前学習：配付 資料の精読
11	抗真菌薬1 抗真菌薬と歯科における応用について学ぶ。	演習	大住、東、 竹内	事前学習：配付 資料の精読
12	抗真菌薬2 抗真菌薬とその薬物相互作用について学ぶ。	演習	大住、東、 竹内	事前学習：配付 資料の精読
13	骨粗鬆症治療薬1 ビスホスホネート製剤について学ぶ。	演習	大住、東、 竹内	事前学習：配付 資料の精読
14	骨粗鬆症治療薬2 ビスホスホネート製剤の副作用について学ぶ。	演習	大住、東、 竹内	事前学習：配付 資料の精読
15	まとめ 歯科治療における安全な薬物投与について学ぶ。	演習	大住、東、 竹内	-

2017年度

薬理学 (Pharmacology)

開講年次	1～4年	期区分	通年	科目	主科目(研究)/副科目	単位数	2
授業方法	講義・演習	時間数	30	曜日		時限	
開講学科	歯学研究科 歯学専攻						
科目責任者	大住 伴子						
担当教員	竹内 弘、大住 伴子、東 泉						

授業の概要

抗感染症薬(抗菌薬、抗ウイルス薬、抗真菌薬)についての基礎知識、臨床応用、適正使用について学ぶ。さらに、各種感染症の最新の薬物療法について学ぶ。

学生の到達目標

1. 歯科治療の患者に適正な抗感染症薬を投与できる。
2. 最新の抗感染症薬が説明できる。
3. 理論に基づいて抗感染症薬を投与できる。

テキスト

出) 著)

参考書

抗菌薬適正使用生涯テキスト

出)日本化学療法学会

著)抗菌化学療法認定医制度審議委員会編

日本化学療法学会・日本感染症学会発行の各種ガイドライン

出)

著)

各種文献

出)

著)

成績評価方法・基準

評価項目	割合
演習の発表内容	40%
講義・演習中の質疑応答の内容	10%
出席	50%

出席状況(50点、1回欠席につき5点減点)

その他

学生相談: 随時

2017年度

薬理学 (Pharmacology)

開講年次	1～4年	期区分	通年	科目	主科目(研究)/副科目	単位数	2
授業方法	講義・演習	時間数	30	曜日		時限	
開講学科	歯学研究科 歯学専攻						
科目責任者	大住 伴子						
担当教員	竹内 弘、大住 伴子、東 泉						

授業計画

回	学習内容	授業方法	担当教員	事前・事後学習 学習課題
1	抗感染症薬概論 抗感染症薬の概論を学ぶ。	講義	大住, 東、 竹内	-
2	抗菌薬概論 1 抗菌薬の概論、耐性菌について学ぶ。	講義	大住, 東、 竹内	事前学習：配付資料の精読
3	抗菌薬概論 2 PK-PD理論を学ぶ。	講義	大住, 東、 竹内	事前学習：配付資料の精読
4	抗菌薬各論 1 -ラクタム系抗生物質について学ぶ その 。	講義・演習	大住, 東、 竹内	事前学習：配付資料の精読
5	抗菌薬各論 2 -ラクタム系抗生物質について学ぶ その 。	講義・演習	大住, 東、 竹内	事前学習：配付資料の精読
6	抗菌薬各論 3 -ラクタム系以外の抗生物質について学ぶ その 。	講義・演習	大住, 東、 竹内	事前学習：配付資料の精読
7	抗菌薬各論 4 -ラクタム系以外の抗生物質について学ぶ その 。	講義・演習	大住, 東、 竹内	事前学習：配付資料の精読
8	抗菌薬各論 5 抗生物質の歯科適応について学ぶ。	講義・演習	大住, 東、 竹内	事前学習：配付資料の精読
9	抗菌薬各論 6 ニューキノロン薬について学ぶ。	講義・演習	大住, 東、 竹内	事前学習：配付資料の精読
10	抗菌薬各論 7 ニューキノロン薬の歯科適応について学ぶ。	講義・演習	大住, 東、 竹内	事前学習：配付資料の精読
11	抗真菌薬各論 1 抗真菌薬について学ぶ。	講義・演習	大住, 東、 竹内	事前学習：配付資料の精読
12	抗真菌薬各論 2 抗真菌薬の歯科適応について学ぶ。	講義・演習	大住, 東、 竹内	事前学習：配付資料の精読
13	抗ウイルス薬各論 1 抗ウイルス薬について学ぶ。	講義・演習	大住, 東、 竹内	事前学習：配付資料の精読
14	抗ウイルス薬各論 2 抗ウイルス薬の歯科適応について学ぶ。	講義・演習	大住, 東、 竹内	事前学習：配付資料の精読
15	まとめ 適正な抗感染症薬投与について学ぶ。	講義	大住, 東、 竹内	-

2017年度

薬理学講究 (Journal Club - Current Topics for Drug Discovery -)

開講年次	1～4年	期区分	通年	科目	主科目(研究)/副科目	単位数	2
授業方法	演習	時間数	30	曜日		時限	
開講学科	歯学研究科 歯学専攻						
科目責任者	竹内 弘						
担当教員	竹内 弘、大住 伴子、東 泉						

授業の概要

新薬開発や各種薬物に関する最新の研究の動向を理解する。「健康食品」などの成分や効能についても資料に基づいて科学的に検証する。担当者は新薬開発につながる研究テーマの発掘も念頭に置いて文献を紹介し、その内容について全員で議論する。

学生の到達目標

1. 英文・和文の文献を論理的な視点で読むことができる。
2. 基礎生命科学研究文献の内容を理解し批評できる。
3. 基礎生命科学研究文献の内容を、背景を含めてわかりやすく説明できる。

テキスト

出) (著)

参考書

紹介する文献および参考書は各自必要なものを選別する。
出) (著)

成績評価方法・基準

評価項目	割合
発表	70%
質疑応答	30%

発表の内容(準備を含めたプレゼンテーションの質):70点(発表した全ての回の平均点)
質疑応答の内容と積極性:30点(15回の平均点)
但し、1回の欠席につき5点減点する。

その他

学生相談:随時 但し事前にメール等で予約必要

2017年度

薬理学講究 (Journal Club - Current Topics for Drug Discovery -)

開講年次	1~4年	期区分	通年	科目	主科目(研究)/副科目	単位数	2
授業方法	演習	時間数	30	曜日		時限	
開講学科	歯学研究科 歯学専攻						
科目責任者	竹内 弘						
担当教員	竹内 弘、大住 伴子、東 泉						

授業計画

回	学習内容	授業方法	担当教員	事前・事後学習 学習課題
1~15	創薬を意識した最新の生命科学研究の内容と動向を理解し、説明および討論する。	文献紹介および討論	竹内 大住 東	(予習)担当者は文献の詳細読および関連情報の調査説明用資料の準備

2017年度

分子薬理学演習 (Seminar in Molecular Pharmacology)

開講年次	1～4年	期区分	通年	科目	主科目(研究)/副科目	単位数	2
授業方法	講義・演習	時間数	30	曜日		時限	
開講学科	歯学研究科 歯学専攻						
科目責任者	竹内 弘						
担当教員	竹内 弘、大住 伴子、東 泉						

授業の概要

薬理学の研究に必要な基本的知識および基本的実験手技を学ぶ。
遺伝子組換えタンパク質を調製し、各種薬物の効果を調べる方法を中心とする。

学生の到達目標

1. 遺伝子組換えタンパク質の調製法について説明できる。
2. タンパク質の調製に必要な DNA コンストラクトを設計・作製できる。
3. 遺伝子組換えタンパク質を調製できる。
4. 遺伝子組換えタンパク質を用いた薬理的な試験管内実験を行うことができる。

テキスト

出) (著)

参考書

板書による説明。学習内容に応じた参考文献、参考書については助言する。
出) (著)

成績評価方法・基準

評価項目	割合
発表	40%
質疑応答	15%
出席	45%

発表(40点満点)と質疑応答の内容(15点満点)に対して採点する。
出席点(45点=3点x15回)とする。

その他

学生相談：随時 但し事前にメール等の予約必要

2017年度

分子薬理学演習 (Seminar in Molecular Pharmacology)

開講年次	1～4年	期区分	通年	科目	主科目(研究)/副科目	単位数	2
授業方法	講義・演習	時間数	30	曜日		時限	
開講学科	歯学研究科 歯学専攻						
科目責任者	竹内 弘						
担当教員	竹内 弘、大住 伴子、東 泉						

授業計画

回	学習内容	授業方法	担当教員	事前・事後学習 学習課題
1	オリエンテーション 本演習で行う実験の全体の流れを学ぶ。	講義	竹内 大住 東	配付資料の精読
2	大腸菌用発現コンストラクトの作製準備 必要な遺伝子情報を収集しコンストラクトを設計する方法について学ぶ。	演習	竹内 大住 東	(復習) 実験内容と結果の記録
3	大腸菌発現コンストラクトの作製? PCR法による目的遺伝子とベクターの調製、ライゲーションについて学ぶ。	演習	竹内 大住 東	(復習) 実験内容と結果の記録
4	大腸菌細胞用発現コンストラクトの作製? インサート挿入の正否判定について学ぶ。	演習	竹内 大住 東	(復習) 実験内容と結果の記録
5	組換えタンパク質の発現確認? 大腸菌の培養と組換えタンパク質の発現誘導からサンプル調製までを学ぶ。	演習	竹内 大住 東	(復習) 実験内容と結果の記録
6	組換えタンパク質の発現確認? 調製したサンプルの解析。SDS-PAGE。	演習	竹内 大住 東	(復習) 実験内容と結果の記録
7	組換えタンパク質の調製? 組換えタンパク質を調製するための大量培養系における発現誘導の条件検討について学ぶ。	演習	竹内 大住 東	(復習) 実験内容と結果の記録
8	組換えタンパク質の調製? 大腸菌溶解液から組換えタンパク質精製する方法を学ぶ。	演習	竹内 大住 東	(復習) 実験内容と結果の記録
9	組換えタンパク質の調製? 調製したタンパク質の濃度や精製度の確認方法について学ぶ。	演習	竹内 大住 東	(復習) 実験内容と結果の記録
10	組換えタンパク質を用いた試験管内実験? タンパク質間結合能を指標にした活性測定について学ぶ。サンプル調製まで。	演習	竹内 大住 東	(復習) 実験内容と結果の記録
11	組換えタンパク質を用いた試験管内実験? 引続きタンパク質間結合能を指標にした活性測定について学ぶ。調製したサンプルの電気泳動。	演習	竹内 大住 東	(復習) 実験内容と結果の記録
12	組換えタンパク質を用いた試験管内実験? 調製したタンパク質の酵素活性を測定することを学ぶ。	演習	竹内 大住 東	(復習) 実験内容と結果の記録
13	組換えタンパク質を用いた試験管内実験? 組換えタンパク質の酵素活性に薬物が与える影響を調べる。	演習	竹内 大住 東	(復習) 実験内容と結果の記録
14	データのまとめ 得られた結果をまとめて発表する準備をする。	演習	竹内 大住 東	(復習) 結果のまとめと発表資料の準備
15	まとめたデータの発表 まとめたデータについて発表討論する。	演習	竹内 大住 東	(予習) 発表資料の準備

2017年度

細胞分子薬理学演習 (Seminar in Cellular and Molecular Pharmacology)

開講年次	1～4年	期区分	通年	科目	主科目(研究)/副科目	単位数	2
授業方法	講義・演習	時間数	30	曜日		時限	
開講学科	歯学研究科 歯学専攻						
科目責任者	竹内 弘						
担当教員	竹内 弘、大住 伴子、東 泉						

授業の概要

薬理学の研究に必要な基本的知識および基本的実験手技を学ぶ。
遺伝子組換えと哺乳類細胞培養技術を用いて、各種薬物の効果を調べる方法を修得する。

学生の到達目標

1. 培養細胞の遺伝子発現を操作する方法を説明できる。
2. 上記操作に必要な DNA コンストラクトを設計・作製できる。
3. 外来性遺伝子を培養細胞に導入できる。
4. 遺伝子操作した培養細胞を用いて各種薬物の効果を検討することができる。

テキスト

出) (著)

参考書

板書による説明。学習内容に応じた参考文献、参考書については助言する。
出) (著)

成績評価方法・基準

評価項目	割合
発表	40%
質疑応答	15%
出席	45%

発表(40点満点)と質疑応答の内容(15点満点)に対して採点する。
出席点(45点=3点x15回)とする。

その他

学生相談：随時 但し事前にメール等で予約必要

2017年度

細胞分子薬理学演習 (Seminar in Cellular and Molecular Pharmacology)

開講年次	1～4年	期区分	通年	科目	主科目(研究)/副科目	単位数	2
授業方法	講義・演習	時間数	30	曜日		時限	
開講学科	歯学研究科 歯学専攻						
科目責任者	竹内 弘						
担当教員	竹内 弘、大住 伴子、東 泉						

授業計画

回	学習内容	授業方法	担当教員	事前・事後学習 学習課題
1	オリエンテーション 本演習で行う実験の全体の流れを学ぶ。	講義	配付資料の精読	竹内 大住
2	哺乳類細胞用発現コンストラクトの作製準備 必要な遺伝子情報を収集しコンストラクトを設計する方法について学ぶ。	演習	(復習) 実験内容と結果の記録	竹内 大住 東
3	哺乳類細胞用発現コンストラクトの作製？ 目的遺伝子とベクターの調製、ライゲーションについて学ぶ。	演習	(復習) 実験内容と結果の記録	竹内 大住 東
4	哺乳類細胞用発現コンストラクトの作製？ インサート挿入の正否判定について学ぶ。	演習	(復習) 実験内容と結果の記録	竹内 大住 東
5	培養細胞への遺伝子導入と発現確認？ 培養細胞に調製したコンストラクトを導入する方法について学ぶ。	演習	(復習) 実験内容と結果の記録	竹内 大住 東
6	培養細胞への遺伝子導入と発現確認？ 培養細胞に調製したコンストラクトを導入する方法について学ぶ。	演習	(復習) 実験内容と結果の記録	竹内 大住 東
7	培養細胞への遺伝子導入と発現確認？ 培養細胞に導入した遺伝子の発現確認方法を学ぶ(顕微鏡観察とタンパク質電気泳動)。	演習	(復習) 実験内容と結果の記録	竹内 大住 東
8	培養細胞への遺伝子導入と発現確認？ 培養細胞に導入した遺伝子の発現確認方法を学ぶ(ウエスタンブロット)。	演習	(復習) 実験内容と結果の記録	竹内 大住 東
9	遺伝子導入した培養細胞で薬物効果の検討？ 薬物に反応した細胞内分子の局在変化の観察方法を学ぶ。	演習	(復習) 実験内容と結果の記録	竹内 大住 東
10	遺伝子導入した培養細胞で薬物効果の検討？ 細胞内タンパク質のリン酸化を指標とした薬物反応の評価方法を学ぶ(サンプル調製)。	演習	(復習) 実験内容と結果の記録	竹内 大住 東
11	遺伝子導入した培養細胞で薬物効果の検討？ 引続き細胞内タンパク質のリン酸化を指標とした薬物反応の評価方法を学ぶ(電気泳動)。	演習	(復習) 実験内容と結果の記録	竹内 大住 東
12	遺伝子導入した培養細胞で薬物効果の検討？ 引続き細胞内タンパク質のリン酸化を指標とした薬物反応の評価方法を学ぶ(検出と結果判定)。	演習	(復習) 実験内容と結果の記録	竹内 大住 東
13	遺伝子導入した培養細胞で薬物効果の検討？ 細胞内カルシウム動態を指標とした薬物反応の評価方法を学ぶ(細胞の調製)。	演習	(復習) 実験内容と結果の記録	竹内 大住 東
14	遺伝子導入した培養細胞で薬物効果の検討？ 細胞内カルシウム動態を指標とした薬物反応の評価方法を学ぶ(カルシウムイメージング)。	演習	(復習) 実験内容と結果の記録	竹内 大住 東
15	データのまとめと考察 得られた結果をまとめて発表討論する。	演習	(予習) 結果のまとめと発表資料の準備	竹内 大住 東

2017年度

薬理学演習 (Seminar in Pharmacology)

開講年次	1～4年	期区分	通年	科目	主科目(研究)/副科目	単位数	2
授業方法	講義・演習	時間数	30	曜日		時限	
開講学科	歯学研究科 歯学専攻						
科目責任者	大住 伴子						
担当教員	竹内 弘、大住 伴子、東 泉						

授業の概要

実験動物を使用して研究を行う際に必要になる、基本的知識および基本的実験手技を学ぶ。さらに、動物実験計画書作成について学ぶ。

学生の到達目標

1. 実験動物について説明できる。
2. 動物実験計画書を立案できる。
3. 動物に薬物投与を行うことができる。
4. 基本的薬理実験について説明でき、行うことができる。

テキスト

出) 著)

参考書

動物実験の適正な実施に向けたガイドライン

出) 著)日本学会議制定

各種文献

出) 著)

成績評価方法・基準

評価項目	割合
演習の発表内容	40%
講義・演習中の質疑応答の内容	10%
出席	50%

出席状況(50点、1回欠席につき5点減点)

その他

学生相談：随時

2017年度

薬理学演習 (Seminar in Pharmacology)

開講年次	1～4年	期区分	通年	科目	主科目(研究)/副科目	単位数	2
授業方法	講義・演習	時間数	30	曜日		時限	
開講学科	歯学研究科 歯学専攻						
科目責任者	大住 伴子						
担当教員	竹内 弘、大住 伴子、東 泉						

授業計画

回	学習内容	授業方法	担当教員	事前・事後学習 学習課題
1	オリエンテーション 今後の講義・演習について討論する	講義	大住、東、 竹内	-
2	実験動物学総論1 実験動物の概論を学ぶ。	講義	大住、東、 竹内	事前学習：配付 資料の精読
3	実験動物学総論2 実験動物に関する各種法律・ガイドラインについて学ぶ。	講義	大住、東、 竹内	事前学習：配付 資料の精読
4	実験動物学総論3 実験動物に関する動物福祉について学ぶ。	講義・演習	大住、東、 竹内	事前学習：配付 資料の精読
5	実験動物学総論4 実験動物の薬物投与方法、麻酔方法、安楽死について学ぶ その。	講義・演習	大住、東、 竹内	事前学習：配付 資料の精読
6	実験動物学総論5 実験動物の薬物投与方法、麻酔方法、安楽死について学ぶ その。	講義・演習	大住、東、 竹内	事前学習：配付 資料の精読
7	実験動物学総論6 実験動物の薬物投与方法、麻酔方法、安楽死について学ぶ その。	講義・演習	大住、東、 竹内	事前学習：配付 資料の精読
8	薬理学実験 1 急性毒性実験法について学ぶ。	講義・演習	大住、東、 竹内	事前学習：配付 資料の精読
9	薬理学実験 2 慢性毒性実験法について学ぶ。	講義・演習	大住、東、 竹内	事前学習：配付 資料の精読
10	薬理学実験 3 局所毒性実験法について学ぶ。	講義・演習	大住、東、 竹内	事前学習：配付 資料の精読
11	薬理学実験 4 その他の毒性試験について学ぶ。	講義・演習	大住、東、 竹内	事前学習：配付 資料の精読
12	動物実験計画書作成 1 動物実験計画書の作成方法を学ぶ その。	講義	大住、東、 竹内	事前学習：配付 資料の精読
13	動物実験計画書作成 2 動物実験計画書の作成方法を学ぶ その。	講義	大住、東、 竹内	事前学習：配付 資料の精読
14	動物実験計画書作成 3 動物実験計画書を作成する。	講義	大住、東、 竹内	事前学習：配付 資料の精読
15	まとめ 薬理学実験に関する総まとめを行う。	講義	大住、東、 竹内	-

2017年度

臨床疫学 (Clinical Epidemiology)

開講年次	1～2年	期区分	通年	科目	主科目(研究)	単位数	4
授業方法	講義・演習	時間数	60	曜日		時限	
開講学科	歯学研究科 歯学専攻						
科目責任者	角舘 直樹						
担当教員	角舘 直樹						

授業の概要

本科目では、臨床疫学の基礎的内容を学習し、臨床疫学の各種研究デザインについて理解する。また、それぞれの研究デザインに関する論文を批判的吟味することで、理解を深める。これによりEvidence-Based Dentistry(EBD)の実践力も養う。

学生の到達目標

1. 臨床疫学の概略を理解する。
2. 臨床疫学・構造化抄録の読み方を理解する。
3. 臨床疫学研究デザインの概略を理解する。
4. 各種研究デザインにおける論文の批判的吟味ができる。
5. Evidence-Based Dentistryを実践できる。

テキスト

Evidence-Based Dentistry 入門
出)永末書店 著)

参考書

医学的研究のデザイン - 研究の質を高める疫学的アプローチ - 第3版
出)メディカルサイエンスインターナ 著)
シヨナル社

歯科診療に基づく研究・英語論文執筆ガイド
出)医歯薬出版 著)

成績評価方法・基準

評価項目	割合
出席	30%
演習	70%

その他

2017年度

臨床疫学 (Clinical Epidemiology)

開講年次	1～2年	期区分	通年	科目	主科目(研究)	単位数	4
授業方法	講義・演習	時間数	60	曜日		時限	
開講学科	歯学研究科 歯学専攻						
科目責任者	角館 直樹						
担当教員	角館 直樹						

授業計画

回	学習内容	授業方法	担当教員	事前・事後学習 学習課題
1,2	イントロダクション 臨床疫学の定義について学び、臨床疫学研究デザインの全体像を理解する。	講義	角館	臨床疫学研究 デザインについて
3,4	臨床疫学論文・構造化抄録の読み方 臨床疫学論文の構成および構造化抄録の読解方法を学ぶ。	講義	角館	臨床疫学論文 ・構造化抄録 の読み方について
5,6	文献検索法 文献検索方法について学び、実際にPubMed、医中誌等を用いて各種研究デザインの論文を検索する。	演習	角館	PubMed、医中 誌による文献 検索について
7,8	文献検索法 Cochrane Library, Mindsを用いて、システマティックレビューや診療ガイドラインを検索する。	演習	角館	Cochrane Library, Mindsによる文 献検索につい
9,10	臨床疫学研究デザイン (横断研究、症例対照研究) 横断研究・症例対照研究の利点と欠点を理解し、歯科領域における先行研究について学ぶ。	講義	角館	横断研究・症 例対照研究の 利点と欠点に ついて
11,12	批判的吟味 (横断研究) 横断研究に関する論文の批判的吟味の方法について理解し、実際に行う。	演習	角館	横断研究論文 の批判的吟味 について
13,14	臨床疫学研究デザイン (コホート研究) コホート研究の利点と欠点を理解し、歯科領域における先行研究について学ぶ。	講義	角館	コホート研究 の利点と欠点 について
15,16	批判的吟味 (コホート研究) コホート研究に関する論文の批判的吟味の方法について理解し、実際に行う。	演習	角館	コホート研究 論文の批判的 吟味について
17,18	臨床疫学研究デザイン (介入研究) 介入研究の利点と欠点を理解し、歯科領域における先行研究について学ぶ。	講義	角館	介入研究の利 点と欠点につ いて
19,20	批判的吟味 (介入研究) 介入研究に関する論文の批判的吟味の方法について理解し、実際に行う。	演習	角館	介入研究論文 の批判的吟味 について
21,22	臨床疫学研究デザイン (システマティックレビュー・メタアナリシス) データ統合型研究の利点と欠点を理解し、歯科領域における先行研究について学ぶ。	講義	角館	データ統合型 研究の利点と 欠点について
23,24	批判的吟味 (システマティックレビュー・メタアナリシス) データ統合型研究に関する論文の批判的吟味の方法について理解し、実際に行う。	演習	角館	データ統合型 研究論文の批 判的吟味につ いて
25,26	臨床研究デザイン (診断・スクリーニングの評価) 診断・スクリーニングの評価法について理解する。歯科領域における先行研究について学ぶ。	演習	角館	診断・スクリ ーニング研究 の特徴につい て
27,28	批判的吟味 (診断・スクリーニングの評価) 診断・スクリーニングの評価法に関する論文の批判的吟味の方法について理解し、実際に行う。	演習	角館	診断・スクリ ーニング研究 論文の批判的 吟味について
29,30	診療ガイドライン 診療ガイドラインの意義を理解し、実際に読解する。AGREE、診療ガイドラインの評価法 (AGREE) やGRADEシステムについても学ぶ。	演習	角館	診療ガイドラ インの評価に ついて

2017年度

臨床疫学 (Clinical Epidemiology)

開講年次	2～3年	期区分	通年	科目	主科目(研究)	単位数	4
授業方法	講義・演習	時間数	60	曜日		時限	
開講学科	歯学研究科 歯学専攻						
科目責任者	角舘 直樹						
担当教員	角舘 直樹						

授業の概要

本科目では、臨床疫学の専門的な知識および臨床疫学研究を実践する上での応用力を養う。また各自の研究クエスチョンに基づいて研究デザインならびに統計解析デザインを立案し、研究プロトコルを作成するための実践的能力を養う。

学生の到達目標

1. 各自の診療上の疑問を定式化し、アウトカム指標を設定できる。
2. 概念モデルを作成することができる。
3. 適切な臨床疫学研究デザインを立案できる。
4. 適切な統計解析デザインを立案できる。
5. 研究プロトコルを作成することができる。

テキスト

出) (著)

参考書

Evidence-Based Dentistry 入門

出)永末書店 (著)

医学的研究のデザイン - 研究の質を高める疫学的アプローチ - 第3版

出)メディカルサイエンスインターナショナル社 (著)

歯科診療に基づく研究・英語論文執筆ガイド

出)医歯薬出版 (著)

成績評価方法・基準

評価項目	割合
出席	30%
演習の提出物	70%

その他

2017年度

臨床疫学 (Clinical Epidemiology)

開講年次	2～3年	期区分	通年	科目	主科目(研究)	単位数	4
授業方法	講義・演習	時間数	60	曜日		時限	
開講学科	歯学研究科 歯学専攻						
科目責任者	角館 直樹						
担当教員	角館 直樹						

授業計画

回	学習内容	授業方法	担当教員	事前・事後学習 学習課題
1,2	診療上の疑問の定式化 自身の診療上の疑問をPICOのフォーマットを用いて定式化する。アウトカムを測定する際の指標の種類、選択方法について学ぶ。	講義	角館	PICO/Finer's check
3,4	アウトカム指標の設定 アウトカムを測定する際の指標、測定方法、患者立脚アウトカムについて学ぶ。	講義	角館	アウトカム指標について
5,6	仮説(概念モデル)の設定 交絡因子をはじめとする第3の因子を検討するために概念モデルを検討する。	講義,演習	角館	概念モデルについて
7,8	臨床疫学研究デザインの立案 自身の疑問に基づいて適切な臨床疫学研究デザインを立案する。各種デザインに応じた研究手法について学ぶ。	講義,演習	角館	臨床疫学研究デザインについて
9,10	バイアスの制御法 選択バイアス、測定バイアス、交絡バイアスの制御方法について学び、実例をもとに学ぶ。	講義	角館	バイアスの制御法について
11,12	データ測定法 キャリブレーションなどをはじめとするデータ測定方法の信頼性・妥当性について学ぶ。	講義,演習	角館	データ測定方法における信頼性と妥当性について
13,14	統計解析のデザイン データの種類、分布、記述統計、オッズ比、リスク比、リスク差およびハザード比の違いについて学ぶ。	講義,演習	角館	リスク比、リスク差およびハザード比について
15,16	統計解析のデザイン 統計学的仮説検定、P値と有意水準、信頼区間、相関および相関係数について学ぶ。	講義,演習	角館	P値と有意水準、信頼区間、相関および相関係数について
17,18	統計解析のデザイン 2群間比較と多群間比較の検定方法および検定の過誤について学ぶ。	講義,演習	角館	2群間比較と多群間比較の検定方法について
19,20	統計解析のデザイン ロジスティック回帰分析、重回帰分析をはじめとする多変量解析について学ぶ。	講義,演習	角館	ロジスティック回帰分析、重回帰分析について
21,22	統計解析のデザイン Cox回帰(比例ハザードモデル)やカプラン・マイヤー曲線、ログランク検定をはじめとする生存時間解析の手法について学ぶ。	講義,演習	角館	生存時間解析について
23,24	統計解析のデザイン サンプルサイズの推定について学ぶ。	講義,演習	角館	サンプルサイズの推定について
25,26	質問票の作成 情報バイアスを制御するための質問票の作成方法について学び、実際に質問紙を作成する。	講義,演習	角館	質問票の作成法について
27,28	研究プロトコルの作成方法 Consort声明・Strobe声明をはじめとする研究報告のガイドラインについて学び、効率的な研究プロトコルの作成方法について理解する。	講義	角館	研究プロトコルの作成について

2017年度

臨床疫学 (Clinical Epidemiology)

開講年次	2～3年	期区分	通年	科目	主科目(研究)	単位数	4
授業方法	講義・演習	時間数	60	曜日		時限	
開講学科	歯学研究科 歯学専攻						
科目責任者	角館 直樹						
担当教員	角館 直樹						

回	学習内容	授業方法	担当教員	事前・事後学習 学習課題
29,30	臨床疫学研究における倫理的配慮 各種倫理指針、倫理委員会への書類申請ならびに臨床研究試験登録について学ぶ。	講義	角館	倫理指針、倫理委員会への書類申請および臨床研究試験登録について。

2017年度

臨床疫学 (Clinical Epidemiology)

開講年次	3～4年	期区分	通年	科目	主科目(研究)	単位数	4
授業方法	講義・演習	時間数	60	曜日		時限	
開講学科	歯学研究科 歯学専攻						
科目責任者	角舘 直樹						
担当教員	角舘 直樹						

授業の概要

本科目では、様々な臨床疫学研究の応用例について理解を深め、歯科領域における研究事例について学ぶ。また、国際的な臨床疫学研究について学び、Practice-Based Researchの意義や方法論についても理解する。

学生の到達目標

1. 歯科領域における各種の臨床疫学研究の理論と実例を理解する。
2. 国際的な臨床疫学研究について学ぶ。
3. Practice-Based Researchについて理解する。
4. Evidence-Practice Gapについて理解する。
5. 臨床疫学研究論文の作成方法について学ぶ。

テキスト

出) (著)

参考書

Evidence-Based Dentistry 入門

出)永末書店 (著)

医学的研究のデザイン - 研究の質を高める疫学的アプローチ - 第3版

出)メディカルサイエンスインターナショナル社 (著)

歯科診療に基づく研究・英語論文執筆ガイド

出)医歯薬出版 (著)

成績評価方法・基準

評価項目	割合
出席	30%
演習	70%

その他

2017年度

臨床疫学 (Clinical Epidemiology)

開講年次	3～4年	期区分	通年	科目	主科目(研究)	単位数	4
授業方法	講義・演習	時間数	60	曜日		時限	
開講学科	歯学研究科 歯学専攻						
科目責任者	角館 直樹						
担当教員	角館 直樹						

授業計画

回	学習内容	授業方法	担当教員	事前・事後学習 学習課題
1,2	う蝕の臨床疫学 う蝕の原因、診断、治療、予防、予後をはじめとする臨床疫学研究について学ぶ。	講義・演習	角館	う蝕の臨床疫学について
3,4	歯周病の臨床疫学 歯周病の原因、診断、治療、予防、予後をはじめとする臨床疫学研究について学ぶ。	講義・演習	角館	歯周病の臨床疫学について
5,6	顎関節症の臨床疫学 顎関節症の原因、診断、治療、予防、予後をはじめとする臨床疫学研究について学ぶ。	講義・演習	角館	顎関節症の臨床疫学について
7,8	歯冠修復物に関する臨床疫学 歯冠修復物の予後・生存期間に関する臨床疫学研究について学ぶ。	講義・演習	角館	歯冠修復物に関する臨床疫学について
9,10	歯科保健指導に関する臨床疫学 歯科保健指導に関する臨床疫学研究について学ぶ。	講義・演習	角館	歯科保健指導に関する臨床疫学について
11,12	患者立脚型アウトカム研究 患者満足度、QOLなどの患者立脚型アウトカムを理解し、歯科領域における研究事例について学ぶ。	講義・演習	角館	患者満足度研究について
13,14	行動科学に関する臨床疫学 各種健康行動科学理論について理解し、歯科領域における行動科学に関する研究事例について学ぶ。	講義・演習	角館	歯科領域における健康行動科学理論について
15,16	歯科治療の費用対効果の臨床疫学 歯科治療における費用対効果について理解し、歯科領域の研究事例について学ぶ。	講義・演習	角館	費用対効果に関する臨床疫学について
17,18	医療の質に関する臨床疫学 医療の質について理解し、歯科領域における研究事例について学ぶ。	講義・演習	角館	医療の質研究について
19,20	Practice-Based Research Practice-Based Researchの歴史、意義、現状について理解し、研究の事例について学ぶ。	講義・演習	角館	Practice-Based Researchについて
21,22	Evidence-Practice Gap エビデンス 診療ギャップを理解し、歯科領域での研究事例について学ぶ。	講義・演習	角館	Evidence-Practice Gapについて
23,24	国際的な臨床疫学研究 国際的な臨床疫学研究の潮流について理解し、歯科領域での研究事例について学ぶ。	講義・演習	角館	国際的な臨床疫学研究の潮流について
25,26	歯科診療の国際比較研究 歯科診療パターンの国際比較について学ぶ、歯科医療制度の違いについて考察する。	講義・演習	角館	歯科診療の国際比較研究について
27,28	歯科医療政策と臨床疫学 歯科医療政策と臨床疫学研究の関係について学ぶ。	講義・演習	角館	歯科保健医療政策と臨床疫学研究について
29,30	臨床疫学研究論文の作成 臨床疫学研究論文の書き方および統計報告の方法について学ぶ。	講義・演習	角館	臨床疫学研究論文の作成方法について

2017年度

臨床疫学演習 (Clinical Epidemiology Practice)

開講年次	1～3年	期区分	通年	科目	主科目(研究)/副科目	単位数	2
授業方法	講義・演習	時間数	30	曜日		時限	
開講学科	歯学研究科 歯学専攻						
科目責任者	角舘 直樹						
担当教員	角舘 直樹						

授業の概要

臨床疫学分野で行う研究内容・成果の発表会に参加し、そこで行われる討論および質疑応答を通して、研究の内容理解を深める。担当教員をはじめとする発表会参加者より受けたフィードバックに基づいて自身の研究を見直し、研究の質を高める。

学生の到達目標

1. 研究方法について理解し、説明できる。
2. 自身の研究結果(解析データ)について論理的に解釈し、説明できる。
3. 研究の進捗状況・結果についてスライドを作成し、分かりやすくプレゼンテーションできる。

テキスト

出) _____ 著) _____

参考書

出) _____ 著) _____

成績評価方法・基準

評価項目	割合
出席	30%
提出資料	30%
発表・質疑応答	40%

その他

各自の研究テーマに関連する最新の論文を各自で選定する。
発表者はスライドにて発表資料を準備し、参加者に事前配布する。

2017年度

臨床疫学演習 (Clinical Epidemiology Practice)

開講年次	1～3年	期区分	通年	科目	主科目(研究) / 副科目	単位数	2
授業方法	講義・演習	時間数	30	曜日		時限	
開講学科	歯学研究科 歯学専攻						
科目責任者	角館 直樹						
担当教員	角館 直樹						

授業計画

回	学習内容	授業方法	担当教員	事前・事後学習 学習課題
1～15	解析データ・進捗状況をスライドにまとめ、プレゼンテーションを行う。発表者は発表会参加者からの質問に答え、討論を行うことで研究方法および内容について理解を深める。	研究報告・発表および討論	角館	文献抄読および関連文献の収集

2017年度

臨床疫学講究 (Journal Club in Clinical Epidemiology)

開講年次	1～4年	期区分	通年	科目	主科目(研究)/副科目 あああああ	単位数	2
授業方法	講義・演習	時間数	30	曜日		時限	
開講学科	歯学研究科 歯学専攻						
科目責任者	角館 直樹						
担当教員	角館 直樹						

授業の概要

臨床疫学および自身の研究テーマに関連する最新の動向を理解し、論文を精読する。担当学生は論文の概要について資料を準備して発表を行い、質疑応答を通して理解を深める。

学生の到達目標

1. 英語文献を読んで理解することができる。
2. 臨床研究論文の批判的吟味ができる。
3. 論文の内容を分かりやすくプレゼンテーションできる。

テキスト

出) _____ 著)

参考書

出) _____ 著)

成績評価方法・基準

評価項目	割合
出席	30%
提出資料	30%
発表・質疑応答	40%

その他

2017年度

臨床疫学講究 (Journal Club in Clinical Epidemiology)

開講年次	1～4年	期区分	通年	科目	主科目(研究)/副科目 あああああ	単位数	2
授業方法	講義・演習	時間数	30	曜日		時限	
開講学科	歯学研究科 歯学専攻						
科目責任者	角館 直樹						
担当教員	角館 直樹						

授業計画

回	学習内容	授業方法	担当教員	事前・事後学習 学習課題
1～15	臨床疫学領域で重要な最新の研究内容および動向を理解し、説明する。	文献の解説、発表、および討論	角館	文献抄読および関連文献の収集

2017年度

口腔健康学 (Oral Health Science)

開講年次	1～2年	期区分	通年	科目	主科目(研究)	単位数	2
授業方法	講義	時間数	30	曜日		時限	
開講学科	歯学研究科 歯学専攻						
科目責任者	秋房 住郎						
担当教員	日高 勝美、秋房 住郎、引地 尚子、中道 敦子、園木 一男、吉野 賢一、辻澤 利行						

授業の概要

口腔保健学の学際領域に対する研究志向性を担保する、優れた研究遂行能力を付与するため、また、当該領域を教授するための素養を醸成するため、口腔の健康に関連する最新の医学的・保健学的事象を学ぶとともに、当該事象を解決するための方略を創造するための応用発展的な研究手法や解析方法について、様々な観点からオムニバス形式で講義する。

学生の到達目標

1. わが国の保健・医療・介護の動向を理解し、地域包括ケアを多職種連携で実践する際の課題や歯科専門職の役割等について法的観点を含め説明できる。
2. 口腔衛生学領域における疾患・異常に対する論理的観点と当該事象の解決にかかる研究手法を詳細に説明できる。
3. 口腔外科学・口腔内科学に関するEBMに基づく基礎・臨床研究の手法を詳細に説明できる。
4. 対象者の背景に立脚した口腔保健の専門的価値観と能力の醸成に関する手法を想起する
5. 口腔状態および口腔疾患が全身状態に関係することをいかに証明するのか、そのMethodology(方法論)を説明できる。
6. 摂食行動に関する高次脳機能、神経生理学および非侵襲的な研究手法について説明できる。
7. 栄養学領域における健康または疾患に対する論理的観点と当該事象の解決にかかる研究手法を説明できる。

テキスト

出) (著)

参考書

出) (著)

成績評価方法・基準

評価項目	割合
レポート	90%
試問	10%

事後レポート15回×6点、試問10点により評価する。

その他

学生相談：随時

2017年度

口腔健康学 (Oral Health Science)

開講年次	1～2年	期区分	通年	科目	主科目(研究)	単位数	2
授業方法	講義	時間数	30	曜日		時限	
開講学科	歯学研究科 歯学専攻						
科目責任者	秋房 住郎						
担当教員	日高 勝美、秋房 住郎、引地 尚子、中道 敦子、園木 一男、吉野 賢一、辻澤 利行						

授業計画

回	学習内容	授業方法	担当教員	事前・事後学習 学習課題
1	地域包括ケアの推進と課題(1) わが国の社会保障制度の経緯と近年の人口動態、健康状態、受療動向等を理解し、地域包括ケアを多職種連携で実践する際の課題を考える。	講義	日高	事後レポートの提出
2	地域包括ケアの推進と課題(2) 医療保険制度、介護保険制度の動向を理解し、地域包括ケアにおける歯科医療専門職の役割と業務に関する法制上の課題について考える。	講義	日高	事後レポートの提出
3	健康に対する口腔衛生的観点(1) ヒトの健康を口腔衛生学に考察し、その維持向上ないしは回復するためのミクロからマクロにわたる方略について考える。	講義	秋房	事後レポートの提出
4	健康に対する口腔衛生学観点(1) う蝕と歯周疾患に対する口腔衛生的観点を概説し、それぞれの研究課題とその解決方法について考える。	講義	秋房	事後レポートの提出
5	EBMに基づく口腔科学(1) 口腔疾患に対する基礎的研究を概観し、その研究手法を学び、最近注目されている課題について知る。	講義	引地	事後レポートの提出
6	EBMに基づく口腔科学(2) 口腔疾患に対する臨床的研究を概観し、その研究手法を学び、最近注目されている課題について知る。	講義	引地	事後レポートの提出
7	歯科衛生士の高等教育的観点(1) 社会情勢と口腔保健の変遷を鑑み、専門職のリーダーに必要な価値観や能力について学修する。	講義	中道	事後レポートの提出
8	歯科衛生士の高等教育的観点(2) 医学・看護学領域の教育手法を学び、口腔保健の高度な専門性を醸成するための教育手法について考える。	講義	中道	事後レポートの提出
9	Methodology(方法論)1 口腔状態および口腔疾患が全身状態と関係することを証明した過去から現在までの実験的方法について考える。	講義	園木	事後レポートの提出
10	Methodology(方法論)2 口腔状態および口腔疾患が全身状態と関係することを証明した過去から現在までの疫学的方法について考える。	講義	園木	事後レポートの提出
11	高次脳機能的観点(1) 視覚動物である人と嗅覚動物である他の哺乳類との摂食行動の相違を理解し、人の摂食行動の発現、遂行に關する視覚情報処理過程について考える。	講義	吉野	事後レポートの提出
12	高次脳機能的観点(2) 霊長類を対象とした神経生理学的研究および人を対象とした非侵襲的方法(PET、fMIR、fNIRSなど)により得られた最新の知見をもとに、記憶および認知などの高次脳機能について考える。	講義	吉野	事後レポートの提出
13	健康に対する栄養学観点(1) 健康または生活習慣病に対する栄養学的観点を概説し、それぞれの研究課題とその解決方法について考える。	講義	辻澤	事後レポートの提出
14	健康に対する栄養学観点(2) 健康または生活習慣病に対する栄養学的観点を概説し、それぞれの研究課題とその解決方法について考える。	講義	辻澤	事後レポートの提出
15	講義全体のまとめ	講義	全員	事後レポートの提出

2017年度

口腔健康学 (Oral Health Science)

開講年次	1～4年	期区分	通年	科目	主科目(研究)/副科目	単位数	4
授業方法	講義・演習	時間数	60	曜日		時限	
開講学科	歯学研究科 歯学専攻						
科目責任者	引地 尚子						
担当教員	日高 勝美、秋房 住郎、引地 尚子、中道 敦子、園木 一男、吉野 賢一、辻澤 利行						

授業の概要

口腔保健学領域の最新の動向を理解するため、国際学術雑誌の論文を抄読する。

学生の到達目標

1. 英語文献を読んで内容を理解する。
2. 抄読した論文の研究背景を説明できる。
3. 研究手法について詳細を説明できる。
4. 研究結果について詳細を説明できる。
5. 考察内容を批判的に説明できる。
6. 研究内容をわかりやすく伝えることができる。

テキスト

教員が供与した論文や参考書および各自が検索した関連分野の文献を利用する。

出) 著)

参考書

出) 著)

成績評価方法・基準

評価項目	割合
プレゼンテーション	50%
質疑応答	50%

その他

学生相談：随時

2017年度

口腔健康学 (Oral Health Science)

開講年次	1～4年	期区分	通年	科目	主科目(研究)/副科目	単位数	4
授業方法	講義・演習	時間数	60	曜日		時限	
開講学科	歯学研究科 歯学専攻						
科目責任者	引地 尚子						
担当教員	日高 勝美、秋房 住郎、引地 尚子、中道 敦子、園木 一男、吉野 賢一、辻澤 利行						

授業計画

回	学習内容	授業方法	担当教員	事前・事後学習 学習課題
1～30	口腔保健学領域の最新の動向を理解し、説明する。	演習	全員	論文検索・抄読、質問への事後レポート

2017年度

口腔健康学 (Oral Health Science)

開講年次	1～4年	期区分	通年	科目	主科目(研究)/副科目	単位数	4
授業方法	講義・演習	時間数	60	曜日		時限	
開講学科	歯学研究科 歯学専攻						
科目責任者	引地 尚子						
担当教員	日高 勝美、秋房 住郎、引地 尚子、中道 敦子、園木 一男、吉野 賢一、辻澤 利行						

授業の概要

大学院生の研究成果について、様々な領域の研究者である担当教員と討論し、研究の質を高めるとともに、プレゼンテーション能力の涵養も合わせて行う。

学生の到達目標

1. 自分が行っている研究内容を論理的に説明できる。
2. 自分が行っている研究背景を詳細に説明できる。
3. 質疑に対して適切に回答できる。

テキスト

指導教員が供与した論文や参考書および各自が検索した関連分野の文献を利用する。

出) (著)

参考書

出) (著)

成績評価方法・基準

評価項目	割合
プレゼンテーション	50%
質疑応答	50%

その他

学生相談：随時

2017年度

口腔健康学 (Oral Health Science)

開講年次	1~4年	期区分	通年	科目	主科目(研究)/副科目	単位数	4
授業方法	講義・演習	時間数	60	曜日		時限	
開講学科	歯学研究科 歯学専攻						
科目責任者	引地 尚子						
担当教員	日高 勝美、秋房 住郎、引地 尚子、中道 敦子、園木 一男、吉野 賢一、辻澤 利行						

授業計画

回	学習内容	授業方法	担当教員	事前・事後学習 学習課題
1~30	自分が行っている研究成果についてわかりやすく発表し、教員からの質疑に回答する。	演習	全員	論文検索・抄読、質問への事後レポート

2017年度

保健医療特論 (Training Program in Public Health and Social Security Policy)

開講年次	1～4年	期区分	通年	科目	主科目(研究)/副科目	単位数	2
授業方法	講義	時間数	30	曜日		時限	
開講学科	歯学研究科 歯学専攻						
科目責任者	福泉 隆喜						
担当教員	福泉 隆喜						

授業の概要

地域の中で生活する全ての人々の健康課題、なかでも歯科領域の課題について、疫学的な手法や社会制度との関わりに着目して研究に取り組む重要性について講義する。特に、我が国の社会保障制度のなかで、歯科保健医療や歯科医療従事者の果たす役割を研究するための基礎的知識を習得する。

学生の到達目標

1. 患者の尊厳、医の倫理、研究倫理を説明できる。
2. 健康と疾病の概念を説明できる。
3. 歯科医師法及び関連法規の基本的な考え方を説明できる。
4. 公衆衛生と歯科医療における予防の概念を説明できる。
5. 主な保健医療統計の概要を説明できる。

テキスト

出) 著)

参考書

- 国民衛生の動向
出) 著)厚生労働統計協会
- シンプル衛生公衆衛生学 2017
出)南江堂 著)辻一郎他
- 公衆衛生がみえる2016-2017(第2版)
出)メディックメディア 著)医療情報科学研究所(編)
- 歯科医療管理 - 医療の質と安全確保のために -
出)医歯薬出版 著)日本歯科医療管理学会(編集)

成績評価方法・基準

評価項目	割合
レポート	50%
口頭試問	50%

本科目は、遠隔講義による受講が可能である。

その他

学生相談：随時

2017年度

保健医療特論 (Training Program in Public Health and Social Security Policy)

開講年次	1～4年	期区分	通年	科目	主科目(研究)/副科目	単位数	2
授業方法	講義	時間数	30	曜日		時限	
開講学科	歯学研究科 歯学専攻						
科目責任者	福泉 隆喜						
担当教員	福泉 隆喜						

授業計画

回	学習内容	授業方法	担当教員	事前・事後学習 学習課題
1	社会と歯科医療 公衆衛生の基盤となる健康の概念、社会・環境との関わり、予防の概念について学習する。	講義	福泉	配付資料、参考書、文献の精読
2	社会と歯科医療 患者の尊厳とこれを支える医の倫理及び各種の規範等について学習する。	講義	福泉	配付資料、参考書、文献の精読
3	社会と歯科医療 歯科医療と社会との関わり、歯科医師の責務等について学習する。	講義	福泉	配付資料、参考書、文献の精読
4	医療保険制度 社会保障制度の全体像を理解し、社会保険のなかでも医療を支える国民皆保険制度等について学習する。	講義	福泉	配付資料、参考書、文献の精読
5	年金保険制度、労災保険制度 社会保険を構成する年金保険制度、労災保険制度について学習する。	講義	福泉	配付資料、参考書、文献の精読
6	介護保険制度 社会保険のひとつである介護保険制度について学習する。	講義	福泉	配付資料、参考書、文献の精読
7	雇用保険、社会福祉制度 社会保険のひとつである雇用保険制度、社会保障の構成要素である社会福祉及び公的扶助について学習する。	講義	福泉	配付資料、参考書、文献の精読
8	歯科医師と関連法規 歯科医師の責務や業務を規定する歯科医師法の概要を理解し、関連統計から歯科医師をめぐる現況について学習する。	講義	福泉	配付資料、参考書、文献の精読
9	歯科医師と関連法規 我が国における医療提供体制を規定する医療法の概要を理解し、医療に関する選択の支援及び医療の安全の確保について学習する。	講義	福泉	配付資料、参考書、文献の精読
10	歯科医師と関連法規 医療法に規定する病院、診療所等の管理、医療計画等の医療提供体制の確保について学習する。	講義	福泉	配付資料、参考書、文献の精読
11	歯科医師と関連法規 医薬品医療機器等法の概要を理解し、薬局の管理、医薬品の審査、医療機器と保険診療の関係等について学習する。	講義	福泉	配付資料、参考書、文献の精読
12	歯科医師と関連法規 医薬品医療機器等法に規定する広告規制、副作用報告等を理解し、毒劇物及び麻薬等の規制について学習する。	講義	福泉	配付資料、参考書、文献の精読
13	社会と人口統計 統計法の概要を理解し、基幹統計及び一般統計のうち、保健医療に関連する代表的な公的統計及びその代表的指標について学習する。	講義	福泉	配付資料、参考書、文献の精読
14	都道府県における歯科保健行政の実際 国が推進する歯科保健医療行政の動向を踏まえ、都道府県で実施されている歯科保健行政の具体的取組について学習する。	講義	福泉	配付資料、参考書、文献の精読
15	市町村における歯科保健行政の実際 国及び都道府県が推進する歯科保健医療行政の動向を踏まえ、市町村で実施されている歯科保健行政の具体的取組について学習する。	講義	福泉	配付資料、参考書、文献の精読

2017年度

保健医療特論 (Training Program in Public Health and Social Security Policy)

開講年次	1～4年	期区分	通年	科目	主科目(研究)/副科目	単位数	2
授業方法	講義	時間数	30	曜日		時限	
開講学科	歯学研究科 歯学専攻						
科目責任者	福泉 隆喜						
担当教員	福泉 隆喜						

授業の概要

疫学の基本的な考え方、地域歯科保健、学校歯科保健、健康増進、疾病予防、国際保健、精神保健など、各分野の保健事業と歯科医師の関与、根拠法令等について講義する。特に、各種保健事業における歯科医療従事者の果たす役割を研究するための基礎的知識を習得する。

学生の到達目標

1. 医療関係職種と及び関連法規の基本的な考え方を説明できる。
2. 保健、医療、福祉、介護に関連する社会制度、地域医療及び社会環境を説明できる。
3. 環境と健康との関わりを説明できる。
4. 集団レベルの予防と健康管理を説明できる。
5. 疫学と科学的根拠にもとづいた医療、保健医療統計の応用を説明できる。

テキスト

出) 著)

参考書

- 国民衛生の動向
出) 著)厚生労働統計協会
- シンプル衛生公衆衛生学 2017
出)南江堂 著)辻一郎他
- 公衆衛生がみえる2016-2017(第2版)
出)メディックメディア 著)医療情報科学研究所(編)
- 改訂7版 疫学マニュアル
出)南山堂 著)柳川 洋他

成績評価方法・基準

評価項目	割合
レポート	50%
口頭試問	50%

本科目は、遠隔講義による受講が可能である。

その他

学生相談：随時

2017年度

保健医療特論 (Training Program in Public Health and Social Security Policy)

開講年次	1～4年	期区分	通年	科目	主科目(研究)/副科目	単位数	2
授業方法	講義	時間数	30	曜日		時限	
開講学科	歯学研究科 歯学専攻						
科目責任者	福泉 隆喜						
担当教員	福泉 隆喜						

授業計画

回	学習内容	授業方法	担当教員	事前・事後学習 学習課題
1	医療関係職種と関連法規 歯科衛生士法、保健師助産師看護師法の概要や関連する政省令、法に基づく制度、就業の状況等について学習する。	講義	福泉	配付資料、参考書、文献の精読
2	医療関係職種と関連法規 歯科技工士法、薬剤師法、医師法の概要や関連する政省令、法に基づく制度、就業の状況等について学習する。	講義	福泉	配付資料、参考書、文献の精読
3	医療関係職種と関連法規 診療放射線技師法、言語聴覚士法、理学療法士及び作業療法士法、栄養士法等の関連職種の法の概要、就業の状況等について学習する。	講義	福泉	配付資料、参考書、文献の精読
4	成人保健 疾病構造の変化と生活習慣病の現状を理解し、市町村の健康増進事業、特定健診・特定保健指導、健康日本21(第2次)及び歯科口腔保健法に規定する目標値等について学習する。	講義	福泉	配付資料、参考書、文献の精読
5	地域保健、保健所 地域の公衆衛生の拠点となる保健所及び市町村保健センター等の業務を理解し、地域診断の重要性について学習する。	講義	福泉	配付資料、参考書、文献の精読
6	疫学と歯科医療 公衆衛生の基盤となる疫学の基本的な考え方、疫学的手法、研究手順、歯科医学への応用等について学習する。	講義	福泉	配付資料、参考書、文献の精読
7	疫学と歯科医療 疫学の各論を理解するため、具体的な疫学研究のトピックスを紹介し、研究デザインとエビデンスレベルについて学習する。	講義	福泉	配付資料、参考書、文献の精読
8	疫学と歯科医療 スクリーニングの概念を理解し、各種の疫学指標と研究デザインの関係等について学習する。	講義	福泉	配付資料、参考書、文献の精読
9	母子保健 小児の健やかな成長を支える母子保健の概要を把握し、我が国における母子保健施策について学習する。	講義	福泉	配付資料、参考書、文献の精読
10	健康増進 健康増進法の概要を把握し、市町村における健康づくり対策の現況について学習する。	講義	福泉	配付資料、参考書、文献の精読
11	国際保健 国際保健の概要及び公衆衛生において重要な疾病予防の概念を理解し、感染症法及び予防接種法に規定する各種の感染症対策について学習する。	講義	福泉	配付資料、参考書、文献の精読
12	学校保健 学童期における健康管理に重要な学校保健の概念を理解し、学校保健安全法に規定する各種の対策について学習する。	講義	福泉	配付資料、参考書、文献の精読
13	環境と健康 国民の健康に影響を及ぼす各種の環境因子等と環境基本法との関係を理解し、上下水道の衛生基準等について学習する。	講義	福泉	配付資料、参考書、文献の精読
14	精神保健福祉 精神保健福祉法の概要を理解し、精神保健福祉法及び医療観察法等について学習する。	講義	福泉	配付資料、参考書、文献の精読
15	高齢者介護 高齢化と要介護高齢者の現況を理解し、介護保険における口腔関連介護サービスの概要、老人福祉施設と介護保険施設との関係について学習する。	講義	福泉	配付資料、参考書、文献の精読

2017年度

保健医療特論 (Training Program in Public Health and Social Security Policy)

開講年次	1～4年	期区分	通年	科目	主科目(研究)/副科目	単位数	2
授業方法	講義	時間数	30	曜日		時限	
開講学科	歯学研究科 歯学専攻						
科目責任者	福泉 隆喜						
担当教員	福泉 隆喜						

2017年度

保健医療特論 (Training Program in Public Health and Social Security Policy)

開講年次	1～4年	期区分	通年	科目	主科目(研究)/副科目	単位数	2
授業方法	講義	時間数	30	曜日		時限	
開講学科	歯学研究科 歯学専攻						
科目責任者	福泉 隆喜						
担当教員	福泉 隆喜						

授業の概要

産業歯科保健、労務管理、医療安全管理（医薬品・医療機器の安全管理を含む）、医療情報管理、食品衛生、障害者保健福祉、医療過誤への対応等への対応策について講義する。特に、各種の制度上の位置付けや社会保障制度において必要とされる取組における歯科医療従事者の果たす役割を研究するための基礎的知識を習得する。

学生の到達目標

1. 環境と健康との関わりを説明できる。
2. 保健、医療、福祉、介護に関連する社会制度、地域医療及び社会環境を説明できる。
3. 事業所レベルの予防と健康管理を説明できる。
4. 保健医療情報の利用と管理方法を説明できる。
5. 患者本位の医療を実践するため、適切な説明を行った上で、患者の主体的な同意を得るために必要な対話能力と態度および考え方を説明できる。

テキスト

出) 著)

参考書

- 国民衛生の動向
出) 著)厚生労働統計協会
- シンプル衛生公衆衛生学 2017
出)南江堂 著)辻一郎他
- 公衆衛生がみえる2016-2017 (第2版)
出)メディックメディア 著)医療情報科学研究所(編)
- 改訂7版 疫学マニュアル
出)南山堂 著)柳川 洋他

成績評価方法・基準

評価項目	割合
レポート	50%
口頭試問	50%

本科目は、遠隔講義による受講が可能である。

その他

学生相談：随時

2017年度

保健医療特論 (Training Program in Public Health and Social Security Policy)

開講年次	1～4年	期区分	通年	科目	主科目(研究)/副科目	単位数	2
授業方法	講義	時間数	30	曜日		時限	
開講学科	歯学研究科 歯学専攻						
科目責任者	福泉 隆喜						
担当教員	福泉 隆喜						

授業計画

回	学習内容	授業方法	担当教員	事前・事後学習 学習課題
1	産業保健 労働者の健康管理を担う産業保健の概要を理解し、労働基準法及び労働安全衛生法に規定する労働者保護対策について学習する。	講義	福泉	配付資料、参考書、文献の精読
2	産業保健 労働者保護対策のひとつである労働契約法の概要を理解し、歯科医師の有期労働契約の取扱い及び医療契約の特徴について学習する。	講義	福泉	配付資料、参考書、文献の精読
3	医療情報とその管理 歯科診療に伴う診療録等の取扱いを理解し、歯科医師法、医療法、療養担当規則等における規定について学習する。	講義	福泉	配付資料、参考書、文献の精読
4	医療情報とその管理 歯科診療所における個人情報の取扱いを理解し、個人情報保護法、取扱いのためのガイドライン等における規定について学習する。	講義	福泉	配付資料、参考書、文献の精読
5	医薬品(生物製剤を含む)・医療機器の安全管理(医療法等) 歯科診療所における医薬品・医療機器の安全管理を理解し、医療法等における規定について学習する。	講義	福泉	配付資料、参考書、文献の精読
6	国民栄養と食品保健(国民健康・栄養調査、食品衛生法等) 国民健康・栄養調査の意義を理解し、国民の健康に密接に関わる食品衛生の概要及び食中毒の動向について学習する。	講義	福泉	配付資料、参考書、文献の精読
7	障害者保健福祉 障害者に対する保健福祉対策の概要を理解し、障害者総合支援法の制定に至る経緯、障害者権利条約、ノーマライゼーションについて学習する。	講義	福泉	配付資料、参考書、文献の精読
8	患者の視点から見た歯科医療 患者の尊厳、医の倫理等を理解し、歯科医師の責務に関する法的な位置付けを学習する。	講義	福泉	配付資料、参考書、文献の精読
9	コンフリクト・マネジメント 歯科診療所における医療紛争の原因等を理解し、これを解決する手法である医療メディエーションを学習する。	講義	福泉	配付資料、参考書、文献の精読
10	コンフリクト・マネジメント 医療紛争の解決法として注目される裁判外紛争解決手続きを理解し、医療訴訟の動向等を学習する。	講義	福泉	配付資料、参考書、文献の精読
11	最近の歯科保健医療行政の動向 保健医療論全般のまとめとして、最近の歯科保健医療行政の動向について学習する。	講義	福泉	配付資料、参考書、文献の精読
12	研究デザイン エビデンスレベル、各種研究デザインおよびアウトカム指標について、全体像を学習する。	講義	福泉	配付資料、参考書、文献の精読
13	研究デザイン 横断研究のデザイン・アウトカム指標や横断研究の利点・欠点について学習する。	講義	福泉	配付資料、参考書、文献の精読
14	研究デザイン コホート研究のデザイン・アウトカム指標やコホート研究の利点・欠点について学習する。	講義	福泉	配付資料、参考書、文献の精読
15	研究デザイン ランダム化比較試験(RCT)のデザイン・アウトカム指標やRCTの利点・欠点について学習する。	講義	福泉	配付資料、参考書、文献の精読

2017年度

保健医療特論 (Training Program in Public Health and Social Security Policy)

開講年次	1～4年	期区分	通年	科目	主科目(研究)	単位数	2
授業方法	講義・演習	時間数	30	曜日		時限	
開講学科	歯学研究科 歯学専攻						
科目責任者	福泉 隆喜						
担当教員	福泉 隆喜						

授業の概要

客観的資料に基づき、疾病・リスク・生活習慣の現状と変化を明らかにし、個々の健康政策の成果を評価するために必須である疫学的手法について講義する。特に、健康寿命の伸延及び健康格差の縮小並びに生活習慣病の発症予防及び重症化予防を研究するための基礎的知識を習得する。

学生の到達目標

1. 疫学研究と倫理を説明できる。
2. 疫学の基本的な手法を説明できる。
3. 健康寿命の伸延及び健康格差の縮小を説明できる。
4. 生活習慣病の発症予防及び重症化予防を説明できる。
5. 政策疫学の実践を説明できる。

テキスト

出) 著)

参考書

- 国民衛生の動向
出) 著)厚生労働統計協会
- シンプル衛生公衆衛生学 2017
出)南江堂 著)辻一郎他
- 公衆衛生がみえる2016-2017(第2版)
出)メディックメディア 著)医療情報科学研究所(編)
- 改訂7版 疫学マニュアル
出)南山堂 著)柳川 洋他

成績評価方法・基準

評価項目	割合
レポート	50%
演習の成果物	50%

本科目は、遠隔講義による受講が可能である。

その他

学生相談：随時

2017年度

保健医療特論 (Training Program in Public Health and Social Security Policy)

開講年次	1～4年	期区分	通年	科目	主科目(研究)	単位数	2
授業方法	講義・演習	時間数	30	曜日		時限	
開講学科	歯学研究科 歯学専攻						
科目責任者	福泉 隆喜						
担当教員	福泉 隆喜						

授業計画

回	学習内容	授業方法	担当教員	事前・事後学習 学習課題
1	疫学の意義と倫理 疫学の意義と目的、疫学研究の倫理、介入研究と対象者選択の妥当性について学習する。	講義・演習	福泉	配付資料、参考書、文献の精読
2	疾病頻度の測定 罹患率、累積罹患率、有病率、死亡率、致命率、相対頻度について学習する。	講義・演習	福泉	配付資料、参考書、文献の精読
3	曝露効果の測定 率の差と比、生存率、健康寿命について学習する。	講義・演習	福泉	配付資料、参考書、文献の精読
4	疫学研究手法 CASP(CRITICAL APPRAISAL SKILLS PROGRAMME)を用いて、学術論文の内容の吟味を行い、観察研究との違いを明確にして、学習する。	講義・演習	福泉	配付資料、参考書、文献の精読
5	標本調査 悉皆調査と標本調査、母集団と標本、無作為化、標本抽出の考え方、標本の大きさの決定法について学習する。	講義・演習	福泉	配付資料、参考書、文献の精読
6	誤差、偏りとその制御 誤差の分類、バイアス、交絡因子の排除、率の標準化について学習する。	講義・演習	福泉	配付資料、参考書、文献の精読
7	因果関係の判定 因果関係の判定基準、評価方法、危険因子と予防因子について学習する。	講義・演習	福泉	配付資料、参考書、文献の精読
8	疫学要因 宿主要因、環境要因、多要因病因論について学習する。	講義・演習	福泉	配付資料、参考書、文献の精読
9	スクリーニング スクリーニングの意義、評価方法、実施条件、プログラム評価、代表的なスクリーニングプログラムについて学習する。	講義・演習	福泉	配付資料、参考書、文献の精読
10	感染症の疫学 感染症発症の3条件、感染症の蔓延の指標、流行と宿主の抵抗力、病原体と感染経路、流行調査について学習する。	講義・演習	福泉	配付資料、参考書、文献の精読
11	病因疫学 病因疫学、リスク因子、分子疫学について学習する。	講義・演習	福泉	配付資料、参考書、文献の精読
12	政策疫学 ポピュレーションアプローチ、ハイリスクアプローチ、医療経済評価(アウトカム別分析)について学習する。	講義・演習	福泉	配付資料、参考書、文献の精読
13	調査計画の実際 調査項目の選定、情報収集方法、調査票の作成、データ解析の流れについて学習する。	講義・演習	福泉	配付資料、参考書、文献の精読
14	疫学解析手法 分割表、回帰と相関、検定法の実際、多変量解析について学習する。	講義・演習	福泉	配付資料、参考書、文献の精読
15	統計図表の作成 図表作成の原則、統計図表の形式と特徴について学習する。	講義・演習	福泉	配付資料、参考書、文献の精読

2017年度

保健医療特論演習 (Practice of Public Health and Social Security Policy)

開講年次	1～4年	期区分	通年	科目	主科目(研究)/副科目	単位数	2
授業方法	演習	時間数	30	曜日		時限	
開講学科	歯学研究科 歯学専攻						
科目責任者	福泉 隆喜						
担当教員	福泉 隆喜						

授業の概要

2年ごとに改定される診療報酬制度と3年ごとに改定される介護報酬制度について、それぞれの直近の変更点と制度改正に至る背景を解析する。また、社会医療診療行為別調査、介護給付費実態調査をはじめとする各報酬に関連する統計調査から、制度改正後の動向を把握し、政策調査の活用法とシミュレーションを行うための研究手法を習得する。

学生の到達目標

1. 診療報酬制度と介護報酬制度を説明できる。
2. 社会医療診療行為別調査、介護給付費実態調査をはじめとする各報酬に関連する統計調査を説明できる。
3. 政策調査の活用とシミュレーションを実践できる。

テキスト

厚生労働統計一覧 <http://www.mhlw.go.jp/toukei/itiran/>
出) 著)

政府統計の総合窓口 (e-Stat) <http://www.e-stat.go.jp/SG1/estat/eStatTopPortal.do>
出) 著)

参考書

国民衛生の動向
出) 著)厚生労働統計協会

保険と年金の動向
出) 著)厚生労働統計協会

国民の福祉と介護の動向
出) 著)厚生労働統計協会

成績評価方法・基準

評価項目	割合
出席	30%
シミュレーション結果	25%
プレゼンテーション能力	25%
質疑応答能力	20%

本科目は、毎年実施内容が異なるため、8単位まで取得可能である。
本科目は、遠隔講義による受講が可能である。

その他

学生相談：随時

2017年度

保健医療特論演習 (Practice of Public Health and Social Security Policy)

開講年次	1～4年	期区分	通年	科目	主科目(研究)/副科目	単位数	2
授業方法	演習	時間数	30	曜日		時限	
開講学科	歯学研究科 歯学専攻						
科目責任者	福泉 隆喜						
担当教員	福泉 隆喜						

授業計画

回	学習内容	授業方法	担当教員	事前・事後学習 学習課題
1～15	<p>制度改正の背景、各報酬に関連する統計調査結果との関係等を理解し、政策調査の活用とシミュレーションを実践する。</p> <p>シミュレーションの結果をプレゼンテーションし、今後の動向予測について意見交換する。</p>	<p>政策調査の活用とシミュレーションに関する演習、</p> <p>プレゼンテーション及び意見交換</p>	福泉	<p>配付資料、参考書、文献の精読及び関連分野の調査</p>

2017年度

保健医療特論演習 (Practice of Public Health and Social Security Policy)

開講年次	1～4年	期区分	通年	科目	主科目(研究)/副科目	単位数	2
授業方法	演習	時間数	30	曜日		時限	
開講学科	歯学研究科 歯学専攻						
科目責任者	福泉 隆喜						
担当教員	福泉 隆喜						

授業の概要

厚生労働統計のうち、保健衛生分野（医療施設調査、病院報告、患者調査、受療行動調査、国民健康・栄養調査、衛生行政報告例、国民医療費、医師・歯科医師・薬剤師調査、歯科疾患実態調査、無歯科医地区等調査等）、人口・世帯分野（人口動態調査、生命表、国民生活基礎調査等）、社会福祉分野（福祉行政報告例、被保護者調査等）、老人保健福祉分野（介護サービス施設・事業所調査、介護保険事業状況報告等）、社会保障分野（所得再配分調査等）の各領域について、最新の動向を把握し、政策研究への活用法とシミュレーションを行うための研究手法を習得する。また、学校保健統計等についても、同様の手法で学習する。

学生の到達目標

1. 厚生労働統計等の特徴を説明できる。
2. 厚生労働統計の各領域の概要等を説明できる。
3. 各統計の政策研究への活用とシミュレーションを実践できる。

テキスト

厚生労働統計一覧 <http://www.mhlw.go.jp/toukei/itiran/>
出) 著)

政府統計の総合窓口(e-Stat) <http://www.e-stat.go.jp/SG1/estat/eStatTopPortal.do>
出) 著)

参考書

国民衛生の動向
出) 著)厚生労働統計協会

保険と年金の動向
出) 著)厚生労働統計協会

国民の福祉と介護の動向
出) 著)厚生労働統計協会

成績評価方法・基準

評価項目	割合
出席	30%
シミュレーションの成果	25%
プレゼンテーション能力	25%
質疑応答能力	20%

本科目は、毎年実施内容が異なるため、8単位まで取得可能である。
本科目は、遠隔講義による受講が可能である。

その他

学生相談：随時

2017年度

保健医療特論演習 (Practice of Public Health and Social Security Policy)

開講年次	1～4年	期区分	通年	科目	主科目(研究)/副科目	単位数	2
授業方法	演習	時間数	30	曜日		時限	
開講学科	歯学研究科 歯学専攻						
科目責任者	福泉 隆喜						
担当教員	福泉 隆喜						

授業計画

回	学習内容	授業方法	担当教員	事前・事後学習 学習課題
1～15	厚生労働統計の各領域の結果の動向を把握し、政策研究の活用とシミュレーションを 実践する。 シミュレーションの結果をプレゼンテーションし、今後の動向予測について意見交換 する。	厚生労働統計の政策研究への 活用とシミュレーションに関 する演習、 プレゼンテーション及び意見 交換	福泉	配付資料、参 考書、文献の 精読及び関連 分野の調査

2017年度

保健医療特論講究 (Colloquium of Public Health and Social Security Policy)

開講年次	1～4年	期区分	通年	科目	主科目(研究)/副科目	単位数	2
授業方法	演習	時間数	30	曜日		時限	
開講学科	歯学研究科 歯学専攻						
科目責任者	福泉 隆喜						
担当教員	福泉 隆喜						

授業の概要

歯科保健医療に関連する最新の研究動向を理解するために、文献を詳読する。また、各自の研究の進捗状況をプレゼンテーションし、今後の研究の展開について意見交換する。

学生の到達目標

1. 文献を詳読することで、批判的思考力を習得できる。
2. 当該研究の背景及び研究手法を理解できる。
3. 自身の研究結果を他者に正確に説明することができる。

テキスト

出) (著)

参考書

紹介する論文、関連文献及び参考図書は、各自必要なものを選別する。
出) (著)

成績評価方法・基準

評価項目	割合
出席	30%
文献の理解度	25%
プレゼンテーション能力	25%
質疑応答能力	20%

本科目は、毎年実施内容が異なるため、8単位まで取得可能である。
本科目は、遠隔講義による受講が可能である。

その他

学生相談：随時

2017年度

保健医療特論講究 (Colloquium of Public Health and Social Security Policy)

開講年次	1～4年	期区分	通年	科目	主科目(研究)/副科目	単位数	2
授業方法	演習	時間数	30	曜日		時限	
開講学科	歯学研究科 歯学専攻						
科目責任者	福泉 隆喜						
担当教員	福泉 隆喜						

授業計画

回	学習内容	授業方法	担当教員	事前・事後学習 学習課題
1～15	研究の背景、研究手法、研究結果及び関連分野の研究の今後の動向を理解する。 研究の進捗状況をプレゼンテーションし、今後の研究の展開について意見交換する。	文献紹介及び討論、 プレゼンテーション及び意見交換	福泉	文献の詳読及び関連分野の調査

2017年度

プライマリ・ケア (ベーシックコース) (Primary Dental Care (Clinical Basic Course))

開講年次	1年	期区分	通年	科目	臨床主科目	単位数	4
授業方法	実習	時間数	120	曜日		時限	
開講学科	歯学研究科 歯学専攻						
科目責任者	栗野 秀慈						
担当教員	栗野 秀慈 村岡 宏祐						

授業の概要

全人的歯科医療を習得するための、プライマリ・ケアを臨床の現場で実践する。

学生の到達目標

- 1) 患者中心の歯科医療を実施するための医療面接を実践する。
- 2) 医療安全・感染予防対策を実践する。
- 3) EBMに基づいた総合治療計画を立案する。
- 4) EBMに基づいた歯科疾患の予防・治療・管理を実践する。
- 5) 歯科医師の社会的役割を果たすために必要な医療管理を実践する。

テキスト

出) 著)

参考書

新臨床研修歯科医ハンドブック

出)医歯薬出版

著)栗野秀慈 他

EBMの正しい理解と実践 Q&A

出)羊土社

著)能登 洋

全科実例による 社会保険歯科診療 平成29年4月版

出)医歯薬出版

著)

必要に応じたその他参考書

出)

著)

成績評価方法・基準

評価項目	割合
実地ならびにレポートなどで総合評価する。	100%

その他

2017年度

プライマリ・ケア (ベーシックコース) (Primary Dental Care (Clinical Basic Course))

開講年次	1年	期区分	通年	科目	臨床主科目	単位数	4
授業方法	実習	時間数	120	曜日		時限	
開講学科	歯学研究科 歯学専攻						
科目責任者	栗野 秀慈						
担当教員	栗野 秀慈 村岡 宏祐						

授業計画

回	学習内容	授業方法	担当教員	事前・事後学習 学習課題
1-4	オリエンテーション プライマリ・ケアについて理解する。 診療室のシステム、感染予防対策、電子カルテシステムについて学ぶ。	講義・実習	栗野 村岡	事後レポート の提出
5-6	保険診療の概要 日常の歯科診療で必要となる基本的な保険診療の流れについて学び実践する。	講義・実習	栗野 村岡	学習内容に関 して事前学習 事後レポート の提出
7-8	診療に必要な患者記録の概要 口腔内写真の撮影方法、デジタルX線撮影の撮影方法ならびに歯科診療に必要な検査の 方法・記録方法について学び実践する。	実習	栗野 村岡	学習内容に関 して事前学習 事後レポート の提出
9-10	EBMの検索方法 日頃の診療活動で必要になるEBMの検索方法について学び実践する。	実習	栗野 村岡	学習内容に関 して事前学習 事後レポート の提出
11-12	医療安全 様々な医療事故を予防する対策とトラブルが起きた時の対応について学び実践する。	実習	栗野 村岡	学習内容に関 して事前学習 事後レポート の提出
13-16	医療面接ならびに治療計画の立案 患者の医療面接ならびに診査・診断の後、EBMに基づく総合治療計画を立案する。	実習	栗野 村岡	学習内容に関 して事前学習 事後レポート の提出
17-24	歯科疾患の治療(1) う蝕の診査、診断およびMIに基づいた治療法について学び実践する。	講義・実習	栗野 村岡	学習内容に関 して事前学習 事後レポート の提出
25-32	歯科疾患の治療(2) 歯周疾患の診査、診断および治療法について学び実践する。	講義・実習	栗野 村岡	学習内容に関 して事前学習 事後レポート の提出
33-40	歯科疾患の治療(3) 歯内療法に必要な診査、診断および治療法について学び実践する。	講義・実習	栗野 村岡	学習内容に関 して事前学習 事後レポート の提出
41-44	歯科疾患の治療(4) 基本的な抜歯ならびに小手術に必要な診査、診断および治療法について学び実践する。 。	講義・実習	栗野 村岡	学習内容に関 して事前学習 事後レポート の提出
45-52	補綴治療の実際(1) 歯冠修復ならびに欠損に対する固定式補綴修復処置に必要な診査、診断および治療法 について学び実践する。	講義・実習	栗野 村岡	学習内容に関 して事前学習 事後レポート の提出
53-60	補綴治療の実際(2) 欠損に対する可撤式補綴修復処置に必要な診査、診断および治療法について学び実践 する。	講義・実習	栗野 村岡	学習内容に関 して事前学習 事後レポート の提出

2017年度

プライマリ・ケア (アドバンスコース) (Primary Dental Care (Clinical Advance Course))

開講年次	2～4年	期区分	通年	科目	臨床主科目	単位数	4
授業方法	実習	時間数	120	曜日		時限	
開講学科	歯学研究科 歯学専攻						
科目責任者	栗野秀慈						
担当教員	栗野 秀慈 村岡宏祐 邵 仁浩						

授業の概要

患者のQOLの向上につながるプライマリ・ケアを臨床の現場で実践し、専門的な臨床能力の向上を図る。

学生の到達目標

- あらゆる臨床の現場で医療安全・感染予防対策を実践する。
- 患者のライフステージに応じた総合治療計画を立案し、歯科疾患の予防・治療・管理を実践する。
- 専門家と連携し患者を中心としたチーム医療を実践する。
- 地域包括ケアを理解し、地域医療を実践する。

テキスト

出) 著)

参考書

新臨床研修歯科医ハンドブック

出)医歯薬出版

著)栗野秀慈 他

EBMの正しい理解と実践 Q&A

出)羊土社

著)能登 洋

全科実例による社会保険歯科診療

出)医歯薬出版

著)

必要に応じてその他参考書を参照

出)

著)

成績評価方法・基準

評価項目	割合
実地ならびにレポートなどで総合評価	100%

その他

2017年度

プライマリ・ケア (アドバンスコース) (Primary Dental Care (Clinical Advance Course))

開講年次	2～4年	期区分	通年	科目	臨床主科目	単位数	4
授業方法	実習	時間数	120	曜日		時限	
開講学科	歯学研究科 歯学専攻						
科目責任者	栗野秀慈						
担当教員	栗野 秀慈						
	村岡宏祐 邵 仁浩						

授業計画

回	学習内容	授業方法	担当教員	事前・事後学習 学習課題
1-2	オリエンテーション プライマリ・ケアの専門性について学ぶ	講義	栗野	学習内容に関して事前学習し、事後レポートを提出する。
3-4	ライフステージに応じたプライマリ・ケア(1) 母子・妊産婦・子育て期における患者の特性を理解しプライマリ・ケアを実践する。	実習	栗野 村岡	学習内容に関して事前学習し、事後レポートを提出する。
5-6	ライフステージに応じたプライマリ・ケア(2) 学童・思春期における患者の特性を理解しプライマリ・ケアを実践する。	実習	栗野 村岡	学習内容に関して事前学習し、事後レポートを提出する。
7-8	カリエスリスク評価の実際 初期う蝕の診断(ICDAS)の方法、ならびに唾液や歯垢を用いたう蝕原性細菌の検出などのカリエスリスク検査の方法を学び、カリエスリスク評価に基づいたう蝕予防・治療・管理を実践する。	実習	栗野 村岡	学習内容に関して事前学習し、事後レポートを提出する。
9-20	ライフステージに応じたプライマリ・ケア(3) 成人期における患者の特性を理解しプライマリ・ケアを実践する。	実習	栗野 村岡	学習内容に関して事前学習し、事後レポートを提出する。
21-22	歯周疾患のリスク評価の実際 歯垢中の歯周病原性細菌の検査等による歯周疾患のリスク評価の方法を学び、リスク評価に基づいた歯周疾患の予防・治療・管理を実践する。	実習	栗野 村岡	学習内容に関して事前学習し、事後レポートを提出する。
23-28	歯周外科処置の実際 歯肉剥離搔爬術などの基本的な歯周外科の術式を学び、プライマリ・ケアの中で実践する。	実習	村岡	学習内容に関して事前学習し、事後レポートを提出する。
29-36	ライフステージに応じたプライマリ・ケア(4) 高齢期における患者の特性を理解しプライマリ・ケアを実践する。	実習	栗野 村岡	学習内容に関して事前学習し、事後レポートを提出する。
37-40	ドライマウス患者への対応の実際 口臭症、舌痛症や味覚・嚥下障害など様々な口腔の症状に影響するドライマウスの診断・治療法を学び、プライマリ・ケアの中で実践する	実習	栗野 村岡	学習内容に関して事前学習し、事後レポートを提出する。
44-52	ライフステージに応じたプライマリ・ケア(5) 有病高齢者に対する地域包括ケアを学び、実際の現場でチーム医療ならびに地域医療におけるプライマリ・ケアを実践する。	実習	栗野 村岡	学習内容に関して事前学習し、事後レポートを提出する。

2017年度

プライマリ・ケア (アドバンスコース) (Primary Dental Care (Clinical Advance Course))

開講年次	2～4年	期区分	通年	科目	臨床主科目	単位数	4
授業方法	実習	時間数	120	曜日		時限	
開講学科	歯学研究科 歯学専攻						
科目責任者	栗野秀慈						
担当教員	栗野 秀慈 村岡宏祐 邵 仁浩						

回	学習内容	授業方法	担当教員	事前・事後学習 学習課題
53-60	周術期口腔管理の実際 周術期管理について学び、実際の現場でチーム医療ならびに周術期口腔管理を実践する。	実習	栗野 邵	学習内容に関して事前学習し、事後レポートを提出する。

2017年度

プライマリ・ケア（症例検討）（Primary Dental Care (Clinical Conference)）

開講年次	1～4年	期区分	通年	科目	研究主科目（臨床）副科目	単位数	2
授業方法	演習	時間数	30	曜日		時限	
開講学科	歯学研究科 歯学専攻						
科目責任者	栗野 秀慈						
担当教員	栗野 秀慈 村岡 宏祐						

授業の概要

ケーススタディを通して、プライマリ・ケアの実践に必要な最新の専門的知見を収集し問題解決能力の向上を図っていく。

学生の到達目標

- 1) 患者情報から問題点をリストアップする。
- 2) 最新のEBMに基づいた一口腔単位の包括的な治療計画を立案する。
- 3) 様々な専門分野の国際学会誌を通じて最新の歯科治療情報を収集する。
- 4) ケースプレゼンテーションに必要な資料を準備し発表する。

テキスト

出) (著)

参考書

Journal of Dental Research

出) SAGE journals (著)

Journal of Clinical Periodontology

出) Wiley Online Library (著)

Oral Surgery, Oral Medicine, Oral Pathology, Oral Radiology

出) Elsevier (著)

Caries Research

出) Karger Publishers (著)

必要に応じた国際学会誌他、参考書

出) (著)

成績評価方法・基準

評価項目	割合
ケースプレゼンテーションに際しての発表内容ならびに質疑応答の内容を評価する。	100%

その他

2017年度

プライマリ・ケア (症例検討) (Primary Dental Care (Clinical Conference))

開講年次	1～4年	期区分	通年	科目	研究主科目(臨床)副科目	単位数	2
授業方法	演習	時間数	30	曜日		時限	
開講学科	歯学研究科 歯学専攻						
科目責任者	栗野 秀慈						
担当教員	栗野 秀慈						
	村岡 宏祐						

授業計画

回	学習内容	授業方法	担当教員	事前・事後学習 学習課題
1-15	ケースプレゼンテーション プライマリ・ケアの実践を通じて担当したケースを中心にケーススタディを行い、EBMや治療方法などの最新の歯科情報を学ぶ。	症例検討会	栗野 村岡	ケースプレゼンテーションの準備ならびにプレゼンテーションを通じて得た課題をレポートでまとめる。

2017年度

歯科総合臨床教育研究学 1 (Educational Research of Comprehensive Clinical Dentistry)

開講年次	1～2年	期区分	通年	科目	研究主科目(講義・演習)	単位数	2
授業方法	講義・演習	時間数	30	曜日		時限	
開講学科	歯学研究科 歯学専攻						
科目責任者	栗野 秀慈						
担当教員	栗野 秀慈 村岡 宏祐						

授業の概要

大学院生として必要な総合的な研究能力を向上させるため、歯科医学の発展のため行われている様々な分野の基礎研究、臨床研究、疫学研究として教育研究について学んでいく。

学生の到達目標

- 1) Pubmedを使って必要な文献を検索し見つける。
- 2) 英語論文を読み、説明する。
- 3) 研究計画を立案する。
- 4) 研究に必要な統計分析方法を修得する。
- 5) 質問紙表を作成する。

テキスト

出) (著)

参考書

医療統計学入門

出)オーム社

著)比江島欣慎

超!文献管理ソリューション PubMed / 医中誌検索からクラウド活用まで

出)学研メディカル秀潤社

著)讃岐美智義

図解 アンケート調査と統計解析がわかる本[新版]

出)日本能率総合マネジメントセンタ 著)酒井 隆

必要に応じてその他参考書を参照

出)

著)

成績評価方法・基準

評価項目	割合
プレゼンテーションの評価	40%
レポートの内容の評価	40%
質問紙表の評価	20%

その他

2017年度

歯科総合臨床教育研究学 1 (Educational Research of Comprehensive Clinical Dentistry)

開講年次	1~2年	期区分	通年	科目	研究主科目(講義・演習)	単位数	2
授業方法	講義・演習	時間数	30	曜日		時限	
開講学科	歯学研究科 歯学専攻						
科目責任者	栗野 秀慈						
担当教員	栗野 秀慈 村岡 宏祐						

授業計画

回	学習内容	授業方法	担当教員	事前・事後学習 学習課題
1-6	最新の歯科医学に関連する学術論文の紹介 歯科医学に関連する英語論文をPubMedを使って検索し、その内容に関してプレゼンテーションを行う。	発表・討論	栗野 村岡	抄読会の準備 文献検索及び精読、プレゼンテーションの準備を事前に行う。
7-10	統計解析方法を学ぶ 実際のデータを統計解析ソフトを使って解析する。	講義・演習	栗野 村岡	統計解析ソフトならびに基本的な統計分析に関して事前学習する。 解析結果は事後レポートで提出する。
11-13	研究計画の立案 研究テーマに沿って研究計画を立案し発表する。	講義・演習 発表・討論	栗野 村岡	研究計画の立案に必要な文献を事前に準備する。 研究計画書をレポートで事後に提出する。
14-15	質問紙表の作成 様々な場面で使用するアンケート調査のための質問紙表を実際に作成する。	講義・演習 発表・討論	栗野 村岡	質問紙表の作成に必要な文献を事前に準備する。 作成した質問紙表を事後提出する。

2017年度

歯科総合臨床教育研究学 2 (Educational Research of Comprehensive Clinical Dentistry)

開講年次	3～4年	期区分	通年	科目	研究主科目（講義・演習）	単位数	2
授業方法	講義・演習	時間数	30	曜日		時限	
開講学科	歯学研究科 歯学専攻						
科目責任者	栗野 秀慈						
担当教員	栗野 秀慈						
	村岡 宏祐						

授業の概要

自分の研究テーマに関連する専門分野の最新の知見を学びながら研究活動を実践し、最終的に研究成果をまとめて報告することによって研究を遂行するために必要な総合的な研究マネジメント能力を養成する。

学生の到達目標

- 1) 自分の研究内容に関連する最新の知見を含んだ英語論文の内容を理解し発表する。
- 2) 研究活動の経過をまとめて課題・問題点を抽出する。
- 3) 学会発表ならびに論文作成に必要な研究データの整理・分析を行う。
- 4) 学会発表に必要な発表用のスライドまたはポスターを作成する。
- 5) 国際学術誌に投稿するための英語論文を作成する。

テキスト

出) _____ 著)

参考書

出) _____ 著)

成績評価方法・基準

評価項目	割合
発表内容の評価	100%

その他

2017年度

歯科総合臨床教育研究学 2 (Educational Research of Comprehensive Clinical Dentistry)

開講年次	3～4年	期区分	通年	科目	研究主科目（講義・演習）	単位数	2
授業方法	講義・演習	時間数	30	曜日		時限	
開講学科	歯学研究科 歯学専攻						
科目責任者	栗野 秀慈						
担当教員	栗野 秀慈						
	村岡 宏祐						

授業計画

回	学習内容	授業方法	担当教員	事前・事後学習 学習課題
1-15	研究報告ならびに関連する最新の英語論文の内容を発表する。	発表・討論	栗野 村岡	事前に研究成果及び関連する参考文献の内容をまとめる。

2017年度

総合診療学 1 (ベーシックコース) (Comprehensive dentistry (Basic course))

開講年次	1～3年	期区分	通年	科目	主科目(臨床)	単位数	4
授業方法	実習	時間数	120	曜日		時限	
開講学科	歯学研究科 歯学専攻						
科目責任者	木尾 哲朗						
担当教員	木尾 哲朗、永松 浩、鬼塚 千絵 (臨床研修指導歯科医)木尾哲朗、永松浩、鬼塚千絵、曾我部浩一 (日本歯科医療管理学会認定医)木尾哲朗、鬼塚千絵 (日本矯正歯科学会指導医および認定医)木尾哲朗 (日本総合歯科学会指導医および認定医)木尾哲朗、永松浩、鬼塚千絵 (日本口腔外科学会専門医)曾我部浩一						

授業の概要

患者に全人的治療を行うためにこれまでの習得してきた知識・技能・態度の集大成として、臨床の場で実践し、習熟する。

学生の到達目標

1. 全人的歯科医療を行うための知識、技能および態度を修得できる。
2. プライマリケアを行うための知識および技能を修得できる。
3. 総合診療計画の立案ができる。
4. チーム医療の意識を高める。

テキスト

出) (著)

参考書

必修 臨床研修歯科医ハンドブック
出)医歯薬出版 (著)

患者ニーズにマッチした歯科医療面接の実際
出)クインテッセンス出版 (著)[編著]伊藤孝訓、寺中敏夫

その他の参考書を読む。
出) (著)

成績評価方法・基準

評価項目	割合
レポート提出・症例発表等	100%

レポート提出(5例)、症例発表(2例)初期治療5例、保存修復治療5例をミニマムリクワイアメントとする。

その他

学生相談：随時

2017年度

総合診療学 1 (ベーシックコース) (Comprehensive dentistry (Basic course))

開講年次	1～3年	期区分	通年	科目	主科目(臨床)	単位数	4
授業方法	実習	時間数	120	曜日		時限	
開講学科	歯学研究科 歯学専攻						
科目責任者	木尾 哲朗						
担当教員	木尾 哲朗、永松 浩、鬼塚 千絵 (臨床研修指導歯科医)木尾哲朗、永松浩、鬼塚千絵、曾我部浩一 (日本歯科医療管理学会認定医)木尾哲朗、鬼塚千絵 (日本矯正歯科学会指導医および認定医)木尾哲朗 (日本総合歯科学会指導医および認定医)木尾哲朗、永松浩、鬼塚千絵 (日本口腔外科学会専門医)曾我部浩一						

授業計画

回	学習内容	授業方法	担当教員	事前・事後学習 学習課題
1	オリエンテーション 年間予定について理解する。	講義	木尾	-
2～3	印象採得概説 印象採得から研究用模型作製までの必要な知識を身につける。	講義・実習	木尾 永松 鬼塚 曾我部	印象採得の分類
4～8	印象採得 目的にあわせた印象採得の方法を実践から学ぶ。研究用模型のための印象採得法について学ぶ。保存修復のための印象採得法について学ぶ。欠損補綴のための印象採得法について学ぶ。矯正治療のための印象採得法について学ぶ。	実習	木尾 永松 鬼塚 曾我部	個人トレー・ 個歯トレー 辺縁封鎖 連合印象採得
9～14	研究用模型作製 スタディモデルの作製方法を実践から学ぶ。	実習	木尾 永松 鬼塚 曾我部	研究用模型
15～22	診療資料の収集(写真撮影等) 口腔内写真の撮影の仕方を実践から学ぶ。リングストロボ・デジタルカメラの取り扱いを学ぶ。歯周組織検査について学ぶ。	実習	木尾 永松 鬼塚 曾我部	口腔内写真 歯周組織検査
23～24	他科経由患者の解釈(CTレントゲン・血液検査等)と検査依頼方法 検査依頼の文書の書き方を学び、実践で他科に依頼する。パノラマエックス線写真・CT・MRI等の読影法を学ぶ。臨床検査値を解釈し病態を学ぶ。	講義・実習	木尾 永松 鬼塚 曾我部	パノラマ CT MRI 臨床検査
25～29	医療面接1 初診時医療面接について、模擬患者と実践をふまえながら学ぶ。良好な患者 医療者関係を構築する。傾聴や共感等のコミュニケーションスキルを実践する。	実習	木尾 永松 鬼塚 曾我部	コミュニケーションスキル
30～34	医療面接2 患者に寄り添う医療面接の方法について実践をふまえながら学ぶ。診断を念頭に置いた推理推論について学ぶ。	実習	木尾 永松 鬼塚 曾我部	推理推論 ナラティブ
35～37	診療システムと診療姿勢 治療計画と診療マネージメントについて学ぶ。ミラーテクニック・Pdについて学ぶ。	-	木尾 永松 鬼塚 曾我部	ミラーテクニ ック Pd
38～41	歯内治療 歯の解剖学的形態からみる歯内治療の基本、手技について実践を踏まえながら学ぶ。	実習	木尾 永松 鬼塚 曾我部	歯の解剖 歯内治療 ミラーテクニ ック
42～45	歯周基本治療 歯周基本治療について一連の流れで実践をふまえながら学ぶ。保険診療のルールを学ぶ。	実習	木尾 永松 鬼塚 曾我部	歯周基本治療 保険診療
46～49	歯の硬組織疾患治療 う蝕治療について実践をふまえながら学ぶ。MIの概念と実施について学ぶ。	実習	木尾 永松 鬼塚 曾我部	MI

2017年度

総合診療学 1 (ベーシックコース) (Comprehensive dentistry (Basic course))

開講年次	1~3年	期区分	通年	科目	主科目(臨床)	単位数	4
授業方法	実習	時間数	120	曜日		時限	
開講学科	歯学研究科 歯学専攻						
科目責任者	木尾 哲朗						
担当教員	木尾 哲朗、永松 浩、鬼塚 千絵 (臨床研修指導歯科医)木尾哲朗、永松浩、鬼塚千絵、曾我部浩一 (日本歯科医療管理学会認定医)木尾哲朗、鬼塚千絵 (日本矯正歯科学会指導医および認定医)木尾哲朗 (日本総合歯科学会指導医および認定医)木尾哲朗、永松浩、鬼塚千絵 (日本口腔外科学会専門医)曾我部浩一						

回	学習内容	授業方法	担当教員	事前・事後学習 学習課題
50~54	歯科矯正処置 歯科矯正処置について、実際例を見学しながら学ぶ。MTMについて学ぶ。	実習	木尾 永松 鬼塚 曾我部	タイポドント MTM
55~57	プレゼンテーション資料の作成 口腔内写真のトリミングの仕方を学ぶ。歯周組織検査表やPCRの取り込み方を学ぶ。	実習	木尾 永松 鬼塚 曾我部	トリミング デジタル画像 の取り扱い
58~60	症例発表準備と発表 症例発表用のプレゼンテーションファイルの作成について学び、症例発表を行う。	実習	木尾 永松 鬼塚 曾我部	-プレゼンテー ション

2017年度

総合診療学 2 (アドバンスコース) (Comprehensive dentistry (advanced course))

開講年次	2～4年	期区分	通年	科目	主科目(臨床)	単位数	4
授業方法	実習	時間数	120	曜日		時限	
開講学科	歯学研究科 歯学専攻						
科目責任者	木尾 哲朗						
担当教員	木尾 哲朗、永松 浩、鬼塚 千絵 (臨床研修指導歯科医) 木尾哲朗、永松浩、鬼塚千絵、曾我部浩一 (日本歯科医療管理学会認定医) 木尾哲朗、鬼塚千絵 (日本矯正歯科学会指導医および認定医) 木尾哲朗 (日本総合歯科学会指導医および認定医) 木尾哲朗、永松浩、鬼塚千絵 (日本口腔外科学会専門医) 曾我部浩一						

授業の概要

患者に全人的治療を行うためにこれまでの習得してきた知識・技能・態度の集大成として、臨床の場で実践し、習熟する。

学生の到達目標

1. 全人的歯科医療を行うための知識、技能および態度を修得できる。
2. プライマリケアを実施できる。
3. 総合診療計画を実施できる。

テキスト

出) 著)

参考書

必修 臨床研修歯科医ハンドブック

出) 医歯薬出版 著)

患者ニーズにマッチした歯科医療面接の実際

出) クインテッセンス出版 著)[編著] 伊藤孝訓、寺中敏夫

その他の参考書を読む

出) 著)

成績評価方法・基準

評価項目	割合
レポート提出・症例発表等	100%

レポート提出(5例)、症例発表(2例) 初期治療5例、保存修復治療5例をミニマムリクワイアメントとする。

その他

学生相談：随時

2017年度

総合診療学 2 (アドバンスコース) (Comprehensive dentistry (advanced course))

開講年次	2～4年	期区分	通年	科目	主科目(臨床)	単位数	4
授業方法	実習	時間数	120	曜日		時限	
開講学科	歯学研究科 歯学専攻						
科目責任者	木尾 哲朗						
担当教員	木尾 哲朗、永松 浩、鬼塚 千絵 (臨床研修指導歯科医)木尾哲朗、永松浩、鬼塚千絵、曾我部浩一 (日本歯科医療管理学会認定医)木尾哲朗、鬼塚千絵 (日本矯正歯科学会指導医および認定医)木尾哲朗 (日本総合歯科学会指導医および認定医)木尾哲朗、永松浩、鬼塚千絵 (日本口腔外科学会専門医)曾我部浩一						

授業計画

回	学習内容	授業方法	担当教員	事前・事後学習 学習課題
1～4	オリエンテーション・医療面接1 年間スケジュールについて把握する。ベーシックコースの復習をする。良好な患者医療者関係を構築する。	実習	木尾 永松 鬼塚 曾我部	-
5～8	医療面接2 対応が難しい患者の医療面接を行う。	実習	木尾 永松 鬼塚 曾我部	-
9～12	歯周治療 歯周基本治療の継続を行う。	実習	木尾 永松 鬼塚 曾我部	歯周基本治療 保険診療
13～17	歯内治療 難症例について検討を行い、難しい原因、拡大視野下での治療対応について学ぶ。	実習	木尾 永松 鬼塚 曾我部	マイクروسコ ープ
18～21	歯の硬組織疾患治療 MIの概念と実施・審美歯科修復治療について学ぶ。	実習	木尾 永松 鬼塚 曾我部	MI
22～26	歯冠修復治療 単冠について形成～印象～鑄造～セットまで実践から学ぶ。	実習	木尾 永松 鬼塚 曾我部	臨床技工
27～31	欠損に対する固定式補綴修復 ブリッジについて形成～印象～セットまで実践から学ぶ。インプラント治療の概念を学ぶ。	実習	木尾 永松 鬼塚 曾我部	-
32～36	欠損に対する可撤式補綴修復 パーシャルデンチャーの診断・設計について模型から学ぶ。	実習	木尾 永松 鬼塚 曾我部	リジットサポ ート
37～40	歯科矯正処置 症例を通じて歯科矯正処置について学ぶ。	実習	木尾 永松 鬼塚 曾我部	-
41～44	チーム診療 多職種連携について実践を交えながら学ぶ。	実習	木尾 永松 鬼塚 曾我部	多職種連携
45～46	解釈モデル難症例への対応 LEARNの法則を実践する。	実習	木尾 永松 鬼塚 曾我部	LEARNの法則
47～48	咬合育成 矯正治療が必要かどうかについて症例検討を行う。	実習	木尾 永松 鬼塚 曾我部	咬合育成

2017年度

総合診療学 2 (アドバンスコース) (Comprehensive dentistry (advanced course))

開講年次	2～4年	期区分	通年	科目	主科目(臨床)	単位数	4
授業方法	実習	時間数	120	曜日		時限	
開講学科	歯学研究科 歯学専攻						
科目責任者	木尾 哲朗						
担当教員	木尾 哲朗、永松 浩、鬼塚 千絵 (臨床研修指導歯科医)木尾哲朗、永松浩、鬼塚千絵、曾我部浩一 (日本歯科医療管理学会認定医)木尾哲朗、鬼塚千絵 (日本矯正歯科学会指導医および認定医)木尾哲朗 (日本総合歯科学会指導医および認定医)木尾哲朗、永松浩、鬼塚千絵 (日本口腔外科学会専門医)曾我部浩一						

回	学習内容	授業方法	担当教員	事前・事後学習 学習課題
49～50	感染対策 スタンダード・プリコーションについて学ぶ。	実習	木尾 永松 鬼塚 曾我部	スタンダード ・プリコーシ ョン
51～52	医療安全 インシデントレポートから、安心安全な歯科治療を実施するために必要な事を理解する。	実習	木尾 永松 鬼塚 曾我部	インシデント
53～57	包括診療 保存補綴処置について一口腔単位で計画を立て、実践する。	実習	木尾 永松 鬼塚 曾我部	包括診療
58～60	症例発表準備と発表 プレゼンテーション用ファイルで発表準備を行い、発表する。	実習	木尾 永松 鬼塚 曾我部	-

2017年度

歯科医学教育研究学 1 (Research of the dental education)

開講年次	1～3年	期区分	通年	科目	主科目(研究)	単位数	2
授業方法	講義・演習	時間数	30	曜日		時限	
開講学科	歯学研究科 歯学専攻						
科目責任者	木尾 哲朗						
担当教員	木尾 哲朗、永松 浩、鬼塚 千絵						
	木尾 哲朗、永松 浩、鬼塚 千絵、曾我部祖						

授業の概要

患者に全人的治療を行うためにこれまでの習得してきた知識・技能・態度を基に、コミュニケーション技法と歯学教育技法を理解し実践する。

学生の到達目標

1. コミュニケーション技法を理解し、実践できる。
2. 歯学教育技法を理解し、実践できる。

テキスト

出) (著)

参考書

医療コミュニケーション分析の方法【第2版】

出)三恵社 著)野呂幾久子、阿部恵子、石川ひろの

福祉・心理・看護のテキストマイニング入門

出)中央法規 著)藤井美和、小杉考司、李政元

リサーチ・クエスチョンの作り方

出)健康医療評価研究機構 著)福原俊一

ナラティブ デンタルコミュニケーション

出)クインテッセンス出版株式会社 著)石川明

その他教育技法文献および関連した文献、参考書を読む。

出) (著)

成績評価方法・基準

評価項目	割合
レポート	30%
口頭試問	50%
単位認定試験	20%

その他

学生相談：随時

2017年度

歯科医学教育研究学 1 (Research of the dental education)

開講年次	1～3年	期区分	通年	科目	主科目(研究)	単位数	2
授業方法	講義・演習	時間数	30	曜日		時限	
開講学科	歯学研究科 歯学専攻						
科目責任者	木尾 哲朗						
担当教員	木尾 哲朗、永松 浩、鬼塚 千絵						
	木尾 哲朗、永松 浩、鬼塚 千絵、曾我部祖						

授業計画

回	学習内容	授業方法	担当教員	事前・事後学習 学習課題
1	オリエンテーション 1年間のスケジュールについて理解する。歯科医学におけるコミュニケーション技法と教育技法の必要性を学ぶ。	講義	木尾	コミュニケーション技法 教育技法
2	コミュニケーションスキル1 (傾聴、共感技法、異文化) コミュニケーションに必要なスキル(特に傾聴・共感技法)について学ぶ。異文化コミュニケーションを理解することで、医療コミュニケーションの本質を学ぶ	講義	木尾 永松	コミュニケーション技法 異文化コミュニケーション
3	コミュニケーション技法の研究 (エスノメソドロジー、社会言語学、機能的アプローチ、ナラティブ分析、カウンセリング理論) コミュニケーション技法の分類とその特徴を学ぶ。	講義	木尾 鬼塚	エスノメソドロジー ナラティブ コミュニケーション技法の 分類と特徴
4～5	コミュニケーションスキル2 医療面接における良好な患者 医療者間関係を構築するためにロールプレイによる演習を通して習熟し自動化されるまでコミュニケーションについて必要な技法を学ぶ。	演習	木尾 永松 鬼塚	コミュニケーション技法 コンピテンシー
6～7	会話分析(量的分析) 言語的コミュニケーション評価方法であるRIASを用いて発話を分析する。非言語的コミュニケーション評価方法について学ぶ。	講義・演習	木尾 永松 鬼塚	スクリプト RIAS
8～9	会話分析(質的分析) 談話分析の方法について学ぶ。テキストマイニング、内省法による解析法を学ぶ。グランデッドセオリー、SCATによる分析法を学ぶ。	講義・演習	木尾 永松 鬼塚	テキストマイニング グランデッドセオリー コンピテンシー
10	歯学教育グローバルスタンダード ヨーロッパ、アメリカ、東南アジアなど海外の歯学教育について学ぶ。	講義	木尾	グローバルスタンダード アウトカム基盤型医学教育
11	Problem Based Learning PBL(問題解決型授業)についてその有用性と実施法を学ぶ。	講義	木尾	PBL
12～13	医療面接 医療面接の演習を行い、難症例・対応困難症例の対応方法について学ぶ。	演習	木尾 永松 鬼塚	難症例とは
14～15	シミュレーション教育1 (概論・自動軌跡追尾・切削圧) シミュレーターを用いた研究について概要を学ぶ。本学に導入されているシミュレーターを用いて、基本的な操作法を習得し、教育への活用法について学ぶ。	講義・演習	木尾 永松 鬼塚	シミュレーション医学教育

2017年度

歯科医学教育研究学 2 (Research of the dental education)

開講年次	2～4年	期区分	通年	科目	主科目(研究)	単位数	2
授業方法	講義・演習	時間数	30	曜日		時限	
開講学科	歯学研究科 歯学専攻						
科目責任者	木尾 哲朗						
担当教員	木尾 哲朗、永松 浩、鬼塚 千絵						

授業の概要

患者に全人的治療を行うためにこれまでの習得してきた知識・技能・態度を基に、コミュニケーション技法と歯学教育技法を理解し実践する。

学生の到達目標

1. コミュニケーション技法を理解できる。
2. 歯学教育技法を理解できる。
4. コミュニケーション技法を実践できる。
5. 歯学教育技法を実践できる。

テキスト

出) (著)

参考書

実践！クリティカル・シンキングのすすめ

出)クインテッセンス出版株式会社 (著)八重垣健

医療プロフェッショナリズムを測定する

出)慶應義塾大学医学部医学教育統括センター (著)天野隆弘

医療コミュニケーション 実証研究への多面的アプローチ

出)篠原出版社 (著)藤崎和彦、橋本英樹

2013年度版 よき歯科医師になるための20の質問 倫理的検討事例集

出)倫理・プロフェッショナリズム教 (著)日本歯科医学教育学会
育委員会

その他教育技法文献および関連した文献、参考書を読む。

出) (著)

成績評価方法・基準

評価項目	割合
レポート	30%
口頭試問	50%
単位認定試験	20%

その他

学生相談：随時

2017年度

歯科医学教育研究学 2 (Research of the dental education)

開講年次	2～4年	期区分	通年	科目	主科目(研究)	単位数	2
授業方法	講義・演習	時間数	30	曜日		時限	
開講学科	歯学研究科 歯学専攻						
科目責任者	木尾 哲朗						
担当教員	木尾 哲朗、永松 浩、鬼塚 千絵						

授業計画

回	学習内容	授業方法	担当教員	事前・事後学習 学習課題
1～5	シミュレーション教育 2 (窩洞と支台歯形成・根管長測定) シミュレーターを用いた応用的な研究方法について学ぶ。本学に導入されているシミュレーターの操作に習熟し、教育への活用法について学ぶ。	講義・演習	木尾 永松 鬼塚	鹿医学教育におけるシミュレーションシミュレーターの操作法
6～7	マイクロティーチング(教育技法) マイクロティーチングの方法について学ぶ。講義・説明・プレゼンテーションのスキルアップを図る。	講義・演習	木尾 永松 鬼塚	マイクロティーチングの特徴
8～9	医療行動学 医療分野における人間の行動を科学的に研究し、その法則性を解明する。医療行動について事例集を参考に学ぶ。	講義	木尾 鬼塚	行動科学
10～11	医療倫理 医療におけるプロフェッショナリズムを学ぶ。医療倫理について事例集を参考に学ぶ。	講義	木尾 永松	プロフェッショナリズム
12～13	KJ法 KJ法を用いて意見の抽出と集約について学ぶ。テーマについてKJ法を実践し習熟を図る。	講義・演習	木尾 永松 鬼塚	KJ法の特徴と欠点
14～15	ファシリテーションスキル ファシリテーターの役割について学ぶ。効果的なフィードバック法について学ぶ。成人学習理論を用い行動変容について学ぶ。	講義・演習	木尾 永松 鬼塚	ファシリテーション 行動変容 フィードバック

2017年度

歯科医学教育研究学 3 (Research of the dental education)

開講年次	3～4年	期区分	通年	科目	主科目(研究)	単位数	2
授業方法	講義・演習	時間数	30	曜日		時限	
開講学科	歯学研究科 歯学専攻						
科目責任者	木尾 哲朗						
担当教員	木尾 哲朗、永松 浩、鬼塚 千絵						

授業の概要

患者に全人的治療を行うためにこれまでの習得してきた知識・技能・態度を基に、コミュニケーション技法と歯学教育技法を理解し実践する。

学生の到達目標

1. コミュニケーション技法を理解できる。
2. 歯学教育技法を理解できる。
3. コミュニケーション技法を実践できる。
4. 歯学教育技法を実践できる。

テキスト

出) (著)

参考書

歯科医院のクレーム対応術

出)日本歯科新聞社

著)関根眞一

心理学マニュアル 質問紙法

出)北大路書房

著)鎌原雅彦、宮下一博、多野木裕明、中澤潤

その他教育技法文献および関連した文献、参考書を読む。

出)

著)

成績評価方法・基準

評価項目	割合
レポート	30%
口頭試問	50%
単位認定試験	20%

その他

学生相談：随時

2017年度

歯科医学教育研究学 3 (Research of the dental education)

開講年次	3～4年	期区分	通年	科目	主科目(研究)	単位数	2
授業方法	講義・演習	時間数	30	曜日		時限	
開講学科	歯学研究科 歯学専攻						
科目責任者	木尾 哲朗						
担当教員	木尾 哲朗、永松 浩、鬼塚 千絵						

授業計画

回	学習内容	授業方法	担当教員	事前・事後学習 学習課題
1～2	コーチング コーチングの方法について学ぶ。アサーションスキルを用い相手に受け入れてもらいやすい伝え方を学ぶ。	講義・演習	木尾 永松 鬼塚	コーチング理論 アサーション
3～4	質問紙法 Y-G性格検査などの質問紙法の特徴と利点について学ぶ。質問紙の作成方法について学ぶ。	講義・演習	木尾 永松 鬼塚	質問紙法の特徴と利点
5～7	歯科心身症 歯科心身症の行動特性について学ぶ。	講義	木尾	行動特性 歯科心身症
8	患者心理学 患者心理を理解するための基本的な視点について学ぶ。患者心理を理解することで援助への手掛かりを学ぶ。	講義	木尾	認知心理学
9	クレームへの対応 医療現場でのクレームの心理を学ぶ。クレームへの対応方法について学ぶ。	講義・演習	木尾 永松 鬼塚	クレーム 認知心理学
10～11	模擬患者(SP)養成法 SPの概要と必要性を学ぶ。SPの養成方法について学ぶ。	講義	木尾 永松 鬼塚	模擬患者 ファシリテーション
12～14	医療安全デザイン インシデントの概念について学ぶ。感染防止対策について学ぶ。医療安全について学ぶ。	講義	鬼塚	安全管理 インシデント
15	プロフェッショナリズム プロフェッショナリズムについて概要と歴史を学ぶ。欧米および日本におけるプロフェッショナリズム教育の位置づけについて学ぶ。	講義	木尾 永松 鬼塚	プロフェッショナリズム

2017年度

総合診療学教育研究 1 (Education and research of the general dentistry)

開講年次	1～3年	期区分	通年	科目	主科目(研究)/副科目	単位数	2
授業方法	演習	時間数	30	曜日		時限	
開講学科	歯学研究科 歯学専攻						
科目責任者	木尾 哲朗						
担当教員	木尾 哲朗、永松 浩、鬼塚 千絵						
	木尾 哲朗、永松 浩、鬼塚 千絵、曾我部 浩一						

授業の概要

総合診療学関係の研究動向を理解するために、文献を抄読する。各自の研究内容についての報告会、ディスカッション等を行う。

学生の到達目標

1. 専門領域の論文を説明できる。(認知)
2. 他分野の研究を理解し、評価、討論できる。(認知・情意)
3. 英語を主体とする研究論文を読む能力を高める。(精神運動)
4. 研究に関するディスカッション能力を高める。(精神運動)
5. 自分の研究を発表できる。(精神運動)

テキスト

出) (著)

参考書

重要な関連文献の抄読は必須。関連文献の選択、参考書は各自必要なものを選別する。

出) (著)

成績評価方法・基準

評価項目	割合
発表	100%

評価は研究発表、討論会発表について評価票を用いて行う。

その他

学生相談：随時

2017年度

総合診療学教育研究 1 (Education and research of the general dentistry)

開講年次	1～3年	期区分	通年	科目	主科目(研究)/副科目	単位数	2
授業方法	演習	時間数	30	曜日		時限	
開講学科	歯学研究科 歯学専攻						
科目責任者	木尾 哲朗						
担当教員	木尾 哲朗、永松 浩、鬼塚 千絵						
	木尾 哲朗、永松 浩、鬼塚 千絵、曾我部 浩一						

授業計画

回	学習内容	授業方法	担当教員	事前・事後学習 学習課題
1～15	和英論文を用いて最新の文献の内容、および関連分野の研究の動向を理解する。	輪読、文献抄読 および討論	木尾 永松 鬼塚 曾我部	文献抄録および 関連文献の 調査

2017年度

総合診療学教育研究 2 (Education and research of the general dentistry)

開講年次	2～4年	期区分	通年	科目	主科目(研究)/副科目	単位数	2
授業方法	演習	時間数	30	曜日		時限	
開講学科	歯学研究科 歯学専攻						
科目責任者	木尾 哲朗						
担当教員	木尾 哲朗、永松 浩、鬼塚 千絵						

授業の概要

総合診療学関係の研究動向を理解するために、文献を抄読する。各自の研究内容についての報告会、ディスカッション等を行う。

学生の到達目標

1. 専門領域の論文を説明できる。(認知)
2. 他分野の研究を理解し、評価、討論できる。(認知・情意)
3. 英語を主体とする研究論文を読む能力を高める。(精神運動)
4. 研究に関するディスカッション能力を高める。(精神運動)
5. 自分の研究を発表できる。(精神運動)
6. 研究報告、抄録を書くことができる(日本語および英語)。(精神運動)
7. 大学院ゼミでの内容を立案し、運営できる。(精神運動)

テキスト

出) 著)

参考書

重要な関連文献の抄読は必須。関連文献の選択、参考書は各自必要なものを選別する。

出) 著)

成績評価方法・基準

評価項目	割合
発表	100%

評価は研究発表、討論会発表について評価票を用いて行う。

その他

学生相談：随時

2017年度

総合診療学教育研究 2 (Education and research of the general dentistry)

開講年次	2～4年	期区分	通年	科目	主科目(研究)/副科目	単位数	2
授業方法	演習	時間数	30	曜日		時限	
開講学科	歯学研究科 歯学専攻						
科目責任者	木尾 哲朗						
担当教員	木尾 哲朗、永松 浩、鬼塚 千絵						

授業計画

回	学習内容	授業方法	担当教員	事前・事後学習 学習課題
1～15	和英論文を用いて最新の文献の内容、および関連分野の研究の動向を理解する。	輪読、文献抄読 および討論	木尾 永松 鬼塚 曾我部	文献抄録および 関連文献の 調査

2017年度

総合診療学教育研究 3 (Education and research of the general dentistry)

開講年次	3～4年	期区分	通年	科目	主科目(研究)/副科目	単位数	2
授業方法	演習	時間数	30	曜日		時限	
開講学科	歯学研究科 歯学専攻						
科目責任者	木尾 哲朗						
担当教員	木尾 哲朗、永松 浩、鬼塚 千絵						

授業の概要

総合診療学関係の研究動向を理解するために、文献を抄読する。各自の研究内容についての報告会、ディスカッション等を行う。

学生の到達目標

1. 専門領域の論文を説明できる。(認知)
2. 他分野の研究を理解し、評価、討論できる。(認知・情意)
3. 英語を主体とする研究論文を読む能力を高める。(精神運動)
4. 研究に関するディスカッション能力を高める。(精神運動)
5. 自分の研究を発表できる。(精神運動)
6. 研究報告、抄録を書くことができる(日本語および英語)。(精神運動)
7. 大学院ゼミでの内容を立案し、運営できる。(精神運動)
8. 論文が書くことができる。(精神運動)
9. ゼミ内容に関して指導できる。(情意・精神運動)

テキスト

出) 著)

参考書

重要な関連文献の抄読は必須。関連文献の選択、参考書は各自必要なものを選別する。

出) 著)

成績評価方法・基準

評価項目	割合
発表	100%

評価は研究発表、討論会発表について評価票を用いて行う。

その他

学生相談：随時

2017年度

総合診療学教育研究 3 (Education and research of the general dentistry)

開講年次	3～4年	期区分	通年	科目	主科目(研究)/副科目	単位数	2
授業方法	演習	時間数	30	曜日		時限	
開講学科	歯学研究科 歯学専攻						
科目責任者	木尾 哲朗						
担当教員	木尾 哲朗、永松 浩、鬼塚 千絵						

授業計画

回	学習内容	授業方法	担当教員	事前・事後学習 学習課題
1～15	和英論文を用いて最新の文献の内容、および関連分野の研究の動向を理解する。	輪読、文献抄読 および討論	木尾 永松 鬼塚 曾我部	文献抄録および 関連文献の 調査

2017年度

口腔保存治療学 (臨床ベーシックコース)

(Endodontics and Restorative Dentistry (Clinical Basic Course))

開講年次	1～2年	期区分	通年	科目	主科目(臨床)/副科目	単位数	2
授業方法	実習	時間数	60	曜日		時限	
開講学科	歯学研究科 歯学専攻						
科目責任者	北村 知昭						
	北村 知昭、諸富 孝彦、鷲尾 絢子、吉居 慎二、宮下 桂子						
担当教員	(日本歯科保存学会指導医): 北村知昭、諸富孝彦 (日本歯内療法学会指導医): 北村知昭 (日本口腔顔面痛学会指導医): 北村知昭 (日本歯科保存学会専門医): 鷲尾絢子、吉居慎二						

授業の概要

歯の重要性が認識され高齢者も多くの歯を有している現代では、精度の高い歯の治療(保存修復治療、歯内治療、補綴治療)を実施する能力が求められている。本科目では歯の治療に関する基本能力の実習を行う。指導歯科医師の管理下でマネキンを用いた実習および臨床実習を実施し、保存治療認定医・専門医資格取得に必要な知識・技術基盤を養成する。

学生の到達目標

【一般目標】

歯の治療に必要な基本能力を修得するため、マネキンを用いた実習および臨床実習を実施し基本的知識・技術を修得し、実践できる。

【到達目標】

- ・ 自立して患者対応・病院スタッフ対応できる。
- ・ 評価(1)および評価(2)に合格する。
- ・ 症例収集に必要な口腔内写真撮影、エックス線写真撮影等をする。

<基本治療能力の例>

- 保存修復治療、歯内治療、補綴治療
- 歯周基本治療と粘膜切開・縫合技術

テキスト

保存修復学第5版

出)医歯薬出版

著)平井義人 他編

出)

著)

保存修復学2 1 第3版

出)永末書店

著)田上順次 他編

歯内治療学第4版

出)医歯薬出版

著)中村 洋 他編

エンドドンティックス改訂第4版

出)永末書店

著)須田英明 他編

クラウンブリッジ補綴学 第4版

出)医歯薬出版

著)石橋寛二 他編

[新版]現代の臨床補綴

出)クインテッセンス出版

著)中村公雄 他編

マイクロエンドをはじめよう 超入門テキスト

出)医歯薬出版

著)北村知昭 他編

非歯原性疼痛へのアプローチ

出)医歯薬出版

著)北村知昭 他編

参考書

2017年度

口腔保存治療学 (臨床ベーシックコース) (Endodontics and Restorative Dentistry (Clinical Basic Course))

開講年次	1～2年	期区分	通年	科目	主科目(臨床) / 副科目	単位数	2
授業方法	実習	時間数	60	曜日		時限	
開講学科	歯学研究科 歯学専攻						
科目責任者	北村 知昭						
担当教員	北村 知昭、諸富 孝彦、鷲尾 絢子、吉居 慎二、宮下 桂子 (日本歯科保存学会指導医) : 北村知昭、諸富孝彦 (日本歯内療法学会指導医) : 北村知昭 (日本口腔顔面痛学会指導医) : 北村知昭 (日本歯科保存学会専門医) : 鷲尾絢子、吉居慎二						

成績評価方法・基準

評価項目	割合
評価(1)、(2)の平均点	100%

その他

相談は授業時間外でも随時受け付け可能。また、相談時間予約にメールを利用可能。

2017年度

口腔保存治療学 (臨床ベーシックコース)

(Endodontics and Restorative Dentistry (Clinical Basic Course))

開講年次	1～2年	期区分	通年	科目	主科目(臨床)/副科目	単位数	2
授業方法	実習	時間数	60	曜日		時限	
開講学科	歯学研究科 歯学専攻						
科目責任者	北村 知昭						
担当教員	北村 知昭、諸富 孝彦、鷺尾 絢子、吉居 慎二、宮下 桂子 (日本歯科保存学会指導医): 北村知昭、諸富孝彦 (日本歯内療法学会指導医): 北村知昭 (日本口腔顔面痛学会指導医): 北村知昭 (日本歯科保存学会専門医): 鷺尾絢子、吉居慎二						

授業計画

回	学習内容	授業方法	担当教員	事前・事後学習 学習課題
1～3	歯内治療I 臨床能力評価(歯内治療)に向けたシミュレーション実習を行う。	実習	全教員 責任:北村	・各歯種の臨床的特徴 ・診療姿勢
4～6	保存修復治療I 臨床能力評価(保存修復治療)に向けたシミュレーション実習を行う。	実習	全教員 責任:北村	・各歯種の臨床的特徴 ・診療姿勢
7～9	補綴治療I 臨床能力評価(補綴治療)に向けたシミュレーション実習を行う。	実習	全教員 責任:北村	・各歯種の臨床的特徴 ・診療姿勢
10～12	評価(1) 臨床能力評価を行う。評価合格をもって臨床を開始する。	実習	全教員 責任:北村	これまでの復習
13～15	歯内治療II 患者対応を含めた診療能力評価に向けた診療(歯内治療)を行う。	実習	全教員 責任:北村	評価(I)の復習 ・各歯種特徴
16～18	保存修復治療II 患者対応を含めた診療能力評価に向けた診療(保存修復治療)を行う。	実習	全教員 責任:北村	評価(I)の復習
19～21	補綴治療II 患者対応を含めた診療能力評価に向けた診療(補綴治療)を行う。	実習	全教員 責任:北村	評価(I)の復習
22～24	歯周治療 患者対応を含めた診療能力評価に向けた診療(歯周治療)を行う。	実習	全教員 責任:北村	評価(I)の復習
25～27	評価(2) 臨床能力評価を行う。評価合格をもって専門的実習を開始する。	実習	全教員 責任:北村	これまでの復習
28～30	粘膜切開・縫合技術 基本的な粘膜切開・縫合に関するシミュレーション実習を行う。	実習	全教員 責任:北村	基本的な粘膜切開・縫合の確認

2017年度

口腔保存治療学 (臨床アドバンスコースS)

(Endodontics and Restorative Dentistry (Clinical Advance Course S))

開講年次	1～4年	期区分	通年	科目	主科目(臨床)	単位数	2
授業方法	実習	時間数	60	曜日		時限	
開講学科	歯学研究科 歯学専攻						
科目責任者	北村 知昭						
	北村 知昭、諸富 孝彦、鷲尾 絢子、吉居 慎二、宮下 桂子						
担当教員	(日本歯科保存学会指導医)北村知昭、諸富孝彦 (日本歯内療法学会指導医)北村知昭 (日本口腔顔面痛学会指導医)北村知昭 (日本歯科保存学会専門医)鷲尾絢子、吉居慎二						

授業の概要

本科目では、臨床ベーシックコースで修得した能力を基盤として認定医・専門医資格取得に必要な症例収集を行う。また高精度な歯の治療に必須であるマイクロスコープ等の器機を用いた臨床能力を修得するため、シミュレーション実習を実施し到達度を評価することにより、保存治療専門医資格を取得するための知識・技術を養成する。

学生の到達目標

【一般目標】

高精度な歯の治療に必要な能力を修得するため、実習を実施し認定医・専門医資格取得のための知識・技術を修得し、実践できる。

【到達目標】

- ・ 評価(3)に合格する。
- ・ 各種審美治療法を修得し、実践できる。
- ・ 治療計画を立案・実施できる。

< 専門治療技術の例 >

マイクロスコープ下の保存治療、外科的歯内治療、関連分野(歯周基本治療等)

テキスト

保存修復学第5版

出)医歯薬出版

著)平井義人 他編

出)

著)

保存修復学2 1 第3版

出)永末書店

著)田上順次 他編

歯内治療学第4版

出)医歯薬出版

著)中村 洋 他編

エンドドンティックス改訂第4版

出)永末書店

著)須田英明 他編

クラウンブリッジ補綴学 第4版

出)医歯薬出版

著)石橋寛二 他編

[新版]現代の臨床補綴

出)クインテッセンス出版

著)中村公雄 他編

マイクロエンドをはじめよう 超入門テキスト

出)医歯薬出版

著)北村知昭 編

非歯原性疼痛へのアプローチ

出)医歯薬出版

著)北村知昭 他編

参考書

2017年度

口腔保存治療学 (臨床アドバンスコースS)

(Endodontics and Restorative Dentistry (Clinical Advance Course S))

開講年次	1～4年	期区分	通年	科目	主科目(臨床)	単位数	2
授業方法	実習	時間数	60	曜日		時限	
開講学科	歯学研究科 歯学専攻						
科目責任者	北村 知昭						
担当教員	北村 知昭、諸富 孝彦、鷺尾 絢子、吉居 慎二、宮下 桂子 (日本歯科保存学会指導医)北村知昭、諸富孝彦 (日本歯内療法学会指導医)北村知昭 (日本口腔顔面痛学会指導医)北村知昭 (日本歯科保存学会専門医)鷺尾絢子、吉居慎二						

成績評価方法・基準

評価項目	割合
評価(3)	100%

その他

相談は授業時間外でも随時受け付け可能。また、相談時間予約にメールを利用可能。

2017年度

口腔保存治療学 (臨床アドバンスコースS)

(Endodontics and Restorative Dentistry (Clinical Advance Course S))

開講年次	1～4年	期区分	通年	科目	主科目(臨床)	単位数	2
授業方法	実習	時間数	60	曜日		時限	
開講学科	歯学研究科 歯学専攻						
科目責任者	北村 知昭						
担当教員	北村 知昭、諸富 孝彦、鷲尾 絢子、吉居 慎二、宮下 桂子 (日本歯科保存学会指導医)北村知昭、諸富孝彦 (日本歯内療法学会指導医)北村知昭 (日本口腔顔面痛学会指導医)北村知昭 (日本歯科保存学会専門医)鷲尾絢子、吉居慎二						

授業計画

回	学習内容	授業方法	担当教員	事前・事後学習 学習課題
1～5	マイクロスコープ下の歯内治療 臨床能力評価(マイクロスコープ下の歯内治療)に向けたシミュレーション実習を行う。	実習	全教員 責任:北村	・各歯種の臨床的特徴 ・診療姿勢
6～10	マイクロスコープ下の審美治療 臨床能力評価(マイクロスコープ下の審美治療)に向けたシミュレーション実習を行う。	実習	全教員 責任:北村	・各歯種の臨床的特徴 ・診療姿勢
11～15	マイクロスコープ下の補綴治療 臨床能力評価(マイクロスコープ下の補綴治療)に向けたシミュレーション実習を行う。	実習	全教員 責任:北村	・各歯種の臨床的特徴 ・診療姿勢
16～20	マイクロスコープ下のポスト除去 臨床能力評価(マイクロスコープ下の再治療)に向けたシミュレーション実習を行う。	実習	全教員 責任:北村	・各歯種根管の臨床的特徴 ・診療姿勢
21～25	マイクロスコープ下の外科的歯内治療 臨床能力評価(マイクロエンドドンティック・サージェリー)に向けたシミュレーション実習を行う。	実習	全教員 責任:北村	各歯種および周囲組織の臨床的特徴
26～30	評価(3) 臨床能力評価を行う。評価合格をもって専門的診療を開始する。	実習	全教員 責任:北村	これまでの復習

2017年度

口腔保存治療学 (臨床アドバンスコースH) (Endodontics and Restorative Dentistry (Clinical Advance Course H))

開講年次	1～4年	期区分	通年	科目	主科目(臨床)	単位数	4
授業方法	実習	時間数	120	曜日		時限	
開講学科	歯学研究科 歯学専攻						
科目責任者	北村 知昭						
	北村 知昭、諸富 孝彦、鷲尾 絢子、吉居 慎二、宮下 桂子						
担当教員	(日本歯科保存学会指導医)北村知昭、諸富孝彦 (日本歯内療法学会指導医)北村知昭 (日本口腔顔面痛学会指導医)北村知昭 (日本歯科保存学会専門医)鷲尾絢子、吉居慎二						

授業の概要

本科目では、認定医・専門医資格取得に必要な症例収集を行うとともに、顕微鏡下での高精度な治療に関する能力を修得し、認定医・専門医資格を取得するための知識・技術を養成する。また、臨床セミナーとして実施するケース・プレゼンテーションを通して臨床推論能力およびプレゼンテーション能力を養成する。

学生の到達目標

【一般目標】

認定医・専門医に必要な能力を身につけるため、顕微鏡下での治療について臨床を通して修得するとともに、ケース・プレゼンテーションを通して臨床推論能力を修得し、実践できる。

【到達目標】

- ・ 評価(4)に合格する。
- ・ 治療計画を立案・実施し、ケース・プレゼンテーションを行うことができる。
- ・ 認定医・専門医資格取得に適した症例を吟味できる。

< 専門治療技術の例 >

- a. 顕微鏡使用下での各種保存治療、外科的治療
- b. 認定医・専門医に必要な関連分野(歯周基本治療等)

テキスト

保存修復学第5版

出)医歯薬出版

著)平井義人 他編

保存修復学21第3版

出)永末書店

著)田上順次 他編

歯内治療学第4版

出)医歯薬出版

著)中村 洋 他編

エンドドンティックス改訂第4版

出)永末書店

著)須田英明 他編

クラウンブリッジ補綴学 第4版

出)医歯薬出版

著)石橋寛二 他編

[新版]現代の臨床補綴

出)クインテッセンス出版

著)中村公雄 他編

マイクロエンドをはじめよう 超入門テキスト

出)医歯薬出版

著)北村知昭 編

非歯原性疼痛へのアプローチ

出)医歯薬出版

著)北村知昭 他編

参考書

出)

著)

2017年度

口腔保存治療学 (臨床アドバンスコースH) (Endodontics and Restorative Dentistry (Clinical Advance Course H))

開講年次	1～4年	期区分	通年	科目	主科目(臨床)	単位数	4
授業方法	実習	時間数	120	曜日		時限	
開講学科	歯学研究科 歯学専攻						
科目責任者	北村 知昭						
担当教員	北村 知昭、諸富 孝彦、鷲尾 絢子、吉居 慎二、宮下 桂子 (日本歯科保存学会指導医)北村知昭、諸富孝彦 (日本歯内療法学会指導医)北村知昭 (日本口腔顔面痛学会指導医)北村知昭 (日本歯科保存学会専門医)鷲尾絢子、吉居慎二						

成績評価方法・基準

評価項目	割合
評価(4)	100%

その他

相談は授業時間外でも随時受け付け可能。また、相談時間予約にメールを利用可能。

2017年度

口腔保存治療学 (臨床アドバンスコースH)

(Endodontics and Restorative Dentistry (Clinical Advance Course H))

開講年次	1～4年	期区分	通年	科目	主科目(臨床)	単位数	4
授業方法	実習	時間数	120	曜日		時限	
開講学科	歯学研究科 歯学専攻						
科目責任者	北村 知昭						
担当教員	北村 知昭、諸富 孝彦、鷲尾 絢子、吉居 慎二、宮下 桂子 (日本歯科保存学会指導医)北村知昭、諸富孝彦 (日本歯内療法学会指導医)北村知昭 (日本口腔顔面痛学会指導医)北村知昭 (日本歯科保存学会専門医)鷲尾絢子、吉居慎二						

授業計画

回	学習内容	授業方法	担当教員	事前・事後学習 学習課題
1～8	マイクロスコープ下の歯内治療 患者対応を含めた診療能力評価に向けた診療(マイクロスコープ下の歯内治療)を行う。	実習	全教員 責任:北村	臨床アドバンスコース(S)の復習
9～16	マイクロスコープ下の審美治療 患者対応を含めた診療能力評価に向けた診療(マイクロスコープ下の審美修復・補綴治療)を行う。	実習	全教員 責任:北村	臨床アドバンスコース(S)の復習
17～24	マイクロスコープ下の外科的歯内治療 患者対応を含めた診療能力評価に向けた診療(マイクロエンドドンティック・サージェリー)を行う。	実習	全教員 責任:北村	臨床アドバンスコース(S)の復習
25～32	評価(4) 臨床能力評価を行う。評価合格をもって自立した専門的診療を開始する。	実習	全教員 責任:北村	これまでの復習
33～40	治療計画立案 保存治療認定医・専門医資格取得のために必要な症例の治療計画を立案する。	実習	全教員 責任:北村	これまでの復習
41～48	保存治療関連症例の治療 保存治療認定医・専門医資格取得のために必要な症例治療を実施する。	実習	全教員 責任:北村	これまでの復習
49～56	ケース・プレゼンテーションおよび専門医による講義 ケース・プレゼンテーションと専門医による講義を通して保存治療認定医・専門医資格取得に必要な知識を修得する。	実習	全教員 責任:北村	症例情報収集・発表 各専門領域の予習
57～60	保存治療専門医資格取得用症例の作成 保存治療認定医・専門医資格取得のために必要な症例発表様式を作成する。	実習	全教員 責任:北村	資格要件の調査

2017年度

口腔保存治療学 (研究セミナー) (Endodontics and Restorative Dentistry (Research Seminar))

開講年次	1～4年	期区分	通年	科目	主科目(研究)	単位数	2
授業方法	演習	時間数	30	曜日		時限	
開講学科	歯学研究科 歯学専攻						
科目責任者	北村 知昭						
担当教員	北村 知昭、諸富 孝彦、鷲尾 絢子、吉居 慎二、宮下 桂子						

授業の概要

本科目では、高精度な歯の治療と関連する再生医療や医療器機開発に関する研究、および臨床研究に関する論文抄読と研究報告を実施する。質の高い論文を精読し診療・研究に共通する論理的考察・推論能力や国際的視野を修得する。また、研究結果報告を行うことで学位取得につながる議論をすることも目的としている。

学生の到達目標

【一般目標】

質の高い歯科医学研究・臨床能力を修得するため、国際的に認められている研究の精読と研究報告を行い、博士(歯学)として必要な論理的思考法・実践法を修得し、実践できる。

【到達目標】

- ・ 研究の背景となる国際論文を収集できる。
- ・ 国際論文を抄読し、自身の研究内容の背景を説明できる。
- ・ プレゼンテーション法を修得し、実践できる。
- ・ 研究遂行に必要な論文を収集・吟味し、プレゼンテーションできる。
- ・ 研究報告(経過報告、学会発表準備報告)ができる。

テキスト

保存修復学第5版

出)医歯薬出版

著)平井義人 他編

保存修復学2 1第3版

出)永末書店

著)田上順次 他編

歯内治療学第4版

出)医歯薬出版

著)中村 洋 他編

エンドドンティックス改訂第4版

出)永末書店

著)須田英明 他編

クラウンブリッジ補綴学 第4版

出)医歯薬出版

著)石橋寛二 他編

[新版]現代の臨床補綴

出)クインテッセンス出版

著)中村公雄 他編

マイクロエンドをはじめよう 超入門テキスト

出)医歯薬出版

著)北村知昭 編

非歯原性疼痛へのアプローチ

出)医歯薬出版

著)北村知昭 他編

参考書

出)

著)

成績評価方法・基準

評価項目	割合
セミナー中の発表内容	100%

2017年度

口腔保存治療学 (研究セミナー) (Endodontics and Restorative Dentistry (Research Seminar))

開講年次	1～4年	期区分	通年	科目	主科目(研究)	単位数	2
授業方法	演習	時間数	30	曜日		時限	
開講学科	歯学研究科 歯学専攻						
科目責任者	北村 知昭						
担当教員	北村 知昭、諸富 孝彦、鷺尾 絢子、吉居 慎二、宮下 桂子						

その他

相談は授業時間外でも随時受け付け可能。また、相談時間予約にメールを利用可能。

2017年度

口腔保存治療学 (研究セミナー) (Endodontics and Restorative Dentistry (Research Seminar))

開講年次	1～4年	期区分	通年	科目	主科目(研究)	単位数	2
授業方法	演習	時間数	30	曜日		時限	
開講学科	歯学研究科 歯学専攻						
科目責任者	北村 知昭						
担当教員	北村 知昭、諸富 孝彦、鷲尾 絢子、吉居 慎二、宮下 桂子						

授業計画

回	学習内容	授業方法	担当教員	事前・事後学習 学習課題
1～5	論文抄読 研究の背景や関連する文献の精読とプレゼンテーションを行う。	文献紹介と討論	全教員 責任:北村	文献の精読
6～10	研究報告 自身の研究内容(経過,学会発表準備)に関するプレゼンテーションを行う。	研究内容の報告と討論	全教員 責任:北村	研究結果の整理
11～15	論文紹介・研究報告 各教員による専門領域の論文抄読、講義、および研究報告を受講し、知識を修得する。	文献紹介・研究報告と討論	全教員 責任:北村	文献の精読

2017年度

口腔保存治療学 (研究演習) (Endodontics and Restorative Dentistry (Research Practice))

開講年次	1～4年	期区分	通年	科目	主科目(研究)	単位数	2
授業方法	演習	時間数	30	曜日		時限	
開講学科	歯学研究科 歯学専攻						
科目責任者	北村 知昭						
担当教員	北村 知昭、諸富 孝彦、鷲尾 絢子、吉居 慎二、宮下 桂子						

授業の概要

本分野では、高精度な歯の治療と関連する再生医療や医療器機開発に関する研究、および臨床研究を行っている。本科目では、学内外の優れた研究グループと連携・協力しながら、研究遂行に必要な能力を修得し、国際的に通用する歯科医師・歯科医学研究者・教育者を養成することを目的としている。

学生の到達目標

【一般目標】

国際的に通用する歯科医師・歯科医学研究者・教育者になるため、研究能力・論文作成能力を修得し学位取得に適した研究論文を作成できる。

【到達目標】

- ・ 研究遂行に必要な知識・技術を修得し、実践できる。
- ・ 研究報告や学会発表に必要なデータ整理方法を修得し、実践できる。
- ・ 研究報告および国内外での学会発表と論文作成を行うことができる。
- ・ 自立して研究テーマを開発する能力を修得し、実践できる。

テキスト

保存修復学第5版

出)医歯薬出版

著)平井義人 他編

保存修復学2 1第3版

出)永末書店

著)田上順次 他編

歯内治療学第4版

出)医歯薬出版

著)中村 洋 他編

エンドドンティックス改訂第4版

出)永末書店

著)須田英明 他編

クラウンブリッジ補綴学 第4版

出)医歯薬出版

著)石橋寛二 他編

[新版]現代の臨床補綴

出)クインテッセンス出版

著)中村公雄 他編

マイクロエンドをはじめよう 超入門テキスト

出)医歯薬出版

著)北村知昭 編

非歯原性疼痛へのアプローチ

出)医歯薬出版

著)北村知昭 他編

参考書

出)

著)

成績評価方法・基準

評価項目	割合
演習内容	100%

2017年度

口腔保存治療学 (研究演習) (Endodontics and Restorative Dentistry (Research Practice))

開講年次	1～4年	期区分	通年	科目	主科目(研究)	単位数	2
授業方法	演習	時間数	30	曜日		時限	
開講学科	歯学研究科 歯学専攻						
科目責任者	北村 知昭						
担当教員	北村 知昭、諸富 孝彦、鷲尾 絢子、吉居 慎二、宮下 桂子						

その他

相談は授業時間外でも随時受け付け可能。また、相談時間予約にメールを利用可能。

2017年度

口腔保存治療学 (研究演習) (Endodontics and Restorative Dentistry (Research Practice))

開講年次	1～4年	期区分	通年	科目	主科目(研究)	単位数	2
授業方法	演習	時間数	30	曜日		時限	
開講学科	歯学研究科 歯学専攻						
科目責任者	北村 知昭						
担当教員	北村 知昭、諸富 孝彦、鷲尾 絢子、吉居 慎二、宮下 桂子						

授業計画

回	学習内容	授業方法	担当教員	事前・事後学習 学習課題
1	オリエンテーション 研究テーマについて議論・決定する。	講義	北村	関連文献収集 と精読, 自習
2,3	培養細胞を用いた研究 培養細胞の取扱いおよび研究手法を修得する。	演習	全教員 責任:北村	関連文献収集 と精読, 自習
4,5	実験動物を用いた研究 実験動物の取扱いおよび研究手法を修得する。	演習	全教員 責任:北村	関連文献収集 と精読, 自習
6,7	歯科材料に関する研究 歯科材料の開発・研究手法を修得する。	演習	全教員 責任:北村	関連文献収集 と精読, 自習
8,9	医療機器開発に関する研究 医療機器の開発・研究手法を修得する。	演習	全教員 責任:北村	関連文献収集 と精読, 自習
10,11	臨床疫学研究 臨床疫学における研究手法を修得する。	演習	全教員 責任:北村	関連文献収集 と精読, 自習
12～15	学会発表・論文作成と投稿 各研究成果を学会発表すると共に論文を作成し公表する。	演習	全教員 責任:北村	関連文献収集 と精読, 自習

2017年度

歯周病学 (Periodontology (Clinical Basic Course))

開講年次	1～3年	期区分	通年	科目	主科目(臨床)	単位数	4
授業方法	実習	時間数	120	曜日		時限	
開講学科	歯学研究科 歯学専攻						
科目責任者	中島 啓介						
担当教員	中島 啓介、臼井 通彦、中村 太志、守下 昌輝、花谷 智哉 (日本歯周病学会指導医) 中島啓介 (日本歯科保存学会指導医) 中島啓介 (日本歯周病学会専門医) 臼井通彦 (日本歯科保存学会専門医) 臼井通彦 (日本歯周病学会認定医) 中村太志、守下昌輝、花谷智哉						

授業の概要

近年、歯周病は単なる口腔局所の一疾患ではなく全身の問題として注目されている。本授業では、歯周病の危険因子を理解しエビデンスに基づいた(EBM)効果的な診断・治療を学ぶ。そのため、世界中で発表されている歯周病に関連する論文を可能な限り多く輪読する。蓄積された知識を日常の臨床に活かすことで、最新の治療法を実践する。また、多様な問題を抱えた重篤な症例を通じて、専門医としての診断力、問題解決力を身につける。

学生の到達目標

1. 歯周病患者に対し必要な医療面接を実施できる(第1回)。
2. 歯周組織検査について説明、実施できる(第2～7, 20回)。
3. 検査の結果に基づいた治療計画を立案できる(第8回)。
4. 効果的なモチベーションを実践できる(第9～14回)。
5. 超音波スケーリング、スケーリング・ルートプレーニングを実施できる(第15～19回)。
6. 歯周外科手術の基本的な手技を理解し、治癒機転と予後を説明できる(第21～23回)。
7. 歯周再生療法の特徴を理解し、治癒機転と予後を説明できる(第24, 25回)。
8. 歯周補綴学、矯正およびインプラント治療の応用を説明できる(第26～28回)。
9. SPTの意義と手順を説明できる(第29回)。
10. 歯周病症例を提示し、治療計画・治療結果について説明できる(第30回)。

テキスト

出) _____ 著) _____

参考書

参考書(参考文献)は実習時に配布する。
出) _____ 著) _____

成績評価方法・基準

評価項目	割合
口頭試問	100%

最終回(30回)に提示した症例に対して口頭試問を行い評価する。

その他

学生相談: 随時

2017年度

歯周病学 (Periodontology (Clinical Basic Course))

開講年次	1～3年	期区分	通年	科目	主科目(臨床)	単位数	4
授業方法	実習	時間数	120	曜日		時限	
開講学科	歯学研究科 歯学専攻						
科目責任者	中島 啓介						
担当教員	中島 啓介、臼井 通彦、中村 太志、守下 昌輝、花谷 智哉 (日本歯周病学会指導医)中島啓介 (日本歯科保存学会指導医)中島啓介 (日本歯周病学会専門医)臼井通彦 (日本歯科保存学会専門医)臼井通彦 (日本歯周病学会認定医)中村太志、守下昌輝、花谷智哉						

授業計画

回	学習内容	授業方法	担当教員	事前・事後学習 学習課題
1,2	歯周病患者の医療面接 歯周病患者の医療面接について学ぶ。	実習	中島	事後学習 (医療面接)
3,4	歯周組織検査(口腔内写真撮影1) 口腔内写真撮影方法について学ぶ。	実習	中島	事後学習 (口腔内写真)
5,6	歯周組織検査(口腔内写真撮影2) 口腔内写真撮影方法について学ぶ。	実習	中島	事後学習 (口腔内写真)
7,8	歯周組織検査(プローピング) 歯周ポケット検査について学ぶ。	実習	中島	事後学習 (プローピング)
9,10	歯周組織検査(エックス線写真撮影) エックス線写真撮影と読影について学ぶ。	実習	中島	事後学習 (X線写真撮影)
11,12	歯周組織検査(咬合力測定と分析) 咬合力測定と分析法について学ぶ。	実習	中島	事後学習 (咬合力)
13,14	歯周組織検査(歯の動揺度測定) 歯の動揺度測定について学ぶ。	実習	花谷	事後学習 (動揺度)
15,16	治療計画の立案 治療計画の多様性について学ぶ。	実習	花谷	事後学習 (治療計画)
17,18	効果的なモチベーション法1 モチベーションの与え方について学ぶ。	実習	花谷	事後学習 (モチベーション)
19,20	効果的なモチベーション法2 モチベーションの与え方について学ぶ。	実習	花谷	事後学習 (モチベーション)
21,22	効果的なモチベーション法3 モチベーションの与え方について学ぶ。	実習	花谷	事後学習 (モチベーション)
23,24	効果的なモチベーション法4 モチベーションの与え方について学ぶ。	実習	花谷	事後学習 (モチベーション)
25,26	効果的なモチベーション法5 モチベーションの与え方について学ぶ。	実習	中村	事後学習 (モチベーション)
27,28	効果的なモチベーション法6 モチベーションの与え方について学ぶ。	実習	中村	事後学習 (モチベーション)
29,30	超音波スケーリング(歯肉縁上) 歯肉縁上の超音波スケーリングについて学ぶ。	実習	中村	事後学習 (超音波スケーリング)
31,32	超音波スケーリング(歯肉縁下・分岐部) 歯肉縁下・分岐部の超音波スケーリングについて学ぶ。	実習	中村	事後学習 (超音波スケーリング)

2017年度

歯周病学 (Periodontology (Clinical Basic Course))

開講年次	1～3年	期区分	通年	科目	主科目（臨床）	単位数	4
授業方法	実習	時間数	120	曜日		時限	
開講学科	歯学研究科 歯学専攻						
科目責任者	中島 啓介						
担当教員	中島 啓介、臼井 通彦、中村 太志、守下 昌輝、花谷 智哉 （日本歯周病学会指導医）中島啓介 （日本歯科保存学会指導医）中島啓介 （日本歯周病学会専門医）臼井通彦 （日本歯科保存学会専門医）臼井通彦 （日本歯周病学会認定医）中村太志、守下昌輝、花谷智哉						

回	学習内容	授業方法	担当教員	事前・事後学習 学習課題
33,34	スケーリング・ルートプレーニング （ポジショニング） SRP時のポジショニングについて学ぶ。	実習	中村	事後学習 （スケーリング・ルートプレーニング）
35,36	スケーリング・ルートプレーニング （シャープニング） シャープニングの方法について学ぶ。	実習	中村	事後学習 （スケーリング・ルートプレーニング）
37,38	スケーリング・ルートプレーニング （非外科への移行）	実習	守下	事後学習 （スケーリング・ルートプレーニング）
39,40	再評価と治療に対する反応性（レスポンス）に基づく治療計画立案 反応性に基づいた治療計画の立案方法について学ぶ。	実習	守下	事後学習 （再評価）
41,42	歯周外科手術1（基礎的手技；全層弁・部分層弁の作成、各種縫合法） フラップ形成と縫合方法について学ぶ。	実習	守下	事後学習 （歯周外科手術）
43,44	歯周外科手術2（フラップ手術） フラップ手術の原理と方法について学ぶ。	実習	守下	事後学習 （歯周外科手術）
45,46	歯周外科手術3（歯肉結合組織移植術） 歯肉結合組織移植術の原理と方法について学ぶ。	実習	守下	事後学習 （歯周外科手術）
47,48	歯周再生療法1（GTR法） GTR法の原理と方法について学ぶ。	実習	守下	事後学習 （再生療法）
49,50	歯周再生療法2（エムドゲインを用いた再生療法） エムドゲイン療法の原理と方法について学ぶ。	実習	臼井	事後学習 （再生療法）
51,52	歯周補綴学 歯周補綴の概念・方法について学ぶ。	実習	臼井	事後学習 （歯周補綴）
53,54	歯周治療におけるインプラントの応用 歯周治療におけるインプラント治療の応用方法や注意点について学ぶ。	実習	臼井	事後学習 （インプラント）
55,56	歯周治療における矯正治療の応用 歯周治療における矯正治療の応用方法や注意点について学ぶ。	実習	臼井	事後学習 （矯正治療）
57,58	SPTの意義と実際 SPTの意義と方法・注意点について学ぶ。	実習	臼井	事後学習 （SPT）
59,60	臨床症例の提示および検討 実際の症例を提示し、検討を行う。	実習	臼井	事後学習 （症例提示方法）

2017年度

歯周病学 (Periodontology)

開講年次	1～3年	期区分	通年	科目	主科目(研究)	単位数	2
授業方法	演習	時間数	30	曜日		時限	
開講学科	歯学研究科 歯学専攻						
科目責任者	中島 啓介						
	中島 啓介、白井 通彦、中村 太志、守下 昌輝、花谷 智哉						
担当教員	(日本歯周病学会指導医) 中島啓介 (日本歯科保存学会指導医) 中島啓介 (日本歯周病学会専門医) 白井通彦 (日本歯科保存学会専門医) 白井通彦 (日本歯周病学会認定医) 中村太志、守下昌輝、花谷智哉						

授業の概要

歯科領域の中でも、特に歯周病研究の進歩は目覚ましく、日進月歩である。よって、研究を始める前に最新の情報を熟知していなければ、研究結果が既知のものになってしまう。本授業では、英語論文を理解するための各種ツールを紹介する。また、検索した文献を論文作成までの間にデータベース化する方法を学ぶ。

研究から得られたデータを適切な方法で解析するために必要な、統計ソフトウェアの使用法と各統計手法の背景を学ぶ。さらに、複数の臨床研究から一定の結論を導き出すメタアナリシスの手法についても学ぶ。

最後に、論文あるいはプレゼンテーション作成において簡潔で論理的な文章を作成する注意点について学ぶ。

学生の到達目標

1. オンライン辞書を利用して、英文論文の内容を理解できる。
2. PubMedから文献を検索して、検索結果をデータベース化できる。
3. 統計学的手法により臨床データの基礎的な解析ができる。
4. メタアナリシスの手法を理解できる。
5. 簡潔で論理的な文章を作成できる。

テキスト

出) (著)

参考書

ライフサイエンス辞書プロジェクト (<http://isd.pharm.kyoto-u.ac.jp/ja/index.html>)

出) (著)

JMP (統計ソフトウェア)

出) (著)

EndNote (文献検索ソフトウェア)

出) (著)

Cochrane Reviews

出) (著)

Journal of Periodontology

出) (著)

Journal of Clinical Periodontology

出) (著)

成績評価方法・基準

評価項目	割合
出席	60%
口頭試問	40%

その他

学生相談：随時

2017年度

歯周病学 (Periodontology)

開講年次	1～3年	期区分	通年	科目	主科目(研究)	単位数	2
授業方法	演習	時間数	30	曜日		時限	
開講学科	歯学研究科 歯学専攻						
科目責任者	中島 啓介						
担当教員	中島 啓介、白井 通彦、中村 太志、守下 昌輝、花谷 智哉 (日本歯周病学会指導医)中島啓介 (日本歯科保存学会指導医)中島啓介 (日本歯周病学会専門医)白井通彦 (日本歯科保存学会専門医)白井通彦 (日本歯周病学会認定医)中村太志、守下昌輝、花谷智哉						

授業計画

回	学習内容	授業方法	担当教員	事前・事後学習 学習課題
1	オンライン辞書の検索 オンライン辞書を用いた検索方法を学ぶ。	演習	中島	事後学習 (オンライン辞書)
2	文献ライブラリ(PubMed)の検索 文献ライブラリ(PubMed)の使用方法を学ぶ。	演習	中島	事後学習 (PubMed)
3	文献データベースの作成 文献データベースの作成方法を学ぶ。	演習	中島	事後学習 (EndNote)
4	臨床統計学(データの取扱い) 統計処理に必要なデータの取扱い方法を学ぶ。	演習	花谷	事後学習 (データの取扱い)
5	臨床統計学(データ分布と正規性) 統計処理に必要なデータ分布と正規性について学ぶ	演習	花谷	事後学習 (データ分布・正規性)
6	臨床統計学(グループ平均の比較) グループ平均の比較方法について学ぶ。	演習	花谷	事後学習 (グループ平均の比較)
7	臨床統計学(分散分析) 分散分析の意味と方法について学ぶ。	演習	中村	事後学習 (分散分析)
8	臨床統計学(単回帰) 単回帰の意味と方法について学ぶ。	演習	中村	事後学習 (単回帰)
9	臨床統計学(重回帰) 重回帰の意味と方法について学ぶ。	演習	中村	事後学習 (重回帰)
10	臨床データの解析1 実際の臨床データを用いて、今まで学習した方法で解析を行う。	演習	守下	事後学習 (臨床データ解析)
11	臨床データの解析2 実際の臨床データを用いて、今まで学習した方法で解析を行う。	演習	守下	事後学習 (臨床データ解析)
12	メタアナリシスの基礎 メタアナリシスの意義について学ぶ。	演習	守下	事後学習 (メタアナリシス)
13	メタアナリシスの応用 メタアナリシスの方法を習得し、実践する。	演習	白井	事後学習 (メタアナリシス)
14	論文作成(日本語) 日本語での論文作成方法について学ぶ。	演習	白井	事後学習 (日本語論文作成)
15	論文作成(英語) 英語での論文作成方法について学ぶ。	演習	白井	事後学習 (英語論文作成)

2017年度

歯周病学（症例検討）（Periodontology（Clinical Conference））

開講年次	1～4年	期区分	通年	科目	主科目（研究）／副科目	単位数	2
授業方法	演習	時間数	30	曜日		時限	
開講学科	歯学研究科 歯学専攻						
科目責任者	中島 啓介						
担当教員	中島 啓介、臼井 通彦、中村 太志、守下 昌輝、花谷 智哉 （日本歯周病学会指導医）中島啓介 （日本歯科保存学会指導医）中島啓介 （日本歯周病学会専門医）臼井通彦 （日本歯科保存学会専門医）臼井通彦 （日本歯周病学会認定医）中村太志、守下昌輝、花谷智哉						

授業の概要

歯周病に関連した最新の英語論文を数多く輪読する。臨床においてはケーススタディーを用いて、実際の症例に基づく問題解決法を学ぶ。

学生の到達目標

- 1．急性、慢性疾患に対応する疾患モデルに精通し、対応できる。
- 2．専門性の高い非外科的、外科的治療を学び、知識を高める。
- 3．難治性の概念を理解できる。
- 4．歯科心身医学に基づく歯科医療を身に着け、対応できる。
- 5．再生療法を学び、知識を高める。

テキスト

出) 著)

参考書

以下のジャーナルより毎回、論文（文献）を選択し、配布する。

出) 著)

Journal of Periodontology

出) 著)

Journal of Clinical Periodontology

出) 著)

Journal of Periodontal Research

出) 著)

成績評価方法・基準

評価項目	割合
セミナー中の質問に対する回答	100%

その他

学生相談：随時

2017年度

歯周病学 (症例検討) (Periodontology (Clinical Conference))

開講年次	1～4年	期区分	通年	科目	主科目(研究)/副科目	単位数	2
授業方法	演習	時間数	30	曜日		時限	
開講学科	歯学研究科 歯学専攻						
科目責任者	中島 啓介						
担当教員	中島 啓介、臼井 通彦、中村 太志、守下 昌輝、花谷 智哉 (日本歯周病学会指導医)中島啓介 (日本歯科保存学会指導医)中島啓介 (日本歯周病学会専門医)臼井通彦 (日本歯科保存学会専門医)臼井通彦 (日本歯周病学会認定医)中村太志、守下昌輝、花谷智哉						

授業計画

回	学習内容	授業方法	担当教員	事前・事後学習 学習課題
1～15	論文抄読・症例検討 最新の文献および関連する文献から、研究・治療に関して今後の展開を考察する。また、実際の症例への応用を検討する。	文献抄読会および症例討論会	中島、臼井、中村、守下、花谷	配付資料(文献)の復習

2017年度

歯周病学 (歯周外科アドバンス) (Periodontology (Advanced Periodontal Surgery))

開講年次	1～4年	期区分	通年	科目	主科目(臨床)	単位数	2
授業方法	講義・実習	時間数	30	曜日		時限	
開講学科	歯学研究科 歯学専攻						
科目責任者	中島 啓介						
	中島 啓介、臼井 通彦、中村 太志、守下 昌輝、花谷 智哉						
担当教員	(日本歯周病学会指導医)中島啓介 (日本歯科保存学会指導医)中島啓介 (日本歯周病学会専門医)臼井通彦 (日本歯科保存学会専門医)臼井通彦 (日本歯周病学会認定医)中村太志、守下昌輝、花谷智哉						

授業の概要

歯周外科を行うにあたり、術者はあるレベル以上の技術力を有していなければならないが、その技術力を、歯周治療という側面から有効に機能させるための知識も必要である。本授業では、術式の単純な理解に留まらず、ファントム模型実習・ブタ顎骨実習の実践に加え、指導医が実際に行う歯周外科のアシストを行うことで、歯周外科治療に必要な基本的技能を習得する。

学生の到達目標

1. 歯周外科治療の基本概念を説明することができる。
2. 症例に応じて、適切な歯周外科術式を選択することができる。
3. 歯周外科に必要な機材の選択、操作ができる。
4. 指導医のもと、歯周外科を実践できる。

テキスト

配布資料
出)

著)

参考書

出)

著)

成績評価方法・基準

評価項目	割合
出席	60%
理解度(口頭試問による)	40%

その他

学生相談：随時

2017年度

歯周病学 (歯周外科アドバンス) (Periodontology (Advanced Periodontal Surgery))

開講年次	1~4年	期区分	通年	科目	主科目(臨床)	単位数	2
授業方法	講義・実習	時間数	30	曜日		時限	
開講学科	歯学研究科 歯学専攻						
科目責任者	中島 啓介						
	中島 啓介、臼井 通彦、中村 太志、守下 昌輝、花谷 智哉						
担当教員	(日本歯周病学会指導医)中島啓介 (日本歯科保存学会指導医)中島啓介 (日本歯周病学会専門医)臼井通彦 (日本歯科保存学会専門医)臼井通彦 (日本歯周病学会認定医)中村太志、守下昌輝、花谷智哉						

授業計画

回	学習内容	授業方法	担当教員	事前・事後学習 学習課題
1	全層弁による歯肉剥離掻爬術 全層弁での歯肉剥離掻爬術の術式、適応症例について学ぶ。	講義	中島	事後学習 (歯肉剥離掻爬術)
2	全層・部分層弁による歯肉剥離掻爬術 全層・部分層弁による歯肉剥離掻爬術の術式、適応症例について学ぶ。	講義	中島	事後学習 (歯肉剥離掻爬術)
3	歯肉剥離掻爬術実習 歯肉剥離掻爬術をファントム模型・ブタ顎骨にて実習する。	演習・実習	中島	事後学習 (歯肉剥離掻爬術)
4	小帯切除術 小帯切除術の術式、適応症例について学ぶ。	講義	花谷	事後学習 (小帯切除術)
5	口腔前庭拡張術 口腔前庭拡張術の術式、適応症例について学ぶ。	講義	花谷	事後学習 (口腔前庭拡張術)
6	有茎歯肉弁移植術による歯肉歯槽粘膜形成術 有茎歯肉弁移植術の術式、適応症例について学ぶ。	講義	花谷	事後学習 (歯肉移植術)
7	遊離歯肉移植による歯肉歯槽粘膜形成術 遊離歯肉移植術の術式、適応症例について学ぶ。	講義	中村	事後学習 (歯肉移植術)
8	結合組織移植による遊離歯肉移植による歯肉歯槽粘膜形成術 結合組織移植術の術式、適応症例について学ぶ。	講義	中村	事後学習 (歯肉移植術)
9	歯肉歯槽粘膜形成術実習 歯肉歯槽粘膜形成術をファントム模型・ブタ顎骨にて実習する。	演習・実習	中村	事後学習 (歯肉移植術)
10	GTR法 GTR法の術式、適応症例について学ぶ。	講義	守下	事後学習 (GTR法)
11	GTR法実習 GTR法をファントム模型・ブタ顎骨にて実習する。	演習・実習	守下	事後学習 (GTR法)
12	エムドゲイン療法 エムドゲイン療法の術式、適応症例について学ぶ。	講義	守下	事後学習 (エムドゲイン療法)
13	自家骨移植術 自家骨移植術の術式、適応症例について学ぶ。	講義	臼井	事後学習 (自家骨移植術)
14	歯肉歯槽粘膜形成術介助(アシスト) 担当教員の行なう歯肉歯槽粘膜形成術のアシストにつき、実際の症例にて術式・手技を学ぶ	演習・実習	臼井	事後学習 (歯肉歯槽粘膜形成術)
15	歯周再生療法介助(アシスト) 担当教員の行なう歯周再生療法のアシストにつき、実際の症例にて術式・手技を学ぶ	演習・実習	臼井	事後学習 (歯周再生療法)

2017年度

補綴治療学 (ベーシックコース) (Removable Prosthesis (Basic Course))

開講年次	1～3年	期区分	通年	科目	主科目(臨床)	単位数	4
授業方法	実習	時間数	120	曜日		時限	
開講学科	歯学研究科 歯学専攻						
科目責任者	有田 正博						
担当教員	有田 正博、中村 恵子 (日本補綴歯科学会専門医)有田 正博 (指導医)有田 正博						

授業の概要

欠損補綴治療を希望して来院した患者に対し、これまで学んできたことの集大成として、臨床の場で実践し、その臨床手技を修得する。また、並行して関連する歯科技工を行い、自身の臨床手技によって適切な歯科補綴装置が製作できるか否かの検証を行う。

学生の到達目標

1. 義歯調整ができる。
2. 義歯修理ができる。
3. 全部鋳造冠装着までの臨床および技工ができる。
4. レジン前装着冠装着までの臨床および技工ができる。
5. ブリッジ装着までの臨床および技工ができる。
6. 部分床義歯装着までの臨床および技工ができる。
7. 全部床義歯装着までの臨床および技工ができる。
8. 咬合調整ができる。

テキスト

出) (著)

参考書

コンプリートデンチャーテクニック第5版
出)医歯薬出版 東京 2005 (著)

入門 無歯顎補綴治療
出)医歯薬出版 東京 2006 (著)

パーシャルデンチャーテクニック第4版
出)医歯薬出版 東京 2006 (著)

成績評価方法・基準

評価項目	割合
ケースプレゼンテーション2	30%
症例レポート	20%
義歯修理 調整	25%
単位認定試験	25%

ケースプレゼンテーション2(部分床義歯 全部床義歯 各1) 15×2点
症例レポート(上記2症例をミニマムリクワイアメントとする) 1症例10点
×2
義歯修理 調整(5例をミニマムリクワイアメントとする) 1症例5点
×5

その他

学習相談：随時

2017年度

補綴治療学 (ベーシックコース) (Removable Prosthesis (Basic Course))

開講年次	1～3年	期区分	通年	科目	主科目(臨床)	単位数	4
授業方法	実習	時間数	120	曜日		時限	
開講学科	歯学研究科 歯学専攻						
科目責任者	有田 正博						
担当教員	有田 正博、中村 恵子 (日本補綴歯科学会専門医)有田 正博 (指導医)有田 正博						

授業計画

回	学習内容	授業方法	担当教員	事前・事後学習 学習課題
1,2	印象採得の基本術式 アルジネート練和法、トレー修正法を習得する。 印象採得(相互) スタディーモデル製作術式 トリミングのポイントを習得し、適切なスタディーモデル製作法を習得する。	実習	有田	概形印象 スタディーモ デル
3,4	個人トレー製作術式 ブロックアウト、リリース、ストッパー、常温重合レジジン操作のタイミングを理解し、個人トレー製作法を習得する。	実習	有田	個人トレー 模型修正法
5,6	辺縁形成術式 コンパウンドの操作法を習得する。 精密印象採得術式 シリコン印象材練和法および印象採得法を習得する。(相互)	実習	有田	辺縁形成 精密印象
7,8	作業模型製作 ボクシングの意味を理解し、適切な作業模型製作術式を習得する。 サベイヤール使用法を習得する。	実習	有田	作業模型 サベイヤール
9,10	顔弓計測術式 作業模型を用いてフェイスボウトランスファー、咬合採得、咬合器装着法を習得する。	実習	有田	顔弓計測
11,12	ゴシックアーチ描記法術式 水平的顎位の決定法を理解し、ゴシックアーチトレーサー装着法、下顎模型の再送着法を習得する。	実習	有田	ゴシックアー チ
13,14	半調節性咬合器調整法 半調節性咬合器の理論を理解し、各調節ネジの調整法を習得する。	実習	有田	調節性咬合器
15,16	チェックバイト法術式 前方・側方チェックバイト採得法を習得すると共に、スプリットキャスト法による顎路計測法を習得する。	実習	有田	チェックバイ ト
17,18	咬合調整法 BULL、MUDLのほか、咬合調整法を習得する。	実習	有田	咬合調整
19,20	試問1, ディスカッション	-	有田	-
21,22	義歯調整法1 粘膜面の調整 フィットチェッカー使用法、削合のポイント、直接リベース法を習得する。	実習	有田	粘膜調整法
23,24	義歯調整法2 粘膜面の調整 ダイナミック印象後の間接リベース法を習得する。	実習	有田	リベース
25,26	義歯調整法3 咬合調整法 バランスドオクルージョン、リンガライズドオクルージョンの調整法を習得する。	実習	有田	咬合調整
27,28	義歯修理法1 床破折、人工歯破折、クラスプ破折の場合の修理法を習得する。	実習	有田	義歯修理
29,30	試問2, ディスカッション	-	有田	-
31,32	部分欠損補綴(症例) (概形印象採得、スタディーモデル)	実習	有田	概形印象 スタディーモ デル
33,34	部分欠損補綴(症例) (設計、個人トレー)	実習	有田	個人トレー 義歯の設計

2017年度

補綴治療学 (ベーシックコース) (Removable Prosthesis (Basic Course))

開講年次	1～3年	期区分	通年	科目	主科目(臨床)	単位数	4
授業方法	実習	時間数	120	曜日		時限	
開講学科	歯学研究科 歯学専攻						
科目責任者	有田 正博						
担当教員	有田 正博、中村 恵子 (日本補綴歯科学会専門医)有田 正博 (指導医)有田 正博						

回	学習内容	授業方法	担当教員	事前・事後学習 学習課題
35,36	部分欠損補綴(症例) (レストシート形成、辺縁形成、精密印象採得)	実習	有田	レストシート 精密印象
37,38	部分欠損補綴(症例) (作業模型製作、咬合床製作)	実習	有田	作業模型 咬合床
39,40	部分欠損補綴(症例) (咬合採得、咬合器装着)	実習	有田	咬合採得
41,42	部分欠損補綴(症例) (蠟義歯試適)	実習	有田	蠟義歯試適
43,44	部分欠損補綴(症例) (装着、調整、患者教育)	実習	有田	装着, 調整, 患者教育
45,46	全部欠損補綴(症例) (概形印象採得、スタディーモデル)	実習	有田	概形印象 スタディーモ デル
47,48	全部欠損補綴(症例) (個人トレー)	実習	有田	個人トレー 義歯の設計
49,50	全部欠損補綴(症例) (辺縁形成、精密印象採得)	実習	有田	辺縁形成 精密印象
51,52	全部欠損補綴(症例) (作業模型製作、咬合床製作)	実習	有田	作業模型 咬合床
53,54	全部欠損補綴(症例) (咬合採得)	実習	有田	咬合採得
55,56	全部欠損補綴(症例) (蠟義歯試適)	実習	有田	蠟義歯試適
57,58	全部欠損補綴(症例) (装着、調整、患者教育)	実習	有田	装着, 調整, 患者教育
59,60	試問3, ディスカッション、ケースプレ 単位認定試験	-	有田	-

2017年度

補綴治療学 (アドバンスコース1) (Removable Prosthesis (Advanced Course))

開講年次	1～3年	期区分	通年	科目	主科目(臨床)	単位数	2
授業方法	実習	時間数	60	曜日		時限	
開講学科	歯学研究科 歯学専攻						
科目責任者	鱒見 進一						
担当教員	鱒見 進一、槇原 絵理 鱒見 進一*,**,***,****、槇原 絵理*,**,* (日本補綴歯科学会専門医*, 指導医**, 日本顎顔面補綴学会認定医***, 日本磁気歯科学会認定医****)						

授業の概要

より高度な特殊技術習得のための基本技術を習得する。

学生の到達目標

1. フランジテクニックを用いた全部床義歯装着までの臨床および技工ができる。
2. マグネットデンチャーの臨床および技工ができる。

テキスト

出) 著)

参考書

- 総義歯Q&A
出)永末書店 京都 2006 著)
- 続・磁性アタッチメント108問108答
出)医歯薬種版 東京 1995 著)
- 顎顔面補綴の臨床
出)医学情報社 東京 2007 著)

成績評価方法・基準

評価項目	割合
ケースプレゼンテーション2	60%
症例レポート	20%
単位認定試験	20%

ケースプレゼンテーション2(フランジ応用義歯, マグネット応用義歯)
30×2点
症例レポート(上記2症例をミニマムリクワイアメントとする) 1症
例10点×2
単位認定試験20点

その他

学習相談: 随時

2017年度

補綴治療学 (アドバンスコース1) (Removable Prosthesis (Advanced Course))

開講年次	1～3年	期区分	通年	科目	主科目(臨床)	単位数	2
授業方法	実習	時間数	60	曜日		時限	
開講学科	歯学研究科 歯学専攻						
科目責任者	鱒見 進一						
担当教員	鱒見 進一、槇原 絵理 鱒見 進一*,**,***,****、槇原 絵理*,**,**** (日本補綴歯科学会専門医*, 指導医**, 日本顎顔面補綴学会認定医***, 日本磁気歯科学会認定医****)						

授業計画

回	学習内容	授業方法	担当教員	事前・事後学習 学習課題
1,2	フランジテクニックの臨床(症例) 医療面接, 症例決定, 概形印象, スタディーモデル	実習	鱒見	概形印象 スタディーモデル
3,4	フランジテクニックの臨床(症例) 精密印象(閉口印象), 作業模型製作	実習	鱒見	閉口印象
5,6	フランジテクニックの臨床(症例) 顔弓計測, 咬合採得	実習	鱒見	顔弓計測 咬合採得
7,8	フランジテクニックの臨床(症例) デンチャースペース採得, 石こうコア	実習	鱒見	デンチャースペース
9,10	フランジテクニックの臨床(症例) 試適, 歯肉フランジ	実習	鱒見	蝸義歯試適 歯肉フランジ
11,12	フランジテクニックの臨床(症例) 上下完成義歯装着, 咬合調整	実習	鱒見	チェックバイト
13,14	試問1, ケースプレ	-	鱒見	-
15,16	マグネットデンチャーの臨床(症例) 医療面接, 症例決定, 設計	実習	槇原	設計
17,18	マグネットデンチャーの臨床(症例) 支台歯形成, 印象採得	実習	槇原	支台歯形成 印象採得
19,20	マグネットデンチャーの臨床(症例) 根面板装着, 精密印象	実習	槇原	精密印象
21,22	マグネットデンチャーの臨床(症例) 咬合採得	実習	槇原	咬合採得
23,24	マグネットデンチャーの臨床(症例) 蝸義歯試適	実習	槇原	蝸義歯試適
25,26	マグネットデンチャーの臨床(症例) 義歯装着, マグネット合着, 調整	実習	槇原	装着, マグネット合着, 調整
27,28	試問2, ケースプレ	-	槇原	-
29,30	総括, 試問, 単位認定試験	-	槇原	-

2017年度

補綴治療学 (アドバンスコース2) (Removable Prosthesis (Advanced Course))

開講年次	1～3年	期区分	通年	科目	主科目(臨床)	単位数	2
授業方法	実習	時間数	60	曜日		時限	
開講学科	歯学研究科 歯学専攻						
科目責任者	鱒見 進一						
担当教員	鱒見 進一、楨原 絵理 鱒見 進一*,**,***,****、楨原 絵理*,*** (日本補綴歯科学会専門医*, 指導医**, 日本顎関節学会専門医***, 指導医****)						

授業の概要

顎関節症の治療に使用するスプリントは歯根膜受容器からの神経筋調節機構を利用したものである。口腔内に装着するマウスピースには、他に睡眠時無呼吸症候群やコンタクトスポーツにも適用されている。そこで各種マウスピースについて、製作法、治療法および治療効果について相互実習を含めて理解する。

学生の到達目標

1. 顎関節症のスプリント療法ができる。
2. 睡眠時無呼吸症候群のオーラルアプライアンス治療ができる。
3. コンタクトスポーツのマウスガード治療ができる。

テキスト

出) (著)

参考書

顎関節症の診かた 治しかた

出)医学情報社

著)鱒見進一

いびきと睡眠時無呼吸症候群の歯科的治療

出)砂書房

著)黒崎紀正ほか

マウスガード製作マニュアル

出)クインテッセンス出版

著)前田芳信ほか

成績評価方法・基準

評価項目	割合
講義内容レポート(オーラルアプライアンス スプリント マウスガード)	30%
症例報告書提出(オーラルアプライアンス スプリント マウスガード)	30%
単位認定試験	40%

その他

学習相談：随時

2017年度

補綴治療学 (アドバンスコース2) (Removable Prosthesis (Advanced Course))

開講年次	1～3年	期区分	通年	科目	主科目(臨床)	単位数	2
授業方法	実習	時間数	60	曜日		時限	
開講学科	歯学研究科 歯学専攻						
科目責任者	鱒見 進一						
担当教員	鱒見 進一、槇原 絵理 鱒見 進一*,**,***,****、槇原 絵理*,** (日本補綴歯科学会専門医*, 指導医**, 日本顎関節学会専門医***, 指導医****)						

授業計画

回	学習内容	授業方法	担当教員	事前・事後学習 学習課題
1,2	医療面接、症例決定	実習	槇原	-
3,4	オーラルアプライアンス 印象採得, 咬合採得	実習	槇原	印象法 咬合採得法
5,6	オーラルアプライアンス製作	実習	槇原	各種オーラル アプライア ンス
7,8	試問1, ケースプレ	-	槇原	-
9,10	顎関節症の診査・診断, 治療 医療面接 症例決定	実習	槇原	顎関節症の分 類 医療面接
11,12	顎関節症の治療 病歴採取 各種診査法	実習	槇原	診査法 レポート提出
13,14	顎関節症の治療 印象採得, 咬合採得	実習	槇原	印象法 咬合採得法
15,16	顎関節症の治療 スタビライゼーションスプリント製作	実習	槇原	スプリントの 種類, 用途
17,18	顎関節症の治療 装着, 調整	実習	鱒見	スプリント調 整法
19,20	試問2, ケースプレ	-	鱒見	-
21,22	スポーツマウスガード 医療面接 症例決定	実習	鱒見	マウスガード の具備条件
23,24	スポーツマウスガード製作 印象採得, 咬合採得	実習	鱒見	印象法 咬合採得法
25,26	スポーツマウスガード製作 装着, 調整	実習	鱒見	調整法
27,28	試問3, ケースプレ	-	鱒見	-
29,30	総括, 試問, 単位認定試験	-	鱒見	-

2017年度

顎口腔欠損再構築学 1 (臨床研究デザイン) (Removable Prosthodontics (Clinical Research Design))

開講年次	1～2年	期区分	通年	科目	主科目(研究)	単位数	4
授業方法	講義	時間数	60	曜日		時限	
開講学科	歯学研究科 歯学専攻						
科目責任者	鱒見 進一						
担当教員	鱒見 進一、槇原 絵理						

授業の概要

補綴臨床研究論文のために必要な基本的知識を学ぶ。

学生の到達目標

歯科補綴臨床研究のデザインが作成できる。

テキスト

医学的研究のデザイン
(出)医歯薬出版

(著)

参考書

(出)

(著)

成績評価方法・基準

評価項目	割合
単位認定試験	100%

その他

学習相談：随時

2017年度

顎口腔欠損再構築学 1 (臨床研究デザイン)

(Removable Prosthodontics (Clinical Research Design))

開講年次	1～2年	期区分	通年	科目	主科目(研究)	単位数	4
授業方法	講義	時間数	60	曜日		時限	
開講学科	歯学研究科 歯学専攻						
科目責任者	鱒見 進一						
担当教員	鱒見 進一、槇原 絵理						

授業計画

回	学習内容	授業方法	担当教員	事前・事後学習 学習課題
1,2	オリエンテーション	講義	鱒見、槇原	-
3,4	研究テーマを考える	講義	槇原	研究テーマ
5,6	研究対象とサンプリング	講義	槇原	研究対象
7,8	測定方法を計画する	講義	槇原	実験方法
9,10	質問票の作成	講義	槇原	アンケート
11,12	コホート研究	講義	槇原	コホート研究とは
13,14	横断研究	講義	槇原	横断研究とは
15,16	ケースコントロール研究	講義	槇原	ケースコントロール研究とは
17,18	臨床検査	講義	槇原	臨床検査
19,20	実験的研究	講義	槇原	実験的研究
21,22	サンプルサイズの決定法	講義	鱒見	サンプルサイズ
23,24	倫理の問題	講義	鱒見	倫理社会
25,26	データ処理と解析法	講義	鱒見	データ解析法
27,28	研究プロトコルの作成法	講義	鱒見、槇原	プロトコール
29,30	総合討議 単位認定試験	講義、試験	鱒見	-

2017年度

顎口腔欠損再構築学 2 (計測機器) (Removable Prosthodontics (Medical Engineering Devices))

開講年次	1～3年	期区分	通年	科目	主科目(研究)	単位数	2
授業方法	講義・演習	時間数	30	曜日		時限	
開講学科	歯学研究科 歯学専攻						
科目責任者	有田 正博						
担当教員	有田 正博 (日本補綴歯科学会専門医) 有田 正博 (指導医) 有田 正博						

授業の概要

補綴臨床研究に必要な計測機器についてその基本的知識を学ぶ。

学生の到達目標

1. 咬合力計測のための知識および技能を身につけ咬合力計測ができる。
2. 顎運動計測のための知識および技能を身につけ顎運動計測ができる。
3. 呼吸量測定のための知識および技能を身につけ呼吸量測定ができる。
4. 歯科用レーザーのための知識および技能を身につけ歯科用レーザーの使用ができる。

テキスト

出) (著)

参考書

よくわかる顎口腔機能 . 咀嚼・嚥下・発音を診査・診断する日本顎口腔機能学会編
出) 医歯薬出版 2005 (著)

成績評価方法・基準

評価項目	割合
講義レポートの提出	65%
単位認定試験	35%

講義レポートの提出5×13=65点
単位認定試験35点

その他

学習相談：随時

2017年度

顎口腔欠損再構築学 2 (計測機器) (Removable Prosthodontics (Medical Engineering Devices))

開講年次	1~3年	期区分	通年	科目	主科目(研究)	単位数	2
授業方法	講義・演習	時間数	30	曜日		時限	
開講学科	歯学研究科 歯学専攻						
科目責任者	有田 正博						
担当教員	有田 正博 (日本補綴歯科学会専門医)有田 正博 (指導医)有田 正博						

授業計画

回	学習内容	授業方法	担当教員	事前・事後学習 学習課題
1	オリエンテーション	講義	有田	-
2	咬合力測定法	講義	有田	咬合力について
3	オクルーザー	講義・演習	有田	オクルーザー
4	デンタルプレスケール	講義・演習	有田	プレスケール
5	顎運動計測法	講義	有田	顎運動計測
6	マンディブラー・キネジオグラフ	講義・演習	有田	MKG
7	トライメット	講義・演習	有田	トライメット
8	マイオモニター	講義・演習	有田	マイオモニター
9	ゴシック・ディスプレイ	講義・演習	有田	ゴシックアーチ
10	睡眠時無呼吸症候群の診断	講義	有田	SAS
11	ポリソムノグラフィー	講義	有田	PSG
12	スパイロメーター	講義・演習	有田	スパイロメーター
13	歯科用レーザー	講義	有田	歯科用レーザー
14	炭酸ガスレーザー	講義・演習	有田	CO2レーザー
15	総合討議 単位認定試験	講義・試験	有田	-

2017年度

顎口腔欠損再構築学 3 (検討会) (Removable Prosthodontics (Research Discussion))

開講年次	1～4年	期区分	通年	科目	主科目(研究)/副科目	単位数	2
授業方法	演習	時間数	30	曜日		時限	
開講学科	歯学研究科 歯学専攻						
科目責任者	河野 稔広						
担当教員	鱒見 進一、有田 正博、楨原 絵理、河野 稔広、宮嶋 隆一郎						

授業の概要

歯科補綴学関連の最新の研究の動向を理解するために、文献を詳読する。
各自の研究内容に対する報告会、ディスカッション。
その他顎関節症チームアプローチ、顎口腔欠損再構築学分野臨床セミナー。

学生の到達目標

1. 英語文献を読み込むことができる。
2. 研究の内容を理解できる。
3. 研究を批評できる。
4. 研究の背景や動向を理解できる。
5. 最新の臨床テクニックを身につけて対応できる。

テキスト

出) 著)

参考書

関連分野の文献および参考書は各自必要なものを選別する。
出) 著)

成績評価方法・基準

評価項目	割合
セミナー中の発表	100%

その他

学習相談：随時

2017年度

顎口腔欠損再構築学 3 (検討会) (Removable Prosthodontics (Research Discussion))

開講年次	1～4年	期区分	通年	科目	主科目(研究)/副科目	単位数	2
授業方法	演習	時間数	30	曜日		時限	
開講学科	歯学研究科 歯学専攻						
科目責任者	河野 稔広						
担当教員	鱒見 進一、有田 正博、榎原 絵理、河野 稔広、宮嶋 隆一郎						

授業計画

回	学習内容	授業方法	担当教員	事前・事後学習 学習課題
1～15	研究の背景と最新の文献の内容、および関連分野の研究の今後の展望を理解する。	輪読、文献紹介および討論	鱒見、有田、榎原、河野	文献詳読および関連分野の調査

2017年度

口腔インプラント補綴学 (Prosthodontics Implant supported Prosthesis)

開講年次	1～2年	期区分	通年	科目	主科目（臨床）	単位数	4
授業方法	講義・実習	時間数	120	曜日		時限	
開講学科	歯学研究科 歯学専攻						
科目責任者	細川 隆司						
担当教員	細川 隆司、正木 千尋、小城 辰郎、近藤 祐介、柄 慎太郎 （日本口腔インプラント学会指導医）細川隆司 （日本補綴歯科学会指導医）細川隆司 （日本口腔インプラント学会専門医）正木千尋 （日本補綴歯科学会専門医）正木千尋、小城辰郎、近藤祐介						

授業の概要

口腔インプラント治療を安全・確実に行うために必要な解剖、画像診断、シミュレーション法等の基礎的な理論を理解し、治療計画立案に必要な知識を習得する。さらにファントム模型やブタ顎骨を用いたインプラント体埋入実習、切開・縫合実習、アバットメント連結、印象採得実習等を行うことで口腔インプラント治療に必要な基本的な技能を習得する。

学生の到達目標

1. 口腔インプラントの歴史について説明できる。
2. 口腔インプラント治療に必要な解剖学を理解できる。
3. 診断用ワックスアップ、ステントの意義を理解し、作製できる。
4. 口腔インプラントの治療過程について理解できる。
5. X線CTシミュレーション法の基礎的な理論を理解できる。
6. 口腔インプラントの手術術式について説明できる。
7. 口腔インプラントの補綴術式について説明できる。
8. 口腔インプラント治療におけるメンテナンスの重要性を理解できる。

テキスト

出) 著)

参考書

よくわかる口腔インプラント学（第二版）
出)医歯薬出版 著)

補綴臨床別冊 インプラントのポジショニング
出)医歯薬出版 著)

成績評価方法・基準

評価項目	割合
演習中の諮問に対する回答	60%
症例検討会での内容や姿勢	40%

その他

学生相談：随時

2017年度

口腔インプラント補綴学 (Prosthodontics Implant supported Prosthesis)

開講年次	1~2年	期区分	通年	科目	主科目(臨床)	単位数	4
授業方法	講義・実習	時間数	120	曜日		時限	
開講学科	歯学研究科 歯学専攻						
科目責任者	細川 隆司						
担当教員	細川 隆司、正木 千尋、小城 辰郎、近藤 祐介、柄 慎太郎 (日本口腔インプラント学会指導医) 細川隆司 (日本補綴歯科学会指導医) 細川隆司 (日本口腔インプラント学会専門医) 正木千尋 (日本補綴歯科学会専門医) 正木千尋、小城辰郎、近藤祐介						

授業計画

回	学習内容	授業方法	担当教員	事前・事後学習 学習課題
1~4	オリエンテーション 「口腔インプラント補綴学とは？」 歯科医療におけるインプラント治療の位置づけについて学習する。	講義	細川、正木、近藤、柄	配布資料による復習
5~12	インプラントの歴史、臨床エビデンス、おもなシステムについて インプラント治療の歴史を踏まえ、根底にあるコンセプトについて学習する。	講義	細川、小城、正木	配布資料による復習
13~20	インプラント治療に関係する解剖学 インプラントの病理学 インプラント治療に必要な解剖学および病理学について学習する。	講義	細川、正木、近藤、柄	配布資料による復習
21~28	術前診断と治療計画 「症例演習 / Simplantによる実習」 インプラントシミュレーションソフトウェアを用いて症例をピックアップしシミュレーションを体験する。	講義・実習	細川、正木、近藤、柄	配布資料による復習
29~36	診断用ワックアップ、ステント作製 埋入予定症例をもとに診断用ワックスアップからCT撮影用ステントを製作する。	講義・実習	細川、正木、近藤、柄	配布資料による復習
37~44	インプラント埋入術式について 埋入手術のビデオ学習を通じてインプラント埋入手術の全体像を把握する。	講義・実習	細川、正木、近藤、柄	配布資料による復習
45~52	印象術式・補綴術式について 様々なインプラントシステムの補綴術式について、症例写真を通して学習する。	講義・実習	細川、正木、近藤、柄	配布資料による復習
53~60	CAD/CAMによる補綴、咬合調整と術後管理、ジルコニア・アルミナ・チタンやコバルトなどCAD/CAM技工を症例ベースで学習する。	講義・実習	細川、正木、近藤、柄	配布資料による復習

2017年度

口腔インプラント補綴学 (Prosthodontics Implant supported Prosthesis)

開講年次	1～2年	期区分	通年	科目	主科目（臨床）	単位数	4
授業方法	講義・実習	時間数	120	曜日		時限	
開講学科	歯学研究科 歯学専攻						
科目責任者	細川 隆司						
担当教員	細川 隆司、正木 千尋、小城 辰郎、近藤 祐介、柄 慎太郎 （日本口腔インプラント学会指導医）細川隆司 （日本補綴歯科学会指導医）細川隆司 （日本口腔インプラント学会専門医）正木千尋 （日本補綴歯科学会専門医）正木千尋、小城辰郎、近藤祐介、柄慎太郎						

授業の概要

治療計画の立案に必要な解剖、画像診断、シミュレーション法等の知識を習得後、口腔インプラント患者の治療を行い、治療の実際を体得する。また、骨移植やGBR、サイナスリフト、即時負荷、抜歯即時埋入等の応用事項を学習する。その他、症例検討会および各種セミナーを通して口腔インプラント学に関わる広い学識と高度な専門技能を修得する。

学生の到達目標

1. 口腔インプラント治療について他の欠損補綴法と比較し、説明できる。
2. X線CTシミュレーション法の基礎的な理論を理解し、治療計画を立案できる。
3. 必要な診査や検査を行い、インプラント埋入手術を安全・確実に行うことができる。
4. 骨造成術、即時負荷、抜歯即時埋入等の必要性を判断でき、実践できる。
5. 口腔インプラント治療における暫間補綴物の意義と目的を理解し、実践できる。
6. 適切なインプラント義歯を製作できる。
7. 口腔インプラント治療におけるメンテナンスの重要性を理解し、実践できる。

テキスト

出) (著)

参考書

補綴臨床別冊 インプラントのポジショニング
出)医歯薬出版 (著)

日本人のための最新All-on-4マニュアル
出)医歯薬出版 (著)

成績評価方法・基準

評価項目	割合
演習中の諮問に対する回答	60%
症例検討会での内容や姿勢	40%

その他

学生相談：随時

2017年度

口腔インプラント補綴学 (Prosthodontics Implant supported Prosthesis)

開講年次	1～2年	期区分	通年	科目	主科目（臨床）	単位数	4
授業方法	講義・実習	時間数	120	曜日		時限	
開講学科	歯学研究科 歯学専攻						
科目責任者	細川 隆司						
担当教員	細川 隆司、正木 千尋、小城 辰郎、近藤 祐介、柄 慎太郎 （日本口腔インプラント学会指導医）細川隆司 （日本補綴歯科学会指導医）細川隆司 （日本口腔インプラント学会専門医）正木千尋 （日本補綴歯科学会専門医）正木千尋、小城辰郎、近藤祐介、柄慎太郎						

授業計画

回	学習内容	授業方法	担当教員	事前・事後学習 学習課題
1～4	インフォームドコンセントについて インプラント補綴治療に必要なインフォームドコンセントについて学習する。	講義・実習	細川、小城、正木	配布資料による復習
5～11	診断用Wax-upおよび診断用ステントの製作 補綴難症例の診断用模型製作および診断用ワックスアップ・ステント製作について学習する。	講義・実習	細川、正木、近藤、柄	配布資料による復習
12～18	X線CTシミュレーション法を用いた治療計画の立案 補綴難症例のインプラント治療のシミュレーションについて学習する。	講義・実習	細川、正木、近藤、柄	配布資料による復習
19～25	指導医とともにインプラント埋入手術の実際を体験 インプラント埋入手術の体験を通じて外科術式を学習する。	講義・実習	細川、正木、近藤、柄	配布資料による復習
26～32	骨造成術，即時負荷，抜歯即時埋入について インプラント外科術式における付加術式について学習する。	講義・実習	細川、正木、近藤、柄	配布資料による復習
33～39	体験したインプラント症例の結果を調査，症例報告 症例プレゼンテーションによる複数評価者によるフィードバック。	講義・実習	細川、正木、近藤、柄	配布資料による復習
40～46	適切な咬合を付与した暫間補綴物の製作 暫間補綴のタイミングおよびその製法について学習する。	講義・実習	細川、正木、近藤、柄	配布資料による復習
47～53	印象採得およびインプラント義歯の製作 インプラント支持義歯の製法について学習する。	講義・実習	細川、正木、近藤、柄	配布資料による復習
54～60	インプラント治療における術後管理 インプラント補綴治療における術後管理について症例を交えて学習する。	講義・実習	細川、正木、近藤、柄	配布資料による復習

2017年度

口腔再建リハビリテーション学 1 (Oral Reconstruction and Rehabilitation)

開講年次	1～2年	期区分	通年	科目	主科目(研究)	単位数	2
授業方法	講義・演習	時間数	30	曜日		時限	
開講学科	歯学研究科 歯学専攻						
科目責任者	細川 隆司						
担当教員	細川 隆司、正木 千尋、小城 辰郎、近藤 祐介、柄 慎太郎						

授業の概要

オッセオインテグレーションの早期獲得，骨のリモデリングとそれをコントロールする因子，口腔粘膜を遺伝子解析することでインプラント治療のリスクファクターの検証，より早期にオッセオインテグレーションを獲得するための超音波/超短波治療の検討，唾液腺機能回復法とそれが口腔リハビリテーションに及ぼす影響に関する検討などを行い，歯科臨床における臨床と基礎を橋渡しする研究(トランスレーショナルリサーチ)を通じ，科学的視点で歯科臨床を捉える姿勢を体得することを目標とする。

学生の到達目標

1. インプラント治療における基礎概念を習得し、実践できる。
2. ヒト口腔粘膜サンプルの遺伝子解析の知識および技能を修得し、実践できる。
3. 口腔粘膜由来細胞への超音波・超短波が遺伝子発現に及ぼす影響についての基礎知識ならびに実験手技を習得し、実践できる。
4. マウス唾液腺を用いたin vivoおよびin vitroの口腔乾燥症モデルについての基礎知識ならびに実験手技を習得し、実践できる。

テキスト

出) (著)

参考書

各講義・演習ごとにできるだけ最新の情報を事前に提供する予定。
出) (著)

成績評価方法・基準

評価項目	割合
課題の到達度	70%
手技に関する到達度	30%

受講者に講義ならびに演習の内容について，プレゼンテーションを適宜行なってもらい，その各課題の到達度を評価する．手技に関する到達度についても同様に評価し，70：30で配点する．

その他

学生相談：随時

2017年度

口腔再建リハビリテーション学 1 (Oral Reconstruction and Rehabilitation)

開講年次	1～2年	期区分	通年	科目	主科目(研究)	単位数	2
授業方法	講義・演習	時間数	30	曜日		時限	
開講学科	歯学研究科 歯学専攻						
科目責任者	細川 隆司						
担当教員	細川 隆司、正木 千尋、小城 辰郎、近藤 祐介、柄 慎太郎						

授業計画

回	学習内容	授業方法	担当教員	事前・事後学習 学習課題
1	オリエンテーション(臨床講座における基礎研究とは?)	講義・演習	細川、正木	配布資料による復習
2	文献的考察1(科学論文の読み方,科学的プレゼンテーションについて)	講義・演習	細川、小城、近藤、柄	配布資料による復習
3	文献的考察2(文献検索の方法,雑誌のランキング,研究の質)	講義・演習	細川、正木	配布資料による復習
4	実験室の使用方法1(実験器具の基本的使用方法)	演習	細川、正木、近藤	配布資料による復習
5	実験室の使用方法2(試薬の調整および取り扱い,溶液等の作り方の基礎)	演習	細川、正木、近藤	配布資料による復習
6	口腔粘膜サンプルからの遺伝子抽出と解析方法1(サンプル採取とその処理)	講義・演習	細川、正木、近藤	配布資料による復習
7	口腔粘膜サンプルからの遺伝子抽出と解析方法2(遺伝子多型の解析)	講義・演習	細川、正木、柄	配布資料による復習
8	超音波が口腔粘膜細胞の遺伝子発現に及ぼす影響(概念の把握解析方法習得)	講義・演習	細川、正木、柄	配布資料による復習
9	マウス顎下腺を用いた催唾剤の水分泌効果の検討1.(上皮膜輸送の基本の習得)	講義・演習	近藤、柄	配布資料による復習
10	マウス顎下腺を用いた催唾剤の水分泌効果の検討2.(灌流実験の基本概念と手技)	演習	近藤、柄	配布資料による復習

2017年度

口腔再建リハビリテーション学 2 (Oral Reconstruction and Rehabilitation)

開講年次	2～3年	期区分	通年	科目	主科目(研究)	単位数	2
授業方法	講義・演習	時間数	30	曜日		時限	
開講学科	歯学研究科 歯学専攻						
科目責任者	細川 隆司						
担当教員	細川 隆司、正木 千尋、小城 辰郎、近藤 祐介、柄 慎太郎						

授業の概要

オッセオインテグレーションの早期獲得、骨のリモデリングとそれをコントロールする因子、口腔粘膜を遺伝子解析することでインプラント治療のリスクファクターの検証、より早期にオッセオインテグレーションを獲得するための超音波/超短波治療の検討、唾液腺機能回復法とそれが口腔リハビリテーションに及ぼす影響に関する検討などを行う。「口腔再建リハビリテーション1。」を発展させた内容で、研究の背景、研究計画の立案、実験データの採取、解析、討論などを通じ、論理的研究手法を体得、実践することを目標とする。

学生の到達目標

1. ヒト口腔粘膜サンプルの遺伝子解析の知識および技能を修得し、実際にデータを取得し対応できる。
2. 口腔粘膜由来細胞への超音波・超短波が遺伝子発現に及ぼす影響についての基礎知識ならびに実験手技を習得し、自らデータを採取できる。
3. マウス顎下腺灌流実験の手技を学び、腺組織を用いた水分分泌動態に関するデータを採取できる。

テキスト

出) (著)

参考書

各講義・演習ごとに出来るだけ最新の情報を提供する予定。動物実験講習を受講しておくことを勧めます。
出) (著)

成績評価方法・基準

評価項目	割合
課題の到達度	70%
手技に関する到達度	30%

受講者に講義ならびに演習の内容について、プレゼンテーションを適宜行なってもらい、その各課題の到達度を評価する。手技に関する到達度についても同様に評価し、70：30で配点する。

その他

学生相談：随時

2017年度

口腔再建リハビリテーション学 2 (Oral Reconstruction and Rehabilitation)

開講年次	2～3年	期区分	通年	科目	主科目(研究)	単位数	2
授業方法	講義・演習	時間数	30	曜日		時限	
開講学科	歯学研究科 歯学専攻						
科目責任者	細川 隆司						
担当教員	細川 隆司、正木 千尋、小城 辰郎、近藤 祐介、柄 慎太郎						

授業計画

回	学習内容	授業方法	担当教員	事前・事後学習 学習課題
1	オリエンテーション(実験機器の取り扱い, 試薬の調整など)	講義・演習	細川、正木、近藤	配布資料による復習
2	口腔粘膜サンプルからの遺伝子抽出と解析方法1(文献的考察, 基本手技の習得, 実験計画の立案)	講義・演習	細川、正木、小城、柄	配布資料による復習
3	口腔粘膜サンプルからの遺伝子抽出と解析方法2(口腔粘膜サンプルの採取および前処理)	演習	細川、正木、近藤	配布資料による復習
4	口腔粘膜サンプルからの遺伝子抽出と解析方法3(PCRおよび電気泳動)	演習	細川、正木、柄	配布資料による復習
5	超音波・超短波が口腔粘膜に及ぼす影響1.(文献的考察, 基本手技の習得)	講義・演習	細川、正木、近藤	配布資料による復習
6	超音波・超短波が口腔粘膜に及ぼす影響2.(照射条件の設定, 解析方法の習得)	演習	細川、正木	配布資料による復習
7	超音波・超短波が口腔粘膜に及ぼす影響3.(PCR, ウェスタンブロットなど)	演習	細川、正木、近藤	配布資料による復習
8	マウス顎下腺を用いた上皮間水輸送の検討1.(水輸送の概念, 基本手技の習得)	講義・演習	近藤、柄	配布資料による復習
9	マウス顎下腺を用いた上皮間水輸送の検討2.(マウスの取り扱い, 実体顕微鏡下でのオペ手技の習得)	演習	近藤、柄	配布資料による復習
10	マウス顎下腺を用いた上皮間水輸送の検討3.(灌流実験, データ解析)	演習	近藤、柄	配布資料による復習

2017年度

口腔再建リハビリテーション学 3 (Oral Reconstruction and Rehabilitation)

開講年次	2～3年	期区分	通年	科目	主科目(研究)	単位数	2
授業方法	講義・演習	時間数	30	曜日		時限	
開講学科	歯学研究科 歯学専攻						
科目責任者	細川 隆司						
担当教員	細川 隆司、正木 千尋、小城 辰郎、近藤 祐介、柄 慎太郎						

授業の概要

当分野で進行中の研究テーマの中からひとつを選択し、その実験系について、文献的考察による研究背景の把握、実験計画の立案を行い、予備実験、再考察、本実験、研究結果に対する批判的吟味などを行ない論文作成の土台を得る。

当分野での研究の例、

- (1) 口腔インプラント即時負荷のリスクファクターに関する臨床調査研究
- (2) オッセオインテグレーション喪失の臨床診断に関する臨床的・基礎的研究
- (3) 超音波・超短波照射がオッセオインテグレーション獲得に及ぼす影響
- (4) 口腔乾燥が口腔乾燥に及ぼす影響に関する臨床的・基礎的研究

学生の到達目標

テーマの学術的背景の学習から実際に研究を行い、それらを吟味することでEvidence Based Dentistryを体現し、実践できる。

テキスト

出) (著)

参考書

各講義・演習ごとに出来るだけ最新の情報を提供する予定。事前に動物実験講習を受講しておくことが望ましい。

出) (著)

成績評価方法・基準

評価項目	割合
課題の到達度	70%
手技に関する到達度	30%

受講者に講義ならびに演習の内容について、プレゼンテーションを適宜行なってもらい、その各課題の到達度を評価する。手技に関する到達度についても同様に評価し、70:30で配点する。

その他

学生相談：随時

2017年度

口腔再建リハビリテーション学 3 (Oral Reconstruction and Rehabilitation)

開講年次	2～3年	期区分	通年	科目	主科目(研究)	単位数	2
授業方法	講義・演習	時間数	30	曜日		時限	
開講学科	歯学研究科 歯学専攻						
科目責任者	細川 隆司						
担当教員	細川 隆司、正木 千尋、小城 辰郎、近藤 祐介、柄 慎太郎						

授業計画

回	学習内容	授業方法	担当教員	事前・事後学習 学習課題
1	オリエンテーション(研究テーマに関するディスカッション)	講義・演習	細川 正木 小城 近藤 柄	配布資料による復習
2～15	各テーマに担当教員を充当, 研究にあたる.	講義・演習	細川 正木 小城 近藤 柄	配布資料による復習

2017年度

最新口腔再建リハビリテーション学 (Advanced Oral Reconstruction and Rehabilitation)

開講年次	1～3年	期区分	通年	科目	主科目(研究)/副科目	単位数	2
授業方法	演習	時間数	30	曜日		時限	
開講学科	歯学研究科 歯学専攻						
科目責任者	細川 隆司						
担当教員	細川 隆司、正木 千尋、小城 辰郎、近藤 祐介、柄 慎太郎						

授業の概要

口腔再建リハビリテーション学分野でのセミナー形式の講義。Implantology, Prosthetic Dentistry, Bone Biology, Salivary Research, Periodontal Researchなど最新論文を紹介する。

学生の到達目標

論文の要旨の把握と科学的背景の読み方を理解し、短時間に紹介するためのレジユメの作成、プレゼンテーションソフトを用いた説明用スライドの作成方法などを学び知識を高める。

テキスト

出) (著)

参考書

各講義・演習ごとに出来るだけ最新の情報を事前に提供する予定。
出) (著)

成績評価方法・基準

評価項目	割合
当人のセミナー時のプレゼンテーション内容	60%
各セミナーの出欠およびセミナー時の質問や理解度	40%

その他

学生相談：随時

2017年度

最新口腔再建リハビリテーション学 (Advanced Oral Reconstruction and Rehabilitation)

開講年次	1～3年	期区分	通年	科目	主科目(研究)/副科目	単位数	2
授業方法	演習	時間数	30	曜日		時限	
開講学科	歯学研究科 歯学専攻						
科目責任者	細川 隆司						
担当教員	細川 隆司、正木 千尋、小城 辰郎、近藤 祐介、柄 慎太郎						

授業計画

回	学習内容	授業方法	担当教員	事前・事後学習 学習課題
1	オリエンテーション	演習	細川 正木 小城 近藤 柄	配布資料による復習
2～15	担当の各自が選んだ論文紹介・レジюмеを作成しプレゼンテーションする。	演習	細川 正木 小城 近藤 柄	配布資料による復習

2017年度

地域口腔保健医療学 ベーシックコース (Basic Studies in Community Oral Health)

開講年次	1～3年	期区分	通年	科目	主科目（臨床）	単位数	4
授業方法	実習	時間数	120	曜日		時限	
開講学科	歯学研究科 歯学専攻						
科目責任者	安細 敏弘						
担当教員	安細 敏弘、岩崎 正則、邵 仁浩、角田 聡子 (日本口腔衛生学会指導医) 安細敏弘 (日本口腔衛生学会認定医) 岩崎正則						

授業の概要

ヘルスオリエンティッドコンセプトならびにミニマムインターベンションの概念に基づいた知識を学習し、臨床の場で実践する技能を修得する。ベーシックコースでは2大疾患である齲蝕と歯周病がバイオフィルム感染症であることを理解し、その対応法について修得するとともに実践行動医学を踏まえた保健指導のノウハウを修得する。

学生の到達目標

1. スタンダードプリコーションが実践できる。
2. コミュニケーションスキルができる。
3. 頻度の高い唾液・細菌検査を実施し、リスク評価ができる。
4. 健康心理学に基づいた歯科保健指導ができる。
5. 再石灰化療法の理論と実践ができる。
6. ライフステージに応じた地域歯科保健活動ができる。

テキスト

出) (著)

参考書

予防歯科実践ハンドブック
出)医歯薬出版、東京、2004 (著)

新・う蝕の科学
出)医歯薬出版、東京、2006 (著)

Preventive Periodontology
出)医歯薬出版、東京、2007 (著)

成績評価方法・基準

評価項目	割合
レポート	50%
プレゼンテーション	30%
発言内容および態度	20%

事後レポート(50%)、プレゼンテーション(30%)、ディスカッション時の発言内容および態度評価(20%)で評価する。点数配分：事後レポート10点×5回、プレゼンテーション10点×3回、ディスカッション20点 合計100点満点。優(100～80点)、良(79～70点)、可(69～60点)を合格とする。

その他

学生相談：随時 但し事前にメール等で予約必要

2017年度

地域口腔保健医療学 ベーシックコース (Basic Studies in Community Oral Health)

開講年次	1～3年	期区分	通年	科目	主科目（臨床）	単位数	4
授業方法	実習	時間数	120	曜日		時限	
開講学科	歯学研究科 歯学専攻						
科目責任者	安細 敏弘						
担当教員	安細 敏弘、岩崎 正則、邵 仁浩、角田 聡子 (日本口腔衛生学会指導医) 安細敏弘 (日本口腔衛生学会認定医) 岩崎正則						

授業計画

回	学習内容	授業方法	担当教員	事前・事後学習 学習課題
1～2	スタンダードプリコーションの基本 スタンダードプリコーションの基本を学習する。	実習	安細	事前配布された資料により学習する。
3～4	消毒剤の種類と使用法、スποルディングの分類について 各種消毒剤の適切な使い方と適用を学習する。	実習	安細	事前配布された資料により学習する。
5～6	おさえておくべき感染対策 医療現場における多剤耐性菌対策のCDCガイドラインを中心に学習する。	実習	安細	事後レポートの提出
7～10	医療面接の方法 医療面接の基本を学習する。	実習	角田	事後レポートの提出
11～15	WHOの口腔診査法の基本とキャリブレーションのしかた 国際標準の診査基準の基本とデータ標準化のしかたを学習する。	実習	岩崎	事前配布された資料により学習する。
16～20	齲蝕の診断と診断機器の概要 初期齲蝕と齲蝕の診断法の基本ならびにICDASなど国際標準について学習する。	実習	栗野	事前配布された資料により学習する。
21～24	唾液検査・細菌検査に基づいたリスク評価のしかた 臨床現場でしばしば使われる各種検査法を知るとともに評価のしかたを学習する。	実習	邵	事前配布された資料により学習する。
25～29	行動理論に基づく禁煙指導 健康心理学に基づく禁煙プログラムの基本を学習する。	実習	安細	事前配布された資料により学習する。
30～34	臨床疫学で用いる心理社会的因子とQOLの評価法 臨床疫学の現場でしばしば使われる各種評価法について学習する。	実習	岩崎	事前配布された資料により学習する。
35～38	フロリデーションの基本 全体的応用法であるフロリデーションの現状と課題について学習する。	実習	岩崎	事前配布された資料により学習する。
39～41	局所的フッ化物応用の種類と手技 局所的フッ化物応用の基本を学習する。	実習	岩崎	事後レポートの提出
42～45	口腔バイオフィルムの理論と除去手法 バイオフィルムに対する臨床的アプローチを学習する。	実習	角田	事前配布された資料により学習する。
46～50	再石灰化療法の理論と実践 再石灰化の理論と臨床現場での実践方法を学習する。	実習	安細	事前配布された資料により学習する。
51～55	ライフステージに応じた健康支援・社会支援（Ⅰ） 学校や職場における現場の活動を体験する。	実習	邵	事後レポートの提出
56～60	ライフステージに応じた健康支援・社会支援（Ⅱ） 高齢者・要介護者がいる現場の活動を体験する。	実習	邵	事後レポートの提出

2017年度

地域口腔保健医療学 アドバンスコース (Advanced Studies in Community Oral Health)

開講年次	1～3年	期区分	通年	科目	主科目(臨床)	単位数	4
授業方法	実習	時間数	120	曜日		時限	
開講学科	歯学研究科 歯学専攻						
科目責任者	安細 敏弘						
担当教員	安細 敏弘、岩崎 正則、邵 仁浩、角田 聡子 (日本口腔衛生学会指導医)安細敏弘 (日本口腔衛生学会認定医)岩崎正則						

授業の概要

医療、介護、保健の現場における地域住民の健康づくりを支援するためのしくみや役割を理解し、行動医学や保健指導についての実践的な知識とノウハウを修得する。

学生の到達目標

1. 地域医療・介護・保健のしくみと役割が説明できる。
2. 地域包括ケアのしくみと役割が説明できる。
3. 行動心理学に基づいた保健指導や臨床的対応ができる。
4. ライフステージに応じた保健指導プログラムの作成と実践ができる。
5. 災害時の歯科保健医療支援の留意点や対応法が説明できる。

テキスト

出) (著)

参考書

地域医療テキスト
出)医学書院、東京、2009. (著)

実践行動医学
出)メディカルサイエンスインターナショナル、東京、2010. (著)

歯科における災害対策
出)砂書房、東京、2011 (著)

成績評価方法・基準

評価項目	割合
レポート	50%
プレゼンテーション	30%
発言内容および態度評価	20%

事後レポート(50%)、プレゼンテーション(30%)、ディスカッション時の発言内容および態度評価(20%)で評価する。点数配分：事後レポート10点×5回、プレゼンテーション10点×3回、ディスカッション20点 合計100点満点。

その他

学生相談：随時 但し事前にメール等で予約必要

2017年度

地域口腔保健医療学 アドバンスコース (Advanced Studies in Community Oral Health)

開講年次	1～3年	期区分	通年	科目	主科目（臨床）	単位数	4
授業方法	実習	時間数	120	曜日		時限	
開講学科	歯学研究科 歯学専攻						
科目責任者	安細 敏弘						
担当教員	安細 敏弘、岩崎 正則、邵 仁浩、角田 聡子 (日本口腔衛生学会指導医) 安細敏弘 (日本口腔衛生学会認定医) 岩崎正則						

授業計画

回	学習内容	授業方法	担当教員	事前・事後学習 学習課題
1～4	地域口腔保健医療総論 地域医療・介護・保健の現状と役割について学習する。	実習	安細	事前配布された資料により学習する。
5～10	地域口腔保健医療総論 地域医療・介護・保健の基本となるプライマリ・ケアについて学習する	実習	安細	事前配布された資料により学習する。 事後レポートの提出
11～14	地域口腔保健医療システム論 地域医療を支える人的要素、医療機関、自治体のしくみと役割について学習する。	実習	岩崎	事前配布された資料により学習する。
15～20	地域口腔保健医療システム論 介護と保健・福祉のしくみと役割について学習する。	実習	岩崎	事前配布された資料により学習する。
21～25	地域口腔保健医療システム論 地域包括ケアのしくみと役割について学習する。	実習	岩崎	事前配布された資料により学習する。
26～30	地域口腔保健医療システム論 ヘルスプロモーションの理念に基づく保健活動と健康支援について学習する。	実習	岩崎	事前配布された資料により学習する。 事後レポートの提出
31～35	実践保健指導総論 ヘルス・コミュニケーションの理論と実際について学習する。	実習	邵	事前配布された資料により学習する。
36～40	実践保健指導総論 健康心理学および行動理論の基礎について学習する。	実習	安細	事前配布された資料により学習する。
41～45	実践保健指導各論 食育・食行動と健康支援について学習する。	実習	安細	事前配布された資料により学習する。
46～49	実践保健指導各論 禁煙指導プログラムと健康支援について学習する。	実習	角田	事前配布された資料により学習する。 事後レポートの提出
50～52	ライフステージに応じた健康支援・保健指導（ ） 母子・妊産婦・子育て期における健康支援・保健指導の知識とノウハウを学習する。	実習	邵	事前配布された資料により学習する。
53～54	ライフステージに応じた健康支援・保健指導（ ） 学童・思春期における健康支援・保健指導の知識とノウハウを学習する。	実習	邵	事前配布された資料により学習する。
55～56	ライフステージに応じた健康支援・保健指導（ ） 成人期・職場における健康支援・保健指導の知識とノウハウを学習する。	実習	角田	事前配布された資料により学習する。
57～58	ライフステージに応じた健康支援・保健指導（ ） 高齢期における健康支援・保健指導の知識とノウハウを学習する。	実習	安細	事前配布された資料により学習する。 事後レポートの提出

2017年度

地域口腔保健医療学 アドバンスコース (Advanced Studies in Community Oral Health)

開講年次	1～3年	期区分	通年	科目	主科目（臨床）	単位数	4
授業方法	実習	時間数	120	曜日		時限	
開講学科	歯学研究科 歯学専攻						
科目責任者	安細 敏弘						
担当教員	安細 敏弘、岩崎 正則、邵 仁浩、角田 聡子 （日本口腔衛生学会指導医）安細敏弘 （日本口腔衛生学会認定医）岩崎正則						

回	学習内容	授業方法	担当教員	事前・事後学習 学習課題
59～60	災害時の歯科保健医療 歯科としての災害時健康危機支援対策の実際を学習する。	実習	安細	事前配布された資料により学習する。 事後レポートの提出

2017年度

地域口腔保健医療学演習 (Practice in Community Oral Health)

開講年次	1～2年	期区分	通年	科目	主科目(研究)	単位数	2
授業方法	講義・演習	時間数	30	曜日		時限	
開講学科	歯学研究科 歯学専攻						
科目責任者	岩崎 正則						
担当教員	岩崎 正則、邵 仁浩						

授業の概要

講義では、口腔健康学関連の研究に必要な疫学理論、生物学的統計、因果推論について基本的知識と技能を修得し、臨床疫学、環境疫学など様々なテーマを付け加えた疫学の応用研究に対応できる能力を養う。演習では、事例に基づいたデータを用い、統計ソフトの取り扱いとともに疾病量の指標、記述疫学的方法論、分析疫学的方法論、因果関係の判定法等について修得する。

学生の到達目標

- 疫学における統計学の役割を説明できる。
- 保健医療事象の実態を明らかにするための記述疫学的手法を説明できる。
- 保健医療事象にかかわる要因を明らかにする分析疫学的手法を説明できる。
- 疫学における交絡および因果関係を説明できる。
- 統計ソフトSPSSを使用し、データの解析を実践できる。

テキスト

出) (著)

参考書

- 医学研究のデザイン
出)メディカルサイエンスインターナショナル 著)
シヨナル、東京、2004.
- 医学がわかる疫学
出)新興医学出版社、東京、2004. (著)
- SPSSによる看護・福祉・医療統計学入門
出)福村出版、東京、2004. (著)

成績評価方法・基準

評価項目	割合
レポート	40%
プレゼンテーション	15%
予習	45%

事後レポート(40%)、プレゼンテーション(15%)、予習(授業内容の把握)(45%)で評価する。
点数配分：事後レポート5点×8回、プレゼンテーション15点×1回、予習3点×15回 合計100点満点。

その他

学生相談：随時

2017年度

地域口腔保健医療学演習 (Practice in Community Oral Health)

開講年次	1～2年	期区分	通年	科目	主科目(研究)	単位数	2
授業方法	講義・演習	時間数	30	曜日		時限	
開講学科	歯学研究科 歯学専攻						
科目責任者	岩崎 正則						
担当教員	岩崎 正則、邵 仁浩						

授業計画

回	学習内容	授業方法	担当教員	事前・事後学習 学習課題
1	疫学理論 1-疾病頻度 疾病頻度について、疾病量の指標を踏まえながら学習する。	講義	邵	事前配布された資料により学習する。
2	疫学理論 2-疫学研究の種類 記述疫学、分析疫学、介入疫学の目的と流れを習得する。	講義	岩崎	事前配布された資料により学習する。
3	疫学理論 3-バイアスと交絡 バイアスと交絡について、研究デザインを踏まえながら制御方法を学習する。	講義	岩崎	事前配布された資料により学習する。
4	疫学理論 4-因果推論 因果推論について、研究デザインを踏まえながら学習する。	講義	邵	事前配布された資料により学習する。
5	疫学理論 5-研究仮説の設定 研究仮説の設定について、文献検索を踏まえながら学習する。	講義	邵	事前配布された資料により学習する。
6	口腔保健医療行政の保健医療事業評価 口腔保健医療事業評価について、具体的な事例を踏まえながら評価の考え方を学習する。	講義	邵	事前配布された資料により学習する。
7	口腔保健医療データ解析 1 - 要約統計量 具体的データを用いて、SPSSの操作を踏まえながら要約統計量について学習する。	演習	邵	事前配布された資料により学習する。 事後レポートを提出する。
8	口腔保健医療データ解析 2 - 単変量解析 具体的データを用いて、SPSSの操作を踏まえながら単変量解析(推定と検定)について学習する。	演習	邵	事前配布された資料により学習する。 事後レポートを提出する。
9	口腔保健医療データ解析 3 - 多重回帰 具体的データを用いて、SPSSの操作を踏まえながら単変量回帰と多重回帰について学習する。	演習	邵	事前配布された資料により学習する。 事後レポートを提出する。
10	口腔保健医療データ解析 4 - 交絡制御 具体的データを用いて、SPSSの操作を踏まえながら交絡因子の統計学的調整と交互作用について学習する。	演習	邵	事前配布された資料により学習する。 事後レポートを提出する。
11	口腔保健医療データ解析 5 - 相対危険 具体的データを用いて、SPSSの操作を踏まえながらオッズ比と相対危険について学習する。	演習	邵	事前配布された資料により学習する。 事後レポートを提出する。
12	口腔保健医療データ解析 6 - 多重ロジスティック回帰分析 具体的データを用いて、SPSSの操作を踏まえながら多重ロジスティック回帰分析について学習する。	演習	邵	事前配布された資料により学習する。 事後レポートを提出する。
13	口腔保健医療データ解析 7 - 多重Cox 比例ハザードモデル 具体的データを用いて、SPSSの操作を踏まえながら多重Cox 比例ハザードモデルについて学習する。	演習	邵	事前配布された資料により学習する。 事後レポートを提出する。
14	口腔保健医療データ解析 8 - より複雑なモデル 具体的事例を提示しながら、2次データ分析、マルチレベル分析、傾向化スコアについて学習する。	講義	岩崎	事前配布された資料により学習する。

2017年度

地域口腔保健医療学演習 (Practice in Community Oral Health)

開講年次	1～2年	期区分	通年	科目	主科目(研究)	単位数	2
授業方法	講義・演習	時間数	30	曜日		時限	
開講学科	歯学研究科 歯学専攻						
科目責任者	岩崎 正則						
担当教員	岩崎 正則、邵 仁浩						

回	学習内容	授業方法	担当教員	事前・事後学習 学習課題
15	研究仮説発表会 口腔保健医療分野で興味のあるテーマについて文献を検索し、研究仮説の設定について学習し、発表する。	演習	邵	当日のプレゼンテーションおよび事後レポートを提出する。

2017年度

地域口腔保健医療学演習 (Practice in Community Oral Health)

開講年次	2～3年	期区分	通年	科目	主科目(研究)	単位数	2
授業方法	講義・演習	時間数	30	曜日		時限	
開講学科	歯学研究科 歯学専攻						
科目責任者	岩崎 正則						
担当教員	岩崎 正則、安細 敏弘						

授業の概要

科学的な報告は高い水準で行わなければならない。本講義・演習では、口腔健康学関連の研究に必要な疫学・統計学の基本的知識と技能を修得した者を対象とし、統計解析で得られた知見を明確かつ適切に報告する技術を習得することを目的とする。学会発表、論文執筆に役立つ実践的なスキルを修得する。

学生の到達目標

- ヘルスサイエンスにおける効果的なデータ報告の方法を身につけ対応できる。
- 数値と記述統計量の報告の基本と応用を身につけ対応できる。
- 図表を用いたデータと統計量の効果的な提示法を身につけ対応できる。
- ヘルスサイエンスにおける効果的な発表の方法を身につけ対応できる。

テキスト

プリント配布
出)

著)

参考書

トム・ラングの医学論文「執筆・出版・発表」実践ガイド
出)シナジー、東京、2012 著)

プレゼンテーションZen 第2版
出)ピアソン桐原、2012 著)

学生・研究者のための伝わる! 学会ポスターのデザイン術
出)化学同人、京都、2011 著)

成績評価方法・基準

評価項目	割合
レポート	40%
プレゼンテーション	40%
ディスカッション	20%

レポート(40%)、プレゼンテーション(40%)、ディスカッション(20%)の内容にて評価する。

点数配分：事後レポート20点×2回、プレゼンテーション40点(教員による評価および受講者相互評価)、ディスカッション20点 合計100点満点。

その他

学生相談：随時

2017年度

地域口腔保健医療学演習 (Practice in Community Oral Health)

開講年次	2～3年	期区分	通年	科目	主科目(研究)	単位数	2
授業方法	講義・演習	時間数	30	曜日		時限	
開講学科	歯学研究科 歯学専攻						
科目責任者	岩崎 正則						
担当教員	岩崎 正則、安細 敏弘						

授業計画

回	学習内容	授業方法	担当教員	事前・事後学習 学習課題
1	研究デザインと研究活動の報告に関するガイドライン 生物医学研究で用いられる主要な研究デザインの報告に関するガイドラインについて学ぶ。	講義	岩崎	事前配布された資料により学習する。
2	データの要約1 数値と記述統計量の報告の基本について学ぶ。	講義	安細	事前配布された資料により学習する。
3	データの要約2 数値と記述統計量の報告の応用について学ぶ。	講義	安細	事前配布された資料により学習する。
4	図表を用いたデータと統計量の提示1 図表による値、グループの報告法を学ぶ。	講義	岩崎	事前配布された資料により学習する。
5	図表を用いたデータと統計量の提示2 比較の報告法を学ぶ。	講義	岩崎	事前配布された資料により学習する。
6,7	ヘルスサイエンスにおける発表の方法1 効果的なポスター発表の方法を学ぶ。	講義	岩崎	事前配布された資料により学習する。
8,9	ヘルスサイエンスにおける発表の方法2 効果的なスライド発表の方法を学ぶ。	講義	岩崎	事前配布された資料により学習する。 事後レポートを提出する。
10,11	効果的な報告・発表の実践1 自身のデータあるいは既存のデータについて修正点を探し、改善する。	演習	岩崎	事前配布された資料により学習する。
12,13	効果的な報告・発表の実践2 改善したデータのプレゼンテーションを行う。	演習	岩崎	事前配布された資料により学習する。
13,14	効果的な報告・発表の実践3 プレゼンテーションに対するディスカッションを行う。	演習	岩崎	事前配布された資料により学習する。 事後レポートを提出する。
15	講義全体のまとめ プレゼンテーション・ディスカッションの結果を受講生にフィードバックする。 今後の研究の参考となる優れたポスター、スライドについて紹介する。	講義	岩崎	事前配布された資料により学習する。

2017年度

地域口腔保健医療学特論 (Current Topics in Community Oral Health)

開講年次	1～3年	期区分	通年	科目	主科目(研究)/副科目	単位数	2
授業方法	演習	時間数	30	曜日		時限	
開講学科	歯学研究科 歯学専攻						
科目責任者	安細 敏弘						
担当教員	安細 敏弘、岩崎 正則、邵 仁浩、角田 聡子						

授業の概要

予防歯科(口腔衛生)学関連、公衆衛生学関連、臨床栄養関連ならびに疫学関連の研究の動向を理解するために最新の文献の科学的読み方、論文の書き方およびプレゼンテーションの技法について演習を通じて修得する。

学生の到達目標

1. 英語文献を理解し、検証する能力を養うことができる。
2. 文献検索の方法を修得することができる。
3. 科学論文の作成やプレゼンテーションのポイントを修得することができる。

テキスト

出) (著)

参考書

関連分野の文献および参考書等必要なものを用意する。
出) (著)

成績評価方法・基準

評価項目	割合
説明した論文の理解度	50%
プレゼンテーション	30%
ディスカッション時の発言内容および態度評価	20%

その他

学生相談：随時 但し事前にメール等で予約必要

2017年度

地域口腔保健医療学特論 (Current Topics in Community Oral Health)

開講年次	1～3年	期区分	通年	科目	主科目(研究)/副科目	単位数	2
授業方法	演習	時間数	30	曜日		時限	
開講学科	歯学研究科 歯学専攻						
科目責任者	安細 敏弘						
担当教員	安細 敏弘、岩崎 正則、邵 仁浩、角田 聡子						

授業計画

回	学習内容	授業方法	担当教員	事前・事後学習 学習課題
1～15	研究の背景、内容、今後の展望を理解する。 目的にあった文献を検索し、理解し、まとめ、資料を作成し、プレゼンテーションを行う。	文献紹介および討論	安細 岩崎 邵 角田	担当者が準備した資料により学習する。

2017年度

歯科と全身疾患 (Internal Medicine for Dentistry)

開講年次	1～2年	期区分	後期	科目	主科目(研究)/副科目	単位数	2
授業方法	講義・演習	時間数	30	曜日	金曜日	時限	
開講学科	歯学研究科 歯学専攻						
科目責任者	中道 郁夫						
担当教員	中道 郁夫						

授業の概要

歯科診療の質を向上するために、合併する全身疾患を念頭に置く事は重要なことである。本講義においては、代表的な内科疾患の病態・診断・治療を学ぶ。次に全身の病態と歯科疾患との関連性について討論を行うことにより知識を整理する。また、共通の病態(基礎医学)を学ぶことにより、歯学研究に新たな視点が生まれることを期待している。

学生の到達目標

1. 代表的全身疾患の病態・診断・治療を理解できる。
2. 歯科診療に影響を与える全身の病態が理解できる。
3. 全身疾患に影響を与える歯科診療の予想ができる。

テキスト

毎回テーマに沿った動画資料を用いる。

出) (著)

参考書

歯科のための内科学

出)南江堂 (著)

歯科と内科の接点を求めて

出)永末書店 (著)

成績評価方法・基準

評価項目	割合
出席	50%
試問	50%

出席点5点×10回(計50点)と、試問点5点×10回(計50点)で合計100点とする。

その他

学生相談：随時

2017年度

歯科と全身疾患 (Internal Medicine for Dentistry)

開講年次	1～2年	期区分	後期	科目	主科目(研究)/副科目	単位数	2
授業方法	講義・演習	時間数	30	曜日	金曜日	時限	
開講学科	歯学研究科 歯学専攻						
科目責任者	中道 郁夫						
担当教員	中道 郁夫						

授業計画

回	学習内容	授業方法	担当教員	事前・事後学習 学習課題
1-	循環の領域：不整脈、虚血性心疾患（狭心症、心筋梗塞）、心不全、高血圧について	講義・討論	中道	参考書を読む
-3	血液の領域：貧血、白血病、止血機構、血栓・塞栓症、血友病（凝固因子）について	講義・討論	中道	参考書を読む
4-	呼吸の領域：気管支喘息、慢性閉塞性肺疾患、かぜ症候群、肺炎、肺結核について	講義・討論	中道	参考書を読む
-6	消化の領域：胃炎、消化性潰瘍、過敏性腸症候群、下痢・便秘、肝炎について	講義・討論	中道	参考書を読む
7-	代謝の領域：糖尿病、高脂血症、高尿酸血症（痛風）、骨粗鬆症について	講義・討論	中道	参考書を読む
-9	腎・泌尿器の領域：糸球体腎炎、腎不全、血液透析、前立腺肥大症について	講義・討論	中道	参考書を読む
10-	運動・神経の領域：てんかん、パーキンソン病、認知症、脳卒中について	講義・討論	中道	参考書を読む
-12	精神の領域：統合失調症、気分障害（抑うつ）、神経症、心身症について	講義・討論	中道	参考書を読む
13-	免疫の領域：アレルギー、自己免疫疾患、免疫不全（AIDS）について	講義・討論	中道	参考書を読む
-15	悪性新生物：悪性腫瘍の概要、胃癌、大腸癌、肝癌、肺癌、乳癌、子宮癌について	講義・討論	中道	参考書を読む

2017年度

高血圧患者の診かた (Diagnosis and Treatment of Hypertension)

開講年次	1～3年	期区分	前期	科目	主科目(研究)/副科目	単位数	2
授業方法	講義・演習	時間数	30	曜日		時限	
開講学科	歯学研究科 歯学専攻						
科目責任者	福原 正代						
担当教員	福原 正代						

授業の概要

日本人の中で最も患者数の多い疾患である高血圧は歯科患者においても高率に合併している疾患である。高血圧およびその臓器障害、合併症の理解を深めるとともに内科にて実施している検査と診断方法について学ぶ。特に高齢者歯科や口腔外科にて診療している大学院生に受講を勧める。

学生の到達目標

1. 高血圧の疫学について理解できる。
2. 血圧調節の仕組みについて理解できる。
3. 降圧薬の種類と特徴について理解できる。
4. 高血圧の臓器合併症(脳卒中・虚血性心臓病・慢性腎臓病)を理解できる。
5. 高齢者高血圧の特徴とその治療について理解できる。
6. 糖尿病やメタボリック症候群と高血圧のかかわり、治療について理解できる。
7. 高血圧に伴う臓器障害の検査法(眼底・心電図・心エコー)を、実習を通して理解できる。

テキスト

高血圧治療ガイドライン2014
出)

著)

参考書

出)

著)

成績評価方法・基準

評価項目	割合
出席	30%
講義に望む態度・積極性	20%
症例検討時のプレゼンテーション	50%

その他

学生相談：随時

2017年度

高血圧患者の診かた (Diagnosis and Treatment of Hypertension)

開講年次	1～3年	期区分	前期	科目	主科目(研究)/副科目	単位数	2
授業方法	講義・演習	時間数	30	曜日		時限	
開講学科	歯学研究科 歯学専攻						
科目責任者	福原 正代						
担当教員	福原 正代						

授業計画

回	学習内容	授業方法	担当教員	事前・事後学習 学習課題
1	総論 高血圧の疫学と現況について学ぶ	講義	福原	テキストを用いた予習・復習
2	血圧調節 神経性の調節と体液調節の仕組みを学ぶ	講義	福原	テキストを用いた予習・復習
3	血圧測定と評価法 血圧の正しい測り方を学び、白衣高血圧や仮面高血圧について学ぶ	講義	福原	テキストを用いた予習・復習
4	高血圧の検査法1 眼底検査を体験する	実習	福原	-
5	高血圧の検査法2 心電図・心エコー検査を体験する	実習	福原	-
6	高血圧と臓器合併症 高血圧と脳・心・腎疾患との関連を学ぶ	講義	福原	テキストを用いた予習・復習
7	高血圧と治療1 治療の基本方針とリスクの層別化を学ぶ	講義	福原	テキストを用いた予習・復習
8	高血圧と治療2 生活習慣の修正について学ぶ	講義	福原	テキストを用いた予習・復習
9	高血圧と治療3 降圧薬治療について学ぶ	講義	福原	テキストを用いた予習・復習
10	高血圧と治療4 治療抵抗性高血圧について学ぶ	講義	福原	テキストを用いた予習・復習
11	高齢者の高血圧について学ぶ	講義	福原	テキストを用いた予習・復習
12	二次性高血圧の診断と治療について学ぶ	講義	福原	テキストを用いた予習・復習
13	症例検討1	演習	福原	症例について事前学習
14	症例検討2	演習	福原	症例について事前学習
15	症例検討3	演習	福原	症例について事前学習

2017年度

内科学入門 (Introduction of Internal Medicine)

開講年次	1～3年	期区分	前期	科目	主科目(研究)/副科目	単位数	2
授業方法	講義	時間数	30	曜日		時限	
開講学科	歯学研究科 歯学専攻						
科目責任者	福原 正代						
担当教員	福原 正代						

授業の概要

歯科医師が歯科医療を行う患者さんの多くは全身疾患を合併している。特に高齢者においては複数の全身疾患を合併している。その全身疾患のなかで歯科診療時に注意する必要があるものの大部分は内科疾患である。この「内科学入門」では、一冊の本「歯科のための内科学 改訂第3版」を読み、歯科医師にとって必要な内科学の知識について学ぶ。2010年9月に改訂された第3版を使用する。4年次と5年次に習った内科学をもう一度復習し日常で診療している歯科患者さんの診療に役立ててもらいたい。

学生の到達目標

1. 内科診断学の概論を理解できる。
2. 循環器疾患を理解できる。
3. 呼吸器疾患を理解できる。
4. 消化器疾患を理解できる。
5. 代謝・内分泌疾患を理解できる。
6. 神経・筋疾患を理解できる。
7. 血液疾患を理解できる。
8. 腎疾患を理解できる。
9. 膠原病疾患を理解できる。
10. 高齢者医学・心身症を理解できる。

テキスト

「歯科のための内科学」(改訂第3版)
出)2010、南江堂 著)井田和徳ほか編集

参考書

「医師国家試験」100～111回
出) 著)
「看護師国家試験」100～105回
出) 著)

成績評価方法・基準

評価項目	割合
出席	30%
総合テスト	70%

その他

学生相談：随時

2017年度

内科学入門 (Introduction of Internal Medicine)

開講年次	1～3年	期区分	前期	科目	主科目(研究)/副科目	単位数	2
授業方法	講義	時間数	30	曜日		時限	
開講学科	歯学研究科 歯学専攻						
科目責任者	福原 正代						
担当教員	福原 正代						

授業計画

回	学習内容	授業方法	担当教員	事前・事後学習 学習課題
1	内科学の基本的事項： 診断、問診、診察、カルテ記載、バイタルサイン、検査等を学ぶ。	講義と小テスト	福原	テキスト
2	呼吸器疾患： 主要症候、検査法、呼吸器感染症、閉塞性肺疾患、間質性肺疾患、腫瘍性疾患、肺循環障害、胸膜疾患、呼吸調整障害、呼吸不全を学ぶ。	講義と小テスト	福原	テキストと小テスト内容
3	消化管疾患： 主要症候、検査法、食道疾患、胃・十二指腸疾患、腸疾患、消化管疾患の口腔症状、歯科関連事項を学ぶ。	講義と小テスト	福原	テキストと小テスト内容
4	肝・胆・膵疾患： 主要症候、検査法、肝炎、薬剤性肝障害、肝硬変、肝癌、胆石、胆嚢ポリープ、胆嚢癌、膵炎、膵癌を学ぶ。	講義と小テスト	福原	テキストと小テスト内容
5	内分泌疾患： ホルモンの分泌と作用、末端巨大症、バセドウ病、橋本病、副甲状腺疾患、クッシング症候群、アジソン病などを学ぶ。	講義と小テスト	福原	テキストと小テスト内容
6	代謝疾患： 糖尿病、脂質異常症、高尿酸血症・痛風、肥満症、るい瘦、骨粗しょう症などを学ぶ。	講義と小テスト	福原	テキストと小テスト内容
7	循環器疾患 1： 主要症候、検査法、心不全、ショック、高齢者の循環器疾患、不整脈、虚血性心疾患などを学ぶ。	講義と小テスト	福原	テキストと小テスト内容
8	循環器疾患 2： 心筋疾患、先天性心疾患、後天性心疾患、心膜疾患、血圧異常、動脈疾患、静脈疾患などを学ぶ。	講義と小テスト	福原	テキストと小テスト内容
9	神経・筋疾患： 主要症候、診察法、検査法、脳血管障害、脳腫瘍、脳・脊髄感染症、外傷性脳疾患、先天性異常、認知症、パーキンソン病、筋萎縮性側索硬化症などを学ぶ。	講義と小テスト	福原	テキストと小テスト内容
10	血液疾患： 主要症候、検査法、貧血、白血病、骨髄異形成症候群、無顆粒球症、悪性リンパ腫、多発性骨髄腫、血小板減少性紫斑病、血友病、von Willebrand病などを学ぶ。	講義と小テスト	福原	テキストと小テスト内容
11	腎疾患： 主要症候、検査法、Na・K・Ca調節、腎不全、糸球体疾患、間質性腎炎、尿管機能異常、全身疾患による腎障害、腎尿路感染症、腎腫瘍などを学ぶ。	講義と小テスト	福原	テキストと小テスト内容
12	膠原病疾患・アレルギー疾患： 主要症候、検査所見、全身性エリテマトーデス、全身性硬化症、多発性筋炎、関節リウマチ、シェーグレン症候群、ベーチェット病、気管支喘息、アレルギー性鼻炎などを学ぶ。	講義と小テスト	福原	テキストと小テスト内容
13	高齢者医学・歯科心身症： 高齢者の病気の特徴、高齢者の薬物療法、舌痛症、口臭症などを学ぶ。	講義と小テスト	福原	テキストと小テスト内容
14	医師・看護師国家試験過去問題： 医師国家試験100～111回と看護師国家試験100～105回から歯科診療に関連した内容を学ぶ。	小テストと解説	福原	医師国家試験100～111回、看護師国家試験100～105回、小テスト
15	総合テスト： 「内科学入門」小テストで出題した問題を中心にした総合テストを行い、各受講者が自分の理解度を再認識するとともに学んだことを日常の歯科診療に役立てる。	講義と小テスト	福原	総合テストと小テストの内容

2017年度

小児歯科学 (ベーシックコース) (Pediatric Dentistry (Basic Course))

開講年次	1～3年	期区分	通年	科目	主科目(臨床)	単位数	4
授業方法	実習	時間数	120	曜日		時限	
開講学科	歯学研究科 歯学専攻						
科目責任者	牧 憲司						
担当教員	牧 憲司、西田 郁子、藤田 優子、森川 和政、佐伯 桂 (日本小児歯科学会専門医) 牧 憲司、西田郁子、藤田優子、佐伯 桂、森川和政 (日本小児歯科学会専門医指導医) 牧 憲司、西田郁子、 (日本障害者歯科学会認定医) 森川和政						

授業の概要

小児期において心身の成長発育を考慮した継続的管理を行い、正常な永久歯列への誘導を行える包括的な知識、技術および技能を習得する。

学生の到達目標

- 1.小児の対応ができる。
- 2.齲蝕治療ができる。
- 3.予防処置および保健指導ができる。
- 4.外傷歯の処置ができる。
- 5.外科的処置ができる。
- 6.非協力児、障害児の歯科治療ができる。
- 7.咬合育成処置ができる。

テキスト

出) (著)

参考書

各実習に対し、随時テキスト、文献紹介
出) (著)

成績評価方法・基準

評価項目	割合
試問	30%
ケースプレゼンテーション	30%
単位認定試験	40%

その他

学生相談：随時

2017年度

小児歯科学 (ベーシックコース) (Pediatric Dentistry (Basic Course))

開講年次	1～3年	期区分	通年	科目	主科目(臨床)	単位数	4
授業方法	実習	時間数	120	曜日		時限	
開講学科	歯学研究科 歯学専攻						
科目責任者	牧 憲司						
担当教員	牧 憲司、西田 郁子、藤田 優子、森川 和政、佐伯 桂 (日本小児歯科学会専門医) 牧 憲司、西田郁子、藤田優子、佐伯 桂、森川和政 (日本小児歯科学会専門医指導医) 牧 憲司、西田郁子、 (日本障害者歯科学会認定医) 森川和政						

授業計画

回	学習内容	授業方法	担当教員	事前・事後学習 学習課題
1,2	医療面接 主訴、現病歴、既往歴、患者や保護者の病気に対する考え方を聴取する方法を学ぶ	実習 ロールプレイ	牧、西田、藤田、佐伯、森川	・医療面接 ・小児の心身の発育
3,4	小児患者への行動変容療法 年齢別対応法および行動変容療法を学ぶ	実習 ロールプレイ	牧、西田、藤田、佐伯、森川	・小児の心身の発育 ・行動変容療法
5,6	エックス線撮影 口内法、咬翼法、咬合法、パノラマエックス線法を用いた画像診断を学ぶ	実習	牧、西田、藤田、佐伯、森川	・エックス線撮影法 ・小児患者の画像診断
7,8	印象採得 印象採得後、スタディモデルの作製を行い、小児の口腔の発達を学ぶ	実習	牧、西田、藤田、佐伯、森川	・印象採得 ・小児の口腔の発育
9,10	治療計画の立案 医療面接、エックス線写真、スタディモデルを用いて治療計画を立て、診断・治療方針を学ぶ	実習	牧、西田、藤田、佐伯、森川	・小児患者の診査 ・診断・治療方針
11,12	試問1 ディスカッション ケースプレゼンテーション	-	牧、西田、藤田、佐伯、森川	-
13,14	局所麻酔 模型実習を踏まえながら小児患者への局所麻酔法を学ぶ	実習	牧、西田、藤田、佐伯、森川	・局所麻酔
15,16	ラバーダム防湿法 乳歯、半萌出歯、永久歯へのラバーダム防湿法の手順・要点を学ぶ	実習	牧、西田、藤田、佐伯、森川	・ラバーダム防湿法
17,18	乳歯の歯冠修復 乳歯の特徴を踏まえながらコンポジットレジン修復、セメント修復を学ぶ	実習	牧、西田、藤田、佐伯、森川	・乳歯の特徴 ・歯冠修復
19,20	幼若永久歯の歯冠修復 幼若永久歯の特徴を踏まえながらコンポジットレジン修復、セメント修復を学ぶ	実習	牧、西田、藤田、佐伯、森川	・幼若永久歯の特徴 ・歯冠修復
21,22	乳歯へのインレー修復 Willetの窩洞を踏まえながら乳歯へのインレー窩洞形成を学ぶ	実習	牧、西田、藤田、佐伯、森川	・乳歯へのインレー窩洞形成
23,24	既製乳歯冠修復 既製乳歯冠・鑄造冠の特徴を踏まえながら既製乳歯冠修復法を学ぶ	実習	牧、西田、藤田、佐伯、森川	・既製乳歯冠 ・鑄造冠

2017年度

小児歯科学 (ベーシックコース) (Pediatric Dentistry (Basic Course))

開講年次	1～3年	期区分	通年	科目	主科目(臨床)	単位数	4
授業方法	実習	時間数	120	曜日		時限	
開講学科	歯学研究科 歯学専攻						
科目責任者	牧 憲司						
担当教員	牧 憲司、西田 郁子、藤田 優子、森川 和政、佐伯 桂 (日本小児歯科学会専門医) 牧 憲司、西田郁子、藤田優子、佐伯 桂、森川和政 (日本小児歯科学会専門医指導医) 牧 憲司、西田郁子、 (日本障害者歯科学会認定医) 森川和政						

回	学習内容	授業方法	担当教員	事前・事後学習 学習課題
25,26	乳歯、幼若永久歯への覆髄法 使用する覆髄剤、覆髄方法を学ぶ	実習	牧、西田、藤田、佐伯、森川	・覆髄法
27,28	乳歯への生活歯髄切断法 水酸化カルシウム法の特徴、術式を学ぶ	実習	牧、西田、藤田、佐伯、森川	・生活歯髄切断法
29,30	抜髄法、感染根管処置、根管充填法 使用器具・材料および各術式を学ぶ	実習	牧、西田、藤田、佐伯、森川	・抜髄法 ・感染根管処置 ・根管充填法
31,32	試問2 ディスカッション	-	牧、西田、藤田、佐伯、森川	-
33,34	歯周疾患の診断と処置 歯周疾患の症状、診断および治療法を学ぶ	実習	牧、西田、藤田、佐伯、森川	・小児期の歯周疾患 ・診断・処置
35,36	外傷歯の診断 外傷歯の診断方法、治療方針および治療方法を学ぶ	実習	牧、西田、藤田、佐伯、森川	・診断 ・固定法 ・予後
37,38	抜歯 抜歯について乳歯の交換期・病的乳歯の症状を踏まえながら術式を学ぶ	実習	牧、西田、藤田、佐伯、森川	・診断 ・抜歯法
39,40	消炎処置 消炎処置について開窓・膿瘍切開などの術式を学ぶ	実習	牧、西田、藤田、佐伯、森川	・診断 ・開窓 ・切開
41,42	試問3 ディスカッション	-	牧、西田、藤田、佐伯、森川	-
43,44	予防処置 予防処置について小窩裂溝填塞法の特徴、術式を学ぶ	実習	牧、西田、藤田、佐伯、森川	・小窩裂溝填塞法
45,46	予防処置 予防処置についてブラッシング指導およびフッ化物の応用法を学ぶ	実習	牧、西田、藤田、佐伯、森川	・予防処置 ・保健指導
47,48	非協力児への対応法 非協力児への対応法について抑制法、笑気吸入鎮静法を学ぶ	実習	牧、西田、藤田、佐伯、森川	・抑制法 ・笑気吸入鎮静法
49,50	咬合誘導診断および保護者への説明法 咬合誘導診断について保護者への説明、診断・治療計画を学ぶ	実習	牧、西田、藤田、佐伯、森川	・診断・治療計画および説明

2017年度

小児歯科学 (ベーシックコース) (Pediatric Dentistry (Basic Course))

開講年次	1～3年	期区分	通年	科目	主科目(臨床)	単位数	4
授業方法	実習	時間数	120	曜日		時限	
開講学科	歯学研究科 歯学専攻						
科目責任者	牧 憲司						
担当教員	牧 憲司、西田 郁子、藤田 優子、森川 和政、佐伯 桂 (日本小児歯科学会専門医) 牧 憲司、西田郁子、藤田優子、佐伯 桂、森川和政 (日本小児歯科学会専門医指導医) 牧 憲司、西田郁子、 (日本障害者歯科学会認定医) 森川和政						

回	学習内容	授業方法	担当教員	事前・事後学習 学習課題
51,52	咬合誘導装置の作製 咬合誘導装置の作製について保隙装置の特徴を踏まえながらクラウンループ、リングアルアーチ、小児義歯の作成法を学ぶ	実習	牧、西田、藤田、佐伯、森川	・保隙装置
53,54	咬合誘導装置の作製 咬合誘導装置の作製について口腔習癖の特徴を踏まえながら口腔習癖除去装置作成法を学ぶ	実習	牧、西田、藤田、佐伯、森川	・スペースリゲイナー
55,56	障害児への歯科治療 障害児への歯科治療について各疾患の特徴を踏まえながら対応法を学ぶ	実習	牧、西田、藤田、佐伯、森川	・障害児
57,58	試問4 ディスカッション	-	牧、西田、藤田、佐伯、森川	-
59,60	ケースプレゼンテーション 単位認定試験	-	牧、西田、藤田、佐伯、森川	-

2017年度

小児歯科学 (アドバンスコース) (Pediatric Dentistry (Advanced Course))

開講年次	1～3年	期区分	通年	科目	主科目(臨床)	単位数	4
授業方法	実習	時間数	120	曜日		時限	
開講学科	歯学研究科 歯学専攻						
科目責任者	牧 憲司						
担当教員	牧 憲司、西田 郁子 (日本小児歯科学会専門医) 牧憲司、西田郁子 (日本小児歯科学会専門医指導医) 牧憲司、西田郁子						

授業の概要

小児期において心身の成長発育を考慮した継続的管理を行い、正常な永久歯列への誘導を行える包括的な知識、技術および技能を習得する。

学生の到達目標

- 1.小児の対応ができる。
- 2.齲蝕治療ができる。
- 3.予防処置および保健指導ができる。
- 4.外傷歯の処置ができる。
- 5.外科的処置ができる。
- 6.非協力児、障害児の歯科治療ができる。
- 7.咬合育成処置ができる。
- 8.1口腔1単位を基本とした処置を行うことができる。
- 9.発育を考慮した継続的管理を実施できる。

テキスト

出) (著)

参考書

各実習に対し、随時テキスト、文献紹介
出) (著)

成績評価方法・基準

評価項目	割合
試問	30%
ケースプレゼンテーション	30%
単位認定試験	40%

その他

学生相談：随時

2017年度

小児歯科学 (アドバンスコース) (Pediatric Dentistry (Advanced Course))

開講年次	1～3年	期区分	通年	科目	主科目(臨床)	単位数	4
授業方法	実習	時間数	120	曜日		時限	
開講学科	歯学研究科 歯学専攻						
科目責任者	牧 憲司						
担当教員	牧 憲司、西田 郁子 (日本小児歯科学会専門医) 牧憲司、西田郁子 (日本小児歯科学会専門医指導医) 牧憲司、西田郁子						

授業計画

回	学習内容	授業方法	担当教員	事前・事後学習 学習課題
1,2	医療面接 患者や保護者の不安、不満への対応を踏まえてチームアプローチ、他の医療機関への紹介を学ぶ。	実習 ロールプレー	牧 西田	・医療面接 ・隣接医学
3,4	小児患者への行動変容療法 小児の性格および親子関係を踏まえながら対応法を学ぶ。	実習 ロールプレー	牧 西田	・小児の心身の発育 ・行動変容療法
5,6	エックス線撮影 エックス線規格写真、頭部エックス線写真の撮影および読影分析を踏まえながら画像診断を学ぶ。	実習	牧 西田	・エックス線撮影法 ・小児患者の画像診断
7,8	口腔内写真撮影法 口腔内写真撮影および継続的管理を踏まえながら資料作製管理を学ぶ。	実習	牧 西田	・口腔内写真 ・小児の口腔の発育
9,10	全身管理 全身疾患を有する小児への薬物適用を踏まえながら全身管理を学ぶ。	実習	牧 西田	・薬物療法 ・全身疾患
11,12	試問1 ディスカッション ケースプレゼンテーション	-	牧 西田	-
13,14	局所麻酔 局所麻酔時の合併症への対応を踏まえながら局所麻酔を行うことを学ぶ。	実習	牧 西田	・局所麻酔 ・合併症
15,16	乳歯の歯冠修復 乳歯の特徴を踏まえながらレジンジャケット冠による歯冠修復を学ぶ。	実習	牧 西田	・乳歯の特徴 ・レジンジャケット冠
17,18	小児期の歯冠修復 小児への最適な処置法の選択および継続的管理を踏まえながら小児期の歯冠修復を学ぶ。	実習	牧 西田	・歯冠修復法 ・継続的管理
19,20	幼若永久歯への暫間的間接覆髄法 幼若永久歯の特徴を踏まえながら暫間的間接覆髄法を学ぶ。	実習	牧 西田	・幼若永久歯 ・暫間的間接覆髄法
21,22	幼若永久歯への歯内療法 適応症、術式を踏まえながらアペキソゲネーシス、アペキシフィケーションを学ぶ。	実習	牧 西田	・幼若永久歯 ・歯内療法
23,24	歯髄・根尖歯周組織疾患の急性症状への診断および処置 乳歯、幼若永久歯の特徴、適応症を踏まえながら歯髄・根尖歯周組織疾患の急性症状への診断および処置を学ぶ。	実習	牧 西田	・急性症状 ・診断および処置法
25,26	変色歯に対する診断および処置 変色歯の原因を踏まえながら診断、処置を行う。	実習	牧 西田	・変色歯 ・診断および処置法
27,28	乳歯、幼若永久歯の特徴、適応症、術式を踏まえながら歯髄・根尖歯周組織疾患の難治症例への対応法を学ぶ。	実習	牧 西田	・難治症例 ・診断および処置法
29,30	試問2 ディスカッション	-	牧 西田	-
31,32	小児の歯周疾患への対応 小児の歯周疾患の特徴を踏まえながら小児期の歯周病の継続的な管理を学ぶ。	実習	牧 西田	・歯周外科 ・継続的管理

2017年度

小児歯科学 (アドバンスコース) (Pediatric Dentistry (Advanced Course))

開講年次	1～3年	期区分	通年	科目	主科目(臨床)	単位数	4
授業方法	実習	時間数	120	曜日		時限	
開講学科	歯学研究科 歯学専攻						
科目責任者	牧 憲司						
担当教員	牧 憲司、西田 郁子 (日本小児歯科学会専門医) 牧憲司、西田郁子 (日本小児歯科学会専門医指導医) 牧憲司、西田郁子						

回	学習内容	授業方法	担当教員	事前・事後学習 学習課題
33,34	外傷歯への固定法 外傷歯の固定法の種類を踏まえながら混合歯列期の固定法を学ぶ。	実習	牧 西田	・診断 ・固定法 ・予後
35,36	外傷歯への処置 再植歯の適応を踏まえながら再植を学ぶ。	実習	牧 西田	・外傷歯 ・再植 ・矯正の挺出
37,38	抜歯 埋伏過剰歯の診査、診断を踏まえながら抜歯法を学ぶ。	実習	牧 西田	・抜歯法 ・埋伏過剰歯
39,40	外科処置 嚢胞、腫瘍、軟組織疾患への診断および対応を踏まえながら小児期の外科処置を学ぶ。	実習	牧 西田	・外科処置
41,42	試問3 ディスカッション	-	牧 西田	-
43,44	咬合誘導装置の作製 スペースリゲイナーの適応症および作成法を学ぶ。	実習	牧 西田	・スペースリ ゲイナー
45,46	咬合誘導装置の作製 ムーシールドの適応症および作成法を学ぶ。	実習	牧 西田	・ムーシールド
47,48	筋機能訓練 筋機能訓練の必要な患児の適応症を踏まえて筋機能訓練法を学ぶ。	実習	牧 西田	・筋機能訓練
49,50	障害児の歯科治療 障害児への歯科治療について各疾患の特徴を踏まえながら対応法を学ぶ	実習	牧 西田	・障害児 ・行動調整 ・歯科治療
51,52	小児の特性、全身状態を十分考慮して全身麻酔歯科治療を学ぶ。	実習	牧 西田	・全身麻酔
53,54	発達段階を十分考慮して口腔内管理の実施を学ぶ。	実習	牧 西田	・発育段階 ・口腔内管理
55,56	母子保健活動 妊産婦への予防活動、小児の摂食指導を踏まえながら母子保健指導を学ぶ。	実習	牧 西田	・妊産婦 ・母子保健
57,58	試問4 ディスカッション	-	牧 西田	-
59,60	ケースプレゼンテーション 単位認定試験	-	牧 西田	-

2017年度

口腔機能発達学 (Developmental Stomatognathic Function Science)

開講年次	1～3年	期区分	通年	科目	主科目(研究)	単位数	2
授業方法	講義・演習	時間数	30	曜日		時限	
開講学科	歯学研究科 歯学専攻						
科目責任者	牧 憲司						
担当教員	牧 憲司、西田 郁子、藤田 優子、森川 和政、佐伯 桂						

授業の概要

包括治療である小児歯科治療に関し、基礎的内容から最新の先端医療に関する講義を担当教員が行う。また学生は、関連の内容の文献を整理、分析してプレゼンテーションを行う。

学生の到達目標

- 1.小児歯科臨床全般に知識を深め、理解できる。
- 2.小児歯科臨床を行うにあたって基礎(解剖、組織等)を理解できる。
- 3.プレゼンテーションのための資料作成法を習得し、実践できる。
- 4.研究のための関連の文献の収集と整理分析が行うことができる。

テキスト

出) (著)

参考書

関連の文献および参考書を読む。
出) (著)

成績評価方法・基準

評価項目	割合
単位認定試験	100%

その他

相談は随時受け付け可能だが、原則、時間予約を電話、メールにて行うこと。

2017年度

口腔機能発達学 (Developmental Stomatognathic Function Science)

開講年次	1～3年	期区分	通年	科目	主科目(研究)	単位数	2
授業方法	講義・演習	時間数	30	曜日		時限	
開講学科	歯学研究科 歯学専攻						
科目責任者	牧 憲司						
担当教員	牧 憲司、西田 郁子、藤田 優子、森川 和政、佐伯 桂						

授業計画

回	学習内容	授業方法	担当教員	事前・事後学習 学習課題
1	オリエンテーション	講義	牧	小児歯科概論
2	歯および歯列の成長発育 歯および歯列の成長発育を踏まえて臨床との関わりを学ぶ。	講義・演習	藤田	文献詳読及び関連分野の調査
3	歯の萌出のメカニズム 歯の形成と萌出の関わりを踏まえて基礎的なメカニズムを学ぶ。	講義・演習	森川	文献詳読及び関連分野の調査
4	乳歯の歯内療法 乳歯の特徴を踏まえて歯内療法の留意点を学ぶ。	講義・演習	佐伯	文献詳読及び関連分野の調査
5	幼若永久歯の歯内療法 幼若永久歯の特徴を踏まえて歯内療法の留意点を学ぶ。	講義・演習	牧	文献詳読及び関連分野の調査
6	小児期の外傷 乳歯列期?幼若永久歯の外傷の特徴を踏まえて固定法、修復、歯内療法を学ぶ。	講義・演習	西田	文献詳読及び関連分野の調査
7	受動的な咬合誘導 保険装置の重要性を踏まえながら臨床例を学ぶ。	講義・演習	牧	文献詳読及び関連分野の調査
8	能動的咬合誘導 スペースリグナーや習癖防止装置などの適応症、作成方法を踏まえながら臨床例を学ぶ。	講義・演習	牧	文献詳読及び関連分野の調査
9	乳歯及び幼若永久歯の歯冠修復 乳歯及び幼若永久歯の特徴を踏まえながら歯冠修復方法を学ぶ。	講義・演習	西田	文献詳読及び関連分野の調査
10	障害者(児)歯科治療 障害者(児)歯科治療の特徴を踏まえながら障害者(児)歯科治療を学ぶ。	講義・演習	森川	文献詳読及び関連分野の調査
11	小児の外傷歯の対応	講義・演習	西田	文献詳読及び関連分野の調査
12	小児の外科処置(I) 埋伏過剰歯の診査、診断を踏まえながら抜歯法を学ぶ	講義・演習	牧	文献詳読及び関連分野の調査
13	小児の外科処置(II) 嚢胞、腫瘍、軟組織疾患への診断および対応を踏まえながら小児期の外科処置を学ぶ。	講義・演習	牧	文献詳読及び関連分野の調査
14	総合討議	講義・演習	牧、西田 藤田、森川 佐伯	文献詳読及び関連分野の調査
15	単位認定試験	講義・演習	牧	文献詳読及び関連分野の調査

2017年度

口腔機能発達学 (検討会) (Developmental Stomatognathic Function Science (Case Conference))

開講年次	1～3年	期区分	通年	科目	主科目(研究)/副科目	単位数	2
授業方法	演習	時間数	30	曜日		時限	
開講学科	歯学研究科 歯学専攻						
科目責任者	牧 憲司						
担当教員	牧 憲司、西田 郁子、藤田 優子、森川 和政、佐伯 桂						

授業の概要

小児歯科学及び骨形態計測関連の最新の研究の動向を理解するために、文献の抄読を行う。各自の研究に関し、内容や進行状況に対する報告会やディスカッション
他分野の骨研究者(基礎系分野を中心)のセミナーの実施。

学生の到達目標

- 1.英語文献を読み込む能力を高める。
- 2.研究の内容を理解できる。
- 3.研究を通しての批評能力を高める。
- 4.研究の動向や背景を学び、知識を高める。
- 5.小児歯科学及び骨形態計測関連の最新の情報を得るなど、知識を高める。

テキスト

出) (著)

参考書

関連分野の文献および参考書は各自必要なものを選別する。
出) (著)

成績評価方法・基準

評価項目	割合
文献抄読発表	50%
講義レポート	50%

その他

2017年度

口腔機能発達学 (検討会) (Developmental Stomatognathic Function Science (Case Conference))

開講年次	1～3年	期区分	通年	科目	主科目(研究)/副科目	単位数	2
授業方法	演習	時間数	30	曜日		時限	
開講学科	歯学研究科 歯学専攻						
科目責任者	牧 憲司						
担当教員	牧 憲司、西田 郁子、藤田 優子、森川 和政、佐伯 桂						

授業計画

回	学習内容	授業方法	担当教員	事前・事後学習 学習課題
1～15	研究の背景と小児歯科学及び骨形態計測関連の最新の文献の内容、および関連分野の研究の内容を踏まえながら、研究・臨床への応用を学ぶ。	輪読、文献紹介及び討論	牧 西田 藤田 森川 佐伯	文献詳読及び 関連分野の調査

2017年度

歯科矯正学 1 (ベーシック) (Orthodontics (Basic))

開講年次	1～2年	期区分	通年	科目	主科目(臨床)/副科目	単位数	2
授業方法	講義・演習	時間数	30	曜日		時限	
開講学科	歯学研究科 歯学専攻						
科目責任者	川元 龍夫						
担当教員	川元 龍夫、志賀 百年、郡司掛 香織、黒石 加代子、森田 淳平						

授業の概要

顎口腔機能矯正学の臨床研究の立案と実施に必要な基本的知識を理解し習得する。

学生の到達目標

1. 診断に必要な様々な情報を分析し総括できる。
2. 矯正治療に必要な生物学的、生体力学的基礎を理解できる。
3. 顎口腔機能の分析評価ができる。
4. 矯正装置の作用機序、適応症を理解できる。
5. 顎変形症、口唇裂口蓋裂の生理的病理的問題を把握し解決法を考えることができる。
6. 骨組織と軟組織の生物学を理解できる。
7. 顎顔面および歯列咬合の成長発育の原理を理解できる。
8. 咬合育成の概念を理解し実施できる。
9. 先天性疾患の発症の機序を理解できる。
10. 歯科矯正用材料を理解できる。

テキスト

出) (著)

参考書

- | | |
|---------------------------------------|-----------------------|
| Contemporary Orthodontics
出) Mosby | 著) William R. Proffit |
| 頭部X線規格写真法の基礎
出) クインテッセンス出版 | 著) 宮下 邦彦 |
| 最新歯科矯正アトラス
出) 医歯薬出版 | 著) 井上直彦・鈴木祥井 |
| 顔面成長発育の基礎
出) クインテッセンス出版 | 著) [監訳] 黒田敬之 |
| 歯科矯正学 第5版
出) 医歯薬出版 | 著) 相馬邦道ら |
| 歯科矯正学臨床シリーズ 1「反対咬合」
出) 医歯薬出版 | 著) 須佐美隆三, 中後忠男 編集 |
| 歯科矯正学臨床シリーズ 2「上顎前突」
出) 医歯薬出版 | 著) 山内和夫, 作田守 編集 |
| 歯科矯正学臨床シリーズ 3「開咬」
出) 医歯薬出版 | 著) 河田照茂, 尾関 哲 編集 |
| 歯科矯正学臨床シリーズ 4「叢生」
出) 医歯薬出版 | 著) 松本 光生, 中川皓文 編集 |

成績評価方法・基準

評価項目	割合
修了試験	100%

講義終了後には修了試験(筆記試験と演習)を行う。
講義、演習の担当者がそれぞれ出題する。解答は記述式とする。
合格点に到らない項目については再試験を行う。

2017年度

歯科矯正学 1 (ベーシック) (Orthodontics (Basic))

開講年次	1~2年	期区分	通年	科目	主科目(臨床)/副科目	単位数	2
授業方法	講義・演習	時間数	30	曜日		時限	
開講学科	歯学研究科 歯学専攻						
科目責任者	川元 龍夫						
担当教員	川元 龍夫、志賀 百年、郡司掛 香織、黒石 加代子、森田 淳平						

その他

学生相談：随時

2017年度

歯科矯正学 1 (ベーシック) (Orthodontics (Basic))

開講年次	1～2年	期区分	通年	科目	主科目(臨床)/副科目	単位数	2
授業方法	講義・演習	時間数	30	曜日		時限	
開講学科	歯学研究科 歯学専攻						
科目責任者	川元 龍夫						
担当教員	川元 龍夫、志賀 百年、郡司掛 香織、黒石 加代子、森田 淳平						

授業計画

回	学習内容	授業方法	担当教員	事前・事後学習 学習課題
1	診断資料の作成、印象採得、顎態模型作製、セファロトレース、模型分析、セファロ分析 基礎的な診断資料の作成法を踏まえながら、評価法を学ぶ。	講義、演習	川元	参考書、配付資料の復習
2	診断、抜歯、set-up model、治療方針、装置 基礎的な診断を踏まえながら、治療方針、治療方法を学ぶ。	講義、演習	川元	参考書、配付資料の復習
3	CT画像、MRI画像診断 基本的な画像診断法を踏まえながら、症例との関連性を学ぶ。	講義、演習	川元	参考書、配付資料の復習
4	顎口腔機能、顎運動、咀嚼、咬合力、咀嚼効率、顎関節症 基本的な顎口腔機能検査について、検査方法、結果および症例の関連性を踏まえながら評価法を学ぶ。	講義	郡司掛	参考書、配付資料の復習
5	歯の移動と矯正力、歯の固定、生力学、 矯正用インプラント 基礎的な歯の移動方法を踏まえながら、 矯正装置を学ぶ。	講義	黒石	参考書、配付資料の復習
6	矯正力と組織反応 矯正歯科治療によって生じる反応について、歯根吸収、歯根膜内で生じる血流の変化、硝子様変性を踏まえながら矯正力に対する歯、歯周組織の反応について学ぶ。	講義	黒石	参考書、配付資料の復習
7	顎整形力とその反応 矯正歯科治療によって生じる反応について、軟骨性成長、縫合性成長などを踏まえながら顎整形力によって生じる顎骨の反応や成長変化について学ぶ。	講義	黒石	参考書、配付資料の復習
8	骨代謝、生物学、分子細胞 矯正歯の移動について、歯周組織を構成する細胞の働きを踏まえながら骨代謝の仕組みについて学ぶ。	講義	黒石	参考書、配付資料の復習
9	歯科矯正用材料に関する材料学 矯正歯科治療に必要な材料の特性とその選択について学習する	講義	郡司掛	参考書、配付資料の復習
10	各矯正装置の使用法と作用機序 基本的な矯正装置の構造と作用機序および適応症、注意点について学習する。	講義	郡司掛	参考書、配付資料の復習
11	マルチブラケット法 マルチブラケット法について、マルチブラケット装置の構造や動的矯正治療を学ぶ	講義、演習	郡司掛	参考書、配付資料の復習
12	顎変形症に対する矯正歯科治療 顎変形症について、治療の目的、適応症、治療の手順を踏まえながら外科矯正歯科治療を学ぶ。	講義	森田	参考書、配付資料の復習
13	先天性異常に伴う咬合異常 先天性異常に伴う咬合異常について、原因、全身的所見、不正咬合の特徴を踏まえながら先天性異常について学ぶ。	講義	森田	参考書、配付資料の復習
14	口蓋裂の治療、骨移植 先天異常の口蓋裂について、成長発育を踏まえて経年的な矯正治療を学ぶ	講義	森田	参考書、配付資料の復習
15	保定と保定装置(可撤式、固定式) 保定について、動的矯正治療や生体反応を踏まえながら各種保定装置や静的矯正治療を学ぶ	講義	森田	参考書、配付資料の復習
16	筋訓練法(MFT) 態癖(悪習癖)の歯列弓に及ぼす影響を踏まえて予防および矯正法を学ぶ	講義	志賀	参考書、配付資料の復習

2017年度

歯科矯正学 1 (ベーシック) (Orthodontics (Basic))

開講年次	1～2年	期区分	通年	科目	主科目(臨床)/副科目	単位数	2
授業方法	講義・演習	時間数	30	曜日		時限	
開講学科	歯学研究科 歯学専攻						
科目責任者	川元 龍夫						
担当教員	川元 龍夫、志賀 百年、郡司掛 香織、黒石 加代子、森田 淳平						

回	学習内容	授業方法	担当教員	事前・事後学習 学習課題
17	歯列咬合、および顎顔面の成長発育 頭蓋顎顔面ならびに歯、歯列、咬合の正常な成長発育について学習する	講義	志賀	参考書、配付 資料の復習
18	成長発育と矯正治療 各種の不正咬合について、成長発育による変化を踏まえて経年的な矯正治療を学ぶ	講義	志賀	参考書、配付 資料の復習
19	咬合育成学 咬合育成について、経年的な成長発育や不正咬合の誘因を踏まえて咬合育成学を学ぶ	講義	志賀	参考書、配付 資料の復習
20	包括的歯科診療 一口腔単位で治療を行う事を踏まえ、チームアプローチを学ぶ	講義	川元	参考書、配付 資料の復習

2017年度

歯科矯正学 2 (基礎実習) (Orthodontics (Basic))

開講年次	1年	期区分	通年	科目	主科目(臨床)	単位数	1
授業方法	実習	時間数	30	曜日		時限	
開講学科	歯学研究科 歯学専攻						
科目責任者	川元 龍夫						
担当教員	川元 龍夫、志賀 百年、郡司掛 香織、黒石 加代子、森田 淳平						

授業の概要

臨床研究に必要な資料を採得して分析する。基本的矯正装置を作製し作用機序を知る。

学生の到達目標

1. 臨床研究のための資料が採得できる。
2. 矯正治療装置の作用機序を理解し、装置を作製できる。
3. 顎口腔機能の記録と分析評価ができる。
4. プレゼンテーションのための資料を作成し、有効に利用できる。

テキスト

出) (著)

参考書

4年次生用基礎実習書

出) (著)

最新歯科矯正アトラス

出)医歯薬出版 (著)井上直彦・鈴木祥井

Contemporary Orthodontics, 5th Edition

出)Mosby (著)William R. Proffit

成績評価方法・基準

評価項目	割合
実技試験	100%

印象採得、顎態模型製作、口腔内写真撮影、丸型、角型ワイヤー屈曲、アイディアルアーチ屈曲、セファロのトレース、トレースの重ね合わせ等の実技試験を行う、担当教員の全員が評価採点する。
臨床に適用不可能の項目は再試験。

その他

学生相談：随時

2017年度

歯科矯正学 2 (基礎実習) (Orthodontics (Basic))

開講年次	1年	期区分	通年	科目	主科目(臨床)	単位数	1
授業方法	実習	時間数	30	曜日		時限	
開講学科	歯学研究科 歯学専攻						
科目責任者	川元 龍夫						
担当教員	川元 龍夫、志賀 百年、郡司掛 香織、黒石 加代子、森田 淳平						

授業計画

回	学習内容	授業方法	担当教員	事前・事後学習 学習課題
1	診断資料の作成(口腔内写真、顔面規格写真) 口腔内写真、顔面規格写真の撮影法について、デジタルカメラの使用を踏まえながら診断資料の作成を習得する。	実習	黒石	基礎実習書、参考書の予習
2	診断資料の作成(印象採得、顎態模型) 印象採得、顎態模型の製法について、アルジネート印象材による概形印象の技術、顔弓計測を踏まえながら、診断資料の作成を習得する。	実習	黒石	基礎実習書、参考書の予習
3	診断資料の作成、印象採得、顎態模型 印象採得、顎態模型の製法について、アルジネート印象材による概形印象の技術、顔弓計測を踏まえながら、診断資料の作成を習得する。	実習	黒石	基礎実習書、参考書の予習
4	基礎実習(舌側弧線装置) 舌側弧線装置の製法と調整法を修得する。	実習	郡司掛	基礎実習書、参考書の予習
5	基礎実習(舌側弧線装置) 舌側弧線装置の製法と調整法を修得する。	実習	郡司掛	基礎実習書、参考書の予習
6	基礎実習(舌側弧線装置) 舌側弧線装置の製法と調整法を修得する。	実習	郡司掛	基礎実習書、参考書の予習
7	基礎実習(アクチバートル) 構成咬合位の採得、機能的矯正装置の作製法および調整法を習得する。	実習	志賀	基礎実習書、参考書の予習
8	基礎実習(アクチバートル) 構成咬合位の採得、機能的矯正装置の作製法および調整法を習得する。	実習	志賀	基礎実習書、参考書の予習
9	基礎実習(アクチバートル) 構成咬合位の採得、機能的矯正装置の作製法および調整法を習得する。	実習	志賀	基礎実習書、参考書の予習
10	基礎実習(保定装置) Beggタイプリテーナーの製法および調整法を修得する	実習	森田	基礎実習書、参考書の予習
11	基礎実習(保定装置) Beggタイプリテーナーの製法および調整法を修得する	実習	森田	基礎実習書、参考書の予習
12	顎口腔機能 計測評価 基本的な顎口腔機能検査機器について、その使用法を踏まえながら計測を学ぶ。	実習	森田	基礎実習書、参考書の予習
13	顎口腔機能 計測評価 基本的な顎口腔機能検査機器について、その理論を踏まえながら評価を学ぶ。	実習	川元	基礎実習書、参考書の予習
14	プレゼンテーション デジタルデータの取り込みとPowewrpoint、Photo shopの使用法を踏まえながら、プレゼンテーションの作成を学ぶ。	実習	川元	教室臨床マニュアル予習
15	プレゼンテーション デジタルデータの取り込みとPowewrpoint、Photo shopの理論を踏まえながら、プレゼンテーションの評価を学ぶ。	実習	川元	教室臨床マニュアル予習

2017年度

歯科矯正学 3 (タイポドント) (Orthodontics (Typodont exercise))

開講年次	1年	期区分	通年	科目	主科目(臨床)	単位数	1
授業方法	実習	時間数	30	曜日		時限	
開講学科	歯学研究科 歯学専攻						
科目責任者	川元 龍夫						
担当教員	川元 龍夫、志賀 百年、郡司掛 香織、黒石 加代子、森田 淳平						

授業の概要

適正な歯の移動のための力学を理解し、タイポドント上で実施する。

学生の到達目標

1. 歯の移動様式と矯正力との関係を理解できる。
2. ワイヤーとブラケットの摩擦力を理解できる。
3. 力とモーメントの関係を理解できる。
4. 顎内固定、顎間固定、顎外固定などの固定の必要性を理解できる。
5. ワイヤーの物性を理解できる。

テキスト

出) 著)

参考書

タイポドントシラバス

出) 著)

最新歯科矯正アトラス

出) 医歯薬出版 著) 井上直彦・鈴木祥井

Common Sense Mechanics

出) 著) Thomas . Mulligan

Biomechanics in Orthodontics

出) 著) Ram S, Nanda

成績評価方法・基準

評価項目	割合
チェック項目に対する評価及びディスカッション	100%

ステップ毎に担当教員の検印を受け、終了チェック項目に対する評価を受ける。また、治療のステップを学生が発表し、ディスカッションを行う。

その他

学生相談：随時

2017年度

歯科矯正学 3 (タイポドント) (Orthodontics (Typodont exercise))

開講年次	1年	期区分	通年	科目	主科目(臨床)	単位数	1
授業方法	実習	時間数	30	曜日		時限	
開講学科	歯学研究科 歯学専攻						
科目責任者	川元 龍夫						
担当教員	川元 龍夫、志賀 百年、郡司掛 香織、黒石 加代子、森田 淳平						

授業計画

回	学習内容	授業方法	担当教員	事前・事後学習 学習課題
1	タイポドント準備1 マルチブラケット装置による治療について、メタルティースへのブラケットのボンディングおよび位置付け、臼歯部のバンド製作およびブラケットの電気接着を踏まえながら、矯正歯科治療時のブラケット装着を習得する。	実習	黒石	タイポドントシラバスの予習と復習
2	タイポドント準備2 マルチブラケット装置による治療について、メタルティースへのブラケットのボンディングおよび位置付け、臼歯部のバンド製作およびブラケットの電気接着を踏まえながら、矯正歯科治療時のブラケット装着を習得する。	実習	黒石	タイポドントシラバスの予習と復習
3	タイポドント準備3 マルチブラケット装置による治療について、メタルティースへのブラケットのボンディングおよび位置付け、臼歯部のバンド製作およびブラケットの電気接着を踏まえながら、矯正歯科治療時のブラケット装着を習得する。	実習	黒石	タイポドントシラバスの予習と復習
4	ワイヤーベンディング1 スタンダードエッジワイズ装置におけるアーチワイヤーの形態について学び、ラウンドワイヤーを屈曲する。	実習	志賀	タイポドントシラバスの予習と復習
5	ワイヤーベンディング2 スタンダードエッジワイズ装置におけるレクトアングュラーワイヤーの形態について学び、屈曲する。	実習	志賀	タイポドントシラバスの予習と復習
6	ワイヤーベンディング3 アーチワイヤーの調整法について学び、屈曲する。	実習	志賀	タイポドントシラバスの予習と復習
7	タイポドント1(レベリング) マルチブラケット装置について、生体反応を踏まえながら矯正材料による不正咬合の初期変化を学ぶ	実習	郡司掛	タイポドントシラバスの予習と復習
8	タイポドント2(レベリング) マルチブラケット装置について、生体反応を踏まえながら矯正材料による不正咬合の初期変化を学ぶ	実習	郡司掛	タイポドントシラバスの予習と復習
9	タイポドント3(犬歯遠心移動) 犬歯の遠心移動を行う目的、方法、注意点について習得する。	実習	郡司掛	タイポドントシラバスの予習と復習
10	タイポドント3(犬歯遠心移動) 犬歯の遠心移動を行う目的、方法、注意点について習得する。	実習	森田	タイポドントシラバスの予習と復習
11	タイポドント5(切歯舌側移動) マルチブラケット装置による治療について、加强固定の必要性の有無、切歯の舌側移動時のトルク調整、歯列弓幅径の変化を踏まえながら切歯の舌側移動を習得する。	実習	森田	タイポドントシラバスの予習と復習
12	タイポドント6(切歯舌側移動) マルチブラケット装置による治療について、加强固定の必要性の有無、切歯の舌側移動時のトルク調整、歯列弓幅径の変化を踏まえながら切歯の舌側移動を習得する。	実習	森田	タイポドントシラバスの予習と復習
13	タイポドント7(アイディアル、咬合完成) マルチブラケット装置について、生体反応や矯正器材を踏まえながら個性正常咬合の確立を学ぶ	実習	川元	タイポドントシラバスの予習と復習
14	タイポドント8(アイディアル、咬合完成) 最終チェック マルチブラケット装置について、生体反応や矯正器材を踏まえながら個性正常咬合の確立を学ぶ	実習	川元	タイポドントシラバスの予習と復習
15	タイポドント発表会(経過説明) タイポドント実習について、全体の経過を説明することにより、マルチブラケット法のシステムを理解する。	実習	川元	タイポドントシラバスの予習と復習

2017年度

歯科矯正学 4 (臨床研修) (Orthodontics (Clinical training))

開講年次	2～3年	期区分	通年	科目	主科目(臨床)	単位数	1
授業方法	実習	時間数	30	曜日		時限	
開講学科	歯学研究科 歯学専攻						
科目責任者	川元 龍夫						
担当教員	川元 龍夫、瀧口 玲子、郡司掛 香織、黒石 加代子、森田 淳平						

授業の概要

1年次に習得した基本的知識と技能をもとに治療開始から終了まで治療を行い、臨床研究の立案のための知識と技能を更新する。

学生の到達目標

1. 患者との円滑なコミュニケーションができる。
2. 診断に必要な様々な情報を分析し総括できる。
3. 矯正治療に必要な生物学的、生体力学的基礎を理解できる。
4. 治療の変化を分析できる、治療ステップに応用できる。
5. 治療機序を分析評価できる。

テキスト

出) 著)

参考書

Contemporary Orthodontics, 5th Edition

出) Mosby

著) William R. Proffit

Common Sense Mechanics

出)

著) Thomas . Mulligan

成績評価方法・基準

評価項目	割合
各ステップのチェック	100%

治療の各ステップを進めるためのチェック項目毎にインストラクターの検印を受けて、治療を進行する。最終的に日矯学会認定医申請を行う。

その他

学生相談：随時

2017年度

歯科矯正学 4 (臨床研修) (Orthodontics (Clinical training))

開講年次	2～3年	期区分	通年	科目	主科目(臨床)	単位数	1
授業方法	実習	時間数	30	曜日		時限	
開講学科	歯学研究科 歯学専攻						
科目責任者	川元 龍夫						
担当教員	川元 龍夫、瀧口 玲子、郡司掛 香織、黒石 加代子、森田 淳平						

授業計画

回	学習内容	授業方法	担当教員	事前・事後学習 学習課題
1～3	生体力学の実施 担当された患者について、診断資料を踏まえながら、生体力学に影響を及ぼす矯正装置について学ぶ。	講義, 実習	川元 志賀 郡司掛 黒石 森田	診断から治療終了までの各ステップのまとめ
4～6	治療効果の分析評価 担当された患者について、治療効果の分析評価を踏まえながら、治療について学ぶ。	講義, 実習	川元 志賀 郡司掛 黒石 森田	診断から治療終了までの各ステップのまとめ
7～9	成長発育の分析評価 担当された患者について成長発育の分析評価を踏まえながら、治療について学ぶ。	講義, 実習	川元 志賀 郡司掛 黒石 森田	診断から治療終了までの各ステップのまとめ
10～12	矯正材料と歯の移動 担当された患者について、治療を踏まえながら、矯正材料と歯の移動について学ぶ。	講義, 実習	川元 志賀 郡司掛 黒石 森田	診断から治療終了までの各ステップのまとめ
13～15	顎口腔機能(咀嚼, 咬合, 呼吸)の評価分析 担当された患者について治療前、中および後分析評価を踏まえながら、顎口腔機能について学ぶ。	講義, 実習	川元 志賀 郡司掛 黒石 森田	診断から治療終了までの各ステップのまとめ

2017年度

顎口腔機能矯正学 1 (Orofacial Function and Orthodontics)

開講年次	1年	期区分	通年	科目	主科目(研究)	単位数	2
授業方法	講義・演習	時間数	30	曜日		時限	
開講学科	歯学研究科 歯学専攻						
科目責任者	川元 龍夫						
担当教員	川元 龍夫、志賀 百年、郡司掛 香織、黒石 加代子、森田 淳平						

授業の概要

研究に向けての準備として収集した文献と情報を、整理、分析してプレゼンテーションを行う。研究の方法を検討する。

学生の到達目標

1. プレゼンテーションのための資料を作成し、有効に利用できる。
2. 研究のための情報の収集と整理分析し発表できる。
3. 研究の方法論を検討できる。
4. データの収集ができる。

テキスト

出) 著)

参考書

Contemporary Orthodontics, 5th Edition

出)Mosby

著)William R. Proffit

カラーアトラス X線解剖学とセファロ分析法

出)クインテッセンス出版

著)宮下邦彦

Orthodontics Current Principles & Techniques

出)ELSEVER/MOSBY

著)T.M.Grabber

成績評価方法・基準

評価項目	割合
研究プロトコール	100%

各自の研究テーマに対する、研究の背景と文献をまとめ研究プロトコール1を提出。

その他

学生相談：随時

2017年度

顎口腔機能矯正学 1 (Orofacial Function and Orthodontics)

開講年次	1年	期区分	通年	科目	主科目(研究)	単位数	2
授業方法	講義・演習	時間数	30	曜日		時限	
開講学科	歯学研究科 歯学専攻						
科目責任者	川元 龍夫						
担当教員	川元 龍夫、志賀 百年、郡司掛 香織、黒石 加代子、森田 淳平						

授業計画

回	学習内容	授業方法	担当教員	事前・事後学習 学習課題
1~3	文献検索と整理方法 研究テーマについて、文献検索と整理方法を踏まえながら研究の進め方を学ぶ。	講義、演習	川元 志賀 郡司掛 黒石 森田	インターネットの使用、PubMedの利用法、File makerの利用法の理解
4~7	研究テーマの背景と文献まとめ 研究テーマについて、文献検索と整理方法を踏まえながら研究の進め方を学ぶ。	演習、小グループセミナー	川元 志賀 郡司掛 黒石 森田	各自のPubMedを利用した文献の収集とFile makerを利用した文献の整理
8~9	生物学、分子細胞、遺伝学と矯正治療 矯正治療について、生物学、分子細胞、遺伝学を踏まえながら矯正治療を通しての研究を学ぶ。	演習、小グループセミナー	川元 志賀 郡司掛 黒石 森田	各自のPubMedを利用した文献の収集とFile makerを利用した文献の整理
10~12	研究テーマに対する方法論の討議 研究テーマについて、自分の研究結果を踏まえながら、アピールの仕方を学ぶ。	演習、小グループセミナー	川元 志賀 郡司掛 黒石 森田	Powerpointを利用したプレゼンテーションの準備
13~15	輪読会 (関連する国内外の論文の抄読) 研究テーマに関連する国内外の論文を踏まえながら、研究結果の考察の仕方を学ぶ。	演習、小グループセミナー	川元 志賀 郡司掛 黒石 森田	各自のテーマに関連する国内外の論文の抄読

2017年度

顎口腔機能矯正学 2 (Orofacial Function and Orthodontics)

開講年次	2～3年	期区分	通年	科目	主科目(研究)	単位数	4
授業方法	講義・演習	時間数	60	曜日		時限	
開講学科	歯学研究科 歯学専攻						
科目責任者	川元 龍夫						
担当教員	川元 龍夫、志賀 百年、郡司掛 香織、黒石 加代子、森田 淳平						

授業の概要

収集した文献と情報を、整理、分析してプレゼンテーションを行う。研究の方法を検討する。学会発表を行い論文投稿する。

学生の到達目標

1. 顎口腔機能と咬合育成の意義を理解できる。
2. 矯正治療に必要な生物学的、生体力学的基礎を理解できる。
3. プレゼンテーションのための資料を作成し、有効に利用できる。
4. 研究のための情報の収集と整理分析し発表できる。
5. 研究の方法論を検討できる。
6. 論文を作成し、投稿できる。

テキスト

出) (著)

参考書

Contemporary Orthodontics, 5th Edition

出) Mosby

著) William R. Proffit

Comprehensive Cleft Care

出) CRC Press

著) Joseph Losee, Richard E. Kirschner

Atlas of Orthodontic Treatment for Patients with Birth Defects

出) Needham Press, Inc

著) Takayuki Kuroda, Kimie Ohyama

新 先天奇形症候群アトラス

出) 南江堂

著) 梶井 正ら(監修)

Contemporary Treatment of Dentofacial Deformity

出) Mosby

著) W.R. Proffit

Gorlin's Syndrome of the Head and Neck, 5th Ed

出) Oxford University

著) Hennekam/Krantz/Allanson 共著

成績評価方法・基準

評価項目	割合
研究の進捗状況及び学会発表	100%

研究プロトコルに従った研究の進行状況の評価を口頭発表と書面で評価する。学会発表を成績の評価とする。

その他

学生相談：随時

2017年度

顎口腔機能矯正学 2 (Orofacial Function and Orthodontics)

開講年次	2～3年	期区分	通年	科目	主科目(研究)	単位数	4
授業方法	講義・演習	時間数	60	曜日		時限	
開講学科	歯学研究科 歯学専攻						
科目責任者	川元 龍夫						
担当教員	川元 龍夫、志賀 百年、郡司掛 香織、黒石 加代子、森田 淳平						

授業計画

回	学習内容	授業方法	担当教員	事前・事後学習 学習課題
1～2	顎口腔機能と咬合育成 顎口腔機能の基礎を理解することで、それにより影響を受ける咬合の成り立ちを習得する。	講義, 演習	川元	配付資料の復習
3～4	顎口腔機能矯正学分野の研究の動向 矯正に関連する基礎的、臨床的研究を理解することで、今後の矯正の進むべき方向を習得する。	講義, 演習	川元	1年次の講義録の復習
5	歯の移動に伴う組織学的変化 歯の移動に対する歯、歯周組織の反応について学ぶ。	講義, 演習	志賀	1年次の講義録の復習
6～7	歯の移動の力学 歯の移動について、傾斜移動、歯体移動、圧下、挺出、回転、トルクの違いを踏まえながら、歯の移動様式を学ぶ。	講義, 演習	森田	タイポドントシラバス
8	生物学、分子細胞、遺伝学と矯正治療 基礎的学問を理解することで、矯正治療の必要性を習得する。	講義, 演習	森田	1年次の講義録の復習
9～11	研究テーマの背景、文献考察 自身の研究内容の学術的背景について発表を行う	講義, 演習	郡司掛	各自の研究テーマに関するPower pointの作成
12～14	研究テーマの背景、文献考察の発表 自身の研究内容(研究経過、学会発表)について発表を行う。	講義, 演習	郡司掛	各自の研究テーマに関するPower pointの作成
15～17	研究テーマに対する方法論 研究の方法について、文献検索および情報収集を踏まえながら方法論について学ぶ。	講義, 演習	森田	各自の研究テーマに関するPower pointの作成
18～19	研究テーマに対する方法論の発表 研究の方法について、図や表を用いたPower pointの作製を踏まえながら研究の方法論の発表について学ぶ。	講義, 演習	黒石	各自の研究テーマに関するPower pointの作成
20～22	収集データの分析発表 研究テーマについて、収集されたデータの分析結果を発表	講義, 演習	黒石	各自の研究テーマに関するPower pointの作成
23～25	学会発表用プレゼンテーションとメディアと作成 研究テーマについて、研究データの分析結果を学会口演あるいは学術展示の形式で発表(第1報)	講義, 演習	志賀	各自の研究テーマに関するPower pointの作成
26～28	学会発表用プレゼンテーションとメディアと作成 研究テーマについて、研究データの分析結果を学会口演あるいは学術展示の形式で発表(第2報)	講義, 演習	志賀	各自の研究テーマに関するPower pointの作成
29～30	論文作成と投稿 専門雑誌の投稿要領を理解し、正しい論文の書き方を習得する。	講義, 演習	川元	投稿雑誌の投稿要領の確認

2017年度

顎口腔機能矯正学 3 (Orofacial Function and Orthodontics)

開講年次	2年	期区分	通年	科目	主科目(研究)	単位数	2
授業方法	講義・演習	時間数	30	曜日		時限	
開講学科	歯学研究科 歯学専攻						
科目責任者	川元 龍夫						
担当教員	川元 龍夫、志賀 百年、郡司掛 香織、黒石 加代子、森田 淳平						

授業の概要

顎口腔機能と歯科矯正学との関わりを、咀嚼、嚥下、呼吸機能を通じて理解する(研究テーマと関連して)。また、治療に伴うリスクである歯根吸収や疼痛の原因について検討する。

学生の到達目標

1. 呼吸機能を評価できる。
2. 咀嚼筋活動と筋電図および咬合音の関連性を解明、理解できる。
3. 口呼吸と咬合育成の関連性を解明、理解できる。
4. 三叉神経節を介した骨代謝調節機構を解明、理解できる。
5. 歯周組織におけるオステオアクチピンの作用機序の解明、理解できる。
6. ブラケットとワイヤー間に発生する摩擦力を解明、理解できる。

テキスト

出) 著)

参考書

Contemporary Orthodontics, 5th Edition

出)Mosby 著)William R. Proffit

Orthodontics Current Principles & Techniques

出)ELSEVER/MOSBY 著)T.M.Grabber

成績評価方法・基準

評価項目	割合
研究プロトコール	100%

その他

学生相談：随時

2017年度

顎口腔機能矯正学 3 (Orofacial Function and Orthodontics)

開講年次	2年	期区分	通年	科目	主科目(研究)	単位数	2
授業方法	講義・演習	時間数	30	曜日		時限	
開講学科	歯学研究科 歯学専攻						
科目責任者	川元 龍夫						
担当教員	川元 龍夫、志賀 百年、郡司掛 香織、黒石 加代子、森田 淳平						

授業計画

回	学習内容	授業方法	担当教員	事前・事後学習 学習課題
1~3	顎口腔機能 顎口腔機能について、成長発育を踏まえて矯正治療による顎口腔機能を学ぶ	講義	川元	配付資料の復習
4	最適な矯正力に関する生物学的考察(1) 矯正力について、歯周組織を構成する細胞の働き、骨代謝機構および歯根吸収を踏まえながら最適な矯正力に関する生物学的考察について学ぶ。	演習、小グループセミナー	志賀	1年次講義録の復習
5	最適な矯正力に関する生体力学的考察(2) 矯正力について、歯周組織を構成する細胞の働き、骨代謝機構および歯根吸収を踏まえながら最適な矯正力に関する生物学的考察について学ぶ。	演習、小グループセミナー	郡司掛	1年次講義録の復習
6~8	歯の移動と骨のモデリング 矯正歯の移動について、歯根膜線維芽細胞、骨芽細胞、破骨細胞の働きを踏まえながら歯の移動時の骨リモデリングについて学ぶ。	演習、小グループセミナー	志賀	関連論文の精読
9~11	咀嚼機能の評価 咀嚼機能の基礎を理解し、歯科矯正治療の必要性を習得する	演習、小グループセミナー	森田	関連論文の精読
12~13	三叉神経節を介した骨代謝調節機構 神経系と骨代謝についての関連について学ぶ	演習、小グループセミナー	黒石	関連論文の精読
14~15	歯周組織における骨代謝の作用機序 矯正歯の移動時の歯周組織の骨代謝について、歯根膜線維芽細胞において骨形成性因子であるオステオアクチビン等の作用機序を踏まえながら、牽引側の骨形成の仕組みについて学ぶ。	演習、小グループセミナー	川元	関連論文の精読

2017年度

歯科放射線学 (Oral and Maxillofacial Radiology)

開講年次	1～3年	期区分	通年	科目	主科目（臨床）	単位数	4
授業方法	実習	時間数	120	曜日		時限	
開講学科	歯学研究科 歯学専攻						
科目責任者	森本 泰宏						
担当教員	森本 泰宏、田中 達朗、鬼頭 慎司、小田 昌史、松本 忍 （歯科放射線指導医）森本 泰宏、田中 達朗、鬼頭 慎司 （歯科放射線専門医）森本 泰宏、田中 達朗、鬼頭 慎司、若杉 奈緒 （歯科放射線認定医）森本 泰宏、田中 達朗、鬼頭 慎司、若杉 奈緒						

授業の概要

本教室で作成された600症例以上のTeaching Filesの読影を行い、読影報告書を作成してもらう。更に、各症例に対して担当の教員より解説を行い、読影の要点を説明してもらう。その後、それぞれの症例の病理画像を「Contemporary Oral and Maxillofacial Pathology」を教科書として理解してもらう。読影の際に使用する教科書としては「頭頸部のCT・MRI」及び「頭頸部画像診断ハンドブック」である。

学生の到達目標

頭頸部に発生する各種疾患に対して、歯科用エックス線写真、パノラマエックス線写真、CT、MRI、超音波、PET等を用いて作成された各種画像の対象疾患に対する診断の実践を理解する。その際、主訴、視診、触診及び画像所見を論理的にしかも正確に評価し、質的及び部位的診断が総合的に高いレベルで実践できる。

テキスト

出) (著)

参考書

- 頭頸部のCT・MRI
出) (著)
- 頭頸部画像診断ハンドブック
出) (著)
- Contemporary Oral and Maxillofacial Pathology
出) (著)
- 放射線概論
出) (著)
- 口腔解剖学
出) (著)

成績評価方法・基準

評価項目	割合
セミナー中の発表	50%
口頭試問	50%

その他

病院3階歯科放射線科診療室及び病院11階歯科放射線学講座研究室にて随時質問事項を受け付けています。

2017年度

歯科放射線学 (Oral and Maxillofacial Radiology)

開講年次	1～3年	期区分	通年	科目	主科目(臨床)	単位数	4
授業方法	実習	時間数	120	曜日		時限	
開講学科	歯学研究科 歯学専攻						
科目責任者	森本 泰宏						
担当教員	森本 泰宏、田中 達朗、鬼頭 慎司、小田 昌史、松本 忍 (歯科放射線指導医) 森本 泰宏、田中 達朗、鬼頭 慎司 (歯科放射線専門医) 森本 泰宏、田中 達朗、鬼頭 慎司、若杉 奈緒 (歯科放射線認定医) 森本 泰宏、田中 達朗、鬼頭 慎司、若杉 奈緒						

授業計画

回	学習内容	授業方法	担当教員	事前・事後学習 学習課題
1,2	Teaching Filesの20例 歯に生じる疾患について報告書を作成する。	実習	森本、田中、鬼頭、若杉	予習、復習として参考書を読む
3,4	Teaching Filesの20例 主に歯牙及び顎骨疾患について報告書を作成する。	実習	森本、田中、鬼頭、若杉	予習、復習として参考書を読む
5,6	Teaching Filesの20例 主に歯周疾患について報告書を作成する。	実習	森本、田中、鬼頭、若杉	予習、復習として参考書を読む
7,8	Teaching Filesの20例 主に歯周・顎骨疾患について報告書を作成する。	実習	森本、田中、鬼頭、若杉	予習、復習として参考書を読む
9,10	Teaching Filesの20例 主に口腔粘膜関連症例について報告書を作成する。(I)	実習	森本、田中、鬼頭、若杉	予習、復習として参考書を読む
11,12	Teaching Filesの20例 主に口腔粘膜関連症例について報告書を作成する。(II)	実習	森本、田中、鬼頭、若杉	予習、復習として参考書を読む
13,14	Teaching Filesの20例 主に旁咽頭間隙症例について報告書を作成する。	実習	森本、田中、鬼頭、若杉	予習、復習として参考書を読む
15,16	Teaching Filesの20例 主に顎動脈間隙・椎周囲間隙症例について報告書を作成する。	実習	森本、田中、鬼頭、若杉	予習、復習として参考書を読む
17,18	Teaching Filesの20例 主に咽頭・喉頭症例について報告書を作成する。	実習	森本、田中、鬼頭、若杉	予習、復習として参考書を読む
19,20	Teaching Filesの20例 主に顎下間隙症例について報告書を作成する。(I)	実習	森本、田中、鬼頭、若杉	予習、復習として参考書を読む
21,22	Teaching Filesの20例 主に顎下間隙症例について報告書を作成する。(II)	実習	森本、田中、鬼頭、若杉	予習、復習として参考書を読む
23,24	Teaching Filesの20例 主に舌下間隙症例について報告書を作成する。(I)	実習	森本、田中、鬼頭、若杉	予習、復習として参考書を読む
25,26	Teaching Filesの20例 主に舌下間隙症例について報告書を作成する。(II)	実習	森本、田中、鬼頭、若杉	予習、復習として参考書を読む
27,28	Teaching Filesの20例 顎下・舌下間隙症例について報告書を作成する。	実習	森本、田中、鬼頭、若杉	予習、復習として参考書を読む
29,30	Teaching Filesの20例 主に咀嚼筋間隙症例について報告書を作成する。	実習	森本、田中、鬼頭、若杉	予習、復習として参考書を読む
31,32	Teaching Filesの20例 主に副鼻腔症例について報告書を作成する。	実習	森本、田中、鬼頭、若杉	予習、復習として参考書を読む
33,34	Teaching Filesの20例 主に顎関節症例について報告書を作成する。	実習	森本、田中、鬼頭、若杉	予習、復習として参考書を読む

2017年度

歯科放射線学 (Oral and Maxillofacial Radiology)

開講年次	1～3年	期区分	通年	科目	主科目(臨床)	単位数	4
授業方法	実習	時間数	120	曜日		時限	
開講学科	歯学研究科 歯学専攻						
科目責任者	森本 泰宏						
担当教員	森本 泰宏、田中 達朗、鬼頭 慎司、小田 昌史、松本 忍 (歯科放射線指導医) 森本 泰宏、田中 達朗、鬼頭 慎司 (歯科放射線専門医) 森本 泰宏、田中 達朗、鬼頭 慎司、若杉 奈緒 (歯科放射線認定医) 森本 泰宏、田中 達朗、鬼頭 慎司、若杉 奈緒						

回	学習内容	授業方法	担当教員	事前・事後学習 学習課題
35,36	Teaching Filesの20例 主に上・下顎骨症例について報告書を作成する。	実習	森本、田中、鬼頭、若杉	予習、復習として参考書を読む
37,38	Teaching Filesの20例 主に咽頭後間隙症例について報告書を作成する。	実習	森本、田中、鬼頭、若杉	予習、復習として参考書を読む
39,40	Teaching Filesの20例 主に旁咽頭間隙・咽頭後間隙症例について報告書を作成する。	実習	森本、田中、鬼頭、若杉	予習、復習として参考書を読む
41,42	Teaching Filesの20例 主に咀嚼筋間隙・咽頭症例について報告書を作成する。	実習	森本、田中、鬼頭、若杉	予習、復習として参考書を読む
43,44	Teaching Filesの20例 主に咽頭症例について報告書を作成する。	実習	森本、田中、鬼頭、若杉	予習、復習として参考書を読む
45,46	Teaching Filesの20例 主に頸部リンパ節転移について報告書を作成する。	実習	森本、田中、鬼頭、若杉	予習、復習として参考書を読む
47,48	Teaching Filesの20例 主に頸部嚢胞性腫瘍について報告書を作成する。	実習	森本、田中、鬼頭、若杉	予習、復習として参考書を読む
49,50	Teaching Filesの20例 主に唾液腺疾患について報告書を作成する。	実習	森本、田中、鬼頭、若杉	予習、復習として参考書を読む
51,52	Teaching Filesの20例 主に甲状腺・副甲状腺疾患について報告書を作成する。	実習	森本、田中、鬼頭、若杉	予習、復習として参考書を読む
53,54	Teaching Filesの20例 主に頭蓋底と側頭骨について報告書を作成する。	実習	森本、田中、鬼頭、若杉	予習、復習として参考書を読む
55,56	Teaching Filesの20例 全般的な症例について報告書を作成する。	実習	森本、田中、鬼頭、若杉	予習、復習として参考書を読む
57,58	Teaching Filesの20例 全般的な症例について報告書を作成する。	実習	森本、田中、鬼頭、若杉	予習、復習として参考書を読む
59,60	Teaching Filesの20例 全般的な症例について報告書を作成する。	実習	森本、田中、鬼頭、若杉	予習、復習として参考書を読む

2017年度

歯科放射線学検討会 (Conference of Oral and Maxillofacial Radiology)

開講年次	1～4年	期区分	通年	科目	主科目（臨床）/副科目	単位数	2
授業方法	演習	時間数	30時間	曜日		時限	
開講学科	歯学研究科 歯学専攻						
科目責任者	森本 泰宏						
担当教員	森本 泰宏、田中 達朗、鬼頭 慎司、小田 昌史、松本 忍 （歯科放射線指導医）森本 泰宏、田中 達朗、鬼頭 慎司 （歯科放射線専門医）森本 泰宏、田中 達朗、鬼頭 慎司、若杉 奈緒 （歯科放射線認定医）森本 泰宏、田中 達朗、鬼頭 慎司、若杉 奈緒						

授業の概要

歯科放射線診断学に関する読影を、カンファレンス形式で学ぶ。更に、関連する文献を詳読する。

学生の到達目標

実際の患者さんのフィルムを読影し、画像診断の実践技術を習得する。更に、患者さんの持つ各種疾患について文献を読み詳細に把握できる。

テキスト

患者さんのフィルム
出)

著)

参考書

頭頸部のCT・MRI

出)

著)

頭頸部画像診断ハンドブック

出)

著)

Contemporary Oral and Maxillofacial Pathology

出)

著)

成績評価方法・基準

評価項目	割合
カンファレンス中の発表	50%
口頭試問	50%

その他

病院3階歯科放射線科診療室及び病院11階歯科放射線学講座研究室にて随時質問事項を受け付けています。

2017年度

歯科放射線学検討会 (Conference of Oral and Maxillofacial Radiology)

開講年次	1～4年	期区分	通年	科目	主科目(臨床)/副科目	単位数	2
授業方法	演習	時間数	30時間	曜日		時限	
開講学科	歯学研究科 歯学専攻						
科目責任者	森本 泰宏						
担当教員	森本 泰宏、田中 達朗、鬼頭 慎司、小田 昌史、松本 忍 (歯科放射線指導医) 森本 泰宏、田中 達朗、鬼頭 慎司 (歯科放射線専門医) 森本 泰宏、田中 達朗、鬼頭 慎司、若杉 奈緒 (歯科放射線認定医) 森本 泰宏、田中 達朗、鬼頭 慎司、若杉 奈緒						

授業計画

回	学習内容	授業方法	担当教員	事前・事後学習 学習課題
1～15	患者さんのフィルム読影を行い、その後カンファレンス形式での話し合い、更に文献の詳読	演習	予習、復習として参考書を読む	森本、田中、鬼頭、若杉

2017年度

歯科放射線学概論 (Outline of Oral and Maxillofacial Radiology)

開講年次	1～3年	期区分	通年	科目	主科目(研究)	単位数	2
授業方法	講義・演習	時間数	60	曜日		時限	
開講学科	歯学研究科 歯学専攻						
科目責任者	森本 泰宏						
担当教員	森本 泰宏、田中 達朗、鬼頭 慎司、小田 昌史、松本 忍 (歯科放射線指導医) 森本 泰宏、田中 達朗、鬼頭 慎司 (歯科放射線専門医) 森本 泰宏、田中 達朗、鬼頭 慎司、若杉 奈緒 (歯科放射線認定医) 森本 泰宏、田中 達朗、鬼頭 慎司、若杉 奈緒						

授業の概要

歯科放射線学は臨床系の学問ではあるが、基礎教科として物理学、生物学、解剖学、病理学の学習を必要とする。それらの科目を基礎として、画像診断学及び放射線治療学が成り立っていくのである。リサーチマインドを持ち将来歯科放射線学の研究者を目指すためにまず上記内容を高いレベル理解してもらうことが重要である。そこで、授業では「放射線概論」、「口腔解剖学」及び「Contemporary Oral and Maxillofacial Pathology」を教科書としてその中の日常臨床と関連する内容を発表形式で復習してもらう。その中で第一種放射線取扱主任者の合格、口腔解剖学及び口腔病理学の知識を掌握できることを目指してもらう。次に、それらの内容をベースにして画像診断学の修得を行ってもらう。具体的には、下記に示す教科書を用いて授業を行い、質の高い画像をもとに論理的に正しい診断手法を身に付けてもらう。そこで、臨床実践に則した形式で学んでもらうよう授業形態はゼミ方式をとり、使用教科書としては「頭頸部のCT・MRI」及び「頭頸部画像診断ハンドブック」を用いる。この本を分担して読みながら日常臨床に関連する内容を発表形式で授業する。

学生の到達目標

学部学生時代に学んだエックス線の発生原理、エックス線写真の画像化原理及びエックス線写真を作成するための手法について復習し、一歩進んだレベル迄把握することで、放射線物理学の科目で第一種放射線取扱主任者の合格レベルを充たす。同時に、放射線とはどのようなものであるかを理解し、放射線被曝により引き起こされる生物学的作用の発生機序及び疾患を深いレベル迄理解することで、放射線生物学における第一種放射線取扱主任者の合格レベルを充たす。同時に生物学的効果を利用した放射線治療法についても最新のガンマナイフ等を利用した治療の在り方について迄把握する。放射線の生物学的影響から放射線従事者の身体を守るための防護方法について法律学的立場からとそれに準じた具体的方策を理解し、第一種放射線取扱主任者試験の放射線防護学及び管理学に合格できるレベルを充たす。上記内容を把握した上で、頭頸部に発生する各種疾患に対して、歯科用エックス線写真、パノラマエックス線写真、CT、MRI、超音波、PET等を用いて作成された各種画像の対象疾患に対する特徴的所見を理解できる。更に、それら所見を論理的にしかも正確に評価し、質的及び部位的診断が総合的に高いレベルで実践できる。

テキスト

出) (著)

参考書

頭頸部のCT・MRI
出) (著)

頭頸部画像診断ハンドブック
出) (著)

Contemporary Oral and Maxillofacial Pathology
出) (著)

放射線概論
出) (著)

口腔解剖学
出) (著)

成績評価方法・基準

評価項目	割合
セミナー中の口頭試問	100%

2017年度

歯科放射線学概論 (Outline of Oral and Maxillofacial Radiology)

開講年次	1～3年	期区分	通年	科目	主科目(研究)	単位数	2
授業方法	講義・演習	時間数	60	曜日		時限	
開講学科	歯学研究科 歯学専攻						
科目責任者	森本 泰宏						
担当教員	森本 泰宏、田中 達朗、鬼頭 慎司、小田 昌史、松本 忍 (歯科放射線指導医) 森本 泰宏、田中 達朗、鬼頭 慎司 (歯科放射線専門医) 森本 泰宏、田中 達朗、鬼頭 慎司、若杉 奈緒 (歯科放射線認定医) 森本 泰宏、田中 達朗、鬼頭 慎司、若杉 奈緒						

その他

病院3階歯科放射線科診療室及び病院11階歯科放射線学講座研究室にて随時質問事項を受け付けています。

2017年度

歯科放射線学概論 (Outline of Oral and Maxillofacial Radiology)

開講年次	1～3年	期区分	通年	科目	主科目(研究)	単位数	2
授業方法	講義・演習	時間数	60	曜日		時限	
開講学科	歯学研究科 歯学専攻						
科目責任者	森本 泰宏						
担当教員	森本 泰宏、田中 達朗、鬼頭 慎司、小田 昌史、松本 忍 (歯科放射線指導医) 森本 泰宏、田中 達朗、鬼頭 慎司 (歯科放射線専門医) 森本 泰宏、田中 達朗、鬼頭 慎司、若杉 奈緒 (歯科放射線認定医) 森本 泰宏、田中 達朗、鬼頭 慎司、若杉 奈緒						

授業計画

回	学習内容	授業方法	担当教員	事前・事後学習 学習課題
1	放射線物理学：放射線の発生原理と物質との相互作用について理解する	講義・演習	森本	予習、復習として参考書を読む
2	放射線化学：放射性核種の製造、利用法について理解する	講義・演習	森本	予習、復習として参考書を読む
3	放射線生物学：放射線被曝により引き起こされる生物学的作用の発生機序及び代表的疾患について理解する	講義・演習	森本	予習、復習として参考書を読む
4	放射線測定技術：被曝線量の測定機器の原理と放射線測定の実際について理解する	講義・演習	森本	予習、復習として参考書を読む
5	放射線測定技術：放射線被曝に対する防護、事故防止のための放射線の管理技術について理解する	講義・演習	森本	予習、復習として参考書を読む
6	放射線に関する法令：放射線障害防止法の概要について理解する	講義・演習	森本	予習、復習として参考書を読む
7	写真工学：X線写真撮影を行った後それを画像化するために必要な処理方法を理解する	講義・演習	森本	予習、復習として参考書を読む
8	医用画像転送技術：現代の医学に欠かすことの出来ない医用画像転送技術の有益性と危険性を理解する	講義・演習	森本	予習、復習として参考書を読む
9	基礎放射線のまとめを行い、全内容を復習する。	講義・演習	森本	予習、復習として参考書を読む
10	画像検査法・単純エックス線検査：頭頸部領域の疾患に対して行われる単純エックス線検査の特徴とその画像上での所見について理解する	講義・演習	森本、田中、鬼頭、若杉	予習、復習として参考書を読む
11	画像検査法・CT検査：CT検査の画像化機序および各種疾患におけるCT検査上での特徴的な所見について理解する	講義・演習	森本、田中、鬼頭、若杉	予習、復習として参考書を読む
12	画像検査法・MRI検査：MRI検査の画像化機序および各種疾患におけるMRI検査上での特徴的な所見について理解する	講義・演習	森本、田中、鬼頭、若杉	予習、復習として参考書を読む
13	画像検査法・超音波検査：超音波検査の画像化機序および各種疾患における超音波検査上での特徴的な所見について理解する	講義・演習	森本、田中、鬼頭、若杉	予習、復習として参考書を読む
14	画像検査法・核医学検査：核医学検査の種類及び画像化機序および各種疾患における核医学検査上での特徴的な所見について理解する	講義・演習	森本、田中、鬼頭、若杉	予習、復習として参考書を読む
15	画像検査法のまとめ、全内容を復習する。	講義・演習	森本、田中、鬼頭、若杉	予習、復習として参考書を読む
16	画像診断・副鼻腔：副鼻腔の解剖および副鼻腔に発生する各種疾患の特徴的画像所見について理解する	講義・演習	森本、田中、鬼頭、若杉	予習、復習として参考書を読む
17	画像診断・顎関節：顎関節の解剖および顎関節に発生する各種疾患の特徴的画像所見について理解する	講義・演習	森本、田中、鬼頭、若杉	予習、復習として参考書を読む
18	画像診断・下顎骨：下顎骨の解剖および下顎骨に発生する各種疾患の特徴的画像所見について理解する	講義・演習	森本、田中、鬼頭、若杉	予習、復習として参考書を読む
19	画像診断・頭部筋膜間隙()：旁咽頭間隙、咀嚼筋間隙、頸動脈間隙の解剖およびこれらの部位に発生する各種疾患の特徴的画像所見について理解する	講義・演習	森本、田中、鬼頭、若杉	予習、復習として参考書を読む
20	画像診断・頭部筋膜間隙()：咽頭後間隙、椎周囲間隙、舌下・顎下間隙の解剖およびこれらの部位に発生する各種疾患の特徴的画像所見について理解する	講義・演習	森本、田中、鬼頭、若杉	予習、復習として参考書を読む
21	画像診断・中咽頭・口腔：中咽頭・口腔の解剖およびこれらの部位に発生する各種疾患の特徴的画像所見について理解する	講義・演習	森本、田中、鬼頭、若杉	予習、復習として参考書を読む

2017年度

歯科放射線学概論 (Outline of Oral and Maxillofacial Radiology)

開講年次	1～3年	期区分	通年	科目	主科目(研究)	単位数	2
授業方法	講義・演習	時間数	60	曜日		時限	
開講学科	歯学研究科 歯学専攻						
科目責任者	森本 泰宏						
担当教員	森本 泰宏、田中 達朗、鬼頭 慎司、小田 昌史、松本 忍 (歯科放射線指導医) 森本 泰宏、田中 達朗、鬼頭 慎司 (歯科放射線専門医) 森本 泰宏、田中 達朗、鬼頭 慎司、若杉 奈緒 (歯科放射線認定医) 森本 泰宏、田中 達朗、鬼頭 慎司、若杉 奈緒						

回	学習内容	授業方法	担当教員	事前・事後学習 学習課題
22	画像診断・上咽頭・下咽頭・喉頭：上咽頭・下咽頭・喉頭の解剖およびこれらの部位に発生する各種疾患の特徴的画像所見について理解する	講義・演習	森本、田中、鬼頭、若杉	予習、復習として参考書を読む
23	画像診断・頸部リンパ節転移：頸部リンパ節の解剖および頸部リンパ節転移の特徴的画像所見、頸部郭清術について理解する	講義・演習	森本、田中、鬼頭、若杉	予習、復習として参考書を読む
24	画像診断・頸部嚢胞性腫瘍：頸部嚢胞性腫瘍の特徴的画像所見について理解する	講義・演習	森本、田中、鬼頭、若杉	予習、復習として参考書を読む
25	画像診断・唾液腺：唾液腺の解剖および唾液腺に発生する各種疾患の特徴的画像所見について理解する	講義・演習	森本、田中、鬼頭、若杉	予習、復習として参考書を読む
26	画像診断・甲状腺・副甲状腺：甲状腺・副甲状腺に発生する各種疾患の特徴的画像所見について理解する	講義・演習	森本、田中、鬼頭、若杉	予習、復習として参考書を読む
27	画像診断・頭蓋底と側頭骨：頭蓋底と側頭骨に発生する各種疾患の特徴的画像所見について理解する	講義・演習	森本、田中、鬼頭、若杉	予習、復習として参考書を読む
28	画像検査法のまとめ：実際の症例による画像診断演習を行う	講義・演習	森本、田中、鬼頭、若杉	予習、復習として参考書を読む
29	頭頸部におけるInterventional Radiology：頭頸部の血管内治療の留意点・実際について理解する	講義・演習	森本、田中、鬼頭、若杉	予習、復習として参考書を読む
30	放射線治療学：口腔癌の放射線治療についてその方法、作用機序及び効果的な腫瘍の種類について理解する	講義・演習	森本、田中、鬼頭、若杉	予習、復習として参考書を読む

2017年度

歯科放射線学演習 (Practice of Oral and Maxillofacial Radiology)

開講年次	1～4年	期区分	前期	科目	主科目(研究)	単位数	2
授業方法	講義・演習	時間数	30	曜日		時限	
開講学科	歯学研究科 歯学専攻						
科目責任者	森本 泰宏						
担当教員	森本 泰宏、田中 達朗、鬼頭 慎司、小田 昌史、松本 忍 (歯科放射線指導医) 森本 泰宏、田中 達朗、鬼頭 慎司 (歯科放射線専門医) 森本 泰宏、田中 達朗、鬼頭 慎司、若杉 奈緒 (歯科放射線認定医) 森本 泰宏、田中 達朗、鬼頭 慎司、若杉 奈緒						

授業の概要

歯科放射線学概論で学んだ内容を基にして、放射線診断学、放射線生物学及び放射線物理学実験の手技を学ぶ。同時にその実験手技を学ぶ際に必要な、第一種、第二種放射線取扱主任者免状取得に向けて演習を行う。

学生の到達目標

放射線診断学、放射線生物学及び放射線物理学実験の手技を理解できる。同時に、第一種もしくは第二種放射線取扱主任者試験の受験を目指し、知識を高める。

テキスト

出) (著)

参考書

絵とき 放射線のやさしい知識
出) オーム社 (著)

初級放射線
出) 通商産業研究社 (著)

放射線概論
出) 通商産業研究社 (著)

成績評価方法・基準

評価項目	割合
発表	50%
口頭試問	50%

その他

病院3階歯科放射線科診療室及び病院11階歯科放射線学講座研究室にて随時質問事項を受け付けています。

2017年度

歯科放射線学演習 (Practice of Oral and Maxillofacial Radiology)

開講年次	1～4年	期区分	前期	科目	主科目(研究)	単位数	2
授業方法	講義・演習	時間数	30	曜日		時限	
開講学科	歯学研究科 歯学専攻						
科目責任者	森本 泰宏						
担当教員	森本 泰宏、田中 達朗、鬼頭 慎司、小田 昌史、松本 忍 (歯科放射線指導医) 森本 泰宏、田中 達朗、鬼頭 慎司 (歯科放射線専門医) 森本 泰宏、田中 達朗、鬼頭 慎司、若杉 奈緒 (歯科放射線認定医) 森本 泰宏、田中 達朗、鬼頭 慎司、若杉 奈緒						

授業計画

回	学習内容	授業方法	担当教員	事前・事後学習 学習課題
1	第一種及び二種放射線取扱主任者試験について受験の方法を理解する。	講義・演習	森本、田中、鬼頭、若杉	予習、復習として参考書を読む
2	放射線の定義及びその発生原理について理解する。	講義・演習	森本、田中、鬼頭、若杉	予習、復習として参考書を読む
3	放射線と物質との相互作用について理解する。	講義・演習	森本、田中、鬼頭、若杉	予習、復習として参考書を読む
4	放射性核種の製造及び利用法について理解する。	講義・演習	森本、田中、鬼頭、若杉	予習、復習として参考書を読む
5	被曝線量の測定機器の原理について理解する。	講義・演習	森本、田中、鬼頭、若杉	予習、復習として参考書を読む
6	放射線管理技術について理解する。	講義・演習	森本、田中、鬼頭、若杉	予習、復習として参考書を読む
7	放射線被曝に対する防護について理解する	講義・演習	森本、田中、鬼頭、若杉	予習、復習として参考書を読む
8	放射線関連法規について理解する。(I)	講義・演習	森本、田中、鬼頭、若杉	予習、復習として参考書を読む
9	放射線関連法規について理解する。(II)	講義・演習	森本、田中、鬼頭、若杉	予習、復習として参考書を読む
10	放射線被曝により引き起こされる生物学的作用の発生機序及び代表的疾患について理解する。	講義・演習	森本、田中、鬼頭、若杉	予習、復習として参考書を読む
11	放射性化学について理解する。(I)	講義・演習	森本、田中、鬼頭、若杉	予習、復習として参考書を読む
12	放射性化学について理解する。(II)	講義・演習	森本、田中、鬼頭、若杉	予習、復習として参考書を読む
13	第一種、第二種放射線取扱主任者試験の総合問題を解き、理解する。(I)	講義・演習	森本、田中、鬼頭、若杉	予習、復習として参考書を読む
14	第一種、第二種放射線取扱主任者試験の総合問題を解き、理解する。(II)	講義・演習	森本、田中、鬼頭、若杉	予習、復習として参考書を読む
15	第一種、第二種放射線取扱主任者試験の総合問題を解き、理解する。(Iイ)	講義・演習	森本、田中、鬼頭、若杉	予習、復習として参考書を読む

2017年度

歯科放射線学演習 (Practice of Oral and Maxillofacial Radiology)

開講年次	1～4年	期区分	前期	科目	主科目(研究)/副科目	単位数	2
授業方法	講義・演習	時間数	30	曜日		時限	
開講学科	歯学研究科 歯学専攻						
科目責任者	森本 泰宏						
担当教員	森本 泰宏、田中 達朗、鬼頭 慎司、小田 昌史、松本 忍 (歯科放射線指導医) 森本 泰宏、田中 達朗、鬼頭 慎司 (歯科放射線専門医) 森本 泰宏、田中 達朗、鬼頭 慎司、若杉 奈緒 (歯科放射線認定医) 森本 泰宏、田中 達朗、鬼頭 慎司、若杉 奈緒						

授業の概要

歯科放射線学概論で学んだ内容を基にして、歯科放射線診断学に関する研究を行う。

学生の到達目標

一般的及び特殊なエックス線CT撮影を行い、付属ソフトを利用して画像解析技術を学び、研究に応用する。一般的及び特殊なMRI撮像を行い、付属ソフトを利用して画像解析が出来る。それにより画像を用いたin vitro、in vivo研究に応用できる。統計学的ソフトSPSSを使用し、臨床及び実験的データを分析できる。

テキスト

出) 著)

参考書

CT、MRI撮像装置の撮像技術読本 著)
出) 著)
統計処理ソフトSPSSに関する本 著)
出) 著)

成績評価方法・基準

評価項目	割合
発表	50%
口頭試問	50%

その他

病院3階歯科放射線科診療室及び病院11階歯科放射線学講座研究室にて随時質問事項を受け付けています。

2017年度

歯科放射線学演習 (Practice of Oral and Maxillofacial Radiology)

開講年次	1～4年	期区分	前期	科目	主科目(研究)/副科目	単位数	2
授業方法	講義・演習	時間数	30	曜日		時限	
開講学科	歯学研究科 歯学専攻						
科目責任者	森本 泰宏						
担当教員	森本 泰宏、田中 達朗、鬼頭 慎司、小田 昌史、松本 忍 (歯科放射線指導医) 森本 泰宏、田中 達朗、鬼頭 慎司 (歯科放射線専門医) 森本 泰宏、田中 達朗、鬼頭 慎司、若杉 奈緒 (歯科放射線認定医) 森本 泰宏、田中 達朗、鬼頭 慎司、若杉 奈緒						

授業計画

回	学習内容	授業方法	担当教員	事前・事後学習 学習課題
1	一般的エックス線CTの撮影及び画像処理について理解する。	講義・演習	森本、田中、鬼頭、若杉	予習、復習として参考書を読む
2	血管描出用CTの撮影及び画像処理について理解する。	演習	森本、田中、鬼頭、若杉	予習、復習として参考書を読む
3	統計処理ソフトSPSSを用いたデータ処理方法について理解する。(I)	講義・演習	森本、田中、鬼頭、若杉	予習、復習として参考書を読む
4	一般的MRI撮影及び画像処理について理解する。(I)	講義・演習	森本、田中、鬼頭、若杉	予習、復習として参考書を読む
5	一般的MRI撮影及び画像処理について理解する。(II)	演習	森本、田中、鬼頭、若杉	予習、復習として参考書を読む
6	一般的MRI撮影及び画像処理について理解する。(III)	演習	森本、田中、鬼頭、若杉	予習、復習として参考書を読む
7	特殊MRI撮影及び画像処理 (Dynamic MR sialography (I)) について理解する。	講義・演習	森本、田中、鬼頭、若杉	予習、復習として参考書を読む
8	特殊MRI撮影及び画像処理 (Dynamic MR sialography (II)) について理解する。	演習	森本、田中、鬼頭、若杉	予習、復習として参考書を読む
9	特殊MRI撮影及び画像処理 (Functional MRI (I)) について理解する。	講義・演習	森本、田中、鬼頭、若杉	予習、復習として参考書を読む
10	特殊MRI撮影及び画像処理 (Functional MRI (II)) について理解する。	演習	森本、田中、鬼頭、若杉	予習、復習として参考書を読む
11	特殊MRI撮影及び画像処理 (Functional MRI (III)) について理解する。	演習	森本、田中、鬼頭、若杉	予習、復習として参考書を読む
12	特殊MRI撮影及び画像処理 (MR angiography (I)) について理解する。	講義・演習	森本、田中、鬼頭、若杉	予習、復習として参考書を読む
13	特殊MRI撮影及び画像処理 (MR angiography (II)) について理解する。	演習	森本、田中、鬼頭、若杉	予習、復習として参考書を読む
14	統計処理ソフトSPSSを用いたデータ処理方法について理解する。(II)	講義・演習	森本、田中、鬼頭、若杉	予習、復習として参考書を読む
15	講義全ての総括を行い、CTやMRIの撮影及び画像処理について再確認する。	講義・演習	森本、田中、鬼頭、若杉	予習、復習として参考書を読む

2017年度

歯科放射線学輪読会 (A reading circle on Oral and Maxillofacial Radiology)

開講年次	1～4年	期区分	通年	科目	主科目(研究)/副科目	単位数	2
授業方法	演習	時間数	30	曜日		時限	
開講学科	歯学研究科 歯学専攻						
科目責任者	森本 泰宏						
担当教員	森本 泰宏、田中 達朗、鬼頭 慎司、小田 昌史、松本 忍 (歯科放射線指導医) 森本 泰宏、田中 達朗、鬼頭 慎司 (歯科放射線専門医) 森本 泰宏、田中 達朗、鬼頭 慎司、若杉 奈緒 (歯科放射線認定医) 森本 泰宏、田中 達朗、鬼頭 慎司、若杉 奈緒						

授業の概要

歯科放射線学のバイブルであるSom et alが記載した「Head and Neck Imaging」を読み、各疾患の画像を勉強する。

学生の到達目標

Som et alが記載した「Head and Neck Imaging」を読み、口腔・顎・顔面の各疾患の特徴的な画像所見を把握できる。

テキスト

出) 著)

参考書

Head and Neck Imaging 3rd edition 1996
出)Curtin et al Mosby 著)Som

成績評価方法・基準

評価項目	割合
輪読会中の発表	50%
口頭試問	50%

その他

病院3階歯科放射線科診療室及び病院11階歯科放射線学講座研究室にて随時質問事項を受け付けています。

2017年度

歯科放射線学輪読会 (A reading circle on Oral and Maxillofacial Radiology)

開講年次	1～4年	期区分	通年	科目	主科目(研究)/副科目	単位数	2
授業方法	演習	時間数	30	曜日		時限	
開講学科	歯学研究科 歯学専攻						
科目責任者	森本 泰宏						
担当教員	森本 泰宏、田中 達朗、鬼頭 慎司、小田 昌史、松本 忍 (歯科放射線指導医) 森本 泰宏、田中 達朗、鬼頭 慎司 (歯科放射線専門医) 森本 泰宏、田中 達朗、鬼頭 慎司、若杉 奈緒 (歯科放射線認定医) 森本 泰宏、田中 達朗、鬼頭 慎司、若杉 奈緒						

授業計画

回	学習内容	授業方法	担当教員	事前・事後学習 学習課題
1～15	「Head and Neck Imaging」を輪読する。	演習	森本、田中、鬼頭、若杉	予習、復習として参考書を読む

2017年度

顎顔面外科学ベーシック治療学コース (Basic treatment strategy of Oral and Maxillofacial Surgery)

開講年次	1～3年	期区分	通年	科目	主科目(臨床)	単位数	4
授業方法	実習	時間数	120	曜日		時限	
開講学科	歯学研究科 歯学専攻						
科目責任者	富永 和宏						
担当教員	富永 和宏、笹栗 正明、上原 雅隆、土生 学、吉賀 大午、岩永 賢二郎、三次 翔、高橋 理、河野 通直、藤井 誠子 (口腔外科専門医) 富永和宏、笹栗正明、上原雅隆、土生学、岩永賢二郎、吉賀大午 (口腔外科指導医) 富永和宏、上原雅隆 (口腔外科認定医) 高橋理、三次翔、藤井誠子、早川真奈						

授業の概要

口腔外科学の治療に関する基本手技を修得する。また、口腔外科専門医となるための中・高難度手術についての理解を深めるとともに、全身麻酔を含めた全身管理の基本を理解し、救急救命処置が行えるようにする。

学生の到達目標

1. 歯科の小手術を安全、確実に行うことができる。
2. 中・高難度の口腔外科手術の実際が理解できる。
3. 術前準備、術後手術創管理を行うことができる。
4. 術前・術中・術後の全身管理を行うことができる。
5. 救急救命処置を行うことができる。

テキスト

出) (著)

参考書

口腔外科ハンドマニュアル
出)クインテッセンス出版 (著)

口腔外科臨床ヒント集
出)クインテッセンス出版 (著)

その他、関連分野の文献および参考書は各自必要なものを選別する
出) (著)

成績評価方法・基準

評価項目	割合
ケースプレゼンテーション	30%
症状・手術レポート	30%
単位認定試験	40%

その他

学生相談：随時

2017年度

顎顔面外科学ベーシック治療学コース (Basic treatment strategy of Oral and Maxillofacial Surgery)

開講年次	1～3年	期区分	通年	科目	主科目（臨床）	単位数	4
授業方法	実習	時間数	120	曜日		時限	
開講学科	歯学研究科 歯学専攻						
科目責任者	富永 和宏						
担当教員	富永 和宏、笹栗 正明、上原 雅隆、土生 学、吉賀 大午、岩永 賢二郎、三次 翔、高橋 理、河野 通直、藤井 誠子 （口腔外科専門医）富永和宏、笹栗正明、上原雅隆、土生学、岩永賢二郎、吉賀大午 （口腔外科指導医）富永和宏、上原雅隆 （口腔外科認定医）高橋理、三次翔、藤井誠子、早川真奈						

授業計画

回	学習内容	授業方法	担当教員	事前・事後学習 学習課題
1,2	普通抜歯術を学習する。	実習	藤井	参考書の予習 復習
3,4	難抜歯術を学習する。	実習	三次	参考書の予習 復習
5,6	簡単な埋伏歯抜歯術を学習する。	実習	三次	参考書の予習 復習
7,8	試問1、ディスカッション	ケースプレゼンテーション	富永	症例・手術レ ポート
9,10	嚢胞摘出術を学習する。	実習	藤井	参考書の予習 復習
11,12	歯根端切除術を学習する。	実習	高橋	参考書の予習 復習
13,14	良性腫瘍摘出術を学習する。	実習	高橋	参考書の予習 復習
15,16	補綴前外科手術を学習する。	実習	岩永	参考書の予習 復習
17,18	手術創感染予防を学習する。	実習	藤井	参考書の予習 復習
19,20	試問2、ディスカッション	ケースプレゼンテーション	笹栗	症例・手術レ ポート
21,22	顎変形症の術前準備を学習する。	実習	三次	参考書の予習 復習
23,24	顎変形症の手術を学習する。	実習	土生	参考書の予習 復習
25,26	顎変形症の術後管理を学習する。	実習	高橋	参考書の予習 復習
27,28	試問3、ディスカッション	ケースプレゼンテーション	富永	症例・手術レ ポート
29,30	癌の化学療法を学習する。	実習	早川	参考書の予習 復習
31,32	癌の放射線療法を学習する。	実習	早川	参考書の予習 復習
33,34	口腔癌切除術を学習する。	実習	上原	参考書の予習 復習
35,36	口腔癌の再建法を学習する。	実習	上原	参考書の予習 復習
37,38	口腔癌の術後管理を学習する。	実習	岩永	参考書の予習 復習
39,40	ターミナルケア	実習	岩永	参考書の予習 復習
41,42	試問4、ディスカッション	ケースプレゼンテーション	上原	症例・手術レ ポート
43,44	顎関節症の外科的処置を学習する。	実習	吉賀	参考書の予習 復習

2017年度

顎顔面外科学ベーシック治療学コース (Basic treatment strategy of Oral and Maxillofacial Surgery)

開講年次	1～3年	期区分	通年	科目	主科目（臨床）	単位数	4
授業方法	実習	時間数	120	曜日		時限	
開講学科	歯学研究科 歯学専攻						
科目責任者	富永 和宏						
担当教員	富永 和宏、笹栗 正明、上原 雅隆、土生 学、吉賀 大午、岩永 賢二郎、三次 翔、高橋 理、河野 通直、藤井 誠子 （口腔外科専門医）富永和宏、笹栗正明、上原雅隆、土生学、岩永賢二郎、吉賀大午 （口腔外科指導医）富永和宏、上原雅隆 （口腔外科認定医）高橋理、三次翔、藤井誠子、早川真奈						

回	学習内容	授業方法	担当教員	事前・事後学習 学習課題
45,46	口唇口蓋裂の術前準備を学習する。	実習	土生	参考書の予習復習
47,48	口唇口蓋裂の術後管理を学習する。	実習	土生	参考書の予習復習
49,50	口唇口蓋裂の手術を学習する。	実習	笹栗	参考書の予習復習
51,52	試問5、ディスカッション	ケースプレゼンテーション	笹栗	症例・手術レポート
53,54	静脈内鎮静法を学習する。	実習	早川	参考書の予習復習
55,56	全身麻酔を学習する。	実習	吉賀	参考書の予習復習
57,58	救急救命処置を学習する。	実習	吉賀	参考書の予習復習
59,60	単位認定試験	-	富永	-

2017年度

顎顔面外科学ベーシック診断学コース (Basic diagnostic strategy of Oral and Maxillofacial Surgery)

開講年次	1～3年	期区分	通年	科目	主科目（臨床）	単位数	4
授業方法	実習	時間数	120	曜日		時限	
開講学科	歯学研究科 歯学専攻						
科目責任者	富永 和宏						
担当教員	富永 和宏、笹栗 正明、上原 雅隆、土生 学、吉賀 大午、岩永 賢二郎、三次 翔、高橋 理、河野 通直、藤井 誠子 （口腔外科専門医）富永和宏、笹栗正明、上原雅隆、土生学、岩永賢二郎、吉賀大午 （口腔外科指導医）富永和宏、上原雅隆 （口腔外科認定医）高橋理、三次翔、藤井誠子、早川真奈						

授業の概要

口腔外科の各種疾患の診断の基本を修得する。顎関節症、歯科心身症（舌痛症など）や口腔粘膜疾患など口腔内科的な治療に関する基本知識を修得する。併せて、医の倫理を身につけ、高齢社会の中で遭遇頻度の高い全身疾患を理解し、関連医科との連携の下に歯科治療が行えるようにする。

学生の到達目標

1. 診断のための適切な医療面接（情報収集）ができる。
2. 診断のために必要な画像診断法の選択ができる。
3. 各種画像の診断ができる。
4. 収集した情報を分析し、診断する基本を修得し、実践できる。
5. 口腔粘膜疾患の診断ができる。
6. 口腔粘膜疾患の基本治療ができる。
7. 顎関節症の診断ができる。
8. 顎関節症の基本治療ができる。
9. 遭遇頻度の高い全身疾患の病態が理解できる。
10. 全身疾患を持つ患者に対し、医科との連携の下に必要な対応ができる。
11. 医の倫理を身につけ、知識を高める。

テキスト

出) (著)

参考書

口腔外科ハンドマニュアル
出)クインテッセンス出版 (著)

口腔外科臨床ヒント集
出)クインテッセンス出版 (著)

その他、関連分野の文献および参考書は各自必要なものを選別する。
出) (著)

成績評価方法・基準

評価項目	割合
ケースプレゼンテーション	30%
症状レポート	30%
単位認定試験	40%

その他

学生相談；随時

2017年度

顎顔面外科学ベーシック診断学コース (Basic diagnostic strategy of Oral and Maxillofacial Surgery)

開講年次	1～3年	期区分	通年	科目	主科目（臨床）	単位数	4
授業方法	実習	時間数	120	曜日		時限	
開講学科	歯学研究科 歯学専攻						
科目責任者	富永 和宏						
担当教員	富永 和宏、笹栗 正明、上原 雅隆、土生 学、吉賀 大午、岩永 賢二郎、三次 翔、高橋 理、河野 通直、藤井 誠子 （口腔外科専門医）富永和宏、笹栗正明、上原雅隆、土生学、岩永賢二郎、吉賀大午 （口腔外科指導医）富永和宏、上原雅隆 （口腔外科認定医）高橋理、三次翔、藤井誠子、早川真奈						

授業計画

回	学習内容	授業方法	担当教員	事前・事後学習 学習課題
1,2	医療面接（情報収集）	実習	三次	参考書の予習 復習
3,4	臨床検査の理解1：血液一般、生化学検査	実習	三次	参考書の予習 復習
5,6	臨床検査の理解2：血液一般、生化学検査	実習	三次	参考書の予習 復習
7,8	CTの読影	実習	高橋	参考書の予習 復習
9,10	MRIの読影	実習	高橋	参考書の予習 復習
11,12	超音波画像の読影	実習	高橋	参考書の予習 復習
13,14	各種疾患の診断に必要な画像診断の選択	実習	吉賀	参考書の予習 復習
15,16	収集した情報の分析による診断	実習	吉賀	参考書の予習 復習
17,18	試問1、ディスカッション	ケースプレゼンテーション	上原	症例レポート
19,20	口腔粘膜疾患の診断1：病態病理学的側面	実習	早川	参考書の予習 復習
21,22	口腔粘膜疾患の診断2：臨床的側面	実習	早川	参考書の予習 復習
23,24	口腔粘膜疾患の基本治療	実習	早川	参考書の予習 復習
25,26	歯性感染症の診断	実習	岩永	参考書の予習 復習
27,28	歯性感染症の基本治療	実習	岩永	参考書の予習 復習
29,30	顎関節症の診断	実習	土生	参考書の予習 復習
31,32	顎関節症の基本治療	実習	土生	参考書の予習 復習
33,34	歯科心身症の診断	実習	笹栗	参考書の予習 復習
35,36	歯科心身症の基本治療	実習	笹栗	参考書の予習 復習
37,38	試問2、ディスカッション	ケースプレゼンテーション	笹栗	症例レポート
39,40	糖尿病患者の歯科治療についての理解	実習	吉賀	参考書の予習 復習
41,42	高血圧、心疾患患者の歯科治療についての理解	実習	土生	参考書の予習 復習
43,44	抗凝固療法中の患者の歯科治療についての理解	実習	岩永	参考書の予習 復習
45,46	肝・腎疾患患者の歯科治療についての理解	実習	藤井	参考書の予習 復習

2017年度

顎顔面外科学ベーシック診断学コース (Basic diagnostic strategy of Oral and Maxillofacial Surgery)

開講年次	1～3年	期区分	通年	科目	主科目（臨床）	単位数	4
授業方法	実習	時間数	120	曜日		時限	
開講学科	歯学研究科 歯学専攻						
科目責任者	富永 和宏						
担当教員	富永 和宏、笹栗 正明、上原 雅隆、土生 学、吉賀 大午、岩永 賢二郎、三次 翔、高橋 理、河野 通直、藤井 誠子 （口腔外科専門医）富永和宏、笹栗正明、上原雅隆、土生学、岩永賢二郎、吉賀大午 （口腔外科指導医）富永和宏、上原雅隆 （口腔外科認定医）高橋理、三次翔、藤井誠子、早川真奈						

回	学習内容	授業方法	担当教員	事前・事後学習 学習課題
47,48	ビスホスホネート製剤使用患者の歯科治療についての理解	実習	上原	参考書の予習 復習
49,50	医科との連携下の歯科治療の実際	実習	上原	参考書の予習 復習
51,52	試問3、ディスカッション	ケースプレゼンテーション	富永	症例レポート
53,54	医の倫理について	実習	藤井	参考書の予習 復習
55,56	POSについて	実習	藤井	参考書の予習 復習
57,58	試問5、ディスカッション	ケースプレゼンテーション	富永	症例レポート
59,60	単位認定試験	-	富永	-

2017年度

顎顔面外科学 1 (病理・病態解明) (Oral and Maxillofacial Surgery 1(Pathology and disease mechanisms))

開講年次	1～3年	期区分	通年	科目	主科目(研究)/副科目	単位数	2
授業方法	講義・演習	時間数	30	曜日		時限	
開講学科	歯学研究科 歯学専攻						
科目責任者	富永 和宏						
担当教員	富永 和宏、笹栗 正明、上原 雅隆、土生 学、吉賀 大午、岩永 賢二郎、三次 翔、高橋 理、河野 通直、藤井 誠子						

授業の概要

口腔のさまざまな疾患モデルについての基本知識を修得する。

学生の到達目標

1. 病理組織標本の作り方を修得し、実践できる。
2. 免疫組織化学染色の基本を修得し、実践できる。
3. 骨延長動物モデルの作製法を理解できる。
4. 顎関節炎モデルの作製法を理解できる。
5. 骨壊死モデルの作製法を理解できる。
6. 移植腫瘍モデルの作製法を理解できる。
7. 病態モデルの病理組織所見を判断できる。
8. 病態モデルの免疫組織化学所見を判断できる。

テキスト

出) (著)

参考書

関連分野の文献および参考書は各自必要なものを選別する。

出) (著)

成績評価方法・基準

評価項目	割合
演習結果	50%
単位認定試験	50%

その他

学生相談：随時

2017年度

顎顔面外科学 1 (病理・病態解明) (Oral and Maxillofacial Surgery 1(Pathology and disease mechanisms))

開講年次	1～3年	期区分	通年	科目	主科目(研究)/副科目	単位数	2
授業方法	講義・演習	時間数	30	曜日		時限	
開講学科	歯学研究科 歯学専攻						
科目責任者	富永 和宏						
担当教員	富永 和宏、笹栗 正明、上原 雅隆、土生 学、吉賀 大午、岩永 賢二郎、三次 翔、高橋 理、河野 通直、藤井 誠子						

授業計画

回	学習内容	授業方法	担当教員	事前・事後学習 学習課題
1	病理標本の作製法1：標本固定から包埋までのプロセスを理解し、実際に行う。	講義・演習	高橋	参考書の予習・復習
2	病理標本の作製法2：硬組織脱灰法、標本薄切法を理解し、実際に行う。	講義・演習	高橋、藤井	参考書の予習・復習
3	病理標本の作製法4：H・E染色の実際を学習する。	講義・演習	藤井	参考書の予習・復習
4	免疫組織化学染色法1：軟組織の免疫組織化学染色の実際を学習する。	講義・演習	早川	参考書の予習・復習
5	免疫組織化学染色法1：硬組織の免疫組織化学染色の実際を学習する。	講義・演習	早川、岩永	参考書の予習・復習
6	顎関節炎モデルの意義を理解し、作製法を学習する。	講義・演習	岩永	参考書の予習・復習
7	顎関節炎モデルの病理所見を学習する。	講義	土生	参考書の予習・復習
8	BRONJモデルの意義を理解し、作製法を学習する。	講義	土生、笹栗	参考書の予習・復習
9	骨粗鬆用動物におけるBRONJモデルの作製法を学習する。	講義	笹栗	参考書の予習・復習
10	BRONJモデルの病理所見を学習する。	講義	吉賀	参考書の予習・復習
11	BRONJモデルの免疫組織化学的所見を学習する	講義	吉賀、上原	参考書の予習・復習
12	BRONJの治療法開発におけるモデルの応用を学習する	講義	上原	参考書の予習・復習
13	移植腫瘍モデルの意義を理解し、作製法を学習する。	講義	三次	参考書の予習・復習
14	移植腫瘍モデルの病理所見を学習する。	講義	三次、富永	参考書の予習・復習
15	単位認定試験	-	富永	-

2017年度

顎顔面外科学 2 (薬物・遺伝子導入) (Oral and Maxillofacial Surgery 2 (Drug and gene induction))

開講年次	1～3年	期区分	通年	科目	主科目(研究)/副科目	単位数	2
授業方法	講義・演習	時間数	30	曜日		時限	
開講学科	歯学研究科 歯学専攻						
科目責任者	富永 和宏						
担当教員	富永 和宏、笹栗 正明、上原 雅隆、土生 学、吉賀 大午、岩永 賢二郎、三次 翔、高橋 理、河野 通直、藤井 誠子						

授業の概要

電気や超音波を用いた薬物・遺伝子導入法を修得する。

学生の到達目標

1. 細胞培養の基本を修得し、実践できる。
2. 菌体操作の基本を習得し、実践できる。
3. DNAの取り扱いの基本を修得し、実践できる。
4. エレクトロポレーション法(電気穿孔法)の基本を修得し、実践できる。
5. ソノポレーション法(超音波導入法)の基本を修得し、実践できる。
6. 基本的な解析方法を修得し、実践できる。

テキスト

出) (著)

参考書

必ず上手くいく遺伝子導入と発現解析プロトコール
出)羊土社 (著)

アット・ザ・ベンチ バイオ研究完全指南
出)メディカルサイエンスインターナショナル (著)

成績評価方法・基準

評価項目	割合
演習結果	50%
単位認定試験	50%

その他

学生相談：随時

2017年度

顎顔面外科学 2 (薬物・遺伝子導入) (Oral and Maxillofacial Surgery 2 (Drug and gene induction))

開講年次	1~3年	期区分	通年	科目	主科目(研究)/副科目	単位数	2
授業方法	講義・演習	時間数	30	曜日		時限	
開講学科	歯学研究科 歯学専攻						
科目責任者	富永 和宏						
担当教員	富永 和宏、笹栗 正明、上原 雅隆、土生 学、吉賀 大午、岩永 賢二郎、三次 翔、高橋 理、河野 通直、藤井 誠子						

授業計画

回	学習内容	授業方法	担当教員	事前・事後学習 学習課題
1	細胞培養1：無菌操作の基本、培養室への入り方を学習する。	講義・演習	高橋	参考書の予習・復習
2,3	細胞培養2：細胞の継代を学習する。	講義・演習	藤井	参考書の予習・復習
4	菌体操作：培養と維持を学習する。	講義・演習	三次	参考書の予習・復習
5,6	DNA取扱い：DNA抽出を学習する。	講義・演習	早川	参考書の予習・復習
7	エレクトロポレーション法を学習する。	講義・演習	土生	参考書の予習・復習
8	ソノポレーション法を学習する。	講義・演習	岩永	参考書の予習・復習
9,10	解析方法1：PCR法を学習する。	講義・演習	上原	参考書の予習・復習
11,12	解析方法2：ウェスタンブロッティング法を学習する。	講義・演習	吉賀	参考書の予習・復習
13,14	解析方法3：フローサイトメトリー法を学習する。	講義・演習	笹栗	参考書の予習・復習
15	単位認定試験	-	富永	参考書の予習・復習

2017年度

顎顔面外科学 3 (検討会) (Oral and Maxillofacial Surgery 3 (Conferences))

開講年次	1～3年	期区分	通年	科目	主科目(研究)/副科目	単位数	2
授業方法	講義・演習	時間数	30	曜日		時限	
開講学科	歯学研究科 歯学専攻						
科目責任者	富永 和宏						
担当教員	富永 和宏、笹栗 正明、上原 雅隆、土生 学、吉賀 大午、岩永 賢二郎、三次 翔、高橋 理、河野 通直、藤井 誠子						

授業の概要

口腔外科学関連の最新の研究の動向を理解するために、英語文献の抄読を行う。
口腔外科の英文の教科書の輪読を行う。
各自の研究内容に対する報告会、ディスカッションを行う。
学内の各種チームアプローチ検討会への参加(顎関節症、顎変形症、口腔腫瘍、インプラント、ドライマウスなど)。

学生の到達目標

1. 英語文献を読み込む能力を高める。
2. 研究の内容を理解できる。
3. 研究を批判する力を高める。
4. 研究の背景や動向を理解できる。
5. 学際的領域の理解を深める。

テキスト

出) (著)

参考書

関連分野の文献および参考書は各自必要なものを選別する。
出) (著)

成績評価方法・基準

評価項目	割合
発表	100%

セミナー中の発表による。
教員全員で評価し、不良な場合は再発表を行う。

その他

学生相談：随時

2017年度

顎顔面外科学 3 (検討会) (Oral and Maxillofacial Surgery 3 (Conferences))

開講年次	1～3年	期区分	通年	科目	主科目(研究)/副科目	単位数	2
授業方法	講義・演習	時間数	30	曜日		時限	
開講学科	歯学研究科 歯学専攻						
科目責任者	富永 和宏						
担当教員	富永 和宏、笹栗 正明、上原 雅隆、土生 学、吉賀 大午、岩永 賢二郎、三次 翔、高橋 理、河野 通直、藤井 誠子						

授業計画

回	学習内容	授業方法	担当教員	事前・事後学習 学習課題
1～15	研究の背景と最新の文献の内容、および関連分野の研究の今後の展望を理解する	輪読、抄読、文献紹介および 討論	富永、笹栗、上原、土生、岩永、吉賀、高橋、三次、藤井、早川	文献詳読および関連分野の調査

2017年度

口腔内科学ベーシックコース (Oral Medicine (Basic Course))

開講年次	1～3年	期区分	通年	科目	主科目(臨床)/副科目	単位数	2
授業方法	講義・演習	時間数	30	曜日		時限	
開講学科	歯学研究科 歯学専攻						
科目責任者	吉岡 泉						
担当教員	吉岡 泉、宮本 郁也、國領 真也 (日本口腔外科学会専門医) 吉岡泉、宮本郁也、國領真也 (日本口腔外科学会指導医) 吉岡泉、宮本郁也						

授業の概要

口腔内科学(Oral medicine)は 歯科患者の口腔だけに視点を向けず、全身的背景を考慮した口腔疾患の診断と治療を目的とし、内科的なアプローチを主体として口腔の医療にあたる学問である。口腔内科の基本的な考え方について学ぶ。

学生の到達目標

1. 全身疾患を考えながら口腔疾患の診断と治療を進めることができる。
2. 全身疾患を持った患者の口腔疾患の治療を行うに際して、全身疾患を把握し、口腔疾患の治療が全身に及ぼす影響と全身疾患が口腔疾患の治療に与える影響について理解を深める。
3. 他科の医師をはじめとした関連する職種の人達との医療連携、チーム医療を理解できる。

テキスト

プリント配布
出)

著)

参考書

口腔外科学
出)医歯薬出版

著)白砂兼光、古郷幹彦編

成績評価方法・基準

評価項目	割合
レポート	60%
演習課題	40%

講義の事後レポート(第1～15回分)1回×4点、演習課題の提出(第1～10回、10回分)1回×4点で評価する。

その他

学生相談：月～金：17:00～

2017年度

口腔内科学ベーシックコース (Oral Medicine (Basic Course))

開講年次	1～3年	期区分	通年	科目	主科目(臨床)/副科目	単位数	2
授業方法	講義・演習	時間数	30	曜日		時限	
開講学科	歯学研究科 歯学専攻						
科目責任者	吉岡 泉						
担当教員	吉岡 泉、宮本 郁也、國領 真也 (日本口腔外科学会専門医) 吉岡泉、宮本郁也、國領真也 (日本口腔外科学会指導医) 吉岡泉、宮本郁也						

授業計画

回	学習内容	授業方法	担当教員	事前・事後学習 学習課題
1	口腔内科学総論・口腔内科診断学 内科学的なアプローチによる口腔疾患の診断や治療法を学習し、口腔疾患と全身疾患の関連性を学習する。	講義・演習	吉岡	文献、参考書予習
2	口腔粘膜疾患の診断と治療 口腔粘膜の構造と免疫学的特徴、口腔粘膜疾患の症候、診断法、治療法の概要を学習する。	講義・演習	吉岡	講義・演習の復習と次回講義部分の予習
3	顎関節症の診断と治療 顎関節の機能と構造、顎関節症の分類、鑑別診断について学習する。	講義・演習	吉岡	講義・演習の復習と次回講義部分の予習
4	ドライマウスの診断と治療 ドライマウスの分類、症状、鑑別疾患、治療法について学習する	講義・演習	吉岡	講義・演習の復習と次回講義部分の予習
5	口腔心身症の診断と治療 口腔心身症の分類、症状、鑑別疾患、治療法について学習する。	講義・演習	吉岡	講義・演習の復習と次回講義部分の予習
6	口腔顎顔面痛・味覚障害の診療 口腔顎顔面痛・味覚障害を訴える患者の診断方法、治療方法について学習する。	講義・演習	宮本	講義・演習の復習と次回講義部分の予習
7	抗菌薬の使い方 抗菌薬の分類、特徴、使い方について学習する。	講義・演習	宮本	講義・演習の復習と次回講義部分の予習
8	顎関節洗浄の実際 顎関節洗浄療法について学習する。	講義・演習	宮本	講義・演習の復習と次回講義部分の予習
9	がん治療における周術期口腔管理 がん治療における周術期口腔管理の意義と実際の手技について学習する。	講義・演習	宮本	講義・演習の復習と次回講義部分の予習
10	口腔癌の非手術的治療法 口腔癌の化学療法、免疫療法などの非手術的治療法について学習する。	講義・演習	宮本	講義・演習の復習と次回講義部分の予習
11	循環器・呼吸器疾患患者の口腔治療 循環器・呼吸器疾患患者の口腔疾患を治療する際の注意点について学習する。	講義	國領	講義・演習の復習と次回講義部分の予習
12	代謝内分泌・婦人科疾患患者の口腔治療 代謝内分泌・婦人科疾患患者の口腔疾患を治療する際の注意点について学習する。	講義	國領	講義・演習の復習と次回講義部分の予習
13	消化器・泌尿器疾患患者の口腔治療 消化器・泌尿器疾患患者の口腔疾患を治療する際の注意点について学習する。	講義	國領	講義・演習の復習と次回講義部分の予習
14	血液・自己免疫疾患患者の口腔治療 血液・自己免疫疾患患者の口腔疾患を治療する際の注意点について学習する	講義	國領	講義・演習の復習と次回講義部分の予習
15	医療連携・まとめ チーム医療を行うのに必要な病診連携、病病連携、医科歯科連携、多職種連携、コンサルテーションについて学習する。	講義	國領	講義・演習の復習

2017年度

口腔内科学アドバンスコース (Oral Medicine (Advanced Course))

開講年次	1～3年	期区分	通年	科目	主科目(臨床)/副科目	単位数	4
授業方法	実習	時間数	120	曜日		時限	
開講学科	歯学研究科 歯学専攻						
科目責任者	吉岡 泉						
担当教員	吉岡 泉、宮本 郁也、國領 真也、坂口 修、鶴島 弘基、大澤 賢次、田中 純平 (日本口腔外科学会専門医) 吉岡泉、宮本郁也、國領真也 (日本口腔外科学会指導医) 吉岡泉、宮本郁也 (日本口腔外科学会認定医) 坂口修、鶴島弘基、大澤賢次、田中純平						

授業の概要

口腔内科的疾患の検査法および治療法を、実習を通して学ぶ。

学生の到達目標

全身疾患を考えながら口腔疾患の診断と治療を進めることができる。

テキスト

プリント配布
出)

著)

参考書

口腔外科学
出)医歯薬出版

著)白砂兼光、古郷幹彦編

成績評価方法・基準

評価項目	割合
ケースプレゼンテーション	60%
レポート	40%

その他

学生相談：月～金：17:00～

2017年度

口腔内科学アドバンスコース (Oral Medicine (Advanced Course))

開講年次	1～3年	期区分	通年	科目	主科目（臨床）/副科目	単位数	4
授業方法	実習	時間数	120	曜日		時限	
開講学科	歯学研究科 歯学専攻						
科目責任者	吉岡 泉						
担当教員	吉岡 泉、宮本 郁也、國領 真也、坂口 修、鶴島 弘基、大澤 賢次、田中 純平 (日本口腔外科学会専門医) 吉岡泉、宮本郁也、國領真也 (日本口腔外科学会指導医) 吉岡泉、宮本郁也 (日本口腔外科学会認定医) 坂口修、鶴島弘基、大澤賢次、田中純平						

授業計画

回	学習内容	授業方法	担当教員	事前・事後学習 学習課題
1,2	口腔粘膜疾患診断のための情報収集 医療面接について学習する。	実習	田中	医療面接
3,4	口腔粘膜疾患診断のための情報収集 血液検査、細胞診、生検など検査方法について学習する。	実習	田中	血液検査、細胞診、生検
5,6	口腔粘膜疾患診断のための仮説の設定・評価・検証・診断 診断の思考プロセスについて学習する。	実習	田中	診断方法
7,8	口腔粘膜疾患の治療 治療法について学習する。	実習	田中	口腔粘膜疾患の治療法
9,10	顎関節疾患診断のための情報収集 医療面接について学習する。	実習	田中	医療面接
11,12	顎関節疾患診断のための情報収集 画像検査など検査方法について学習する。	実習	坂口	顎関節の画像検査
13,14	顎関節疾患診断のための仮説の設定・評価・検証・診断 診断の思考プロセスについて学習する。	実習	坂口	顎関節疾患診断
15,16	顎関節症の治療 1 運動療法、理学療法について学習する。	実習	坂口	運動療法、理学療法
17,18	顎関節症の治療 2 スプリント療法について学習する。	実習	坂口	スプリント療法
19,20	顎関節症の治療 3 マニピュレーションについて学習する。	実習	坂口	マニピュレーション
21,22	顎関節症の治療 4 上関節腔洗浄療法について学習する。	実習	国領	上関節腔洗浄療法
23,24	顎関節症の治療 5 手術について学習する。	実習	国領	顎関節の手術
25,26	顎関節脱臼の治療 1 保存的治療について学習する。	実習	国領	顎関節脱臼
27,28	顎関節脱臼の治療 2 手術療法について学習する。	実習	国領	顎関節脱臼
29,30	顎関節腫瘍の治療 手術について学習する。	実習	国領	顎関節腫瘍
31,32	ドライマウス診断のための情報収集 医療面接について学習する。	実習	鶴島	医療面接
33,34	ドライマウス診断のための情報収集 血液検査、生検、画像検査など検査方法について学習する。	実習	鶴島	血液検査、生検、画像検査
35,36	ドライマウス診断のための仮説の設定・評価・検証・診断 診断の思考プロセスについて学習する。	実習	鶴島	ドライマウス診断
37,38	ドライマウスの治療 治療法について学習する。	実習	鶴島	ドライマウス治療
39,40	口腔心身症診断のための情報収集 医療面接について学習する。	実習	鶴島	医療面接

2017年度

口腔内科学アドバンスコース (Oral Medicine (Advanced Course))

開講年次	1～3年	期区分	通年	科目	主科目（臨床）/副科目	単位数	4
授業方法	実習	時間数	120	曜日		時限	
開講学科	歯学研究科 歯学専攻						
科目責任者	吉岡 泉						
担当教員	吉岡 泉、宮本 郁也、國領 真也、坂口 修、鶴島 弘基、大澤 賢次、田中 純平 (日本口腔外科学会専門医) 吉岡泉、宮本郁也、國領真也 (日本口腔外科学会指導医) 吉岡泉、宮本郁也 (日本口腔外科学会認定医) 坂口修、鶴島弘基、大澤賢次、田中純平						

回	学習内容	授業方法	担当教員	事前・事後学習 学習課題
41,42	口腔心身症診断のための情報収集 心理検査など検査方法について学習する。	実習	大澤	心理検査
43,44	口腔心身症診断のための仮説の設定・評価・検証・診断 診断の思考プロセスについて学習する。	実習	大澤	口腔心身症診断
45,46	口腔心身症の治療 治療法について学習する。	実習	大澤	口腔心身症の治療
47,48	口腔顎顔面痛診断のための情報収集 医療面接について学習する。	実習	大澤	医療面接
49,50	口腔顎顔面痛診断のための情報収集 血液検査など検査方法について学習する。	実習	大澤	血液検査
51,52	口腔顎顔面痛診断のための仮説の設定・評価・検証・診断 診断の思考プロセスについて学習する。	実習	宮本	口腔顎顔面痛 の診断
53,54	口腔顎顔面痛の治療 治療法について学習する。	実習	宮本	口腔顎顔面痛 の治療
55,56	がん化学療法の全身管理 がん化学療法の全身管理について学習する	実習	宮本	がん化学療法
57,58	がん放射線治療の周術期管理 がん放射線治療の周術期管理について学習する	実習	宮本	がん放射線治療
59,60	がん分子標的薬治療の周術期管理 がん分子標的薬治療の周術期管理について学習する	実習	宮本	がん分子標的 薬治療

2017年度

口腔内科学アドバンスコース (Oral Medicine (Advanced Course))

開講年次	1～3年	期区分	通年	科目	主科目（臨床）/副科目	単位数	2
授業方法	実習	時間数	60	曜日		時限	
開講学科	歯学研究科 歯学専攻						
科目責任者	吉岡 泉						
担当教員	吉岡 泉、鶴島 弘基、大澤 賢次 (日本口腔外科学会指導医) 吉岡泉 (日本口腔外科学会専門医) 吉岡泉 (日本口腔外科学会認定医) 鶴島弘基、大澤賢次						

授業の概要

全身疾患を持った患者の口腔治療を、実習を通して学ぶ。

学生の到達目標

全身疾患を持った患者の口腔疾患の治療を行うに際して、全身疾患を把握し、口腔疾患の治療が全身に及ぼす影響と全身疾患が口腔疾患の治療に与える影響について理解できる。

テキスト

プリント配布
出)

著)

参考書

口腔外科学
出)医歯薬出版

著)白砂兼光、古郷幹彦編

成績評価方法・基準

評価項目	割合
ケースプレゼンテーション	60%
レポート	40%

その他

学生相談：月～金：17:00～

2017年度

口腔内科学アドバンスコース (Oral Medicine (Advanced Course))

開講年次	1～3年	期区分	通年	科目	主科目（臨床）/副科目	単位数	2
授業方法	実習	時間数	60	曜日		時限	
開講学科	歯学研究科 歯学専攻						
科目責任者	吉岡 泉						
担当教員	吉岡 泉、鶴島 弘基、大澤 賢次 (日本口腔外科学会指導医) 吉岡泉 (日本口腔外科学会専門医) 吉岡泉 (日本口腔外科学会認定医) 鶴島弘基、大澤賢次						

授業計画

回	学習内容	授業方法	担当教員	事前・事後学習 学習課題
1,2	高血圧症 高血圧症患者の口腔治療について学習する。	実習	吉岡	高血圧症
3,4	心疾患 心疾患患者の口腔治療について学習する。	実習	吉岡	心疾患
5,6	呼吸器疾患 呼吸器疾患患者の口腔治療について学習する。	実習	吉岡	呼吸器疾患
7,8	糖尿病 糖尿病患者の口腔治療について学習する。	実習	吉岡	糖尿病
9,10	婦人科疾患・妊婦 婦人科疾患患者・妊婦の口腔治療について学習する。	実習	吉岡	婦人科疾患 ・妊婦
11,12	血液疾患 血液疾患患者の口腔治療について学習する。	実習	鶴島	血液疾患
13,14	自己免疫疾患 自己免疫疾患患者の口腔治療について学習する。	実習	鶴島	自己免疫疾患
15,16	肝疾患 肝疾患患者の口腔治療について学習する。	実習	鶴島	肝疾患
17,18	腎疾患 腎疾患患者の口腔治療について学習する。	実習	鶴島	腎疾患
19,20	整形外科疾患 整形外科患者の口腔治療について学習する。	実習	鶴島	整形外科
21,22	精神疾患 精神疾患患者の口腔治療について学習する。	実習	大澤	精神疾患
23,24	脳神経外科疾患 脳神経外科患者の口腔治療について学習する。	実習	大澤	脳神経外科疾患
25,26	耳鼻咽喉科疾患 耳鼻咽喉科疾患患者の口腔治療について学習する。	実習	大澤	耳鼻咽喉科疾患
27,28	感染症 感染症患者の口腔治療について学習する。	実習	大澤	感染症
29,30	皮膚科疾患 眼科患者の口腔治療について学習する。	実習	大澤	皮膚科疾患

2017年度

口腔内科学アドバンスコース (Oral Medicine (Advanced Course))

開講年次	1～3年	期区分	通年	科目	主科目（臨床）/副科目	単位数	2
授業方法	実習	時間数	60	曜日		時限	
開講学科	歯学研究科 歯学専攻						
科目責任者	大澤 賢次						
担当教員	大澤 賢次、田中 純平、坂口 修 (日本口腔外科学会認定医)大澤賢次、坂口修 (日本口腔外科学会専門医)田中純平						

授業の概要

医療連携を、実習を通して学ぶ。

学生の到達目標

他科の医師をはじめとした関連する職種の人達との医療連携、チーム医療を理解できる。

テキスト

プリント配布
出)

著)

参考書

口腔外科学
出)医歯薬出版

著)白砂兼光、古郷幹彦編

成績評価方法・基準

評価項目	割合
ケースプレゼンテーション	60%
レポート	40%

その他

学生相談：月～金：17:00～

2017年度

口腔内科学アドバンスコース (Oral Medicine (Advanced Course))

開講年次	1～3年	期区分	通年	科目	主科目（臨床）/副科目	単位数	2
授業方法	実習	時間数	60	曜日		時限	
開講学科	歯学研究科 歯学専攻						
科目責任者	大澤 賢次						
担当教員	大澤 賢次、田中 純平、坂口 修 (日本口腔外科学会認定医)大澤賢次、坂口修 (日本口腔外科学会専門医)田中純平						

授業計画

回	学習内容	授業方法	担当教員	事前・事後学習 学習課題
1,2	病診連携 病診連携について学習する。	実習	大澤	病診連携
3,4	病診連携 病診連携について学習する。	実習	大澤	病診連携
5,6	コンサルテーション コンサルテーションについて学習する。	実習	大澤	コンサルテーション
7,8	医科歯科連携 医科歯科連携について学習する。	実習	大澤	医科歯科連携
9,10	多職種連携 医師との連携について学習する。	実習	大澤	多職種連携
11,12	多職種連携 看護師との連携について学習する。	実習	田中	多職種連携
13,14	多職種連携 栄養士との連携について学習する。	実習	田中	多職種連携
15,16	多職種連携 歯科衛生士との連携について学習する。	実習	田中	多職種連携
17,18	多職種連携 メディカルソーシャルワーカーとの連携について学習する。	実習	田中	多職種連携
19,20	多職種連携 介護士との連携について学習する。	実習	田中	多職種連携
21,22	多職種連携 医療事務との連携について学習する。	実習	坂口	多職種連携
23,24	がん周術期口腔管理 1 がん化学療法患者の口腔管理について学習する。	実習	坂口	がん周術期口腔管理
25,26	がん周術期口腔管理 2 放射線治療患者の口腔管理について学習する。	実習	坂口	がん周術期口腔管理
27,28	ビスフォスフォネート製剤使用患者の口腔管理 ビスフォスフォネート製剤使用患者の口腔管理について学習する。	実習	坂口	ビスフォスフォネート製剤
29,30	ビスフォスフォネート製剤関連顎骨壊死の治療 ビスフォスフォネート製剤関連顎骨壊死治療について学習する。	実習	坂口	ビスフォスフォネート製剤 関連顎骨壊死

2017年度

口腔内科学 (顎変形症) (Oral Medicine (Jaw Deformity))

開講年次	1～3年	期区分	通年	科目	主科目(研究)/副科目	単位数	2
授業方法	講義・演習	時間数	30	曜日		時限	
開講学科	歯学研究科 歯学専攻						
科目責任者	吉岡 泉						
担当教員	吉岡 泉、坂口 修、鶴島 弘基 (日本口腔外科学会指導医) 吉岡泉 (日本口腔外科学会専門医) 吉岡泉 (日本口腔外科学会認定医) 坂口修、鶴島弘基						

授業の概要

顎変形症研究の知識と技能を習得する。

学生の到達目標

- 顎変形症の形態の分析・評価方法を理解できる。
- 顎変形症の機能の分析・評価方法を理解できる。

テキスト

プリント配布
出)

著)

参考書

口腔外科学

出)医歯薬出版

著)白砂兼光、古郷幹彦編

成績評価方法・基準

評価項目	割合
レポート	60%
演習課題	40%

講義の事後レポート(第1～15回分)1回×4点、演習課題の提出(第1～10回、10回分)1回×4点で評価する。

その他

学生相談：月～金：17:00～

2017年度

口腔内科学 (顎変形症) (Oral Medicine (Jaw Deformity))

開講年次	1～3年	期区分	通年	科目	主科目(研究)/副科目	単位数	2
授業方法	講義・演習	時間数	30	曜日		時限	
開講学科	歯学研究科 歯学専攻						
科目責任者	吉岡 泉						
担当教員	吉岡 泉、坂口 修、鶴島 弘基 (日本口腔外科学会指導医)吉岡泉 (日本口腔外科学会専門医)吉岡泉 (日本口腔外科学会認定医)坂口修、鶴島弘基						

授業計画

回	学習内容	授業方法	担当教員	事前・事後学習 学習課題
1	顎変形症研究の動向 顎変形症研究の動向について学習する。	講義・演習	吉岡	顎変形症研究の動向
2	顎変形症の検査 顎変形症の検査について学習する。	講義・演習	吉岡	顎変形症の検査
3	顎変形症の分析 顎変形症の分析について学習する。	講義・演習	吉岡	顎変形症の分析
4	顎変形症の術前評価 顎変形症の術前評価について学習する。	講義・演習	吉岡	顎変形症の術前評価
5	顎変形症の術前情報の統合 顎変形症の術前情報の統合について学習する	講義・演習	吉岡	顎変形症の術前情報の統合
6	顎変形症の医療連携 顎変形症の医療連携について学習する。	講義・演習	坂口	顎変形症の医療連携
7	顎変形症の手術 顎変形症の手術について学習する。	講義・演習	坂口	顎変形症の手術
8	顎変形症の術後評価 顎変形症の術後評価について学習する。	講義・演習	坂口	顎変形症の術後評価
9	顎変形症の咀嚼機能 顎変形症の咀嚼機能について学習する。	講義・演習	坂口	顎変形症の咀嚼機能
10	顎変形症患者の心理的評価 顎変形症患者の心理的評価について学習する。	講義・演習	坂口	顎変形症患者の心理的評価
11	顎変形症と呼吸機能 顎変形症と呼吸機能について学習する。	講義・演習	鶴島	顎変形症と呼吸機能
12	顎変形症と構音機能 顎変形症と構音機能について学習する。	講義・演習	鶴島	顎変形症と構音機能
13	顎変形症と消化機能 顎変形症と消化機能について学習する。	講義・演習	鶴島	顎変形症と消化機能
14	顎変形症の3次元的评价 顎変形症の3次元的评价について学習する。	講義・演習	鶴島	顎変形症の3次元的评价
15	顎変形症の遺伝学的特徴 顎変形症の遺伝学的特徴について学習する。	講義・演習	鶴島	顎変形症の遺伝学的特徴

2017年度

口腔内科学 (Oral Medicine)

開講年次	1～3年	期区分	通年	科目	主科目(研究)/副科目	単位数	2
授業方法	講義・演習	時間数	30	曜日		時限	
開講学科	歯学研究科 歯学専攻						
科目責任者	宮本 郁也						
担当教員	宮本 郁也、國領 真也、田中 純平 (日本口腔外科学会指導医)宮本郁也 (日本口腔外科学会専門医)宮本郁也、國領真也 (日本口腔外科学会認定医)田中純平						

授業の概要

口腔内科研究の知識と技能を習得する。

学生の到達目標

1. 骨造成研究の知識と技能を理解できる。
2. 口腔粘膜疾患研究の知識と技能を理解できる。
3. 顎関節疾患研究の知識と技能を理解できる。

テキスト

プリント配布
出)

著)

参考書

口腔外科学
出)医歯薬出版

著)白砂兼光、古郷幹彦編

成績評価方法・基準

評価項目	割合
レポート	60%
演習課題	40%

講義の事後レポート(第1～15回分)1回×4点、演習課題の提出(第1～10回、10回分)1回×4点で評価する。

その他

学生相談：月～金：17:00～

2017年度

口腔内科学 (Oral Medicine)

開講年次	1～3年	期区分	通年	科目	主科目(研究) / 副科目	単位数	2
授業方法	講義・演習	時間数	30	曜日		時限	
開講学科	歯学研究科 歯学専攻						
科目責任者	宮本 郁也						
担当教員	宮本 郁也、國領 真也、田中 純平 (日本口腔外科学会指導医) 宮本郁也 (日本口腔外科学会専門医) 宮本郁也、國領真也 (日本口腔外科学会認定医) 田中純平						

授業計画

回	学習内容	授業方法	担当教員	事前・事後学習 学習課題
1	骨造成研究の動向 骨造成研究の動向について学習する。	講義・演習	宮本	骨造成研究の動向
2	顎骨延長モデル動物 顎骨延長モデル動物について学習する。	講義・演習	宮本	顎骨延長モデル動物
3	サイナスリフトモデル動物 サイナスリフトモデル動物について学習する。	講義・演習	宮本	サイナスリフトモデル動物
4	移植モデル動物 移植モデル動物について学習する。	講義・演習	宮本	移植モデル動物
5	硬組織標本の作製方法 硬組織標本の作製方法について学習する。	講義・演習	宮本	硬組織標本の作製方法
6	口腔粘膜疾患研究の動向 口腔粘膜疾患研究の動向について学習する。	講義・演習	國領	口腔粘膜疾患研究の動向
7	口腔粘膜疾患試料採取方法 口腔粘膜疾患試料採取方法について学習する。	講義・演習	國領	口腔粘膜疾患試料採取方法
8	口腔粘膜疾患の免疫機構 口腔粘膜疾患の免疫機構について学習する。	講義・演習	國領	口腔粘膜疾患の免疫機構
9	口腔乾燥症モデル動物 口腔乾燥症モデル動物の作成方法	講義・演習	國領	口腔乾燥症モデル動物
10	金属アレルギーモデル動物 金属アレルギーモデル動物の作成方法について学習する。	講義・演習	國領	金属アレルギーモデル動物
11	顎関節症研究の動向 顎関節症研究の動向について学習する。	講義・演習	田中	顎関節症研究の動向
12	顎関節炎モデル動物 顎関節炎モデル動物について学習する。	講義・演習	田中	顎関節炎モデル動物
13	顎関節滑液採取方法 顎関節滑液採取方法について学習する。	講義・演習	田中	顎関節滑液採取
14	顎関節滑液分析方法 顎関節滑液採取方法について学習する。	講義・演習	田中	顎関節滑液分析方法
15	顎関節疼痛閾値の計測方法 顎関節疼痛閾値の計測方法について学習する。	講義・演習	田中	顎関節疼痛閾値の計測方法

2017年度

口腔内科学 (Oral Medicine)

開講年次	1～4年	期区分	通年	科目	主科目(研究)/副科目	単位数	2
授業方法	講義・演習	時間数	30	曜日		時限	
開講学科	歯学研究科 歯学専攻						
科目責任者	吉岡 泉						
担当教員	吉岡 泉、宮本 郁也、國領 真也、鶴島 弘基、坂口 修、大澤 賢次、田中 純平 (日本口腔外科学会指導医) 吉岡泉、宮本郁也 (日本口腔外科学会専門医) 吉岡泉、宮本郁也、國領真也 (日本口腔外科学会認定医) 坂口修、鶴島弘基、大澤賢次、田中純平						

授業の概要

口腔内科的疾患、全身疾患と口腔との関連性についての重要な最近の研究の動向を理解するために文献を抄読する。

学生の到達目標

1. 英語文献の内容を理解できる。
2. 研究を客観的に批評できる。
3. 研究の背景を理解できる。
4. 研究をプレゼンテーションできる。

テキスト

出) (著)

参考書

各自が論文を選別し、各自がプレゼンテーションに必要なものを用意する。
出) (著)

成績評価方法・基準

評価項目	割合
論文の選択基準	60%
プレゼンテーション能力	40%

その他

学生相談：月～金：17:00～

2017年度

口腔内科学 (Oral Medicine)

開講年次	1～4年	期区分	通年	科目	主科目(研究)/副科目	単位数	2
授業方法	講義・演習	時間数	30	曜日		時限	
開講学科	歯学研究科 歯学専攻						
科目責任者	吉岡 泉						
担当教員	吉岡 泉、宮本 郁也、國領 真也、鶴島 弘基、坂口 修、大澤 賢次、田中 純平 (日本口腔外科学会指導医) 吉岡泉、宮本郁也 (日本口腔外科学会専門医) 吉岡泉、宮本郁也、國領真也 (日本口腔外科学会認定医) 坂口修、鶴島弘基、大澤賢次、田中純平						

授業計画

回	学習内容	授業方法	担当教員	事前・事後学習 学習課題
1～15	口腔内科学領域で重要な最新の研究の内容および動向を理解し、説明する。	論文紹介および討論	吉岡、宮本、國領、坂口、鶴島、大澤、田中	論文の理解

2017年度

歯科麻酔学（障害者歯科コース）（Dentistry for disabled persons）

開講年次	1～3年次	期区分	通年	科目	主科目（臨床）/副科目	単位数	4
授業方法	講義・実習	時間数	120	曜日		時限	
開講学科	歯学研究科 歯学専攻						
科目責任者	原野 望						
担当教員	原野 望、椎葉 俊司、左合 徹平、渡邊 誠之						
	（日本歯科麻酔学会認定医・専門医）原野、椎葉、左合						
	（日本障害者歯科学会認定医）原野、椎葉、左合						
	（日本口腔顔面痛学会専門医）原野、椎葉 （日本口腔顔面痛学会指導医）椎葉 （日本麻酔科学会専門医・指導医）渡邊 （日本歯科麻酔学会認定医・指導医）渡邊 （集中治療医学会専門医）渡邊 （心臓血管麻酔専門医）渡邊						

授業の概要

社会と経済の発展によって医療と福祉が高度になるとともに、障害者の保健医療とその需要が増大したことから、歯科医療の拡大、分化と成熟が必要となってきた。そのような中で本セミナーでは、精神や身体の障害について、また障害者にみられる歯科疾患の特質、原因と症状について研究し、あわせて診断、予防と治療法の研究と開発を行い、それを歯科診療に具体化させていく事を目的とする。

学生の到達目標

1. 障害者の社会的問題と制度・法律について理解できる。
2. 障害の種類と歯科的特徴を理解できる。
3. 障害者の歯科診療とその行動調整を理解できる。
4. 障害者の全身管理を理解できる。
5. 安全な笑気吸入鎮静法を習得し、実践できる。
6. 障害者医療における歯科医師の役割を理解できる。

テキスト

スペシャルニーズデンティストリー障害者歯科
 出）医歯薬出版 著）

参考書

障害者歯科学会雑誌
 出） 著）
 小児歯科学会雑誌
 出） 著）

成績評価方法・基準

評価項目	割合
講義・演習中の諮問に対する回答	50%
報告会の内容	50%

その他

2017年度

歯科麻酔学（障害者歯科コース）（Dentistry for disabled persons）

開講年次	1～3年次	期区分	通年	科目	主科目（臨床）/副科目	単位数	4
授業方法	講義・実習	時間数	120	曜日		時限	
開講学科	歯学研究科 歯学専攻						
科目責任者	原野 望						
担当教員	原野 望、椎葉 俊司、左合 徹平、渡邊 誠之 （日本歯科麻酔学会認定医・専門医）原野、椎葉、左合 （日本障害者歯科学会認定医）原野、椎葉、左合 （日本口腔顔面痛学会専門医）原野、椎葉 （日本口腔顔面痛学会指導医）椎葉 （日本麻酔科学会専門医・指導医）渡邊 （日本歯科麻酔学会認定医・指導医）渡邊 （集中治療医学会専門医）渡邊 （心臓血管麻酔専門医）渡邊						

授業計画

回	学習内容	授業方法	担当教員	事前・事後学習 学習課題
1～4	障害者と社会背景 障害者のQOLと心理的、社会的問題について学ぶ。	講義、論文抄読	参考書の 予習復習	原野 渡邊
5～8	障害者と社会背景 障害者のスペシャルニーズと社会保障を学ぶ。	講義、論文抄読	参考書の 予習復習	原野
9～12	障害の種類と歯科的特徴 精神発達・心理的発達と行動の障害について学ぶ。	講義、論文抄読	参考書の 予習復習	原野
13～16	障害の種類と歯科的特徴 神経・運動障害について学ぶ。	講義、論文抄読	参考書の 予習復習	原野
17～20	障害の種類と歯科的特徴 感覚障害、音声言語障害について学ぶ。	講義、論文抄読	参考書の 予習復習	原野
21～24	障害の種類と歯科的特徴 摂食・嚥下障害について学ぶ。	講義、論文抄読	参考書の 予習復習	原野
25～28	障害の種類と歯科的特徴 精神および行動の障害について学ぶ。	講義、論文抄読	参考書の 予習復習	原野
29～32	障害の種類と歯科的特徴 歯科治療時に配慮すべき疾患・症候群について学ぶ。	講義、論文抄読	参考書の 予習復習	原野
33～36	障害の種類と歯科的特徴 要介護高齢者について学ぶ。	講義、論文抄読	参考書の 予習復習	原野
37～40	障害者の歯科診療と行動調整 障害者の行動調整について学ぶ。	講義、論文抄読	参考書の 予習復習	原野
41～44	障害者の歯科診療と行動調整 障害者の健康支援と歯科治療について学ぶ。	講義、論文抄読	参考書の 予習復習	原野
45～48	笑気吸入鎮静法 障害者に対する吸入鎮静法について学ぶ。	実習	参考書の 予習復習	原野 椎葉
49～52	静脈内鎮静法 障害者に対する静脈内鎮静法について学ぶ。	実習	参考書の 予習復習	椎葉 左合
53～56	歯科医療者の役割 障害者のリスク評価と安全管理について学ぶ。	実習	参考書の 予習復習	原野 左合
57～60	報告会 実際の症例に関して治療計画を立て、発表する。	プレゼンテーション	参考書の 予習復習	原野 左合 椎葉 茂山

2017年度

歯科麻酔学（疼痛管理）（Dental Anesthesiology Pain management）

開講年次	2～4年次	期区分	通年	科目	主科目（研究）	単位数	2
授業方法	講義	時間数	30	曜日		時限	
開講学科	歯学研究科 歯学専攻						
科目責任者	左合 徹平						
担当教員	左合 徹平、椎葉 俊司、原野 望、渡邊 誠之						

授業の概要

歯科における治療行為は生体にとって侵害刺激である。この刺激が何らかの理由により痛覚過敏症や触覚過敏を起こすことがある。また、歯科治療後に顔面部の麻痺や三叉神経痛、顎関節症などの併発を起こすこともある。また、歯性疼痛が原因でうつ症状を来すこともある。これらの疾患患者では通常の歯科的対応では治療困難なことが多い。そこで、これら歯科の顎・顔面部の神経疾患（急性・慢性疼痛や麻痺）の原因、機構、対応を学ぶ。

学生の到達目標

1. 患者 - 歯科医師間の良好な関係を作れる情報収集の技法を理解できる。
2. 良好な病診連携ができる。
3. 顎顔面部の疼痛の種類を説明できる。
4. 顎顔面部の疼痛の発生機序を説明できる。
5. 顎顔面部の疼痛の制御機構を説明・実施できる。
6. 顎顔面部の麻痺の種類、発生機序、対応法を説明できる。
7. 救急処置の基本を身につける。

テキスト

出) (著)

参考書

最新の論文を与え、その要約を発表する。Anesthesiology、Anesthesia & Analgesia、British Journal of Anaesthesia、Painなど。

出) (著)

成績評価方法・基準

評価項目	割合
抄読会の発表	100%

その他

2017年度

歯科麻酔学（疼痛管理）（Dental Anesthesiology Pain management）

開講年次	2～4年次	期区分	通年	科目	主科目（研究）	単位数	2
授業方法	講義	時間数	30	曜日		時限	
開講学科	歯学研究科 歯学専攻						
科目責任者	左合 徹平						
担当教員	左合 徹平、椎葉 俊司、原野 望、渡邊 誠之						

授業計画

回	学習内容	授業方法	担当教員	事前・事後学習 学習課題
1	医療危機管理の概要 （リスクマネジメント） 緊急時の対応法について学習する。	講義	左合・渡邊	一次救命処置、 静脈路確保、気 管内挿管
2	インフォームドコンセントの定義 インフォームドコンセントのために必要な説明の手法および書類について学習する。	講義	左合・渡邊	事例収集
3	医療事故・医療過誤 医療事故・医療過誤について理解する。	講義	左合・渡邊	事例収集
4	インシデント・アクシデントの対応 定義と報告書の作製について学習する。	講義	左合・渡邊	事例収集
5	痛みの病態 国際疼痛学会の痛みの定義について学習する。	講義	椎葉・左合	不快な感覚と情 動体験の関係、 慢性痛と急性痛
6	顎顔面部痛の発症と分類 侵害受容性疼痛、神経障害性疼痛、心因性疼痛について学習する。	講義	椎葉・左合	口腔顔面部痛の分 類
7	顎顔面部痛の診断法 診断に必要な検査法について学習する。	講義	椎葉・左合	触診、電流刺激 閾値検査
8	疼痛性疾患 体性痛の分類と関連発症機序について学習する。	講義	椎葉・左合	深部痛、異所性 疼痛
9	疼痛性疾患 神経因性疼痛・心因性疼痛の発症機序と治療法について学習する。	講義	椎葉・左合	アロディニア、 痛覚過敏症、デ イセステジア
10	疼痛性疾患 癌性疼痛治療の5原則について学習する。	講義	布巻・左合	ステップラダー 、麻薬性鎮痛薬 の使用法
11	麻痺性疾患 顔面神経麻痺の発症機序と治療法について学習する。	講義	布巻・左合	神経障害程度の 評価、誘発筋電 図、星状神経節 ブロック
12	麻痺性疾患 三叉神経麻痺の発症機序と治療法について学習する。	講義	椎葉・布巻 ・原野	神経障害程度の 分類、神経損傷 と治癒機転、星 状神経節ブロッ ク
13	顔面筋の不随意運動 顔面痙攣・眼瞼痙攣の発症機序と治療法について学習する。	講義	椎葉・布巻	ボトックス、神 経血管減圧術
14	顔面筋の不随意運動 口腔ジストニアの発症機序と治療法について学習する。	講義	椎葉・布巻	アルコールブロ ック、ボトック ス
15	薬物療法 顔面痛治療に使用される薬物と作用機序について学習する。	講義	椎葉・左合	抗うつ薬、プレ ガバリン、抗て んかん薬、麻薬

2017年度

歯科麻酔学（疼痛管理）（Dental Anesthesiology Pain management）

開講年次	2～4年次	期区分	通年	科目	主科目（研究）	単位数	2
授業方法	演習	時間数	30	曜日		時限	
開講学科	歯学研究科 歯学専攻						
科目責任者	椎葉 俊司						
担当教員	椎葉 俊司、原野 望、左合 徹平、渡邊 誠之						
	椎葉 俊司、左合 徹平、原野 望、渡邊 誠之						

授業の概要

顎顔面部に疼痛を持つ患者に行う検査・診断・処置・評価法の演習を行う。

学生の到達目標

1. 顎顔面部の疼痛・麻痺の発生機序を理解できる。
2. 顎顔面部の疼痛・麻痺の検査法の研究を行い、知識を高める。
3. 顎顔面部の疼痛・麻痺の診断法の研究を行い、知識を高める。
4. 顎顔面部の疼痛・麻痺の処置法の研究を行い、知識を高める。
5. 顎顔面部の疼痛・麻痺の評価法の研究を行い、知識を高める。
6. 歯科での救急処置法の基本の研究を行い、知識を高める。

テキスト

口腔顔面痛の診断と治療ガイドブック 第2版
出)医歯薬出版株式会社 著)日本口腔顔面痛学会

参考書

最新の論文を与え、その要約を発表する。
出) 著)

歯科麻酔学会雑誌、臨床麻酔学会雑誌、LISAなどから論文を抽出する。
出) 著)

成績評価方法・基準

評価項目	割合
抄読会の発表	100%

その他

2017年度

歯科麻酔学（疼痛管理）（Dental Anesthesiology Pain management）

開講年次	2～4年次	期区分	通年	科目	主科目（研究）	単位数	2
授業方法	演習	時間数	30	曜日		時限	
開講学科	歯学研究科 歯学専攻						
科目責任者	椎葉 俊司						
担当教員	椎葉 俊司、原野 望、左合 徹平、渡邊 誠之						
	椎葉 俊司、左合 徹平、原野 望、渡邊 誠之						

授業計画

回	学習内容	授業方法	担当教員	事前・事後学習 学習課題
1	顎顔面部痛・麻痺の発生機序の研究 末梢神経の感作について学習する。	演習	椎葉	テキストブック および症例提示 、知覚神経の種類
2	顎顔面部痛・麻痺の発生機序の研究 中枢監査について学習する。	演習	椎葉	テキストブック および症例提示 、視床、二次ニュー ロン
3	顎顔面部痛・麻痺の病態の研究 神経圧迫によるシミュレーションについて学習する。	演習	椎葉	テキストブック および症例提示 、神経絞扼
4	顎顔面部痛の検査法の研究 刺激に対する認識閾値について学習する。	演習	椎葉	テキストブック および症例提示 、電流刺激認識 閾値
5	疼痛性疾患の検査と診断法の研究 深部痛としての筋?筋膜痛症候群? 1 について学習する。	演習	椎葉	テキストブック および症例提示 、トリガーポイ ント
6	疼痛性疾患の検査と診断法の研究 深部痛としての筋?筋膜痛症候群? 2 について学習する。	演習	椎葉・左合	テキストブック および症例提示
7	疼痛性疾患検査と診断法の研究 神経因性疼痛・心因性疼痛-1について学習する。	演習	椎葉・左合	テキストブック および症例提示
8	疼痛性疾患検査と診断法の研究 神経因性疼痛・心因性疼痛-2について学習する。	演習	椎葉・左合	テキストブック および症例提示
9	疼痛性疾患検査と診断法の研究 癌性疼痛の数値化について学習する。	演習	椎葉・左合	テキストブック および症例提示 、VAS
10	疼痛性疾患検査と診断法の研究 癌性疼痛へのアセトアミノフェンの効果について学習する。	演習	椎葉・原野	テキストブック および症例提示
11	麻痺性疾患検査と診断法の研究 顔面神経麻痺へのステロイドの効果について学習する。	演習	椎葉・渡邊	テキストブック および症例提示
12	麻痺性疾患検査と診断法の研究 三叉神経麻痺への星状神経節ブロックの効果について学習する。	演習	椎葉・渡邊	テキストブック および症例提示
13	顔面筋の不随意運動の研究 顔面痙攣・眼瞼痙攣を軽減法について学習する。	演習	椎葉・渡邊	テキストブック および症例提示
14	顔面筋の不随意運動の研究 口腔ジストニアを軽減法について学習する。	演習	椎葉	テキストブック および症例提示
15	薬物療法の研究 使用する薬剤について学習する。	演習	椎葉	テキストブック および症例提示

2017年度

歯科麻酔学特論 (Dental Anesthesiology)

開講年次	1～4年次	期区分	通年	科目	主科目(研究)/副科目	単位数	2
授業方法	演習	時間数	30	曜日		時限	
開講学科	歯学研究科 歯学専攻						
科目責任者	渡邊 誠之						
担当教員	渡邊 誠之、椎葉 俊司、原野 望、左合 徹平						
	渡邊 誠之、椎葉 俊司、原野 望、左合 徹平、茂山 幸代						

授業の概要

毎週水曜日もしくは木曜日：歯科麻酔学関連の最新の研究の動向を理解するために、文献を詳読する。

学生の到達目標

1. 英語文献を読み、理解する能力を高める。
2. 歯科麻酔学関連の基礎および臨床を理解できる。
3. 歯科麻酔学の背景や動向を理解できる。
4. 他の論文を批評する能力を高める。

テキスト

出) 著)

参考書

Anesthesiology、Anesthesia & Analgesia、British Journal of Anaesthesiaなど。Miller 's Anesthesia
出) 著)

ミラー麻酔科学
出)医歯薬出版

著)ドナルドDミラー

成績評価方法・基準

評価項目	割合
抄読会の発表プリントの評価	50%
抄読会の出席回数	50%

その他

2017年度

歯科麻酔学特論 (Dental Anesthesiology)

開講年次	1～4年次	期区分	通年	科目	主科目(研究)/副科目	単位数	2
授業方法	演習	時間数	30	曜日		時限	
開講学科	歯学研究科 歯学専攻						
科目責任者	渡邊 誠之						
担当教員	渡邊 誠之、椎葉 俊司、原野 望、左合 徹平						
	渡邊 誠之、椎葉 俊司、原野 望、左合 徹平、茂山 幸代						

授業計画

回	学習内容	授業方法	担当教員	事前・事後学習 学習課題
1～15	最新の論文を与え、その要約を発表する。 Anesthesiology、Anesthesia & Analgesia、British Journal of Anaesthesiaなどの最新号から原著論文を1篇選び、参考文献とともに紹介する。	発表・討議	渡邊、椎葉、原野、左合、茂山	事前に論文の読み込み

2017年度

歯科麻酔学 (循環生理と循環器疾患) (Dental Anesthesiology (Cardiac physiology & Cardiac Medicine))

開講年次	1～4年次	期区分	通年	科目	主科目(研究)/副科目	単位数	2
授業方法	演習	時間数	30	曜日		時限	
開講学科	歯学研究科 歯学専攻						
科目責任者	渡邊 誠之						
担当教員	渡邊 誠之						
	渡邊 誠之						

授業の概要

循環管理について英文参考書(ワシントン大学循環生理シラバス)を読み解き、実際の臨床症例に照らし合わせて考察を加え、代表的な循環器疾患について理解する。

学生の到達目標

1. 心機能の基礎知識を深め、理解できる。
2. 周術期循環管理を行うにあたり循環生理を理解できる。
3. 心臓弁膜症が理解できる。
4. 心拍出量・血管の調節について理解できる。
5. 冠循環について理解できる。
6. 虚血性心疾患について理解できる。
7. 心不全・心筋症を理解できる。
8. 心膜疾患について理解できる。
9. 翻訳の技術と英文内容の読解を実践する。

テキスト

Human Biology 540 Introduction to Cardiovascular Medicine, Mohrman and Heller

出) 著)

Cardiovascular Physiology, Lilly

出) 著)

Pathophysiology of Heart Disease

出) 著)

参考書

出) 著)

成績評価方法・基準

評価項目	割合
輪読会の発表回数	30%
輪読会の発表プリント	40%
試験	30%

その他

2017年度

歯科麻酔学 (循環生理と循環器疾患) (Dental Anesthesiology (Cardiac physiology & Cardiac Medicine))

開講年次	1～4年次	期区分	通年	科目	主科目(研究)/副科目	単位数	2
授業方法	演習	時間数	30	曜日		時限	
開講学科	歯学研究科 歯学専攻						
科目責任者	渡邊 誠之						
担当教員	渡邊 誠之						
	渡邊 誠之						

授業計画

回	学習内容	授業方法	担当教員	事前・事後学習 学習課題
1	Cardiac Mechanics	講義・討議	渡邊	講義領域の読破
2	Events of the Cardiac Cycle	講義・討議	渡邊	講義領域の読破
3	Exam1	小テスト	渡邊	講義領域の読破
4	Valvular Heart Disease	講義・討議	渡邊	講義領域の読破
5	Cardiac Output	講義・討議	渡邊	講義領域の読破
6	Exam2	小テスト	渡邊	講義領域の読破
7	Coronary Circulation	講義・討議	渡邊	講義領域の読破
8	Ischemic Heart Disease	講義・討議	渡邊	講義領域の読破
9	Exam3	小テスト	渡邊	講義領域の読破
10	Microcirculation and Lymph	講義・討議	渡邊	講義領域の読破
11	Heart Failure	講義・討議	渡邊	講義領域の読破
12	Exam4	小テスト	渡邊	講義領域の読破
13	The Cardiomyopathies	講義・討議	渡邊	講義領域の読破
14	The Pericardium	講義・討議	渡邊	講義領域の読破
15	Final Exam	最終試験	渡邊	講義領域の読破

2017年度

歯科麻酔学 (循環生理と循環器疾患) (Dental Anesthesiology (Cardiac physiology & Cardiac Medicine))

開講年次	1～4年次	期区分	通年	科目	主科目(研究)/副科目	単位数	2
授業方法	演習	時間数	30	曜日		時限	
開講学科	歯学研究科 歯学専攻						
科目責任者	渡邊 誠之						
担当教員	渡邊 誠之						

授業の概要

循環管理について英文参考書(ワシントン大学循環生理シラバス)を読み解き、実際の臨床症例に照らし合わせて考察を加え、代表的な循環器疾患について理解する。

学生の到達目標

1. 心筋イメージングが理解できる。
2. 胎児循環が理解できる。
3. 代表的な先天性心疾患が理解できる。
4. 末梢血管疾患について理解できる。
5. 循環ショックについて理解できる。
6. 不整脈管理について理解できる。
7. 循環器における運動と加齢について理解できる。
8. 代表的な心血管手術について理解できる。
9. 心電図の成り立ち、解析が理解できる。

テキスト

Human Biology 540 Introduction to Cardiovascular Medicine, Mohrman and Heller

出) 著)

Cardiovascular Physiology, Lilly

出) 著)

Pathophysiology of Heart Disease

出) 著)

参考書

出) 著)

成績評価方法・基準

評価項目	割合
輪読会の発表プリント	40%
輪読会の発表回数	30%
試験	30%

その他

2017年度

歯科麻酔学 (循環生理と循環器疾患) (Dental Anesthesiology (Cardiac physiology & Cardiac Medicine))

開講年次	1～4年次	期区分	通年	科目	主科目(研究)/副科目	単位数	2
授業方法	演習	時間数	30	曜日		時限	
開講学科	歯学研究科 歯学専攻						
科目責任者	渡邊 誠之						
担当教員	渡邊 誠之						

授業計画

回	学習内容	授業方法	担当教員	事前・事後学習 学習課題
1	Cardiac Imaging	講義・討議	渡邊	講義領域の読破
2	Fetal Development and Circulation	講義・討議	渡邊	講義領域の読破
3	Exam1	小テスト	渡邊	講義領域の読破
4	Congenital Heart Disease	講義・討議	渡邊	講義領域の読破
5	Peripheral Vascular Disease	講義・討議	渡邊	講義領域の読破
6	Exam2	小テスト	渡邊	講義領域の読破
7	Circulatory Shock	講義・討議	渡邊	講義領域の読破
8	Arrhythmia Management for the GP	講義・討議	渡邊	講義領域の読破
9	Exam3	小テスト	渡邊	講義領域の読破
10	Exercise and Aging	講義・討議	渡邊	講義領域の読破
11	Cardiothoracic/Cardiovascular Surgery	講義・討議	渡邊	講義領域の読破
12	Exam4	小テスト	渡邊	講義領域の読破
13	ECG1	講義・討議	渡邊	講義領域の読破
14	ECG2	講義・討議	渡邊	講義領域の読破
15	Final Exam	最終試験	渡邊	講義領域の読破

2017年度

歯科麻酔学 (呼吸生理と呼吸器疾患) (Dental Anesthesiology (Respiratory physiology and Pulmonary Pathophysiology))

開講年次	1～4年次	期区分	通年	科目	主科目(研究)/副科目	単位数	2
授業方法	演習	時間数	30	曜日		時限	
開講学科	歯学研究科 歯学専攻						
科目責任者	渡邊 誠之						
担当教員	渡邊 誠之						

授業の概要

呼吸管理について英文参考書を読み解き、実際の臨床症例に照らし合わせて考察を加え、代表的な呼吸器疾患について理解する。

学生の到達目標

1. 呼吸器の構造を理解できる。
2. 換気を理解できる。
3. 拡散を理解できる。
4. 換気血流比を理解できる。
5. ガス運搬を理解できる。
6. 呼吸のメカニズムを理解できる。
7. 換気の調節が理解できる。
8. ストレス下の換気応答が理解できる。
9. 呼吸機能検査が理解できる。
10. 翻訳の技術と英文内容の読解を実践する。

テキスト

Respiratory Physiology:The Essentials,8th Edition
出) 著)

Pulmonary Physiology and Pathophysiology:An Integrated,CaseBased Approach
出) 著)

参考書

出) 著)

成績評価方法・基準

評価項目	割合
輪読会の発表プリント	40%
試験	30%
輪読会の発表回数	30%

その他

2017年度

歯科麻酔学 (呼吸生理と呼吸器疾患) (Dental Anesthesiology (Respiratory physiology and Pulmonary Pathophysiology))

開講年次	1～4年次	期区分	通年	科目	主科目(研究)/副科目	単位数	2
授業方法	演習	時間数	30	曜日		時限	
開講学科	歯学研究科 歯学専攻						
科目責任者	渡邊 誠之						
担当教員	渡邊 誠之						

授業計画

回	学習内容	授業方法	担当教員	事前・事後学習 学習課題
1	Structure and Function	講義・討議	渡邊	講義領域の読破
2	Ventilation	講義・討議	渡邊	講義領域の読破
3	Exam1	小テスト	渡邊	講義領域の読破
4	Diffusion	講義・討議	渡邊	講義領域の読破
5	Blood flow and Metabolism	講義・討議	渡邊	講義領域の読破
6	Exam2	小テスト	渡邊	講義領域の読破
7	Ventilation-Perfusion Relationship	講義・討議	渡邊	講義領域の読破
8	Gas Transport by the blood	講義・討議	渡邊	講義領域の読破
9	Exam3	小テスト	渡邊	講義領域の読破
10	Mechanics of Breathing	講義・討議	渡邊	講義領域の読破
11	Control of ventilation	講義・討議	渡邊	講義領域の読破
12	Exam4	小テスト	渡邊	講義領域の読破
13	Respiratory system under stress	講義・討議	渡邊	講義領域の読破
14	Test of pulmonary function	講義・討議	渡邊	講義領域の読破
15	Final Exam	最終試験	渡邊	講義領域の読破

2017年度

歯科麻酔学 (呼吸生理と呼吸器疾患) (Dental Anesthesiology (Respiratory physiology and Pulmonary Pathophysiology))

開講年次	1～4年次	期区分	通年	科目	主科目(研究)/副科目	単位数	2
授業方法	演習	時間数	30	曜日		時限	
開講学科	歯学研究科 歯学専攻						
科目責任者	渡邊 誠之						
担当教員	渡邊 誠之						

授業の概要

呼吸管理について英文参考書を読み解き、実際の臨床症例に照らし合わせて考察を加え、代表的な呼吸器疾患について理解する。

学生の到達目標

1. 換気を理解できる。
2. ガス交換を理解できる。
3. その他のテストを理解できる。
4. 閉塞性肺疾患を理解できる。
5. 拘束性肺疾患を理解できる。
6. 環境、新生物、感染疾患を理解できる。
7. 呼吸不全が理解できる。
8. 酸素治療が理解できる。
9. 人工呼吸が理解できる。
10. 翻訳の技術と英文内容の読解を実践する。

テキスト

Respiratory Physiology:The Essentials,8th Edition
出) (著)

Pulmonary Pathophysiology:The Essentials,8th Edition
出) (著)

参考書

出) (著)

成績評価方法・基準

評価項目	割合
輪読会の発表回数	30%
輪読会の発表プリント	40%
試験	30%

その他

2017年度

歯科麻酔学 (呼吸生理と呼吸器疾患) (Dental Anesthesiology (Respiratory physiology and Pulmonary Pathophysiology))

開講年次	1～4年次	期区分	通年	科目	主科目(研究)/副科目	単位数	2
授業方法	演習	時間数	30	曜日		時限	
開講学科	歯学研究科 歯学専攻						
科目責任者	渡邊 誠之						
担当教員	渡邊 誠之						

授業計画

回	学習内容	授業方法	担当教員	事前・事後学習 学習課題
1	Ventilation	講義・討議	渡邊	講義領域の読破
2	Gas Exchange	講義・討議	渡邊	講義領域の読破
3	Exam1	小テスト	渡邊	講義領域の読破
4	Other Tests	講義・討議	渡邊	講義領域の読破
5	Obstructive Diseases	講義・討議	渡邊	講義領域の読破
6	Exam2	小テスト	渡邊	講義領域の読破
7	Respiratory Disease	講義・討議	渡邊	講義領域の読破
8	Vascular Disease	講義・討議	渡邊	講義領域の読破
9	Exam3	小テスト	渡邊	講義領域の読破
10	Environmental, Neoplastic, and Infectious Disease	講義・討議	渡邊	講義領域の読破
11	Respiratory Failure	講義・討議	渡邊	講義領域の読破
12	Exam4	小テスト	渡邊	講義領域の読破
13	Oxygen Therapy	講義・討議	渡邊	講義領域の読破
14	Mechanical Ventilation	講義・討議	渡邊	講義領域の読破
15	Final Exam	最終試験	渡邊	講義領域の読破

2017年度

歯科麻酔学（ベーシックコース）（Dental Anesthesiology(Basic course)）

開講年次	1～4年次	期区分	通年	科目	主科目（臨床）/副科目	単位数	2
授業方法	演習	時間数	30	曜日		時限	
開講学科	歯学研究科 歯学専攻						
科目責任者	渡邊 誠之						
担当教員	渡邊 誠之						

授業の概要

呼吸循環管理の上で必要な基本的手技の理解、習得を目標とする。基本手技はマスク換気、静脈路確保、モニタリング、気管挿管（モデル実習）とする

学生の到達目標

1. 呼吸循環モニタリングの知識を習得し、理解できる。
2. マスク換気が理解でき、実践できる。
3. 静脈路確保が理解でき、実践できる。
4. 気管挿管が理解でき、実践できる。

テキスト

ビジュアル基本手技シリーズ（注射・採血法、改訂版、必ずうまくいく 気管挿管 改訂版）
出） 著）

周術期モニタリング徹底ガイド
出） 著）

参考書

出） 著）

成績評価方法・基準

評価項目	割合
知識及び実技試験	100%

その他

2017年度

歯科麻酔学（ベーシックコース）（Dental Anesthesiology(Basic course)）

開講年次	1～4年次	期区分	通年	科目	主科目（臨床）/副科目	単位数	2
授業方法	演習	時間数	30	曜日		時限	
開講学科	歯学研究科 歯学専攻						
科目責任者	渡邊 誠之						
担当教員	渡邊 誠之						

授業計画

回	学習内容	授業方法	担当教員	事前・事後学習 学習課題
1,2	呼吸モニタリングの理解と実践	講義・実習	渡邊	参考書の該当部分の読み込み
3,4	循環モニタリングの理解と実践	講義・実習	渡邊	参考書の該当部分の読み込み
5,6	その他の生体モニタリングの理解と実践	講義・実習	渡邊	参考書の該当部分の読み込み
7,8	マスク換気の理解と実践	講義・実習	渡邊	参考書の該当部分の読み込み
9,10	気管挿管の理解と実践	講義・実習	渡邊	参考書の該当部分の読み込み
11,12	静脈路確保の理解と実践	講義・実習	渡邊	参考書の該当部分の読み込み
13,14	呼吸の評価と循環の評価と実践	講義・実習	渡邊	参考書の該当部分の読み込み
15	試験	試験	渡邊	-

2017年度

歯科麻酔学（アドバンスコース）（Dental Anesthesiology（Advanced course））

開講年次	1～4年次	期区分	通年	科目	主科目（臨床）	単位数	2
授業方法	演習	時間数	30	曜日		時限	
開講学科	歯学研究科 歯学専攻						
科目責任者	渡邊 誠之						
担当教員	渡邊 誠之						

授業の概要

呼吸循環管理の上で必要な人工呼吸管理、循環モニタリングの理解、習得を目標とする。高度手技としてPICC挿入、CV挿入、動脈路確保、肺動脈カテーテル挿入、人工呼吸器設定（モデル実習）を習得する。

学生の到達目標

1. 高度な呼吸循環モニタリングの知識を習得し、理解できる。
2. 中心静脈路確保・PICCの利点と欠点を理解でき、実践できる。
3. 肺動脈カテーテルの原理が理解でき、実践できる。
4. 人工呼吸器管理が理解でき、実践できる。
5. MEP・SEPを理解し、実践できる。
6. 局所脳酸素飽和度測定、脳代謝モニタリングを理解し、実践できる。

テキスト

周術期モニタリング徹底ガイド

出)羊土社

著)

はじめての人工呼吸管理

出)羊土社

著)

ICUのモニターで呼吸・循環を診る

出)羊土社

著)

術中神経モニタリングバイブル

出)羊土社

著)

参考書

出)

著)

成績評価方法・基準

評価項目	割合
試験及び実習評価	100%

その他

2017年度

歯科麻酔学（アドバンスコース）（Dental Anesthesiology（Advanced course））

開講年次	1～4年次	期区分	通年	科目	主科目（臨床）	単位数	2
授業方法	演習	時間数	30	曜日		時限	
開講学科	歯学研究科 歯学専攻						
科目責任者	渡邊 誠之						
担当教員	渡邊 誠之						

授業計画

回	学習内容	授業方法	担当教員	事前・事後学習 学習課題
1,2	人工呼吸器の理解と実践	講義・実習	渡邊	参考書の該当部分の読み込み
3,4	中心静脈路・PICCの理解と実践	講義・実習	渡邊	参考書の該当部分の読み込み
5,6	肺動脈カテーテルの理解と実践	講義・実習	渡邊	参考書の該当部分の読み込み
7,8	呼吸循環モニタリングの理解と実践	講義・実習	渡邊	参考書の該当部分の読み込み
9,10	MEP（motor evoked potential）の理解と実践	講義・実習	渡邊	参考書の該当部分の読み込み
11,12	SEP（sensory evoked potential）の理解と実践	講義・実習	渡邊	参考書の該当部分の読み込み
13,14	局所脳酸素飽和度の理解と実践	講義・実習	渡邊	参考書の該当部分の読み込み
15	試験	試験	渡邊	-

2017年度

臨床歯科麻酔学 (Clinical Dental Anesthesiology)

開講年次	1～4年次	期区分	通年	科目	主科目(臨床) / 副科目	単位数	2
授業方法	講義・演習	時間数	30	曜日		時限	
開講学科	歯学研究科 歯学専攻						
科目責任者	左合 徹平						
担当教員	左合 徹平、椎葉 俊司、原野 望、渡邊 誠之						

授業の概要

歯科臨床における麻酔には全身麻酔法、静脈内鎮静法、吸入鎮静法、局所麻酔法があり、安全な歯科診療を行う上で必要不可欠である。各種麻酔法を安全・確実に行うために必要な解剖、生理、画像診断等の基礎的な理論を理解し、術前患者評価や麻酔計画立案に必要な知識を習得する。

また提示された症例について麻酔計画立案から周術期管理までのシミュレーション、フィードバックを行い、歯科麻酔の臨床的な能力を高める。

学生の到達目標

1. 情報収集の技法を理解できる。
2. 良好な病診連携について理解する。
3. 麻酔法の種類を理解する。
4. バイタルサイン異常の発生機序を理解する。
5. 麻酔管理上注意を要する疾患について理解する。
6. 手術中の異常事態に対する対応法を学習する。
7. 二次救急処置の基本について学習する。

テキスト

歯科麻酔学

出) 医歯薬出版 (著)

ミラー麻酔学

出) メディカルサイエンスインターナショナル (著)

参考書

出) (著)

成績評価方法・基準

評価項目	割合
症例検討の発表	100%

その他

2017年度

臨床歯科麻酔学 (Clinical Dental Anesthesiology)

開講年次	1～4年次	期区分	通年	科目	主科目(臨床) / 副科目	単位数	2
授業方法	講義・演習	時間数	30	曜日		時限	
開講学科	歯学研究科 歯学専攻						
科目責任者	左合 徹平						
担当教員	左合 徹平、椎葉 俊司、原野 望、渡邊 誠之						

授業計画

回	学習内容	授業方法	担当教員	事前・事後学習 学習課題
1	術前情報収集 手術前の情報収集について学習する。	講義	左合・渡邊	参考書の予習・ 復習
2	麻酔管理上注意を要する疾患(循環器疾患) 循環生理と循環器疾患について学習する	講義	左合・渡邊	参考書の予習・ 復習
3	麻酔管理上注意を要する疾患(呼吸器疾患) 呼吸生理と呼吸器疾患について学習する	講義	左合・渡邊	参考書の予習・ 復習
4	麻酔管理上注意を要する疾患(代謝性疾患) 代謝生理と代謝性疾患について学習する	講義	左合・渡邊	参考書の予習・ 復習
5	画像診断 麻酔管理に必要な画像診断について学習する	講義	左合・渡邊	参考書の予習・ 復習
6	各種麻酔法の適応と分類 各種麻酔法の長所・短所および適応について学習する。	講義	左合・椎葉	参考書の予習・ 復習
7	全身麻酔法(薬剤) 全身麻酔で使用する薬剤について学習する。	講義	左合・椎葉	参考書の予習・ 復習
8	全身麻酔法(気道管理) 各種気道管理デバイスについて学習し、その使用法に習熟する。	講義	左合・椎葉	参考書の予習・ 復習
9	全身麻酔法(術後管理) 全身麻酔の術後の管理方法について学習する。	講義	左合・原野	参考書の予習・ 復習
10	静脈内鎮静法 静脈内鎮静法に使用する薬剤や実際の静脈内鎮静法について学習する。	講義	左合・原野	参考書の予習・ 復習
11	笑気吸入鎮静法 亜酸化窒素の薬理作用、実際の笑気吸入鎮静法について学習する。	講義	左合・未定	参考書の予習・ 復習
12	周術期トラブルシューティング 周術期に生じる各種トラブルとその対処法について学習する。	講義	左合・未定	参考書の予習・ 復習
13	症例検討 1	講義	左合・椎葉 原野・未定 ・渡邊	参考書および症 例提示
14	症例検討 2	講義	左合・椎葉 原野・未定 ・渡邊	参考書および症 例提示
15	症例検討 3	講義	左合・椎葉 原野・未定 ・渡邊	参考書および症 例提示

2017年度

摂食機能リハビリテーション学1 (ベーシック) (Oral Care and Rehabilitation (Basic))

開講年次	1～2年	期区分	通年	科目	主科目(臨床)	単位数	4
授業方法	講義・実習	時間数	120	曜日		時限	
開講学科	歯学研究科 歯学専攻						
科目責任者	柿木 保明						
	柿木 保明、藤井 航、多田 葉子、木村 貴之、久保田 潤平						
担当教員	(日本老年歯科医学会認定医) 柿木、藤井、多田、久保田 (日本老年歯科医学会専門医) 柿木、藤井、多田 (日本老年歯科医学界指導医) 柿木、藤井 (日本障害者歯科学会認定医) 柿木、藤井、多田、木村、久保田 (日本障害者歯科学会指導医) 柿木、藤井 (日本摂食・嚥下リハビリテーション学会認定士(歯科医師)) 柿木、藤井 (日本代替補完医療学会認定学識歯科医) 柿木、多田						

授業の概要

摂食・嚥下障害の診査を行い、的確な機能訓練を取り入れたリハビリ処方を組み立てることができるために必要な診断の手技、リハビリテーションの手技・効果について学ぶ。

学生の到達目標

1. 摂食・嚥下障害の障害を理解できる。
2. 摂食・嚥下障害に対するリハビリテーションを行うことができる。
3. 障害に応じた食事形態を選択することができる。
4. 摂食・嚥下障害への機能的補綴的対応ができる。

テキスト

出) (著)

参考書

歯学生のための摂食・嚥下リハビリテーション学、2008
出) (著)

摂食・嚥下リハビリテーション 第2版
出)医歯薬出版、東京、2007 (著)

摂食・嚥下障害の理解とケア
出)学研、東京、2003 (著)

食べる機能の障害
出)医歯薬出版、東京、2003 (著)

成績評価方法・基準

評価項目	割合
試問・単位認定試験	90%
レポート(小テスト含む)	10%

その他

質問は授業外でも随時受け付ける。e-mailでも受け付ける。

2017年度

摂食機能リハビリテーション学1 (ベーシック) (Oral Care and Rehabilitation (Basic))

開講年次	1~2年	期区分	通年	科目	主科目(臨床)	単位数	4
授業方法	講義・実習	時間数	120	曜日		時限	
開講学科	歯学研究科 歯学専攻						
科目責任者	柿木 保明						
	柿木 保明、藤井 航、多田 葉子、木村 貴之、久保田 潤平						
担当教員	(日本老年歯科医学会認定医) 柿木、藤井、多田、久保田 (日本老年歯科医学会専門医) 柿木、藤井、多田 (日本老年歯科医学界指導医) 柿木、藤井 (日本障害者歯科学会認定医) 柿木、藤井、多田、木村、久保田 (日本障害者歯科学会指導医) 柿木、藤井 (日本摂食・嚥下リハビリテーション学会認定士(歯科医師)) 柿木、藤井 (日本代替補完医療学会認定学識歯科医) 柿木、多田						

授業計画

回	学習内容	授業方法	担当教員	事前・事後学習 学習課題
1,2	正常な摂食・嚥下の発達メカニズム 摂食・嚥下障害(発達障害、中途障害、高齢者)	講義	柿木	(復習) レポート提出
3,4	嚥下障害患者への口腔ケア	実習	柿木	(復習) レポート提出
5,6	摂食・嚥下機能評価 問診、病歴採取	講義	柿木	(復習) レポート提出
7,8	摂食・嚥下機能評価 スクリーニング	実習	藤井	(予習) RSST、 MWST、咳テ スト、FT
9,10	試問1	-	柿木	-
11,12	呼吸訓練、咳嗽訓練	実習	藤井	(予習) 呼吸訓練、咳 嗽訓練
13,14	開口-閉口訓練 開口障害に対する訓練、閉口障害に対する訓練	実習	藤井	(予習) 開口-閉口訓練
15,16	口腔周囲筋群・舌筋群の訓練1 口唇閉鎖訓練、バンゲード法	実習	久保田	(予習) 口唇閉鎖訓練
17,18	口腔周囲筋群・舌筋群の訓練2 頬訓練、バンゲード法、舌訓練	実習	久保田	(予習) 頬訓練
19,20	口腔周囲筋群・舌筋群の訓練3 軟口蓋挙上訓練	実習	久保田	(予習) 軟口蓋挙上訓 練
21,22	口腔周囲筋群・舌筋群の訓練4 舌訓練、舌背挙上訓練、舌尖挙上訓練	実習	藤井	(予習) 舌訓練、舌背 挙上訓練、舌 尖挙上訓練
23,24	咀嚼・送り込み訓練 咀嚼訓練、送り込み訓練	実習	藤井	(予習) 咀嚼訓練、送 り込み訓練
25,26	嚥下運動訓練 thermal tactile stimulation	実習	藤井	(予習) thermal tactile stimulation
27,28	嚥下運動訓練 舌根後退運動、舌保持嚥下訓練	実習	藤井	(予習) 舌根後退運動 、舌保持嚥下 訓練
29,30	嚥下運動訓練 Shaker exercise	実習	藤井	(予習) Shaker exercise
31,32	頸部リラクセーション 頸部可動域拡大訓練、喉頭周囲筋群のストレッチ	実習	柿木	(予習) 頸部ROM訓練

2017年度

摂食機能リハビリテーション学1 (ベーシック) (Oral Care and Rehabilitation (Basic))

開講年次	1~2年	期区分	通年	科目	主科目(臨床)	単位数	4
授業方法	講義・実習	時間数	120	曜日		時限	
開講学科	歯学研究科 歯学専攻						
科目責任者	柿木 保明						
	柿木 保明、藤井 航、多田 葉子、木村 貴之、久保田 潤平						
担当教員	(日本老年歯科医学会認定医) 柿木、藤井、多田、久保田 (日本老年歯科医学会専門医) 柿木、藤井、多田 (日本老年歯科医学界指導医) 柿木、藤井 (日本障害者歯科学会認定医) 柿木、藤井、多田、木村、久保田 (日本障害者歯科学会指導医) 柿木、藤井 (日本摂食・嚥下リハビリテーション学会認定士(歯科医師)) 柿木、藤井 (日本代替補完医療学会認定学識歯科医) 柿木、多田						

回	学習内容	授業方法	担当教員	事前・事後学習 学習課題
33,34	嚥下手技の獲得 メンデルソン手技、バイオフィードバックの活用	実習	柿木	(予習) メンデルソン 手技
35,36	代償的嚥下法 側方向き嚥下、複数回嚥下、交互嚥下	実習	木村	(予習) 側方向き嚥下 、複数回嚥下 、交互嚥下
37,38	試問2	-	柿木	-
39,40	鼻咽腔ファイバースコープの操作	実習	木村	(復習) レポート提出
41,42	鼻咽腔ファイバースコープによる摂食・嚥下障害の診査	実習	木村	(復習) レポート提出
43,44	嚥下造影の手順	講義	藤井	(復習) レポート提出
45,46	嚥下造影模擬食品の調整	実習	藤井	(復習) レポート提出
47,48	PAPの作製1 印象、ワイヤークラスプの作製	実習	木村	(予習) ワイヤークラ スプの作製
49,50	PAPの作製2 舌接触面形態調整	実習	木村	(復習) レポート提出
51,52	PAPの調整 装着・調整	実習	木村	(予習) PAPの調整
53,54	PLPの作製1 印象、ワイヤークラスプの作製	実習	多田	(予習) PLP作成のた めの印象法
55,56	PLPの作製2 軟口蓋延長部の作製	実習	多田	(復習) レポート提出
57,58	PLPの調整 装着・調整	実習	多田	(予習) PLPの調整
59,60	総括、試問3、単位認定試験	-	柿木	-

2017年度

摂食機能リハビリテーション学2 (アドバンス) (Oral Care and Rehabilitation (Advanced))

開講年次	1～3年	期区分	通年	科目	主科目(臨床)	単位数	4
授業方法	実習	時間数	120	曜日		時限	
開講学科	歯学研究科 歯学専攻						
科目責任者	柿木 保明						
	柿木 保明、藤井 航、多田 葉子、木村 貴之						
担当教員	(日本老年歯科医学会認定医) 柿木、藤井、多田 (日本老年歯科医学会専門医) 柿木、藤井、多田 (日本老年歯科医学界指導医) 柿木、藤井 (日本障害者歯科学会認定医) 柿木、藤井、多田、木村 (日本障害者歯科学会指導医) 柿木、藤井 (日本摂食・嚥下リハビリテーション学会認定士(歯科医師)) 柿木、藤井 (日本代替補完医療学会認定学識歯科医) 柿木、多田						

授業の概要

要介護高齢者をはじめとした高齢者の全身状態を考慮した歯科治療と口腔ケア、指導ができるとともに、摂食嚥下機能考慮した要介護者の義歯修正および調整ができる。また、漢方薬や東洋医学などを理解した診療や指導ができる。

学生の到達目標

1. 高齢者の全身状態の評価、ならびに口腔環境および口腔周囲の評価ができる。
2. 要介護高齢者の全身状態を考慮した口腔ケアや口腔機能訓練ができる。
3. 高齢者の全身状態を考慮した漢方薬による歯科診療ができる。
4. 基本的な舌診による保健指導ができる。
4. 寝たきり高齢者の基本的な訪問歯科治療ができる。
5. 要介護高齢者の摂食嚥下機能を考慮した義歯調整および修正ができる。

テキスト

出) (著)

参考書

- 口腔乾燥症の臨床
出)医歯薬出版、東京、2008 (著)
- 歯科医師・歯科衛生士のための舌診入門
出)ヒョーロン、東京、2001 (著)
- 舌診のすべて
出)医歯薬、東京、2005 (著)
- 歯科漢方ハンドブック
出)KISOサイエンス、神奈川、2005 (著)
- 予防補綴のすすめ
出)ヒョーロン、東京、2004 (著)
- 口臭診療マニュアル
出)第一歯科出版 (著)

成績評価方法・基準

評価項目	割合
試問・単位認定試験	90%
レポート(小テスト含む)	10%

その他

質問は授業外でも随時受け付ける。e-mailでも受け付ける。

2017年度

摂食機能リハビリテーション学2 (アドバンス) (Oral Care and Rehabilitation (Advanced))

開講年次	1~3年	期区分	通年	科目	主科目(臨床)	単位数	4
授業方法	実習	時間数	120	曜日		時限	
開講学科	歯学研究科 歯学専攻						
科目責任者	柿木 保明						
	柿木 保明、藤井 航、多田 葉子、木村 貴之						
担当教員	(日本老年歯科医学会認定医) 柿木、藤井、多田 (日本老年歯科医学会専門医) 柿木、藤井、多田 (日本老年歯科医学会指導医) 柿木、藤井 (日本障害者歯科学会認定医) 柿木、藤井、多田、木村 (日本障害者歯科学会指導医) 柿木、藤井 (日本摂食・嚥下リハビリテーション学会認定士(歯科医師)) 柿木、藤井 (日本代替補完医療学会認定学識歯科医) 柿木、多田						

授業計画

回	学習内容	授業方法	担当教員	事前・事後学習 学習課題
1,2	QOLおよびADLの評価 バイタルサインの評価	実習	木村	(予習) QOL, ADL
3,4	心理検査とうつ状態の検査	実習	木村	(復習) レポート提出
5,6	口腔周囲筋の筋力評価 咬合に関連する筋および表情筋、顔面の筋	実習	木村	(予習) 筋硬度計の使用法
7,8	口腔機能関連筋の筋力評価 頸部と肩周囲の筋	実習	木村	(復習) レポート提出
9,10	味覚検査	実習	木村	(予習) 味覚検査
11,12	口腔内感覚および顔面部の感覚評価	実習	木村	(復習) レポート提出
13,14	唾液分泌検査 安静時唾液の評価 吐唾法と評価方法	実習	柿木	(予習) ワッテ法 吐唾法
15,16	唾液分泌検査 サクソン法の評価方法 ガム法の評価	実習	柿木	(予習) サクソンテスト・ガムテスト (復習) レポート提出
17,18	唾液分泌および分布度検査 唾液湿潤度検査紙による評価	実習	柿木	(予習) 湿潤度検査紙
19,20	唾液の物性検査 粘度計(超音波型、回転型) 曳糸性測定器	実習	柿木	(予習) 粘度計 曳糸性測定器 (復習) レポート提出
21,22	口臭測定 オーラルクロマを用いた口臭測定と評価	実習	藤井	(予習) 口臭測定器の 使い方
23,24	試問1: ケースブレ	-	柿木	-
25,26	口腔機能向上 器質的口腔ケアと機能的口腔ケアの基本	実習	藤井	(予習) 基本的口腔ケ ア技術
27,28	口腔機能向上 液体タイプおよびゲル状タイプの保湿剤を用いた口腔ケア	実習	藤井	(予習) 保湿剤
29,30	寝たきり状態の口腔ケア基本技術	実習	藤井	(復習) レポート提出

2017年度

摂食機能リハビリテーション学2 (アドバンス) (Oral Care and Rehabilitation (Advanced))

開講年次	1～3年	期区分	通年	科目	主科目(臨床)	単位数	4
授業方法	実習	時間数	120	曜日		時限	
開講学科	歯学研究科 歯学専攻						
科目責任者	柿木 保明						
担当教員	柿木 保明、藤井 航、多田 葉子、木村 貴之 (日本老年歯科医学会認定医) 柿木、藤井、多田 (日本老年歯科医学会専門医) 柿木、藤井、多田 (日本老年歯科医学界指導医) 柿木、藤井 (日本障害者歯科学会認定医) 柿木、藤井、多田、木村 (日本障害者歯科学会指導医) 柿木、藤井 (日本摂食・嚥下リハビリテーション学会認定士(歯科医師)) 柿木、藤井 (日本代替補完医療学会認定学識歯科医) 柿木、多田						

回	学習内容	授業方法	担当教員	事前・事後学習 学習課題
31,32	口腔粘膜疾患の評価法 口腔内カメラによる記録	実習	藤井	(予習) 口腔内カメラ の基本技術
33,34	口腔粘膜および舌粘膜の評価法 西洋医学的評価および診断 東洋医学的評価および診断	実習	柿木	(予習) 口腔粘膜評価
35,36	舌診の基本技術	実習	柿木	(予習) 舌診の基本 漢方薬
37,38	舌診からみた漢方薬選択(1)	実習	柿木	(復習) レポート提出
39,40	舌診からみた漢方薬選択(2)	実習	柿木	(復習) レポート提出
41,42	舌診からみた漢方薬選択(3)	実習	柿木	(復習) レポート提出
43,44	舌診からみた保健指導、生活指導 食事指導	実習	柿木	(復習) レポート提出
45,46	諮問2: ケースプレ	-	柿木	-
47,48	訪問歯科治療の準備	実習	多田	(予習) 器具の理解
49,50	訪問歯科治療の治療器具選択	実習	多田	(復習) レポート提出
51,52	訪問歯科治療の基本技術 注水下の歯科治療(介助者)	実習	多田	(予習) バキューム・ シリンジ
53,54	訪問歯科治療の基本技術 注水下の歯科治療(術者)	実習	多田	(予習) エンジンおよ びタービン
55,56	寝たきり患者および要介護高齢者の義歯修正	実習	多田	(復習) レポート提出
57,58	寝たきり患者および要介護高齢者の義歯調整	実習	柿木	(予習) PLPの調整
59,60	総括、試問3、単位認定試験	-	柿木	-

2017年度

高齢者歯科学セミナー 1 (摂食機能リハビリ) (Geriatric Dentistry)

開講年次	1～4年	期区分	通年	科目	主科目(研究)/副科目	単位数	2
授業方法	講義	時間数	30	曜日		時限	
開講学科	歯学研究科 歯学専攻						
科目責任者	柿木 保明						
	柿木 保明、藤井 航、多田 葉子、木村 貴之						
担当教員	(日本老年歯科医学会認定医) 柿木、藤井、多田、久保田 (日本老年歯科医学会専門医) 柿木、藤井、多田 (日本老年歯科医学界指導医) 柿木、藤井 (日本障害者歯科学会認定医) 柿木、藤井、多田、木村 (日本障害者歯科学会指導医) 柿木、藤井 (日本摂食・嚥下リハビリテーション学会認定士(歯科医師)) 柿木、藤井 (日本代替補完医療学会認定学識歯科医) 柿木、多田						

授業の概要

高齢者歯科および摂食機能リハビリテーションに関する国内外の研究を理解し、評価方法および必要な治療法や訓練法について学ぶ。

学生の到達目標

1. 高齢者歯科学の基本を理解し、国内外の研究を理解する能力を高める。
2. 摂食機能リハビリテーション学の基本を理解し、国内外の研究を理解する能力を高める。
3. 臨床研究および基礎研究を評価できる力を高める。

テキスト

出) (著)

参考書

Gerodontologyをはじめとした関連領域の国内雑誌および海外雑誌
出) (著)

高齢者歯科学、摂食機能リハビリテーション学、補完代替医療に関連する書籍および雑誌
出) (著)

成績評価方法・基準

評価項目	割合
発表内容	85%
参加状況	15%

その他

質問は、e-mailでも受け付ける。授業外でも、曜日を定めて診療時間後に質問を受け付ける。

2017年度

高齢者歯科学セミナー 1 (摂食機能リハビリ)

(Geriatric Dentistry)

開講年次	1～4年	期区分	通年	科目	主科目(研究)/副科目	単位数	2
授業方法	講義	時間数	30	曜日		時限	
開講学科	歯学研究科 歯学専攻						
科目責任者	柿木 保明						
	柿木 保明、藤井 航、多田 葉子、木村 貴之						
担当教員	(日本老年歯科医学会認定医) 柿木、藤井、多田、久保田 (日本老年歯科医学会専門医) 柿木、藤井、多田 (日本老年歯科医学界指導医) 柿木、藤井 (日本障害者歯科学会認定医) 柿木、藤井、多田、木村 (日本障害者歯科学会指導医) 柿木、藤井 (日本摂食・嚥下リハビリテーション学会認定士(歯科医師)) 柿木、藤井 (日本代替補完医療学会認定学識歯科医) 柿木、多田						

授業計画

回	学習内容	授業方法	担当教員	事前・事後学習 学習課題
1～15	高齢者歯科学および摂食機能リハビリテーションに関する最新の文献を検索し、評価することにより、研究の今後の展望を理解する。	臨床講義 ゼミ 抄読会	柿木 藤井 多田 木村 久保田	(予習) 文献抄読および関連領域の文献検索

2017年度

高齢者歯科学セミナー 2 (統合医学) (Geriatric Dentistry)

開講年次	1～4年	期区分	通年	科目	主科目(研究)/副科目	単位数	2
授業方法	講義・演習	時間数	30	曜日		時限	
開講学科	歯学研究科 歯学専攻						
科目責任者	柿木 保明						
	柿木 保明、藤井 航、多田 葉子、木村 貴之、久保田 潤平						
担当教員	(日本老年歯科医学会認定医) 柿木、藤井、多田、久保田 (日本老年歯科医学会専門医) 柿木、藤井、多田 (日本老年歯科医学界指導医) 柿木、藤井 (日本障害者歯科学会認定医) 柿木、藤井、多田、木村、久保田 (日本障害者歯科学会指導医) 柿木、藤井 (日本摂食・嚥下リハビリテーション学会認定士(歯科医師)) 柿木、藤井 (日本代替補完医療学会認定学識歯科医) 柿木、多田						

授業の概要

高齢者の歯科治療や高齢者歯科学の研究に関連する統合医学の基本を理解し、評価方法および必要な治療法や訓練法について学ぶ。漢方薬の西洋医学的および東洋医学的作用や作用機序などについても学ぶ。また、舌診の歯科臨床への応用方法についても学ぶ。高齢者歯科医療において西洋医学と東洋医学を理解した統合医療を実践できる知識を学ぶ。統合医療に関する国内外の基礎的および臨床的研究について学ぶ

学生の到達目標

1. 統合医学の基本を理解し、国内外の研究を理解する能力を高める。
2. 西洋医学および東洋医学の基本を理解し、国内外の研究を理解する能力を高める。
3. 代替補完医療の基本を理解し、国内外の研究を理解する能力を養うとともに、臨床に応用できる。
4. 臨床研究および基礎研究を評価できる力を高める。

テキスト

出) (著)

参考書

歯科医師・歯科衛生士ができる舌診のすすめ
出)ヒョーロン (著)

関連領域の書籍および雑誌
出) (著)

成績評価方法・基準

評価項目	割合
発表内容	85%
参加状況	15%

その他

質問は、e-mailでも受け付ける。授業外でも、曜日を定めて診療時間後に質問を受け付ける。

2017年度

高齢者歯科学セミナー 2 (統合医学) (Geriatric Dentistry)

開講年次	1～4年	期区分	通年	科目	主科目(研究)/副科目	単位数	2
授業方法	講義・演習	時間数	30	曜日		時限	
開講学科	歯学研究科 歯学専攻						
科目責任者	柿木 保明						
担当教員	柿木 保明、藤井 航、多田 葉子、木村 貴之、久保田 潤平 (日本老年歯科医学会認定医) 柿木、藤井、多田、久保田 (日本老年歯科医学会専門医) 柿木、藤井、多田 (日本老年歯科医学界指導医) 柿木、藤井 (日本障害者歯科学会認定医) 柿木、藤井、多田、木村、久保田 (日本障害者歯科学会指導医) 柿木、藤井 (日本摂食・嚥下リハビリテーション学会認定士(歯科医師)) 柿木、藤井 (日本代替補完医療学会認定学識歯科医) 柿木、多田						

授業計画

回	学習内容	授業方法	担当教員	事前・事後学習 学習課題
1～15	東洋医学、漢方医学、統合医学に関する文献を検索し、評価することにより、研究の今後の展望を理解する。	臨床講義 演習 セミナー	柿木 藤井 多田 木村 久保田	(予習) 講義、文献抄 読および関連 領域の文献検 索

2017年度

高齢・障害者歯科学特論 (Geriatric and Special Needs Dentistry (Advanced))

開講年次	1～4年	期区分	通年	科目	主科目(研究)/副科目	単位数	2
授業方法	講義・演習	時間数	30	曜日		時限	
開講学科	歯学研究科 歯学専攻						
科目責任者	柿木 保明						
	柿木 保明、藤井 航、多田 葉子、木村 貴之、久保田 潤平						
担当教員	(日本老年歯科医学会認定医) 柿木、藤井、多田、久保田 (日本老年歯科医学会専門医) 柿木、藤井、多田 (日本老年歯科医学界指導医) 柿木、藤井 (日本障害者歯科学会認定医) 柿木、藤井、多田、木村、久保田 (日本障害者歯科学会指導医) 柿木、藤井 (日本摂食・嚥下リハビリテーション学会認定士(歯科医師)) 柿木、藤井 (日本代替補完医療学会認定学識歯科医) 柿木、多田						

授業の概要

要介護高齢者や特別の対応を必要とする患者に対する歯科診療や口腔ケアの特殊性を理解し、評価方法および必要な治療法やケア方法について学ぶ。

とくに、寝たきり高齢者の病態について学ぶことで、訪問歯科診療とリハビリテーションを実践できる知識を学ぶ。また、特別の対応を必要とする患者の歯科診療およびリハビリテーションを実践できる知識や心因性因子の関与する患者の歯科診療に関する知識を学ぶ。

学生の到達目標

1. 高齢者歯科診療の基本を理解し、国内外の研究を理解する能力を高める。
2. 要介護高齢者の全身疾患と病態を理解し、国内外の研究を理解する能力を高める。
3. 障害者の全身疾患と病態を理解し、国内外の研究を理解する能力を高める。
4. 不定愁訴など心因性因子の関与する患者の歯科診療を理解し、国内外の研究を理解する能力を高める。
5. 高齢者歯科学及び障害者歯科学、心身医学に関する臨床、基礎研究を評価できる力を高める。

テキスト

出) (著)

参考書

指定なし。関連領域の参考書や文献は各自用意する。

出) (著)

成績評価方法・基準

評価項目	割合
発表内容	85%
参加状況	15%

その他

質問は、e-mailでも受け付ける。授業外でも、曜日を定めて診療時間後に質問を受け付ける。

2017年度

高齢・障害者歯科学特論 (Geriatric and Special Needs Dentistry (Advanced))

開講年次	1～4年	期区分	通年	科目	主科目(研究)/副科目	単位数	2
授業方法	講義・演習	時間数	30	曜日		時限	
開講学科	歯学研究科 歯学専攻						
科目責任者	柿木 保明						
	柿木 保明、藤井 航、多田 葉子、木村 貴之、久保田 潤平						
担当教員	(日本老年歯科医学会認定医) 柿木、藤井、多田、久保田 (日本老年歯科医学会専門医) 柿木、藤井、多田 (日本老年歯科医学界指導医) 柿木、藤井 (日本障害者歯科学会認定医) 柿木、藤井、多田、木村、久保田 (日本障害者歯科学会指導医) 柿木、藤井 (日本摂食・嚥下リハビリテーション学会認定士(歯科医師)) 柿木、藤井 (日本代替補完医療学会認定学識歯科医) 柿木、多田						

授業計画

回	学習内容	授業方法	担当教員	事前・事後学習 学習課題
1～15	要介護高齢者に対する訪問歯科診療および口腔ケア、障害者の歯科診療とリハビリテーション、心身医学に関する最新の知識と研究を検索し、評価することにより、研究の今後の展望を理解する。	臨床講義 演習 セミナー	柿木 藤井 多田 木村	(予習) 文献抄読および関連領域の 文献検索

2017年度

周術期管理と外科基本手技 (Basic surgical skills)

開講年次	1～3年	期区分	通年	科目	副科目(研究)	単位数	2
授業方法	講義・演習	時間数	30	曜日		時限	
開講学科	歯学研究科 歯学専攻						
科目責任者	中島 秀彰						
担当教員	中島 秀彰						

授業の概要

基本的な外科手技や、周術期管理の基礎を習得するとともに、臨床実地での応用力を身につける。
院内感染対策や医療事故防止についての基本的考え方と手技を身につける。
また、医療機器の進歩に伴う、新しい手術手技や手術操作を学び、理解する。
更に、鏡視下手術やナビゲーション手術等の新しい治療法を理解するとともに、新しい技術の普及に伴って、治療の安全性を確保し、医療事故を未然に防ぐために行われている、技術の教育(トレーニング)や技術評価の現況について体験する。

学生の到達目標

手術・侵襲に伴う生体反応を理解し、説明できる。
手術前後の患者管理や創傷管理、輸液・輸血・栄養の管理について理解し、説明できる。
感染症対策と医療安全・リスクマネジメントについて理解し、説明できる。
患者満足度、医療の均てん化、クリニカル(クリティカル)パスについて理解し、説明できる。
最新の癌治療(抗癌剤治療や終末期治療も含む)、集学的治療について理解し、説明できる。
最新の手術機器の原理と使用法を理解し、説明できる。
ナビゲーション手術や鏡視下手術・ロボット手術等の最新の手術法について理解し、説明できる。
鏡視下手術のトレーニング(シミュレータ含む)、技術評価を実際に体験し、その重要性を説明できる。
基本的な外科手技を理解し、正確な基本手技を身につけ対応できる。
スポーツ医学について理解し、説明できる。

テキスト

出) 著)

参考書

標準外科学
出)医学書院 著)
歯科医のための外科学
出)医歯薬出版 著)

成績評価方法・基準

評価項目	割合
出席	30%
態度・積極性	20%
試問	50%

その他

学生相談：原則として月・金曜の12:00-13:00, 16:30-17:30に対応する

2017年度

周術期管理と外科基本手技 (Basic surgical skills)

開講年次	1～3年	期区分	通年	科目	副科目(研究)	単位数	2
授業方法	講義・演習	時間数	30	曜日		時限	
開講学科	歯学研究科 歯学専攻						
科目責任者	中島 秀彰						
担当教員	中島 秀彰						

授業計画

回	学習内容	授業方法	担当教員	事前・事後学習 学習課題
1	オリエンテーション	講義	中島	-
2	侵襲と生体反応 病気が起きた時や外科的侵襲が加わった時、生体にはどのような反応が起き、どの様にしてこのような侵襲から立ち直ることが出来るのか、生体が持つ基本的システムを学習する。	講義	中島	講義・演習の復習
3	術前・術後管理と合併症 外科手術を安全に行うために、どのような検査や準備をして手術に臨むか、手術適応はどの様に決定されるか、術中・術後の患者管理の要点、等について学習する。	講義	中島	講義・演習の復習
4	外科基本手技1 糸結び等の外科基本手技について、理論的裏付けをふまえて、確実に出来るように学習する。	講義、演習	中島	講義・演習の復習
5	外科基本手技2 結紮・縫合等の外科基本手技について、理論的裏付けをふまえて、確実に出来るように学習する。	講義、演習	中島	講義・演習の復習
6	医療安全、クリニカルパス 医療安全活動について、アクシデント/インシデント報告等の意義や理論をふまえながら、実戦的に学習する。また、医療安全活動における、クリニカルパスの意義についても学習する。	講義	中島	講義・演習の復習
7	癌に対する集学的治療と終末期医療 癌の治療について、手術・抗癌剤・放射線等の集学的治療の意義と、癌末期患者に対する終末期医療の重要性をふまえながら、癌に対する初期から終末期までの総合的なシームレスケアの基本を学習する。	講義	中島	講義・演習の復習
8	創傷治癒とスポーツ医学 スポーツ医学について、創傷治癒の基礎的知識をふまえながら、学習する。	講義	中島	講義・演習の復習
9	感染症対策 院内感染予防について、標準的感染予防策や感染経路別予防策の知識をふまえて、実戦的に学習する。	講義	中島	講義・演習の復習
10	新しい手術機器 外科手術の安全性を高めることに貢献している、新しい手術機器について、従来の機器との比較をふまえながら、特徴と理論について学習する。	講義	中島	講義・演習の復習
11	ロボット手術やナビゲーション手術等の最新の外科手術 通常の外科手術に替わって行われる様になった、ロボット手術やナビゲーション手術の基礎的知識を、長所と短所をふまえながら、学習する。	講義、演習	中島	講義・演習の復習
12	院内感染対策と医療安全の実践 院内感染対策と医療安全に関して、他の医療施設との比較をふまえて、本学の優れている点・劣っている点を学習する。	講義、演習	中島	講義・演習の復習
13	鏡視下手術のボックストレーニングによるトレーニングと技術評価 ボックストレーニングを用いて行われる鏡視下手術の技術評価について、自らの体験をふまえて、学習する。	講義、演習	中島	講義・演習の復習
14	鏡視下手術のVRシミュレータによるトレーニングと技術評価 VRシミュレータを用いて行われる鏡視下手術の技術評価について、自らの体験をふまえて、学習する。	講義、演習	中島	講義・演習の復習
15	栄養・輸液・輸血 試問 栄養法・輸液・輸血に関して、安全面をふまえながら、基礎知識と実践法を学習する。	講義、テスト	中島	-

2017年度

大学院特別講義 (Advanced Lecture)

開講年次	1～4年	期区分	通年	科目	選択科目	単位数	2
授業方法	講義	時間数	32	曜日	木曜日	時限	
開講学科	歯学研究科 歯学専攻						
科目責任者	歯学研究科長						
担当教員	歯学研究科長、細川 隆司、森本 泰宏、北村 知昭、小野 堅太郎、福泉 隆喜、自見 英治郎、瀬田 祐司、川元 龍夫、木尾 哲朗、牧 憲司、安細 敏弘、竹内 弘						

授業の概要

第一線で活躍されている研究者を招き、最新情報を講演してもらう。

学生の到達目標

1. 各講演者の専門領域の最新情報を得て知識を高める。
2. 研究の背景、研究をするに到った動機、研究の結果および考察を理解できる。
3. 今後の研究の展開について考え対応できる。
4. 講演内容が各自の研究へどのように反映されるか考え対応できる。

テキスト

出) 著)

参考書

出) 著)

成績評価方法・基準

評価項目	割合
出席・講義終了後レポート	100%

その他

2017年度

大学院特別講義 (Advanced Lecture)

開講年次	1～4年	期区分	通年	科目	選択科目	単位数	2
授業方法	講義	時間数	32	曜日	木曜日	時限	
開講学科	歯学研究科 歯学専攻						
科目責任者	歯学研究科長						
担当教員	歯学研究科長、細川 隆司、森本 泰宏、北村 知昭、小野 堅太郎、福泉 隆喜、自見 英治郎、瀬田 祐司、川元 龍夫、木尾 哲朗、牧 憲司、安細 敏弘、竹内 弘						

授業計画

回	学習内容	授業方法	担当教員	事前・事後学習 学習課題
1	咀嚼制御系に関わる高次脳機能の解明	講義	木本 克彦 (神奈川歯科大学) 細川 隆司	講義後レポート
2	分子進化の数理的研究 - 自然淘汰の互助的相互作用を伴う共進化機構の解明 -	講義	飯塚 勝 森本 泰宏	講義後レポート
3	副作用の少ない新しい抗炎症剤 (NF- κ B阻害薬) の開発研究 - 基礎医学の成果を臨床に生かすための研究 -	講義	岡本 一起(大阪大学産業科学研究所) 北村 知昭	講義後レポート
4	非歯原性歯痛の診査、診断と治療 - 関連痛と神経障害性疼痛の臨床所見と考えられている病因 -	講義	小宮山 道 (日本大学松戸歯学部) 小野 堅太郎	講義後レポート
5	摂食嚥下障害とQOL - QOL評価の基礎と実際	講義	内藤 真理子(名古屋大学) 福泉 隆喜	講義後レポート
6	認知症高齢者の摂食嚥下障害：原因疾患別アプローチ	講義	平野 浩彦 (東京都健康長寿医療センター) 福泉 隆喜	講義後レポート
7	摂食時に生じる口腔顔面感覚の生理学的重要性と嚥下誘発における味覚の役割	講義	山村 健介 (新潟大学) 小野 堅太郎	講義後レポート
8	骨格筋に異所性骨化を生じる進行性骨化性線維異形成症 (FOP)	講義	片桐 岳信 (埼玉医科大学) 自見 英治郎	講義後レポート
9	歯胚の細胞生物学：エナメル質形成の主役と脇役	講義	田畑 純(東京医科歯科大学) 瀬田 祐司	講義後レポート
10	舌・上部気道と閉塞型睡眠時無呼吸症候群	講義	小野 卓史 (東京医科歯科大学) 川元 龍夫	講義後レポート
11	医学教育研究の動向	講義	藤崎 和彦 (岐阜大学) 木尾 哲朗	講義後レポート
12	保隙と能動的咬合誘導	講義	木本 茂成 (神奈川歯科大学) 牧 憲司	講義後レポート

2017年度

大学院特別講義 (Advanced Lecture)

開講年次	1～4年	期区分	通年	科目	選択科目	単位数	2
授業方法	講義	時間数	32	曜日	木曜日	時限	
開講学科	歯学研究科 歯学専攻						
科目責任者	歯学研究科長						
担当教員	歯学研究科長、細川 隆司、森本 泰宏、北村 知昭、小野 堅太郎、福泉 隆喜、自見 英治郎、瀬田 祐司、川元 龍夫、木尾 哲朗、牧 憲司、安細 敏弘、竹内 弘						

回	学習内容	授業方法	担当教員	事前・事後学習 学習課題
13	唾液腺の再生に関する研究	講義	福本 敏(東北大学) 牧 憲司	講義後レポート
14	高齢者の咬合力と栄養と全身の健康の関係	講義	池邊 一典(大阪大学) 安細 敏弘	講義後レポート
15	iPS細胞が描く歯科医療の未来 ～これからの再生歯科医療への期待と課題～	講義	江草 宏(東北大学) 竹内 弘	講義後レポート
16	オーラルフレイルに対する戦略について	講義	渡邊 裕(東京都健康長寿医療センター) 安細 敏弘	講義後レポート

2017年度

生命分子形態学 (Molecular Biological Morphology)

開講年次	1～2年	期区分	通年	科目	選択科目	単位数	1
授業方法	演習	時間数	16	曜日		時限	
開講学科	歯学研究科 歯学専攻						
科目責任者	瀬田 祐司						
担当教員	瀬田 祐司、豊野 孝、中富 満城、片岡 真司						

授業の概要

- (1) 硬組織や軟組織を中心に、口腔組織の常態や病態について関連の最新の研究の動向を理解するため、文献を詳読する。
- (2) 顕微鏡ならびに電顕試料の作製法を理解するとともに、標本作製できる。
- (3) 免疫組織化学法、in situ Hybridization法を理解するとともに標本作製できる。

学生の到達目標

1. 英語文献を読み込む能力を養うとともに、論文を書く能力を習得し、実践できる。
2. 免疫組織化学法を理解できる。
3. in situ Hybridization法の基礎を理解できる。
4. 免疫電子顕微鏡法の基礎を理解できる。

テキスト

出) (著)

参考書

組織学、分子生物学で最近報告した文献は必読。および関連した文献、参考書を読む。

出) (著)

成績評価方法・基準

評価項目	割合
演習中の試問に対する回答	60%
研究内容の理解度と研究の展開への意欲	40%

その他

学生相談：随時

2017年度

生命分子形態学 (Molecular Biological Morphology)

開講年次	1～2年	期区分	通年	科目	選択科目	単位数	1
授業方法	演習	時間数	16	曜日		時限	
開講学科	歯学研究科 歯学専攻						
科目責任者	瀬田 祐司						
担当教員	瀬田 祐司、豊野 孝、中富 満城、片岡 真司						

授業計画

回	学習内容	授業方法	担当教員	事前・事後学習 学習課題
1	オリエンテーション 本演習で学ぶ手技について原理・応用を学習する。	講義	瀬田、豊野、中富、片岡	文献及び参考文献の学習
2	組織切片の作製法 1 各種固定液の調整法、マウスの還流固定を演習する。	演習	瀬田、豊野、中富、片岡	文献及び参考文献の学習
3	組織切片の作製法 2 固定した組織の包埋を演習する。	演習	瀬田、豊野、中富、片岡	文献及び参考文献の学習
4	組織切片の作製法3 包埋したブロックからの切片作製法を演習する。	演習	瀬田、豊野、中富、片岡	文献及び参考文献の学習
5	免疫染色演習（組織における蛋白局在の検索） 抗体を用いて切片上での蛋白質の局在の検索を演習する。	演習	瀬田、豊野、中富、片岡	文献及び参考文献の学習
6	In situ Hybridization法演習 1 In situ Hybridization用の組織切片の作製法を演習する。	演習	瀬田、豊野、中富、片岡	文献及び参考文献の学習
7	In situ Hybridization法演習 2 プローブを用いて、組織切片上での遺伝子発現を検索する方法を演習する。	演習	瀬田、豊野、中富、片岡	文献及び参考文献の学習
8	免疫電子顕微鏡法の基礎と実際 post embedding法による蛋白の微細局在の検出を演習する。	演習	瀬田、豊野、中富、片岡	文献及び参考文献の学習

2017年度

分子生物学演習 (Molecular Biology Training Program)

開講年次	1～3年	期区分	夏期または冬期休暇期間中	科目	選択科目	単位数	1
授業方法	講義・演習	時間数	20	曜日		時限	
開講学科	歯学研究科 歯学専攻						
科目責任者	自見 英治郎						
担当教員	自見 英治郎、古株 彰一郎、松原 琢磨						

授業の概要

分子生物学実験でよく用いられるWestern Blotting法とRT-PCR法を理解し、各自の研究に応用する。また、科学論文で上記方法がどのような解析に用いられているか理解する。分子生物学演習ではWestern Blotting法とRT-PCR法をマスターする。

具体的には、骨芽細胞を骨誘導因子BMPで刺激し、BMPのシグナル伝達分子Smad1/5/8のリン酸化をWestern Blotで検討する。またBMP刺激によって発現が誘導される転写因子 (Id1, Osterix) や骨芽細胞の分化マーカー (型コラーゲン、Osteonectin, Osteocalcin) の発現の変化をRT-PCR法で検討する。

学生の到達目標

- ・セントラルドグマを説明できる。
- ・RNA、タンパク質の取り扱いができる。
- ・RT-PCRの原理を説明できる。
- ・Western Blottingの原理を説明できる。

テキスト

出) 著)

参考書

分子情報生化学分野に常備している実験プロトコル集を利用すれば良い。各自の必要性に応じて参考書を購入すれば良い(どのような参考書が良いかわからない時は相談に応じる)。

出) 著)

成績評価方法・基準

評価項目	割合
実験に取り組む姿勢	100%

その他

学生相談：随時

2017年度

分子生物学演習 (Molecular Biology Training Program)

開講年次	1～3年	期区分	夏期または冬期休暇期間中	科目	選択科目	単位数	1
授業方法	講義・演習	時間数	20	曜日		時限	
開講学科	歯学研究科 歯学専攻						
科目責任者	自見 英治郎						
担当教員	自見 英治郎、古株 彰一郎、松原 琢磨						

授業計画

回	学習内容	授業方法	担当教員	事前・事後学習 学習課題
1,2	Western Blotting について学ぶ# 1 骨芽細胞をBMPで刺激し、経時的(0,15,30,60,120分)にタンパク質を調製する。	講義・演習	自見 古株	タンパク質の 取扱の予習
3,4	Western Blotting について学ぶ# 2 タンパク定量、SDS-PAGE、transferからblocking後、1次抗体を反応させる。	講義・演習	自見 松原	Western Blottingの原理 の予習
5,6	Western Blotting について学ぶ# 3 2次抗体の反応、結果を見る。 RT-PCR について学ぶ# 1 骨芽細胞をBMPで刺激し、経時的(1,2,4,12,24 h)にRNAを調製し、RNAの定量をおこなう。	講義・演習	古株 松原	RNAの取り扱 いの予習
7,8	RT-PCR について学ぶ# 2 cDNAの合成およびPCRをおこなう。	講義・演習	古株	RT-PCRの原理 の予習
9,10	RT-PCR について学ぶ# 3 PCRの結果をアガロース電気泳動で確認する。	講義・演習	古株	RT-PCRおよび Western Blottingの復習

2017年度

分子生物学演習 (Molecular Biology Training Program)

開講年次	1～3年	期区分	夏期または冬期休暇期間中	科目	選択科目	単位数	1
授業方法	講義・演習	時間数	20	曜日		時限	
開講学科	歯学研究科 歯学専攻						
科目責任者	自見 英治郎						
担当教員	自見 英治郎、古株 彰一郎、松原 琢磨						

授業の概要

分子生物学実験でよく用いられる遺伝子導入法を理解し、各自の研究に応用する。また、科学論文で上記方法がどのような解析に用いられているか理解する。分子生物学演習 では遺伝子導入法とその発現量、機能解析法をマスターする。

学生の到達目標

- ・遺伝子導入の原理について説明できる。
- ・タグの種類、検出法が説明できる。
- ・ルシフェラーゼアッセイの原理が説明できる。

テキスト

出) (著)

参考書

分子情報生化学分野に常備している実験プロトコル集を利用すれば良い。各自の必要性に応じて参考書を購入すれば良い(どのような参考書が良いかわからない時は相談に応じる)。

出) (著)

成績評価方法・基準

評価項目	割合
実験に取り組む姿勢	100%

その他

学生相談：随時

2017年度

分子生物学演習 (Molecular Biology Training Program)

開講年次	1～3年	期区分	夏期または冬期休暇期間中	科目	選択科目	単位数	1
授業方法	講義・演習	時間数	20	曜日		時限	
開講学科	歯学研究科 歯学専攻						
科目責任者	自見 英治郎						
担当教員	自見 英治郎、古株 彰一郎、松原 琢磨						

授業計画

回	学習内容	授業方法	担当教員	事前・事後学習 学習課題
1,2	遺伝子導入法の原理と手技を学ぶ。 遺伝子導入法の種類およびルシフェラーゼアッセイの原理の説明。 FLAGタグ、V5タグを付加した遺伝子とルシフェラーゼ遺伝子を導入する。	講義・演習	自見	遺伝子導入の原理およびタグの予習
3,4	ルシフェラーゼアッセイの原理と手技を学ぶ タンパク質の調製およびルシフェラーゼアッセイ。	講義・演習	古株	ルシフェラーゼアッセイの予習
5,6	タグの原理と検出方法を学ぶ タグに対する抗体を用いたWestern blottingによる遺伝子導入したタンパク質の発現確認	講義・演習	古株	タグを付加した遺伝子の発現確認法の予習
7,8	GFP融合タンパク質の原理を学ぶ。 GFP融合タンパク質の説明とGFP誘導タンパク質の遺伝子導入	講義・演習	松原	GFP融合タンパク質の予習
9,10	GFP融合タンパク質の検出方法を学ぶ。 蛍光顕微鏡によるGFPの発現確認	講義・演習	松原	遺伝子導入の復習

2017年度

神経生理実験法 (Neurophysiological Techniques)

開講年次	1～2年	期区分	通年	科目	選択科目	単位数	1
授業方法	演習	時間数	16	曜日		時限	
開講学科	歯学研究科 歯学専攻						
科目責任者	小野 堅太郎						
担当教員	小野 堅太郎、人見 涼露						

授業の概要

スライス標本作製法および単離神経細胞の作製方法を教授する。
パッチクランプ法を教授する。
動物実験による痛みの評価方法を教授する。

学生の到達目標

- 1.スライス標本作製法を習得する。
- 2.神経細胞の単離の仕方および単離した神経細胞からの電気信号の記録法を理解する。
- 3.疼痛の評価法を理解する。

テキスト

出) (著)

参考書

新パッチクランプ実験技術法、生理学実習書など
出) (著)

成績評価方法・基準

評価項目	割合
出席	30%
レポート、および演習の理解度	70%

その他

学生相談：随時

2017年度

神経生理実験法 (Neurophysiological Techniques)

開講年次	1~2年	期区分	通年	科目	選択科目	単位数	1
授業方法	演習	時間数	16	曜日		時限	
開講学科	歯学研究科 歯学専攻						
科目責任者	小野 堅太郎						
担当教員	小野 堅太郎、人見 涼露						

授業計画

回	学習内容	授業方法	担当教員	事前・事後学習 学習課題
1~8	スライス標本作製 パッチクランプ法 疼痛評価法 スライス標本作製し、神経細胞からパッチクランプにより電気活動記録を行う方法を学ぶ。動物を用いた痛覚評価法を学ぶ。	演習	小野、人見	文献、参考書の予習と演習の復習

2017年度

画像撮影技術と解析法 (Imaging technique and its analysis)

開講年次	1～2年	期区分	通年	科目	選択科目	単位数	1
授業方法	演習	時間数	16	曜日		時限	
開講学科	歯学研究科 歯学専攻						
科目責任者	森本 泰宏						
担当教員	森本 泰宏、田中 達朗、鬼頭 慎司、小田 昌史、松本 忍 (歯科放射線指導医) 森本 泰宏、田中 達朗、鬼頭 慎司 (歯科放射線専門医) 森本 泰宏、田中 達朗、鬼頭 慎司、若杉 奈緒 (歯科放射線認定医) 森本 泰宏、田中 達朗、鬼頭 慎司、若杉 奈緒						

授業の概要

CT及びコーンビームCTの撮影技術と解析法を教授する。
MRIの撮影技術と解析法を教授する。
超音波検査の検査技術と解析法を教授する。

学生の到達目標

CT及びコーンビームCTの撮影を経験し、知識を高める。
MRI撮影の技術を経験し、知識を高める。
超音波検査を経験し、知識を高める。

テキスト

出) 著)

参考書

CT、CBCT、MRI及び超音波装置の取扱説明書
出) 著)

成績評価方法・基準

評価項目	割合
出席	40%
レポート	20%
演習	40%

演習(40点)の理解度により評価する。

その他

病院3階歯科放射線科診療室及び病院11階歯科放射線学講座研究室にて随時質問事項を受け付けています。

2017年度

画像撮影技術と解析法 (Imaging technique and its analysis)

開講年次	1～2年	期区分	通年	科目	選択科目	単位数	1
授業方法	演習	時間数	16	曜日		時限	
開講学科	歯学研究科 歯学専攻						
科目責任者	森本 泰宏						
担当教員	森本 泰宏、田中 達朗、鬼頭 慎司、小田 昌史、松本 忍 (歯科放射線指導医) 森本 泰宏、田中 達朗、鬼頭 慎司 (歯科放射線専門医) 森本 泰宏、田中 達朗、鬼頭 慎司、若杉 奈緒 (歯科放射線認定医) 森本 泰宏、田中 達朗、鬼頭 慎司、若杉 奈緒						

授業計画

回	学習内容	授業方法	担当教員	事前・事後学習 学習課題
1～3	CT及びコーンビームCT (CBCT) の撮影技術と画像解析法について実践を通して理解する。	演習	森本、田中、鬼頭、若杉	予習、復習として参考書を読む
4～6	MRIの撮影技術と画像解析法について実践を通して理解する。	演習	森本、田中、鬼頭、若杉	予習、復習として参考書を読む
7～8	超音波画像の撮影技術と画像解析法について実践を通して理解する。	演習	森本、田中、鬼頭、若杉	予習、復習として参考書を読む

2017年度

歯科治療リスクマネジメント (Risk management of the medically compromised patient)

開講年次	1~3	期区分	通年	科目	選択科目	単位数	1
授業方法	講義・演習	時間数	16	曜日		時限	
開講学科	歯学研究科 歯学専攻						
科目責任者	大渡 凡人						
担当教員	大渡 凡人						

授業の概要

全身疾患の基礎的な病態生理から安全な歯科治療を実現するためのリスクマネジメントを医学的エビデンスを基に解説する

学生の到達目標

- 1.全身疾患の基礎的な病態生理を解説できる。
- 2.全身疾患をもつ患者の安全な歯科治療を実現するためのリスクマネジメントを病態生理と医学的エビデンスを基に解説できる。
- 3.複雑な全身疾患をもつ患者の実臨床におけるリスクマネジメントの構築方法を解説できる。

テキスト

全身的偶発症とリスクマネジメント 高齢者歯科診療のストラテジー
出)医歯薬出版;2012 著)大渡凡人

参考書

Little and Falace's Dental Management of the Medically Compromised Patient, 8e
出)Mosby

著)James W. Little DMD MS, Craig Miller DMD MS, Nelson L. Rhodus DMD MPH, Donald Falace DMD

成績評価方法・基準

評価項目	割合
プレテスト・ポストテスト・レポート	100%

その他

2017年度

歯科治療リスクマネジメント (Risk management of the medically compromised patient)

開講年次	1~3	期区分	通年	科目	選択科目	単位数	1
授業方法	講義・演習	時間数	16	曜日		時限	
開講学科	歯学研究科 歯学専攻						
科目責任者	大渡 凡人						
担当教員	大渡 凡人						

授業計画

回	学習内容	授業方法	担当教員	事前・事後学習 学習課題
1	術前状態評価 患者情報収集・全身状態評価について医学的エビデンスを踏まえながら学ぶ	講義・実習	大渡	基礎的な理学的検査・薬剤の理解
2	治療中のリスクマネジメント 局所麻酔・モニタリング・ワルファリン、DOACsについて医学的エビデンスを踏まえながら学ぶ	講義・実習	大渡	基礎的な局所麻酔薬に関する薬理学的な理解
3	治療後の基本的な注意点と対策 抗菌薬・NSAIDsとアセトアミノフェンについて医学的エビデンスを踏まえながら学ぶ	講義・実習	大渡	基礎的な抗菌薬・鎮痛剤に関する薬理学的な理解
4	1.循環器疾患と歯科治療-1 血圧異常・虚血性心疾患・不整脈について医学的エビデンスを踏まえながら学ぶ	講義・実習	大渡	基礎的な循環動態の理解
5	1.循環器疾患と歯科治療-2 心不全・心臓弁膜症と感染性心内膜炎・成人先天性心疾患・心筋疾患・大動脈疾患・不整脈デバイスと最新の治療法について医学的エビデンスを踏まえながら学ぶ	講義・実習	大渡	基礎的な抗菌薬予防投与の理解
6	2.神経疾患と歯科治療 3.精神障害と歯科治療 4.呼吸器疾患と歯科治療 5.代謝疾患と歯科治療 基礎的な病態生理と実際のリスクマネジメントについて医学的エビデンスを踏まえながら学ぶ	講義・実習	大渡	基礎的な中枢神経・代謝の理解
7	6.内分泌疾患と歯科治療 7.腎尿路疾患と歯科治療 8.肝疾患と歯科治療 9.血液疾患と歯科治療 10.膠原病と歯科治療 基礎的な病態生理と実際のリスクマネジメントについて医学的エビデンスを踏まえながら学ぶ	講義・実習	大渡	基礎的な腎機能、肝機能の理解
8	心電図の基礎と解析 臨床で発生しうる心電図異常とその対応について医学的エビデンスを踏まえながら学ぶ	講義・実習 シミュレーション 小テスト	大渡	基礎的な心電図波形の理解

2017年度

分析化学特論 (Advanced Analytical Chemistry)

開講年次	1～3年	期区分	通年	科目	歯工学連携科目（九工大）	単位数	2
授業方法	講義	時間数	30	曜日		時限	
開講学科	歯学研究科 歯学専攻						
科目責任者	〔非常勤講師〕竹中 繁織						
担当教員	〔非常勤講師〕竹中 繁織						

授業の概要

分析化学は科学のあらゆる領域に必要な学問として位置付けられる。特に、バイオテクノロジーの発展に伴ってバイオ分析化学が発展してきている。ここでは、最近のバイオ技術を取り上げ基礎から応用まで講義する。

学生の到達目標

バイオ分析に関して以下の項目に関して原理と応用について理解できるようになる。

- (1) バイオ分析の基礎
- (2) クロマトグラフィーの概念と生体物質への応用
- (3) 電気泳動の歴史と概念
- (4) タンパク質、核酸の電気泳動
- (5) 可視・紫外分光光度法
- (6) 蛍光の理論
- (7) 蛍光分光光度法
- (8) 蛍光共鳴エネルギー移動の理論と応用
- (9) 赤外分光光度法
- (10) 円二色分光光度法
- (11) 電子スピン共鳴吸収 (ESR)
- (12) 核磁気共鳴
- (13) マス分光光度法
- (14) 酵素免疫測定法およびフローサイトメトリー (15) 熱分析

テキスト

出) (著)

参考書

バイオ機器分析入門
出)講談社サイエンティフィク 著)相澤益男・山田秀徳 編

成績評価方法・基準

評価項目	割合
	100%

- ・講義ノートの提出を求める。
- ・授業中の小テストや試験にて評価を行う。

その他

2017年度

分析化学特論 (Advanced Analytical Chemistry)

開講年次	1～3年	期区分	通年	科目	歯工学連携科目（九工大）	単位数	2
授業方法	講義	時間数	30	曜日		時限	
開講学科	歯学研究科 歯学専攻						
科目責任者	〔非常勤講師〕竹中 繁織						
担当教員	〔非常勤講師〕竹中 繁織						

授業計画

回	学習内容	授業方法	担当教員	事前・事後学習 学習課題
1	バイオ分析の基礎	講義	竹中	関係する学習内容を予習しておくこと。授業で行った内容を復習しておくこと。
2	クロマトグラフィーの概念と生体物質への応用	講義	竹中	前回の授業の終わりに指定する内容を予習しておくこと。授業で行った内容を復習しておくこと。
3	電気泳動の歴史と概念	講義	竹中	前回の授業の終わりに指定する内容を予習しておくこと。授業で行った内容を復習しておくこと。
4	タンパク質、核酸の電気泳動	講義	竹中	前回の授業の終わりに指定する内容を予習しておくこと。授業で行った内容を復習しておくこと。
5	可視・紫外分光光度法	講義	竹中	前回の授業の終わりに指定する内容を予習しておくこと。授業で行った内容を復習しておくこと。
6	蛍光の理論	講義	竹中	前回の授業の終わりに指定する内容を予習しておくこと。授業で行った内容を復習しておくこと。
7	蛍光分光光度法	講義	竹中	前回の授業の終わりに指定する内容を予習しておくこと。授業で行った内容を復習しておくこと。
8	蛍光共鳴エネルギー移動の理論と応用	講義	竹中	前回の授業の終わりに指定する内容を予習しておくこと。授業で行った内容を復習しておくこと。

2017年度

分析化学特論 (Advanced Analytical Chemistry)

開講年次	1～3年	期区分	通年	科目	歯工学連携科目（九工大）	単位数	2
授業方法	講義	時間数	30	曜日		時限	
開講学科	歯学研究科 歯学専攻						
科目責任者	〔非常勤講師〕竹中 繁織						
担当教員	〔非常勤講師〕竹中 繁織						

回	学習内容	授業方法	担当教員	事前・事後学習課題
9	赤外スペクトロメトリー	講義	竹中	前回の授業の終わりに指定する内容を予習しておくこと。授業で行った内容を復習しておくこと。
10	円二色スペクトロメトリー	講義	竹中	前回の授業の終わりに指定する内容を予習しておくこと。授業で行った内容を復習しておくこと。
11	電子スピン共鳴吸収 (ESR)	講義	竹中	前回の授業の終わりに指定する内容を予習しておくこと。授業で行った内容を復習しておくこと。
12	核磁気共鳴	講義	竹中	前回の授業の終わりに指定する内容を予習しておくこと。授業で行った内容を復習しておくこと。
13	マススペクトロメトリー	講義	竹中	前回の授業の終わりに指定する内容を予習しておくこと。授業で行った内容を復習しておくこと。
14	酵素免疫測定法およびフローサイトメトリー	講義	竹中	前回の授業の終わりに指定する内容を予習しておくこと。授業で行った内容を復習しておくこと。
15	熱分析、バイオ分析法のまとめ	講義	竹中	前回の授業の終わりに指定する内容を予習しておくこと。

2017年度

バイオ計測学特論 (Advanced Bioanalytical chemistry)

開講年次	1～2年	期区分	通年	科目	歯工学連携科目（九工大）	単位数	2
授業方法	講義	時間数	30	曜日		時限	
開講学科	歯学研究科 歯学専攻						
科目責任者	〔非常勤講師〕佐藤 しのぶ						
担当教員	〔非常勤講師〕佐藤 しのぶ						

授業の概要

バイオ分析化学は生命化学を学ぶ上で必要不可欠な学問として位置付けられる。ここでは、小分子と核酸、小分子と蛋白質の相互作用を分析するための最新のバイオ分析手法を取り上げ講義する。

学生の到達目標

1. 生体高分子である蛋白質、核酸、酵素に関する知識を習得する。
2. 生体高分子の代表的な分析手法である分子分光分析、等温滴定型カロリメトリー、水晶発振子マイクロバランス、表面プラズモン共鳴、円偏光二色性分析、電気化学測定、原子間力顕微鏡の原理を理解する。
3. データの取り扱い方、統計解析法を習得する。

テキスト

出) 著)

参考書

Essential 細胞生物学
出)南江堂 著)中村桂子・松原謙一 監訳

ベーシック分析化学
出)化学同人 著)高木誠 編著

生命科学のための物理化学
出)東京科学同人 著)稲葉章・中側敦史 訳

成績評価方法・基準

評価項目	割合
授業中の小テスト	15%
中間試験・期末試験	85%

その他

2017年度

バイオ計測学特論 (Advanced Bioanalytical chemistry)

開講年次	1～2年	期区分	通年	科目	歯工学連携科目（九工大）	単位数	2
授業方法	講義	時間数	30	曜日		時限	
開講学科	歯学研究科 歯学専攻						
科目責任者	〔非常勤講師〕佐藤 しのぶ						
担当教員	〔非常勤講師〕佐藤 しのぶ						

授業計画

回	学習内容	授業方法	担当教員	事前・事後学習 学習課題
1	授業の概説	講義	佐藤	講義の復習
2	蛋白質、核酸、酵素の構造と特徴	講義	佐藤	講義の復習と次回講義部分の予習
3	分子分光分析-1 (結合解析)	講義	佐藤	講義の復習と次回講義部分の予習
4	分子分光分析-2 (速度論解析)	講義	佐藤	講義の復習と次回講義部分の予習
5	分子分光分析-3 (熱力学的解析)	講義	佐藤	講義の復習と次回講義部分の予習
6	等温滴定型カロリメトリー	講義	佐藤	講義の復習と次回講義部分の予習
7	水晶発振子マイクロバランス	講義	佐藤	講義の復習と次回講義部分の予習
8	表面プラズモン共鳴	講義	佐藤	講義の復習と次回講義部分の予習
9	円偏光二色性分析	講義	佐藤	講義の復習と次回講義部分の予習
10	電気化学測定(拡散系)	講義	佐藤	講義の復習と次回講義部分の予習
11	電気化学測定(固定化系)-1	講義	佐藤	講義の復習と次回講義部分の予習
12	電気化学測定(固定化系)-2	講義	佐藤	講義の復習と次回講義部分の予習
13	原子間力顕微鏡	講義	佐藤	講義の復習と次回講義部分の予習
14	測定データの取り扱い・統計解析	講義	佐藤	講義の復習と次回講義部分の予習
15	まとめ	講義	佐藤	講義の復習

2017年度

知的システム構成特論 (Advanced Intelligent System)

開講年次	1年	期区分	前期	科目	歯工学連携科目(九工大)	単位数	2
授業方法	講義	時間数	30	曜日		時限	
開講学科	歯学研究科 歯学専攻						
科目責任者	〔非常勤講師〕金 亨燮						
担当教員	〔非常勤講師〕金 亨燮						

授業の概要

高度な情報処理機器を実現するためには、装置としてのハードウェアに関する知識とそれを効果的に動かすための最適なソフトウェアの開発が必要である。本講義では、システムとしての画像計測装置を取り上げ、その効果的な知的システムを構築するための各種データ構造とアルゴリズムの考え方について学ぶ。

学生の到達目標

1. アルゴリズムについての知識を習得できる。
2. データ構造のための知識を習得できる。
3. データ探索問題に関する知識を習得できる。

テキスト

出) _____ 著)

参考書

出) _____ 著)

成績評価方法・基準

評価項目	割合
	100%

演習中の諮問に対する回答や、内容の理解度に基づいて点数をつける。

その他

2017年度

知的システム構成特論 (Advanced Intelligent System)

開講年次	1年	期区分	前期	科目	歯工学連携科目(九工大)	単位数	2
授業方法	講義	時間数	30	曜日		時限	
開講学科	歯学研究科 歯学専攻						
科目責任者	〔非常勤講師〕金 亨燮						
担当教員	〔非常勤講師〕金 亨燮						

授業計画

回	学習内容	授業方法	担当教員	事前・事後学習 学習課題
1	オリエンテーション	講義	金	文献、参考書予習
2	知的システムとは 知的システムの概要について、ハードウェア、ソフトウェアの両面で必要な基礎知識を学ぶ。	講義	金	講義・演習の復習と次回講義部分の予習
3	医用工学の概要 医療現場で利用されている工学的装置について幾つかの例を挙げ、ハードウェアとしての概念を学ぶ。	講義	金	講義・演習の復習と次回講義部分の予習
4	医用画像システム 医用画像計測装置の中で、CTやMRIなどのハードウェアとしての構成と、それらを効率的に動かすためのソフトコンピューティングの考え方について学ぶ。	講義	金	講義・演習の復習と次回講義部分の予習
5	アルゴリズムとは アルゴリズムについて、問題分析能力やデータ構造の基本的な考え方について学ぶ。	講義	金	講義・演習の復習と次回講義部分の予習
6	アルゴリズムの設計と解析 計算機を利用する上で必要なアルゴリズムの設計について、計算量を踏まえながら解析法について学ぶ。	講義	金	講義・演習の復習と次回講義部分の予習
7	データ構造とは プログラミング言語がサポートしている基本的なデータ型やユーザが定義したデータ型を利用したデータ構造の考え方について学ぶ。	講義	金	講義・演習の復習と次回講義部分の予習
8	基本的なデータ構造 基本的なデータ型として数値型や配列、構造体などについて学ぶ。	講義・演習	金	講義・演習の復習と次回講義部分の予習
9	線形リスト 順序付けられたリストの基本的操作について学ぶ。	講義・演習	金	講義・演習の復習と次回講義部分の予習
10	スタックと待ち行列 リスト構造の特別な場合としてのスタックと待ち行列について、データの挿入と削除法などを学ぶ。	講義・演習	金	講義・演習の復習と次回講義部分の予習
11	木構造 階層関係を表現するためのデータ構造として、木構造について学ぶ。	講義・演習	金	講義・演習の復習と次回講義部分の予習
12	データ探索問題 種々のデータ構造を利用したデータの探索法と計算時間について学ぶ。	講義・演習	金	講義・演習の復習と次回講義部分の予習
13	2分探索と平衡木 代表的なデータ構造である2分探索と平衡木の基本的な考え方について学ぶ。	講義・演習	金	講義・演習の復習と次回講義部分の予習
14	グラフ構造 データ構造を表現する一般的な方法として、グラフの考え方について学ぶ。	講義・演習	金	講義・演習の復習と次回講義部分の予習
15	総括 アルゴリズムやデータ構造を利用した知的システムとしての構築法について学ぶ。	講義	金	講義・演習の復習と次回講義部分の予習

2017年度

環境適応機能 (Environmental Bio-adaptation)

開講年次	1～2年	期区分	通年	科目	歯工学連携科目（九工大）	単位数	2
授業方法	講義	時間数	30	曜日		時限	
開講学科	歯学研究科 歯学専攻						
科目責任者	〔非常勤講師〕前田 憲成						
担当教員	〔非常勤講師〕前田 憲成						

授業の概要

細菌は精巧な環境適応機能により、ヒトでは生活できないような極限環境でさえも生き延びる術を兼ね備えている。そのような細菌が持つ有用な機能を工学的に応用するために、バイオフィルム形成機構や細菌間コミュニケーション機構などを遺伝子工学的かつ生物化学的な視点から講述し、その細菌機能に基づいた新規有用技術について論じる。

学生の到達目標

1. 環境適応機能の概説を修得する。
2. 生命情報のもとになるDNAと染色体の構造を理解する。
3. DNA複製と修復の仕組み、遺伝子変異の誘発機構などを理解する。
4. セントラルドグマの概念を修得する。
5. 6. 遺伝子発現と発現制御機構を修得する。
7. 8. 翻訳機構と触媒機構などを修得する。
9. タンパク質の進化について考察し、その応用を修得する。
10. 11. 捕食機構と共食いの仕組みを修得し、考察する。
12. 13. バイオフィルム形成やクォーラムセンシングなどの仕組みを修得し、考察する。
14. 走化性の仕組みを修得する。
15. バイオテクノロジーの展望を理解して、次世代技術を考察する。

テキスト

出) 著)

参考書

出) 著)

成績評価方法・基準

評価項目	割合
出席	20%
最終試験	80%

その他

2017年度

環境適応機能 (Environmental Bio-adaptation)

開講年次	1～2年	期区分	通年	科目	歯工学連携科目（九工大）	単位数	2
授業方法	講義	時間数	30	曜日		時限	
開講学科	歯学研究科 歯学専攻						
科目責任者	〔非常勤講師〕前田 憲成						
担当教員	〔非常勤講師〕前田 憲成						

授業計画

回	学習内容	授業方法	担当教員	事前・事後学習 学習課題
1	環境適応機能の概説	講義	前田	講義資料予習
2	DNAと染色体の構造	講義	前田	講義資料予習
3	DNA複製、修復、遺伝子変異	講義	前田	講義資料予習
4	セントラルドグマ	講義	前田	講義資料予習
5	遺伝子発現機構	講義	前田	講義資料予習
6	遺伝子発現の制御機構	講義	前田	講義資料予習
7	翻訳機構?メッセンジャーRNAからタンパク質まで?	講義	前田	講義資料予習
8	タンパク質・酵素の触媒機構	講義	前田	講義資料予習
9	タンパク質進化	講義	前田	講義資料予習
10	異種細菌の捕食機構	講義	前田	講義資料予習
11	同種細菌の共食い機構	講義	前田	講義資料予習
12	バイオフィルム形成機構	講義	前田	講義資料予習
13	細菌間コミュニケーションとクォーラムセンシング	講義	前田	講義資料予習
14	細菌の走化性の機構	講義	前田	講義資料予習
15	バイオテクノロジーの展開：基礎から応用まで	講義	前田	講義資料予習

2017年度

生体機能材料 (Functional Biomaterials)

開講年次	1～3年	期区分	前期	科目	歯工学連携科目（九工大）	単位数	2
授業方法	講義	時間数	30	曜日		時限	
開講学科	歯学研究科 歯学専攻						
科目責任者	〔非常勤講師〕宮崎 敏樹						
担当教員	〔非常勤講師〕宮崎 敏樹						

授業の概要

本講義では、まず生体の骨格構造と、その構成要素である骨および歯の基本構造、微細組織について説明する。続いて、これら生体硬組織を代替する生体機能材料の種類、生体親和性、機械的特性、作製法および各種元素の細胞毒性について述べる。さらに、生物が硬組織を作る営みに学んだバイオメテックプロセスの医用材料、環境浄化材料などへの応用を講述するとともに、再生医療やがん治療などの先端医療に各種材料が貢献している例を紹介する。

学生の到達目標

以下の項目に関して原理と応用について理解できるようになる。

- (1) 生体材料に求められる物性
- (2) 生体材料の作製プロセス
- (3) 生体材料の物性と歯科材料・医用材料への応用

テキスト

出) 著)

参考書

生体材料(2008)

出)日刊工業新聞社

著)日本セラミックス協会

バイオマテリアル-材料と生体の相互作用(2008)

出)内田老鶴圃

著)田中順三ほか編

セラミックバイオマテリアル(2009)

出)コロナ社

著)岡崎正之・山下仁大編著

バイオマテリアルの基礎(2010)

出)日本医学館

著)石原一彦, 埴隆夫, 前田瑞夫編

バイオセラミックス(2009)

出)コロナ社

著)田中順三ほか著

成績評価方法・基準

評価項目	割合
講義中に課す課題及び期末試験	100%

その他

2017年度

生体機能材料 (Functional Biomaterials)

開講年次	1～3年	期区分	前期	科目	歯工学連携科目（九工大）	単位数	2
授業方法	講義	時間数	30	曜日		時限	
開講学科	歯学研究科 歯学専攻						
科目責任者	〔非常勤講師〕宮崎 敏樹						
担当教員	〔非常勤講師〕宮崎 敏樹						

授業計画

回	学習内容	授業方法	担当教員	事前・事後学習 学習課題
1	生体材料とは何か	講義	宮崎	予め配付する講義資料の予習
2	生体材料の開発プロセスと生産の動向	講義	宮崎	講義の復習と次回資料の予習
3	骨の構造と機能	講義	宮崎	講義の復習と次回資料の予習
4	歯の構造と機能	講義	宮崎	講義の復習と次回資料の予習
5	材料と生体の相互作用	講義	宮崎	講義の復習と次回資料の予習
6	各種元素の細胞毒性	講義	宮崎	講義の復習と次回資料の予習
7	医用セラミックス	講義	宮崎	講義の復習と次回資料の予習
8	医用高分子	講義	宮崎	講義の復習と次回資料の予習
9	有機・無機ハイブリッド生体材料	講義	宮崎	講義の復習と次回資料の予習
10	医用金属材料	講義	宮崎	講義の復習と次回資料の予習
11	生物の作るセラミックス	講義	宮崎	講義の復習と次回資料の予習
12	バイオメテックプロセスの原理	講義	宮崎	講義の復習と次回資料の予習
13	バイオメテックプロセスによる生体材料・環境浄化材料の創成	講義	宮崎	講義の復習と次回資料の予習
14	再生医療を支える生体材料	講義	宮崎	講義の復習と次回資料の予習
15	がん治療を支える生体材料	講義	宮崎	講義の復習

2017年度

生体力学 (Biomechanics)

開講年次	1～2年	期区分	前期	科目	歯工学連携科目（九工大）	単位数	2
授業方法	講義	時間数	32	曜日		時限	
開講学科	歯学研究科 歯学専攻						
科目責任者	〔非常勤講師〕山田 宏						
担当教員	〔非常勤講師〕山田 宏						

授業の概要

身体各部は内外で生じる力を受けており、その機能や挙動の一部は力学的現象である。生体現象と力学的因子との関係の解明は工学的観点から健康増進や障害・疾病の予防を支援する第一歩となる。本講義では筋骨格系等における生体組織の力学特性と工学的アプローチの習得のため、固体力学の立場から生体の構造、機能と応答を評価・解析する方法論を教授する。

学生の到達目標

1. バイオメカニクスの概要と関連分野を説明できる。
2. ニュートン力学の理論に基づいて筋骨格系に働く力を計算できる。
3. 材料力学の考え方に基づいて骨や歯の力学特性や応力状態を説明できる。
4. 粘弾性理論に基づいて生体軟組織の応力緩和やクリープ変形を説明できる。
5. 連続体力学の考え方に基づいて生体軟組織の大変形を説明できる。
6. 組織と細胞の材料力学試験と有限要素法による応力・ひずみ解析の方法を説明できる。

テキスト

出) 著)

参考書

力学の基礎とバイオメカニクス
出)コロナ社

著)山田宏

成績評価方法・基準

評価項目	割合
小課題	50%
各人の疑問に基づいた調査の報告	50%

小課題は毎回の講義で課し、時間内に回収する。

その他

2017年度

生体力学 (Biomechanics)

開講年次	1～2年	期区分	前期	科目	歯工学連携科目（九工大）	単位数	2
授業方法	講義	時間数	32	曜日		時限	
開講学科	歯学研究科 歯学専攻						
科目責任者	〔非常勤講師〕山田 宏						
担当教員	〔非常勤講師〕山田 宏						

授業計画

回	学習内容	授業方法	担当教員	事前・事後学習 学習課題
1	バイオメカニクスの概要と関連分野	講義	山田	文献、参考書予習
2	無重量状態での身体の力学的状態	講義	山田	講義・演習の予復習
3	静止状態で筋骨格系に働く力	講義	山田	講義・演習の予復習
4	硬組織の微小変形	講義	山田	講義・演習の予復習
5	骨や歯の力学特性（正常・修復状態）	講義	山田	講義・演習の予復習
6	軟組織の粘弾性特性	講義	山田	講義・演習の予復習
7	疑問に基づいた調査・報告（第1～6回）	演習	山田	調査の準備と復習
8	疑問に基づいた調査・報告（第1～6回）	演習	山田	調査の準備と復習
9	能動的収縮力を発揮する骨格筋の力学特性	講義	山田	講義・演習の予復習
10	軟組織の大変形	講義	山田	講義・演習の予復習
11	心臓・血管の力学特性1（生理的機能）	講義	山田	講義・演習の予復習
12	心臓・血管の力学特性2（加齢・病変）	講義	山田	講義・演習の予復習
13	衝撃を受ける生体組織の動的力学特性	講義	山田	講義・演習の予復習
14	組織・細胞の材料力学試験と有限要素解析	講義	山田	講義・演習の予復習
15	疑問に基づいた調査・報告（第9～14回）	演習	山田	調査の準備と復習
16	疑問に基づいた調査・報告（第9～14回）	演習	山田	調査の準備と復習

2017年度

化学感覚受容概論 (Advanced Biology of Chemosensory Organs)

開講年次	1～4年	期区分	通年	科目	歯工学連携科目（九歯大）	単位数	2
授業方法	講義	時間数	30	曜日		時限	
開講学科	歯学研究科 歯学専攻						
科目責任者	瀬田 祐司						
担当教員	瀬田 祐司						

授業の概要

生体を取り巻く環境は常に変化している。生体の恒常性を維持するためには、環境変化を正確に感知し対応することが必要となる。生体の中と外の変化を受容する器官が感覚器系である。ここでは、感覚器の中で化学受容をおこなう味覚器・嗅覚器についての講義をおこなう。

学生の到達目標

テキスト

出) _____ 著) _____

参考書

出) _____ 著) _____

成績評価方法・基準

評価項目	割合
講義後の課題レポートの総合評価	100%

その他

2017年度

化学感覚受容概論 (Advanced Biology of Chemosensory Organs)

開講年次	1～4年	期区分	通年	科目	歯工学連携科目（九歯大）	単位数	2
授業方法	講義	時間数	30	曜日		時限	
開講学科	歯学研究科 歯学専攻						
科目責任者	瀬田 祐司						
担当教員	瀬田 祐司						

授業計画

回	学習内容	授業方法	担当教員	事前・事後学習 学習課題
1	感覚器概論	講義	瀬田	次回の授業範囲の予習として、不明な専門用語の意味を調べておくこと。また、授業終了時に示す課題についてレポートを作成し提出すること。
2	化学受容器の構造 1	講義	瀬田	次回の授業範囲の予習として、不明な専門用語の意味を調べておくこと。また、授業終了時に示す課題についてレポートを作成し提出すること。
3	化学受容器の構造 2	講義	瀬田	次回の授業範囲の予習として、不明な専門用語の意味を調べておくこと。また、授業終了時に示す課題についてレポートを作成し提出すること。
4	化学受容機構 1	講義	瀬田	次回の授業範囲の予習として、不明な専門用語の意味を調べておくこと。また、授業終了時に示す課題についてレポートを作成し提出すること。
5	化学受容機構 2	講義	瀬田	次回の授業範囲の予習として、不明な専門用語の意味を調べておくこと。また、授業終了時に示す課題についてレポートを作成し提出すること。

2017年度

化学感覚受容概論 (Advanced Biology of Chemosensory Organs)

開講年次	1～4年	期区分	通年	科目	歯工学連携科目（九歯大）	単位数	2
授業方法	講義	時間数	30	曜日		時限	
開講学科	歯学研究科 歯学専攻						
科目責任者	瀬田 祐司						
担当教員	瀬田 祐司						

回	学習内容	授業方法	担当教員	事前・事後学習課題
6	シグナル伝達機構 1	講義	瀬田	次回の授業範囲の予習として、不明な専門用語の意味を調べておくこと。また、授業終了時に示す課題についてレポートを作成し提出すること。
7	シグナル伝達機構 2	講義	瀬田	次回の授業範囲の予習として、不明な専門用語の意味を調べておくこと。また、授業終了時に示す課題についてレポートを作成し提出すること。
8	味覚器 1	講義	瀬田	次回の授業範囲の予習として、不明な専門用語の意味を調べておくこと。また、授業終了時に示す課題についてレポートを作成し提出すること。
9	味覚器 2	講義	瀬田	次回の授業範囲の予習として、不明な専門用語の意味を調べておくこと。また、授業終了時に示す課題についてレポートを作成し提出すること。
10	嗅覚器 1	講義	瀬田	次回の授業範囲の予習として、不明な専門用語の意味を調べておくこと。また、授業終了時に示す課題についてレポートを作成し提出すること。
11	嗅覚器 2	講義	瀬田	次回の授業範囲の予習として、不明な専門用語の意味を調べておくこと。また、授業終了時に示す課題についてレポートを作成し提出すること。

2017年度

化学感覚受容概論 (Advanced Biology of Chemosensory Organs)

開講年次	1～4年	期区分	通年	科目	歯工学連携科目（九歯大）	単位数	2
授業方法	講義	時間数	30	曜日		時限	
開講学科	歯学研究科 歯学専攻						
科目責任者	瀬田 祐司						
担当教員	瀬田 祐司						

回	学習内容	授業方法	担当教員	事前・事後学習 学習課題
12	味覚器の発生	講義	瀬田	次回の授業範囲の予習として、不明な専門用語の意味を調べておくこと。また、授業終了時に示す課題についてレポートを作成し提出すること。
13	嗅覚器の発生	講義	瀬田	次回の授業範囲の予習として、不明な専門用語の意味を調べておくこと。また、授業終了時に示す課題についてレポートを作成し提出すること。
14	化学受容細胞の分化制御機構	講義	瀬田	次回の授業範囲の予習として、不明な専門用語の意味を調べておくこと。また、授業終了時に示す課題についてレポートを作成し提出すること。
15	まとめ	講義	瀬田	

2017年度

口腔保存治療学・研究概論 (Outline of Tooth Therapeutics and Research)

開講年次	1～4年	期区分	通年	科目	歯工学連携科目（九歯大）	単位数	2
授業方法	講義	時間数	30	曜日		時限	
開講学科	歯学研究科 歯学専攻						
科目責任者	北村 知昭						
担当教員	北村 知昭						

授業の概要

歯はその中心にある歯髄とそれを取り囲む硬組織（エナメル質、象牙質、セメント質）から構成され、歯周組織（歯根膜、骨）に支持されて機能している。ここでは、歯科医療の基礎である歯の治療に関する基礎と再生医療を含む研究の概要について講義する。

学生の到達目標

テキスト

出) 著)

参考書

保存修復学第5版」
出)医歯薬出版株式会社 著)

歯内治療学第4版
出)医歯薬出版株式会社 著)

保存修復学21第3版
出)永末書店 著)

エンドドンティックス改訂第4版
出)永末書店 著)

成績評価方法・基準

評価項目	割合
総合評価	100%

試験，レポート，試問等の内容を総合して評価する。

その他

歯科医療の基本となる歯の治療に関する臨床医学的・基礎医学的内容を含んでいるので、歯科医療およびライフ・サイエンスに対する理解と興味を持つ姿勢を持つことを望む。

2017年度

口腔保存治療学・研究概論 (Outline of Tooth Therapeutics and Research)

開講年次	1～4年	期区分	通年	科目	歯工学連携科目（九歯大）	単位数	2
授業方法	講義	時間数	30	曜日		時限	
開講学科	歯学研究科 歯学専攻						
科目責任者	北村 知昭						
担当教員	北村 知昭						

授業計画

回	学習内容	授業方法	担当教員	事前・事後学習 学習課題
1	歯の治療に必要な基礎口腔医学(1)正常組織	講義	北村	授業終了時に示す課題についてレポートを作成し提出すること。
2	歯の治療に必要な基礎口腔医学(2)刺激に対する組織反応	講義	北村	授業終了時に示す課題についてレポートを作成し提出すること。
3	歯に発症する疾患(1)歯の硬組織に生じる疾患	講義	北村	授業終了時に示す課題についてレポートを作成し提出すること。
4	歯に発症する疾患(2)歯の周囲組織に生じる疾患	講義	北村	授業終了時に示す課題についてレポートを作成し提出すること。
5	歯に発症する疾患(3)診断	講義	北村	授業終了時に示す課題についてレポートを作成し提出すること。
6	歯髄の保護法と修復：概論	講義	北村	授業終了時に示す課題についてレポートを作成し提出すること。
7	歯の治療法：概論	講義	北村	授業終了時に示す課題についてレポートを作成し提出すること。
8	顕微鏡を使った治療：マイクロ・エンドドンティックス	講義	北村	授業終了時に示す課題についてレポートを作成し提出すること。
9	治療後の機能回復：概論	講義	北村	授業終了時に示す課題についてレポートを作成し提出すること。
10	他の歯科疾患・治療との関連	講義	北村	授業終了時に示す課題についてレポートを作成し提出すること。
11	治療後の経過とメンテナンス	講義	北村	授業終了時に示す課題についてレポートを作成し提出すること。

2017年度

口腔保存治療学・研究概論 (Outline of Tooth Therapeutics and Research)

開講年次	1～4年	期区分	通年	科目	歯工学連携科目（九歯大）	単位数	2
授業方法	講義	時間数	30	曜日		時限	
開講学科	歯学研究科 歯学専攻						
科目責任者	北村 知昭						
担当教員	北村 知昭						

回	学習内容	授業方法	担当教員	事前・事後学習課題
12	診断・治療の限界と求められる研究	講義	北村	授業終了時に示す課題についてレポートを作成し提出すること。
13	歯の治療に関する研究概論(1)	講義	北村	授業終了時に示す課題についてレポートを作成し提出すること。
14	歯の治療に関する研究概論(2)	講義	北村	授業終了時に示す課題についてレポートを作成し提出すること。
15	歯の治療に関する研究概論(3)	講義	北村	

2017年度

歯周病学概論 (Periodontology)

開講年次	1～4年	期区分	通年	科目	歯工学連携科目（九歯大）	単位数	2
授業方法	講義	時間数	30	曜日		時限	
開講学科	歯学研究科 歯学専攻						
科目責任者	中島 啓介						
担当教員	中島 啓介						

授業の概要

う蝕と歯周病は歯科領域における二大疾病である。近年、う蝕により喪失する歯の数は減少したが、歯周病により喪失する歯の数はさほど変化していない。高齢者において、歯周病による歯の喪失を予防し咀嚼機能を維持することは、生活の質（QOL）を向上させる。歯周病の病態および治療について、診査・治療器具を提示しながら解説する。

学生の到達目標

テキスト

出) (著)

参考書

出) (著)

成績評価方法・基準

評価項目	割合
総合評価	100%

試験，レポート，試問等の内容を総合して評価する。

その他

2017年度

歯周病学概論 (Periodontology)

開講年次	1～4年	期区分	通年	科目	歯工学連携科目（九歯大）	単位数	2
授業方法	講義	時間数	30	曜日		時限	
開講学科	歯学研究科 歯学専攻						
科目責任者	中島 啓介						
担当教員	中島 啓介						

授業計画

回	学習内容	授業方法	担当教員	事前・事後学習 学習課題
1	正常な歯周組織（歯肉）	講義	中島	授業内容について授業後に復習しておくこと。
2	正常な歯周組織（歯槽骨）	講義	中島	授業内容について授業後に復習しておくこと。
3	正常な歯周組織（歯根膜）	講義	中島	授業内容について授業後に復習しておくこと。
4	正常な歯周組織（セメント質）	講義	中島	授業内容について授業後に復習しておくこと。
5	歯周病による歯周組織の変化	講義	中島	授業内容について授業後に復習しておくこと。
6	歯周組織の診査（歯周ポケット）	講義	中島	授業内容について授業後に復習しておくこと。
7	歯周組織の診査（エックス線）	講義	中島	授業内容について授業後に復習しておくこと。
8	歯周病の分類と診断	講義	中島	授業内容について授業後に復習しておくこと。
9	歯周基本治療（プラーク）	講義	中島	授業内容について授業後に復習しておくこと。
10	歯周基本治療（外傷性咬合）	講義	中島	授業内容について授業後に復習しておくこと。
11	再評価の意義	講義	中島	授業内容について授業後に復習しておくこと。
12	歯周外科	講義	中島	授業内容について授業後に復習しておくこと。
13	最終評価とメンテナンス	講義	中島	授業内容について授業後に復習しておくこと。
14	歯周病と全身疾患	講義	中島	授業内容について授業後に復習しておくこと。
15	まとめ	講義	中島	

2017年度

歯科放射線学概論 (Introduction to Oral and Maxillofacial Radiology)

開講年次	1～4年	期区分	通年	科目	歯工学連携科目（九歯大）	単位数	2
授業方法	講義	時間数	30	曜日		時限	
開講学科	歯学研究科 歯学専攻						
科目責任者	森本 泰宏						
担当教員	森本 泰宏						

授業の概要

放射線取扱主任者試験を見据え、放射線物理学、放射線化学、放射線生物学、放射線防護学及び管理技術並びに放射線の測定に関する技術の基礎を学ぶ。更に、医学・歯学領域で使用されている放射線関連の各種撮影装置についてその原理及び利用法を理解する。

学生の到達目標

テキスト

絵とき 放射線のやさしい知識
出)オーム社 著)

参考書

出) 著)

成績評価方法・基準

評価項目	割合
口頭試問及び課題レポート	100%

その他

2017年度

歯科放射線学概論 (Introduction to Oral and Maxillofacial Radiology)

開講年次	1～4年	期区分	通年	科目	歯工学連携科目（九歯大）	単位数	2
授業方法	講義	時間数	30	曜日		時限	
開講学科	歯学研究科 歯学専攻						
科目責任者	森本 泰宏						
担当教員	森本 泰宏						

授業計画

回	学習内容	授業方法	担当教員	事前・事後学習 学習課題
1	放射線の発生原理と物質との相互作用について	講義	森本	教科書及び参考書を講義前に読み、不明な専門用語を調べておくこと
2	放射性核種の製造、利用法について	講義	森本	教科書及び参考書を講義前に読み、不明な専門用語を調べておくこと
3	放射線被曝により引き起こされる生物学的作用の発生機序及び代表的疾患について	講義	森本	教科書及び参考書を講義前に読み、不明な専門用語を調べておくこと
4	被曝線量の測定機器の原理と放射線測定について	講義	森本	教科書及び参考書を講義前に読み、不明な専門用語を調べておくこと
5	放射線被曝に対する防護について	講義	森本	教科書及び参考書を講義前に読み、不明な専門用語を調べておくこと
6	放射線障害防止法の概要について	講義	森本	教科書及び参考書を講義前に読み、不明な専門用語を調べておくこと
7	エックス線写真の画像化について	講義	森本	教科書及び参考書を講義前に読み、不明な専門用語を調べておくこと
8	単純エックス線検査の特徴とその画像上での所見について	講義	森本	教科書及び参考書を講義前に読み、不明な専門用語を調べておくこと
9	エックス線CT検査の画像化機序および疾患における特徴的所見について	講義	森本	教科書及び参考書を講義前に読み、不明な専門用語を調べておくこと
10	MRI検査の画像化機序および疾患における特徴的所見について	講義	森本	教科書及び参考書を講義前に読み、不明な専門用語を調べておくこと
11	超音波検査の画像化機序および疾患における特徴的所見について	講義	森本	教科書及び参考書を講義前に読み、不明な専門用語を調べておくこと

2017年度

歯科放射線学概論 (Introduction to Oral and Maxillofacial Radiology)

開講年次	1～4年	期区分	通年	科目	歯工学連携科目（九歯大）	単位数	2
授業方法	講義	時間数	30	曜日		時限	
開講学科	歯学研究科 歯学専攻						
科目責任者	森本 泰宏						
担当教員	森本 泰宏						

回	学習内容	授業方法	担当教員	事前・事後学習 学習課題
12	核医学検査の種類及び画像化機序について	講義	森本	教科書及び参考書を講義前に読み、不明な専門用語を調べておくこと
13	放射線治療の方法及び作用機序について	講義	森本	教科書及び参考書を講義前に読み、不明な専門用語を調べておくこと
14	第一種及び二種放射線取扱主任者試験について	講義	森本	教科書及び参考書を講義前に読み、不明な専門用語を調べておくこと
15	口頭試問	講義	森本	

2017年度

顎顔面外科学概論 (Oral and Maxillofacial Surgery)

開講年次	1～4年	期区分	通年	科目	歯工学連携科目（九歯大）	単位数	2
授業方法	講義	時間数	30	曜日		時限	
開講学科	歯学研究科 歯学専攻						
科目責任者	富永 和宏						
担当教員	富永 和宏						

授業の概要

口腔顎顔面に現れるさまざまな疾患の診断、治療の概略を理解し、臨床の現場で用いられている診断・分析技術、治療用具や薬剤、材料の進歩について理解を深める。
また、それから発して、再生医療や創薬、癌の予防やより早期の診断、低侵襲な治療など臨床の求めに工学の技術、手法がどのように役立てられるかについて考える

学生の到達目標

テキスト

出) (著)

参考書

出) (著)

成績評価方法・基準

評価項目	割合
講義後の課題レポートの総合評価	100%

その他

2017年度

顎顔面外科学概論 (Oral and Maxillofacial Surgery)

開講年次	1～4年	期区分	通年	科目	歯工学連携科目（九歯大）	単位数	2
授業方法	講義	時間数	30	曜日		時限	
開講学科	歯学研究科 歯学専攻						
科目責任者	富永 和宏						
担当教員	富永 和宏						

授業計画

回	学習内容	授業方法	担当教員	事前・事後学習 学習課題
1	顎顔面の解剖と発生	講義	富永	授業内容の復習と課題についてレポートを作成し提出すること。
2	先天異常	講義	富永	授業内容の復習と課題についてレポートを作成し提出すること。
3	発育異常	講義	富永	授業内容の復習と課題についてレポートを作成し提出すること。
4	外傷（創傷治癒）	講義	富永	授業内容の復習と課題についてレポートを作成し提出すること。
5	炎症	講義	富永	授業内容の復習と課題についてレポートを作成し提出すること。
6	良性腫瘍	講義	富永	授業内容の復習と課題についてレポートを作成し提出すること。
7	悪性腫瘍（1）	講義	富永	授業内容の復習と課題についてレポートを作成し提出すること。
8	悪性腫瘍（2）	講義	富永	授業内容の復習と課題についてレポートを作成し提出すること。
9	顎関節疾患	講義	富永	授業内容の復習と課題についてレポートを作成し提出すること。
10	粘膜疾患	講義	富永	授業内容の復習と課題についてレポートを作成し提出すること。
11	血液疾患	講義	富永	授業内容の復習と課題についてレポートを作成し提出すること。
12	インプラント	講義	富永	授業内容の復習と課題についてレポートを作成し提出すること。

2017年度

顎顔面外科学概論 (Oral and Maxillofacial Surgery)

開講年次	1～4年	期区分	通年	科目	歯工学連携科目（九歯大）	単位数	2
授業方法	講義	時間数	30	曜日		時限	
開講学科	歯学研究科 歯学専攻						
科目責任者	富永 和宏						
担当教員	富永 和宏						

回	学習内容	授業方法	担当教員	事前・事後学習 学習課題
13	顎顔面補綴	講義	富永	授業内容の復習と課題についてレポートを作成し提出すること。
14	手術学（滅菌消毒）	講義	富永	授業内容の復習と課題についてレポートを作成し提出すること。
15	まとめ	講義	富永	

2017年度

臨床研究デザイン（健康増進を目的とした臨床研究の手法と研究計画の立案方法）（Clinical Research Design）

開講年次	1～3年	期区分	前期	科目	大学間連携科目（九歯大）	単位数	2
授業方法	講義・演習	時間数	30	曜日		時限	
開講学科	歯学研究科 歯学専攻, 歯学研究科 口腔保健学専攻						
科目責任者	（歯学）角館直樹 （口腔保健学）日高勝美						
担当教員	角館 直樹、唐木 純一、日高 勝美						

授業の概要

本講義では、臨床研究の基礎的内容を学習し、臨床研究デザインについて理解する。また、各自で考えた診療現場における疑問に基づいて文献を検索し、選んだ論文を批判的に吟味してプレゼンテーションを行うことで、Evidence-Based Dentistry(EBD)の実践力を養う。

学生の到達目標

1. 診療上の疑問をリサーチクエスチョンにすることができる。
2. 臨床研究デザインの概略を理解する。
3. 適切な臨床研究デザインを選択できる。
4. 臨床研究論文・構造化抄録の批判的吟味ができる。
5. Evidence-Based Dentistryを実践できる。

テキスト

Evidence-Based Dentistry 入門
出)永末書店 著)

参考書

医学的研究のデザイン - 研究の質を高める疫学的アプローチ - 第3版
出)メディカルサイエンスインターナショナル社 著)

歯科診療に基づく研究・英語論文執筆ガイド
出)医歯薬出版 著)

成績評価方法・基準

評価項目	割合
出席	30%
演習の提出物	50%
発表会	20%

その他

学生相談：月曜日～金曜日まで随時受け付ける。原則として時間予約を行うこと。

2017年度

臨床研究デザイン (健康増進を目的とした臨床研究の手法と研究計画の立案方法) (Clinical Research Design)

開講年次	1～3年	期区分	前期	科目	大学間連携科目(九歯大)	単位数	2
授業方法	講義・演習	時間数	30	曜日		時限	
開講学科	歯学研究科 歯学専攻, 歯学研究科 口腔保健学専攻						
科目責任者	(歯学)角館直樹 (口腔保健学)日高勝美						
担当教員	角館 直樹、唐木 純一、日高 勝美						

授業計画

回	学習内容	授業方法	担当教員	事前・事後学習 学習課題
1	臨床研究とEBD 臨床研究とEBDの関係について学び、臨床研究の全体像を理解する。	講義	角館	予習: EBDの定義 復習: エビデンスレベル
2	研究デザインとバイアス 臨床研究デザインと3大バイアスについて理解する。	講義	角館	予習: 研究デザイン 復習: 3大バイアス
3	批判的吟味 (観察研究) 観察研究に関する論文の批判的吟味の方法について理解し、実際に行う。	講義 + 演習	角館	予習: 論文の読解 復習: スクリーニングについて
4	批判的吟味 (介入研究) ランダム化比較試験(RCT)に関する論文の批判的吟味の方法について理解し、実際に行う。	講義 + 演習	角館	予習: 論文の読解 復習: RCT論文の批判的吟味
5	臨床研究論文・構造化抄録の読み方 臨床研究論文の構成および構造化抄録の読解方法を学ぶ。	講義	角館	予習: 論文の構成 復習: 論文読解のポイント
6	診療上の疑問の定式化 各グループのリサーチクエスチョンをPICOのフォーマットを用いて定式化する。	講義 + 演習	角館	予習: 疑問の定式化 復習: PICOを用いた定式化
7	アウトカム指標の設定 アウトカムを測定する際の指標の種類、測定方法について学ぶ。	講義 + 演習	角館	予習: アウトカム指標 復習: 患者立脚型アウトカムについて
8	情報検索演習 文献検索方法について学び、PICOに基づいて実際にPubMed等を用いて文献検索する。	講義 + 演習	角館	予習: 文献検索方法について 復習: PubMed、医中誌を用いた検索
9	情報検索演習 Cochrane Library, Mindsを用いて、システマティックレビューや診療ガイドラインを検索する。	講義 + 演習	角館	予習: Cochrane Library/Minds 復習: システマティックレビュー・診療ガイドライン
10	システマティックレビュー・メタアナリシス・診療ガイドライン データ統合型研究・診療ガイドラインの詳細について学び、その評価方法について理解する。	講義	角館	予習: システマティックレビュー 復習: メタアナリシス
11	批判的吟味 (システマティックレビュー・メタアナリシス) システマティックレビュー・メタアナリシスに関する論文の批判的吟味の方法について理解し、実際に行う。	講義 + 演習	角館	予習: 論文の読解 復習: 論文の批判的吟味方法
12	プレゼンテーションスライド作成 各自で選んで批判的吟味した論文についてスライドを作成し、発表資料を作成し、質疑応答を行う。	演習	角館	予習: 発表資料の作成 復習: 発表資料の修正

2017年度

臨床研究デザイン (健康増進を目的とした臨床研究の 手法と研究計画の立案方法) (Clinical Research Design)

開講年次	1～3年	期区分	前期	科目	大学間連携科目(九歯大)	単位数	2
授業方法	講義・演習	時間数	30	曜日		時限	
開講学科	歯学研究科 歯学専攻, 歯学研究科 口腔保健学専攻						
科目責任者	(歯学)角館直樹 (口腔保健学)日高勝美						
担当教員	角館 直樹、唐木 純一、日高 勝美						

回	学習内容	授業方法	担当教員	事前・事後学習 学習課題
13	論文の批判的吟味発表会 各自で検索した論文を読解して批判的吟味をした結果を発表する。	演習	角館 唐木	予習：発表用スライド準備 復習：スライド修正
14	論文の批判的吟味発表会 各自で検索した論文を読解して批判的吟味をした結果を発表する。	演習	角館 唐木	予習：発表用スライド準備 復習：スライド修正
15	論文の批判的吟味発表会 各自で検索した論文を読解して批判的吟味をした結果を発表する。	演習	角館 唐木	予習：発表用スライド準備 復習：スライド修正

2017年度

臨床研究デザイン（健康増進を目的とした臨床研究の手法と研究計画の立案方法）（Clinical Research Design）

開講年次	1～3年	期区分	後期	科目	大学間連携科目（九歯大）	単位数	2
授業方法	講義・演習	時間数	30	曜日		時限	
開講学科	歯学研究科 歯学専攻, 歯学研究科 口腔保健学専攻						
科目責任者	（歯学）角館 直樹 （口腔保健学）日高 勝美						
担当教員	角館 直樹、唐木 純一、日高 勝美						

授業の概要

本講義では、臨床研究の専門的な知識および臨床研究を実践する上での応用力を養う。また、演習では診療現場におけるシナリオに基づいて研究プロトコルを作成するための能力を養う。最後に、研究プロトコルの発表会を行う。

学生の到達目標

1. 臨床疫学研究の計画から実施までの流れを理解できる。
2. 各自の診療上の疑問を定式化することができる。
3. 研究デザインを立案できる。
4. 基本的な統計学的分析方法を理解できる。
5. 研究プロトコルを作成することができる。

テキスト

Evidence-Based Dentistry 入門
出)永末書店 著)

参考書

医学的研究のデザイン - 研究の質を高める疫学的アプローチ - 第3版
出)メディカルサイエンスインターナショナル社 著)

歯科診療に基づく研究・英語論文執筆ガイド
出)医歯薬出版 著)

成績評価方法・基準

評価項目	割合
出席	30%
演習の提出物	50%
発表会	20%

その他

学生相談：月曜日～金曜日まで随時受け付ける。原則として時間予約を行うこと。

2017年度

臨床研究デザイン (健康増進を目的とした臨床研究の手法と研究計画の立案方法) (Clinical Research Design)

開講年次	1~3年	期区分	後期	科目	大学間連携科目(九歯大)	単位数	2
授業方法	講義・演習	時間数	30	曜日		時限	
開講学科	歯学研究科 歯学専攻, 歯学研究科 口腔保健学専攻						
科目責任者	(歯学)角館 直樹 (口腔保健学)日高 勝美						
担当教員	角館 直樹、唐木 純一、日高 勝美						

授業計画

回	学習内容	授業方法	担当教員	事前・事後学習 学習課題
1	疑問の定式化 各自の診療上の疑問を用いてPICOのフォーマットを用いて定式化することの意義を学び、実践する。	講義	角館	予習：PICOについて 復習：Finerチェックについて
2	バイアスの制御 情報バイアス、選択バイアスなどについて理解し、その対処法を学ぶ。	講義 + 演習	角館	予習：研究デザイン 復習：情報バイアスと選択バイアスの制御方法
3	バイアスの制御 交絡バイアスについて理解し、それを制御する方法について学ぶ。	講義 + 演習	角館	予習：交絡バイアス 復習：交絡バイアスの制御方法
4	概念モデルの作成 第3の因子について学び、自らの仮説に基づいて概念モデルを作成する。	講義 + 演習	角館	予習：概念モデル 復習：概念モデルの作成
5	研究デザインの立案 自らの臨床上の疑問を解決するために適切な臨床研究デザインを選択する。	講義 + 演習	角館	予習：臨床研究デザイン 復習：各種の研究デザインの利点・欠点
6	研究デザインの立案 自らの臨床上の疑問を解決するために臨床研究をデザインを立案・計画する。	演習	角館	予習：臨床研究デザイン 復習：各種の研究デザインの利点・欠点
7	文献検索演習 文献検索方法について理解し、各自のPICOを基に文献検索する。	演習	角館	予習：文献検索方法 復習：PubMed、医中誌、Mindsの検索
8	文献検索演習 文献検索方法について理解し、各自のPICOを基に文献検索する。	演習	角館	予習：文献検索方法 復習：PubMed、医中誌、Mindsの検索
9	質問票の作成/研究計画書の倫理委員会への申請 質問票の作り方を学び、実際に各自の質問項目を考える。また、研究計画書の作成方法・疫学研究における医療倫理について学び、実際に倫理委員会への書類提出のプロセスについて理解する。	講義 + 演習	角館	予習：質問紙調査、各種倫理指針・利益相反等 復習：質問票の作成、倫理委員会提出のプロセス
10	統計解析の基本 データの種類と取扱い方について学び、相関について学習する。	講義	角館	予習：データの種類について 復習：相関について

2017年度

臨床研究デザイン (健康増進を目的とした臨床研究の 手法と研究計画の立案方法) (Clinical Research Design)

開講年次	1～3年	期区分	後期	科目	大学間連携科目(九歯大)	単位数	2
授業方法	講義・演習	時間数	30	曜日		時限	
開講学科	歯学研究科 歯学専攻, 歯学研究科 口腔保健学専攻						
科目責任者	(歯学)角館 直樹 (口腔保健学)日高 勝美						
担当教員	角館 直樹、唐木 純一、日高 勝美						

回	学習内容	授業方法	担当教員	事前・事後学習 学習課題
11	統計解析の基本 仮説検定の方法について学び、カイ2乗検定およびt検定について学習する。	講義 + 演習	角館	予習：仮説検定について 復習：カイ2乗検定、t検定
12	統計解析の基本 多変量解析、生存分析をはじめとする様々な統計学的分析方法について学習する。	講義	角館	予習：多変量解析、生存分析について 復習：各種の統計学的分析方法について
13	研究プロトコル最終発表 各自で作成した研究計画についてプレゼンテーションの準備を行う。	演習	角館 唐木	予習：発表用スライド準備 復習：スライド修正
14	研究プロトコル最終発表会 各自で作成した研究計画についてプレゼンテーションを行う。	演習	角館 唐木	予習：発表用スライド準備 復習：スライド修正
15	研究プロトコル最終発表会 各自で作成した研究計画についてプレゼンテーションを行う。	演習	角館 唐木	予習：発表用スライド準備 復習：スライド修正

2017年度

高齢期歯科疾患概論 (Geriatric Dentistry)

開講年次	1～3年	期区分	前期	科目	大学間連携科目（九歯大）	単位数	2
授業方法	講義・演習	時間数	30	曜日		時限	
開講学科	歯学研究科 歯学専攻, 歯学研究科 口腔保健学専攻						
科目責任者	(歯学) 唐木 純一 (口腔保健学) 日高 勝美						
担当教員	唐木 純一、日高 勝美						

授業の概要

高齢期歯科疾患概論1（講義・演習）では、高齢者の身体的・社会的・精神的特徴について理解し、現在高齢者を取り巻く医療・介護制度についての把握をする。また、高齢期における歯科疾患の特徴を把握した上で、現在行われている細菌の培養・同定・毒性試験といった演習を通じて、口腔環境改善を通じた健康増進の観点から高齢者支援の知識を養う。

学生の到達目標

1. 高齢者の身体的な変化と口腔領域の老化を理解する。
2. 高齢者を取り巻く社会状況、医療・介護制度について理解する。
3. 高齢期に多い歯科疾患を理解する。
4. PCR法を理解・体得する。
5. 菌体成分の有害性を理解する。

テキスト

教科書は特に用いず、講義・演習プリントを配布する。各自の必要性に応じて参考書を購入すればよいが、どの参考書がよいか分からないときは随時相談に応じる。

出) 著)

参考書

- 老年医学への招待
出) 著)
- 高齢者歯科ガイドブック
出) 著)
- 口腔微生物学・免疫学
出) 著)
- 改訂PCR実験ノート
出) 著)
- 細胞培養入門ノート
出) 著)

成績評価方法・基準

評価項目	割合
出席	40%
演習態度	20%
プレゼンテーション	40%

その他

随時学習相談に対応する。
本科目は大学間連携共同教育推進事業科目に設定されている。
受講生の希望により、必要に応じて遠隔講義にて講義を行う。

2017年度

高齢期歯科疾患概論 (Geriatric Dentistry)

開講年次	1～3年	期区分	前期	科目	大学間連携科目（九歯大）	単位数	2
授業方法	講義・演習	時間数	30	曜日		時限	
開講学科	歯学研究科 歯学専攻, 歯学研究科 口腔保健学専攻						
科目責任者	(歯学) 唐木 純一 (口腔保健学) 日高 勝美						
担当教員	唐木 純一、日高 勝美						

授業計画

回	学習内容	授業方法	担当教員	事前・事後学習 学習課題
1	高齢者歯科総論と老年症候群 高齢者歯科の特殊性について理解する。老年症候群について学ぶ。	講義	唐木	復習: 老年症候群
2	高齢者を取り巻く医療・介護制度 高齢者医療制度の歩みと現状の高齢者医療制度について学ぶ。	講義	唐木	復習: 高齢者医療制度
3	高齢者医療の現状 高齢者医療の現状と訪問歯科の現状について学ぶ。	講義	唐木	復習: 訪問歯科の現状
4	高齢者に多い歯科疾患の特徴 う蝕・歯周病を主に、高齢者の歯科疾患の特徴について学ぶ。	演習	唐木	復習: 高齢者の歯科疾患の特徴
5	高齢者に多い歯科疾患の特徴 舌痛症・口腔乾燥症・嚥下障害を主に、高齢者の歯科疾患の特徴について学ぶ。	演習	唐木	復習: 高齢者の歯科疾患の特徴
6	サンプリング方法・PCR法の説明 細菌試験のサンプリング方法と、PCR法の手順について理解する。	講義	唐木	復習: 細菌のサンプリング法
7	歯周ポケット内の細菌DNA解析 歯周病原細菌の種類と細菌サンプルの取り扱いについて学ぶ。	演習	唐木	予習: 細菌サンプルの取り扱い
8	歯周ポケット内の細菌DNA解析 PCR法の原理について学び、DNA抽出実験を行う。	演習	唐木	予習: DNA抽出法
9	歯周ポケット内の細菌DNA解析 歯周ポケット内の細菌DNA解析 で抽出したDNAを用いてPCR法を行う。	演習	唐木	予習: PCR法 復習: データ分析
10	歯周ポケット内の細菌DNA解析 データの分析を行う。	演習	唐木	予習: データ分析
11	細菌酵素抽出法・毒性試験の説明 細菌酵素抽出法と毒性試験の概要について理解する。	講義	唐木	復習: 細胞毒性試験
12	口腔粘膜上皮細胞への歯周病原細菌の毒性試験 細胞培養とその扱い方について学ぶ。	演習	唐木	復習: 細胞培養法
13	口腔粘膜上皮細胞への歯周病原細菌の毒性試験 様々な細胞毒性試験について学ぶ。	講義・演習	唐木	復習: 細胞毒性試験の方法
14	口腔粘膜上皮細胞への歯周病原細菌の毒性試験 細胞毒性試験を行い、データの分析を行う。	演習	唐木	復習: データ分析
15	口腔粘膜上皮細胞への歯周病原細菌の毒性試験 データの分析を行い、その結果に基づいて発表を行う。	演習	唐木	予習: データ分析

2017年度

高齢期歯科疾患概論 (Geriatric Dentistry)

開講年次	1～3年	期区分	後期	科目	大学間連携科目（九歯大）	単位数	2
授業方法	講義・演習	時間数	30	曜日		時限	
開講学科	歯学研究科 歯学専攻, 歯学研究科 口腔保健学専攻						
科目責任者	(歯学) 唐木 純一 (口腔保健学) 日高 勝美						
担当教員	唐木 純一、日高 勝美						

授業の概要

高齢期歯科疾患概論2（講義・演習）では、高齢期における歯科疾患の特徴と全身状態との関連について把握し、高齢者口腔内疾患の病態を理解した上で、口臭成分分析と最新の情報の検索演習を通じて、口腔環境改善を通じた健康増進の観点から高齢者支援の知識を養う。

学生の到達目標

1. 高齢者歯科医療分野におけるQOLの重要性について理解する。
2. 高齢期に多く見られる口腔関連疾患について理解する。
3. 口臭成分分析法・細菌培養法を理解する。
4. 高齢者歯科医療分野における最新の情報を検索でき、それをまとめることができる。

テキスト

教科書は特に用いず、講義・演習プリントを配布する。各自の必要性に応じて参考書を購入すればよいが、どの参考書がよいか分からないときは随時相談に応じる。

出) (著)

参考書

高齢者歯科ガイドブック
出) (著)

口腔微生物学・免疫学
出) (著)

改訂PCR実験ノート
出) (著)

細胞培養入門ノート
出) (著)

成績評価方法・基準

評価項目	割合
出席	30%
演習態度	20%
レポート	50%

その他

随時学習相談に対応する。
本科目は大学間連携共同教育推進事業科目に設定されている。
受講生の希望により、必要に応じて遠隔講義にて講義を行う。

2017年度

高齢期歯科疾患概論 (Geriatric Dentistry)

開講年次	1～3年	期区分	後期	科目	大学間連携科目（九歯大）	単位数	2
授業方法	講義・演習	時間数	30	曜日		時限	
開講学科	歯学研究科 歯学専攻, 歯学研究科 口腔保健学専攻						
科目責任者	(歯学) 唐木 純一 (口腔保健学) 日高 勝美						
担当教員	唐木 純一、日高 勝美						

授業計画

回	学習内容	授業方法	担当教員	事前・事後学習 学習課題
1	高齢者のQOL QOLの概念と高齢者歯科医療における重要性を理解する。	講義	唐木	復習: QOL
2	高齢者のQOL 終末期医療におけるQOLの重要性と、死生観について学ぶ。	講義	唐木	復習: 死生観
3	口腔乾燥症とは？ 口腔乾燥症の症状と診断方法について学ぶ。	講義	唐木	復習: 口腔乾燥症
4	質問紙調査 質問紙調査の作成方法やその留意点について学ぶ。	講義	唐木	復習: 口腔乾燥症の 治療
5	口腔乾燥症の治療 口腔乾燥症の治療の現状について学ぶ。	講義	唐木	復習: 統合医療
6	誤嚥性肺炎とは？ 誤嚥性肺炎の概要について理解する。	講義	唐木	復習: 誤嚥性肺炎
7	誤嚥性肺炎と口腔ケア 誤嚥性肺炎の予防法について口腔ケアを主として学習する。	講義	唐木	復習: 口腔ケア
8	機能評価 代表的な全身状態の機能評価について学ぶ。	講義	唐木	復習: 全身機能評価 法
9	機能評価 代表的な口腔関連の機能評価について学ぶ。	講義	唐木	復習: 口腔内機能 評価法
10	リスク管理 転倒・誤嚥を代表とする高齢者のリスク管理について学ぶ。	講義	唐木	復習: 高齢者のリ スク管理
11	サンプリング方法・細菌培養法の説明 細菌検査のサンプリング方法と細菌培養法について理解する。	講義	唐木	復習: 細菌培養法
12	口臭成分分析と細菌培養 受講生間での口臭成分分析を行う。	演習	唐木	復習: 口臭成分分 析データの分析
13	口臭成分分析と細菌培養 培地の作成と細菌培養を行う。	演習	唐木	予習: 細菌培養法
14	高齢者歯科医療の最新の知見 高齢者歯科医療の最新の知見について検索を行う。	演習	唐木	復習: 論文探索
15	高齢者歯科医療へのアプローチ 高齢者医療をめぐる諸問題へ自身の研究分野からアプローチする方法を探る。	演習	唐木	予習: 論文探索

2017年度

高分子物性論 (Introduction to Polymer Physics)

開講年次	1～2年	期区分	後期	科目	大学間連携科目（北九大）	単位数	2
授業方法	講義	時間数	30	曜日		時限	
開講学科	歯学研究科 歯学専攻, 歯学研究科 口腔保健学専攻						
科目責任者	〔非常勤講師〕 櫻井 和朗						
担当教員	〔非常勤講師〕 櫻井 和朗						

授業の概要

タンパク質などの生体高分子や医療材料につかわれるシリコンなどの合成高分子の理解に不可欠な高分子物性の基礎に関して学ぶ。

学生の到達目標

医療分野で使われるプラスチック材料の理解に、必要な高分子の性質の基礎について、分子量、結晶化、レオロジー、散乱に関して理解をする。

テキスト

出) 著)

参考書

基礎高分子科学(2006, ISBN 978-4-8079-0635-2)
出)東京化学同人 著)高分子学会
高分子の物理学(1994, ISBN 978-4-7853-2056-0)
出)裳華房 著)田中文彦

成績評価方法・基準

評価項目	割合
レポート	100%

その他

2017年度

高分子物性論 (Introduction to Polymer Physics)

開講年次	1~2年	期区分	後期	科目	大学間連携科目(北九大)	単位数	2
授業方法	講義	時間数	30	曜日		時限	
開講学科	歯学研究科 歯学専攻, 歯学研究科 口腔保健学専攻						
科目責任者	〔非常勤講師〕 櫻井 和朗						
担当教員	〔非常勤講師〕 櫻井 和朗						

授業計画

回	学習内容	授業方法	担当教員	事前・事後学習 学習課題
1	高分子とは	講義	櫻井	
2	分子鎖の形態	講義	櫻井	
3	高分子のコンフィギュレーション	講義	櫻井	
4	高分子のコンフォメーション	講義	櫻井	
5	結晶化状態	講義	櫻井	
6	一次結晶化	講義	櫻井	
7	二次結晶化	講義	櫻井	
8	エントロピー弾性力	講義	櫻井	
9	粘弾性	講義	櫻井	
10	誘電性	講義	櫻井	
11	界面物性	講義	櫻井	
12	高分子と散乱 I	講義	櫻井	
13	高分子と散乱 II	講義	櫻井	
14	高分子と散乱 III	講義	櫻井	
15	まとめ	講義	櫻井	

2017年度

生体材料論 (Biomaterials)

開講年次	1～2年	期区分	前期	科目	大学間連携科目（北九大）	単位数	2
授業方法	講義	時間数	30	曜日		時限	
開講学科	歯学研究科 歯学専攻, 歯学研究科 口腔保健学専攻						
科目責任者	〔非常勤講師〕中澤 浩二						
担当教員	〔非常勤講師〕中澤 浩二						

授業の概要

生体材料は、医療器具、再生医療、人工臓器、細胞培養などのライフサイエンス分野において欠くことのできない材料である。本講義では、生体材料として利用される材料の種類とその特徴、生体材料に求められる条件、さらには材料と生体間で起こる反応について理解する

学生の到達目標

1. 生体材料の特徴と必要条件を理解する。
2. 材料と生体間で起こる反応を理解する。
3. 生体材料の設計や開発に必要な知識を修得する。
4. 生体材料の開発に関する近年の動向を知る。
5. 生体適合性を高めるための方針やアイデアを提案できる。

テキスト

出) 著)

参考書

新版ヴィジュアルでわかるバイオマテリアル(2011, ISBN 978-4-7809-0845-9)

出)秀潤社

著)古園勉・岡田正弘

先端バイオマテリアルハンドブック(2012, ISBN 978-4-86469-003-4)

出)NTS

著)秋吉一成・石原一彦・山岡哲二監修

成績評価方法・基準

評価項目	割合
積極的な授業参加	30%
レポート	70%

その他

2017年度

生体材料論 (Biomaterials)

開講年次	1～2年	期区分	前期	科目	大学間連携科目（北九大）	単位数	2
授業方法	講義	時間数	30	曜日		時限	
開講学科	歯学研究科 歯学専攻, 歯学研究科 口腔保健学専攻						
科目責任者	〔非常勤講師〕中澤 浩二						
担当教員	〔非常勤講師〕中澤 浩二						

授業計画

回	学習内容	授業方法	担当教員	事前・事後学習 学習課題
1	バイオマテリアルとは	講義	中澤	
2	バイオマテリアルの必要条件	講義	中澤	
3	生体適合性	講義	中澤	
4	異物反応	講義	中澤	
5	マテリアルと生体反応	講義	中澤	
6	マテリアルの界面設計	講義	中澤	
7	安全性試験	講義	中澤	
8	金属	講義	中澤	
9	セラミックス	講義	中澤	
10	高分子	講義	中澤	
11	天然高分子	講義	中澤	
12	プレゼンと討論 1（前半組）	講義	中澤	
13	プレゼンと討論 2（後半組）	講義	中澤	
14	総合討論	講義	中澤	
15	まとめ	講義	中澤	

2017年度

物理化学概論 (Introduction to physical chemistry)

開講年次	1～2年	期区分	前期	科目	大学間連携科目（九工大）	単位数	2
授業方法	講義	時間数	30	曜日		時限	
開講学科	歯学研究科 歯学専攻, 歯学研究科 口腔保健学専攻						
科目責任者	〔非常勤講師〕竹中 繁織						
担当教員	〔非常勤講師〕横野 照尚、〔非常勤講師〕竹中 繁織						

授業の概要

学部で習得した物理化学に関する知識をさらに発展させ物理化学の応用について講義する。学年に応じてトピック的な主題を取り上げ、基礎から応用まで講義する。

学生の到達目標

熱力学を理解できる。
動力学を理解できる。
化学平衡を理解できる。
量子化学を理解できる。
統計熱力学を理解できる。
電気化学を理解できる。
群論を理解できる。

テキスト

出) 著)

参考書

出) 著)

成績評価方法・基準

評価項目	割合
授業中の小テスト・試験	100%

講義ノートの提出を求める。

その他

2017年度

物理化学概論 (Introduction to physical chemistry)

開講年次	1~2年	期区分	前期	科目	大学間連携科目(九工大)	単位数	2
授業方法	講義	時間数	30	曜日		時限	
開講学科	歯学研究科 歯学専攻, 歯学研究科 口腔保健学専攻						
科目責任者	〔非常勤講師〕竹中 繁織						
担当教員	〔非常勤講師〕横野 照尚、〔非常勤講師〕竹中 繁織						

授業計画

回	学習内容	授業方法	担当教員	事前・事後学習 学習課題
1	気体と熱力学第零法則	講義	横野 竹中	文献、参考書予習
2	熱力学第一法則	講義	横野 竹中	講義・演習の復習と次回講義部分の予習
3	熱力学第二法則と第三法則	講義	横野 竹中	講義・演習の復習と次回講義部分の予習
4	自由エネルギーと化学ポテンシャル	講義	横野 竹中	講義・演習の復習と次回講義部分の予習
5	化学平衡	講義	横野 竹中	講義・演習の復習と次回講義部分の予習
6	一成分系・多成分系における平衡	講義	横野 竹中	講義・演習の復習と次回講義部分の予習
7	電気化学とイオン溶液	講義	横野 竹中	講義・演習の復習と次回講義部分の予習
8	量子力学入門	講義	横野 竹中	講義・演習の復習と次回講義部分の予習
9	量子力学の適用 - モデル系と水素原子 -	講義	横野 竹中	講義・演習の復習と次回講義部分の予習
10	原子と分子	講義	横野 竹中	講義・演習の復習と次回講義部分の予習
11	量子力学における対称性	講義	横野 竹中	講義・演習の復習と次回講義部分の予習
12	回転分光と振動分光	講義	横野 竹中	講義・演習の復習と次回講義部分の予習
13	統計熱力学	講義	横野 竹中	講義・演習の復習と次回講義部分の予習
14	気体分子運動論	講義	横野 竹中	講義・演習の復習と次回講義部分の予習
15	反応速度論	講義	横野 竹中	講義・演習の復習と次回講義部分の予習

2017年度

生体力学 (Biomechanics)

開講年次	1～2年	期区分	前期	科目	大学間連携科目（九工大）	単位数	2
授業方法	講義	時間数	32	曜日		時限	
開講学科	歯学研究科 歯学専攻, 歯学研究科 口腔保健学専攻						
科目責任者	〔非常勤講師〕山田 宏						
担当教員	〔非常勤講師〕山田 宏						

授業の概要

身体各部は内外で生じる力を受けており、その機能や挙動の一部は力学的現象である。生体現象と力学的因子との関係の解明は工学的観点から健康増進や障害・疾病の予防を支援する第一歩となる。本講義では筋骨格系等における生体組織の力学特性と工学的アプローチの習得のため、固体力学の立場から生体の構造、機能と応答を評価・解析する方法論を教授する。

学生の到達目標

1. バイオメカニクスの概要と関連分野を説明できる。
2. ニュートン力学の理論に基づいて筋骨格系に働く力を計算できる。
3. 材料力学の考え方に基づいて骨や歯の力学特性や応力状態を説明できる。
4. 粘弾性理論に基づいて生体軟組織の応力緩和やクリープ変形を説明できる。
5. 連続体力学の考え方に基づいて生体軟組織の大変形を説明できる。
6. 組織と細胞の材料力学試験と有限要素法による応力・ひずみ解析の方法を説明できる。

テキスト

力学の基礎とバイオメカニクス
出)コロナ社

著)山田宏

参考書

出)

著)

成績評価方法・基準

評価項目	割合
各回の講義の中で課す小課題	50%
各人の疑問に基づいた調査の報告	50%

小課題は毎回の講義で課し、時間内に回収する。

その他

2017年度

生体力学 (Biomechanics)

開講年次	1～2年	期区分	前期	科目	大学間連携科目（九工大）	単位数	2
授業方法	講義	時間数	32	曜日		時限	
開講学科	歯学研究科 歯学専攻, 歯学研究科 口腔保健学専攻						
科目責任者	〔非常勤講師〕山田 宏						
担当教員	〔非常勤講師〕山田 宏						

授業計画

回	学習内容	授業方法	担当教員	事前・事後学習 学習課題
1	バイオメカニクスの概要と関連分野	講義	山田	文献、参考書予習
2	無重量状態での身体の力学的状態	講義	山田	講義・演習の予復習
3	静止状態で筋骨格系に働く力	講義	山田	講義・演習の予復習
4	硬組織の微小変形	講義	山田	講義・演習の予復習
5	骨や歯の力学特性（正常・修復状態）	講義	山田	講義・演習の予復習
6	軟組織の粘弾性特性	講義	山田	講義・演習の予復習
7	疑問に基づいた調査・報告（第1～6回）	演習	山田	調査の準備と復習
8	疑問に基づいた調査・報告（第1～6回）	演習	山田	調査の準備と復習
9	能動的収縮力を発揮する骨格筋の力学特性	講義	山田	講義・演習の予復習
10	軟組織の大変形	講義	山田	講義・演習の予復習
11	心臓・血管の力学特性1（生理的機能）	講義	山田	講義・演習の予復習
12	心臓・血管の力学特性2（加齢・病変）	講義	山田	講義・演習の予復習
13	衝撃を受ける生体組織の動的力学特性	講義	山田	講義・演習の予復習
14	組織・細胞の材料力学試験と有限要素解析	講義	山田	講義・演習の予復習
15	疑問に基づいた調査・報告（第9～14回）	演習	山田	調査の準備と復習
16	疑問に基づいた調査・報告（第9～14回）	演習	山田	調査の準備と復習

2017年度

産業医学研究基盤コース (Medical Research Basic Course)

開講年次	1年	期区分	前期	科目	大学間連携科目(産医大)	単位数	2
授業方法	講義	時間数	30	曜日		時限	
開講学科	歯学研究科 歯学専攻, 歯学研究科 口腔保健学専攻						
科目責任者	田中 良哉						
担当教員	〔非常勤講師〕田中 良哉						

授業の概要

産業医学研究を進めるにあたって必須となる基盤的事項を理解し、研究者としての基本的な倫理観・態度を養う。

学生の到達目標

1. 大学院の使命を論じることができる。
2. トランスレーショナルリサーチについて説明できる。
3. 医学倫理・研究倫理について説明できる。
4. 研究における利益相反について説明できる。
5. 産業医学研究における疫学的手法について説明できる。
6. 基本的な統計学的手法を使うことができる。
7. 論文投稿・発表の倫理について説明できる。

テキスト

講義の中で必要に応じ紹介する。

出) (著)

参考書

出) (著)

成績評価方法・基準

評価項目	割合
発表、討論、レポート等	100%

発表、討論、レポート等により、総合的に評価する。

その他

2017年度

産業医学研究基盤コース (Medical Research Basic Course)

開講年次	1年	期区分	前期	科目	大学間連携科目(産医大)	単位数	2
授業方法	講義	時間数	30	曜日		時限	
開講学科	歯学研究科 歯学専攻, 歯学研究科 口腔保健学専攻						
科目責任者	田中 良哉						
担当教員	〔非常勤講師〕田中 良哉						

授業計画

回	学習内容	授業方法	担当教員	事前・事後学習 学習課題
1	大学院の使命	講義	田中	-
2	医学研究法	講義	田中	-
3	トランスレーショナルリサーチ	講義	田中	-
4	医学倫理・研究倫理	講義	田中	-
5	研究における利益相反	講義	田中	-
6	疫学	講義	田中	-
7	統計学	講義	田中	-
8	医学英語	講義	田中	-
9	組織形態学観察法についての基礎知識	講義	田中	-
10	英語論文作成手法	講義	田中	-
11	論文投稿・発表の倫理	講義	田中	-
12	研究用微生物の取り扱い	講義	田中	-
13	動物実験を行う上での基礎知識	講義	田中	-
14	組み換えDNA及びWeb siteを用いた遺伝情報の収集	講義	田中	-
15	RIを使ったバイオ実験および放射線取り扱いの基礎知識	講義	田中	-

2017年度

医学研究概論 (Medical Research Introductory Course)

開講年次	1年	期区分	前期	科目	大学間連携科目(産医大)	単位数	2
授業方法	講義	時間数	30	曜日		時限	
開講学科	歯学研究科 歯学専攻, 歯学研究科 口腔保健学専攻						
科目責任者	田中 良哉						
担当教員	〔非常勤講師〕田中 良哉、〔非常勤講師〕東 華岳、〔非常勤講師〕森本 景之、〔非常勤講師〕佐藤 寛晃、〔非常勤講師〕上野 光、〔非常勤講師〕岩井 佳子、〔非常勤講師〕上田 陽一、〔非常勤講師〕井上 真澄、〔非常勤講師〕吉田 安宏、〔非常勤講師〕足立 弘明、〔非常勤講師〕久岡 正典、〔非常勤講師〕齋藤 光正、〔非常勤講師〕平田 敬治、〔非常勤講師〕田中 文啓、〔非常勤講師〕酒井 昭典、〔非常勤講師〕佐伯 覚、〔非常勤講師〕原田 大、〔非常勤講師〕中村 元信、〔非常勤講師〕藤本 直浩、〔非常勤講師〕尾辻 豊、〔非常勤講師〕興梠 征典、〔非常勤講師〕矢寺 和博、〔非常勤講師〕西澤 茂、〔非常勤講師〕近藤 寛之、〔非常勤講師〕鈴木 秀明、〔非常勤講師〕川崎 貴士、〔非常勤講師〕蜂須賀 徹、〔非常勤講師〕楠原 浩一、〔非常勤講師〕真弓 俊彦						

授業の概要

本学で行われている医学研究の概要により、最新の医学研究に関する広範な知識を得るとともに、これから研究を進めるにあたって必要なりサーチマインドの熟成を目指す。

学生の到達目標

1. 医学研究の目的や意義について説明できる。
2. 最新の医学研究の動向について理解する。
3. 医学研究の特徴と様々な方法について学び、研究の基本的なプロセスを理解する。
4. 医学研究を行うにあたっての倫理的配慮および社会的責務について理解する。
5. 実際の研究方法について、具体例を通じて理解する。
6. 研究計画書の書き方を理解する。

テキスト

講義の中で必要に応じ紹介する。

出) (著)

参考書

出) (著)

成績評価方法・基準

評価項目	割合
発表、討論、レポート等	100%

発表、討論、レポート等により、総合的に評価する。

その他

所属講座の教員の指導のもと、15コマを選択し受講すること。

2017年度

医学研究概論 (Medical Research Introductory Course)

開講年次	1年	期区分	前期	科目	大学間連携科目(産医大)	単位数	2
授業方法	講義	時間数	30	曜日		時限	
開講学科	歯学研究科 歯学専攻, 歯学研究科 口腔保健学専攻						
科目責任者	田中 良哉						
担当教員	〔非常勤講師〕田中 良哉、〔非常勤講師〕東 華岳、〔非常勤講師〕森本 景之、〔非常勤講師〕佐藤 寛晃、〔非常勤講師〕上野 光、〔非常勤講師〕岩井 佳子、〔非常勤講師〕上田 陽一、〔非常勤講師〕井上 真澄、〔非常勤講師〕吉田 安宏、〔非常勤講師〕足立 弘明、〔非常勤講師〕久岡 正典、〔非常勤講師〕齋藤 光正、〔非常勤講師〕平田 敬治、〔非常勤講師〕田中 文啓、〔非常勤講師〕酒井 昭典、〔非常勤講師〕佐伯 覚、〔非常勤講師〕原田 大、〔非常勤講師〕中村 元信、〔非常勤講師〕藤本 直浩、〔非常勤講師〕尾辻 豊、〔非常勤講師〕興梠 征典、〔非常勤講師〕矢寺 和博、〔非常勤講師〕西澤 茂、〔非常勤講師〕近藤 寛之、〔非常勤講師〕鈴木 秀明、〔非常勤講師〕川崎 貴士、〔非常勤講師〕蜂須賀 徹、〔非常勤講師〕楠原 浩一、〔非常勤講師〕真弓 俊彦						

授業計画

回	学習内容	授業方法	担当教員	事前・事後学習 学習課題
1	構造形態と組織構造	講義	東 華岳	-
2	機能形態と細胞構造	講義	森本 景之	-
3	法医診断学概論	講義	佐藤 寛晃	-
4	がん幹細胞とは	講義	上野 光	-
5	遺伝機能と情報高分子	講義	岩井 佳子	-
6	統合の生理機構	講義	上田 陽一	-
7	適応の生理機構	講義	井上 真澄	-
8	生体情報と伝達機構	講義	(研究科長)	-
9	生体防御と認識機構	講義	吉田 安宏	-
10	神経疾患の分子生物学	講義	足立 弘明	-
11	臨床免疫学	講義	田中 良哉	-
12	病態病理学	講義	久岡 正典	-
13	感染病態学	講義	齋藤 光正	-
14	臓器障害学概論	講義	平田 敬治	-
15	臓器障害学概論	講義	田中 文啓	-
16	運動器障害学概論	講義	酒井 昭典	-
17	運動器障害学概論	講義	佐伯 覚	-
18	消化器障害	講義	原田 大	-
19	付属器の幹細胞について	講義	中村 元信	-
20	尿路機能異常	講義	藤本 直浩	-
21	虚血性僧帽弁逆流の機序と対策	講義	尾辻 豊	-

2017年度

医学研究概論 (Medical Research Introductory Course)

開講年次	1年	期区分	前期	科目	大学間連携科目(産医大)	単位数	2
授業方法	講義	時間数	30	曜日		時限	
開講学科	歯学研究科 歯学専攻, 歯学研究科 口腔保健学専攻						
科目責任者	田中 良哉						
担当教員	〔非常勤講師〕田中 良哉、〔非常勤講師〕東 華岳、〔非常勤講師〕森本 景之、〔非常勤講師〕佐藤 寛晃、〔非常勤講師〕上野 光、〔非常勤講師〕岩井 佳子、〔非常勤講師〕上田 陽一、〔非常勤講師〕井上 真澄、〔非常勤講師〕吉田 安宏、〔非常勤講師〕足立 弘明、〔非常勤講師〕久岡 正典、〔非常勤講師〕齋藤 光正、〔非常勤講師〕平田 敬治、〔非常勤講師〕田中 文啓、〔非常勤講師〕酒井 昭典、〔非常勤講師〕佐伯 覚、〔非常勤講師〕原田 大、〔非常勤講師〕中村 元信、〔非常勤講師〕藤本 直浩、〔非常勤講師〕尾辻 豊、〔非常勤講師〕興梠 征典、〔非常勤講師〕矢寺 和博、〔非常勤講師〕西澤 茂、〔非常勤講師〕近藤 寛之、〔非常勤講師〕鈴木 秀明、〔非常勤講師〕川崎 貴士、〔非常勤講師〕蜂須賀 徹、〔非常勤講師〕楠原 浩一、〔非常勤講師〕真弓 俊彦						

回	学習内容	授業方法	担当教員	事前・事後学習 学習課題
22	医用画像から得られる最新生体情報	講義	興梠 征典	-
23	呼吸器感染症	講義	矢寺 和博	-
24	脳循環	講義	西澤 茂	-
25	視覚情報の処理機構	講義	近藤 寛之	-
26	嚥下障害	講義	鈴木 秀明	-
27	外科的侵襲とその制御	講義	川崎 貴士	-
28	産婦人科癌の病因について	講義	蜂須賀 徹	-
29	小児感染症と宿主遺伝要因	講義	楠原 浩一	-
30	臨床研究の進め方 コツとポイント	講義	真弓 俊彦	-

2017年度

人間工学特論 (Advanced Occupational Ergonomics)

開講年次	1年	期区分	通年	科目	大学間連携科目(産医大)	単位数	1
授業方法	講義	時間数	16	曜日		時限	
開講学科	歯学研究科 歯学専攻, 歯学研究科 口腔保健学専攻						
科目責任者	藤木 通弘						
担当教員	〔非常勤講師〕藤木 通弘、〔非常勤講師〕泉 博之						

授業の概要

産業医学における人間工学の果たす役割について、その基本的な考え方などについて理解するとともに、作業管理の現場において応用できる知識の習得を目指す。また、高齢労働者対策については特に深く理解できるようにする。さらに、測定機器の使用法などについても、グループワークなどを通じて身につけさせる。

学生の到達目標

1. 人間工学で知っておくべき生理学の知識を概説できる。
2. 人間工学で知っておくべき解剖学及び運動学の知識を概説し、その応用ができる。
3. 筋骨格系障害についてその発生要因について説明できる。
4. エラーについて、その評価方法やその低減方法について説明できる。
5. 疲労について、その基本的考え方および対策について説明できる。
6. 老化について説明ができ、高齢労働者に対する対策について説明できる。

テキスト

講義の中で必要に応じ紹介する。
出)

著)

参考書

出)

著)

成績評価方法・基準

評価項目	割合
検討会での討論・発表・レポート等	100%

その他

2017年度

人間工学特論 (Advanced Occupational Ergonomics)

開講年次	1年	期区分	通年	科目	大学間連携科目(産医大)	単位数	1
授業方法	講義	時間数	16	曜日		時限	
開講学科	歯学研究科 歯学専攻, 歯学研究科 口腔保健学専攻						
科目責任者	藤木 通弘						
担当教員	〔非常勤講師〕藤木 通弘、〔非常勤講師〕泉 博之						

授業計画

回	学習内容	授業方法	担当教員	事前・事後学習 学習課題
1	人間工学で知っておくべき生理学的知識	講義	藤木 通弘	-
2	人間工学で知っておくべき解剖学的および運動学的知識とその応用	講義・演習	泉 博之	-
3	生体情報の測定とその利用	講義・演習	藤木 通弘	-
4	疲労について	講義	泉 博之	-
5	エラーの評価方法とその低減方法	講義	泉 博之	-
6	老化と高年齢労働者問題	講義	藤木 通弘	-
7	作業関連性筋骨格系障害：上肢	講義・演習	藤木 通弘	-
8	作業関連性筋骨格系障害：腰痛、その他	講義・演習	泉 博之	-